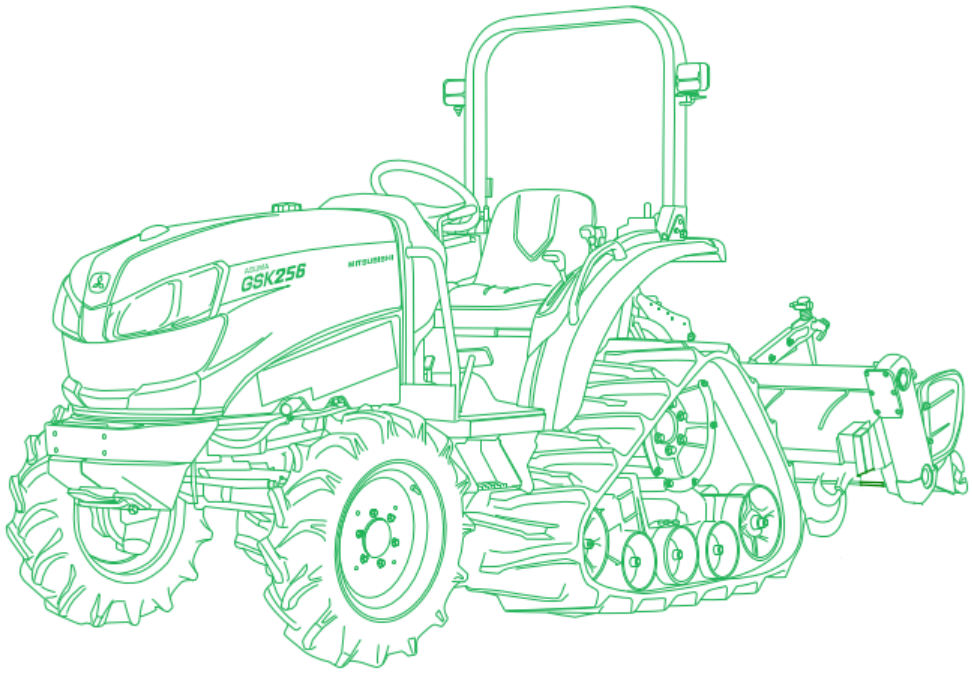
トラクタ

取扱説明書

GSK256・236・226・206



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

トラクタ重要ポイント

1. 片ブレーキを使用しないときは、
   常に連結解除ペダルロックレバーを走行（ロック）位置にします。

2. 農道を走行するときは、
   スピードを落として路肩に注意します。

3. ほ場へ出入りするときは、
   スピードを落とし畦（あぜ）に直角に走行します。

4. トラクタや作業機を点検調整するときは、必ずエンジンを停止し、
   パーキングブレーキをかけ、油圧ロックをします。

5. 補助者と共同作業を行うときは、
   合図をし、周囲の状況を確認します。

6. 耕うん爪の点検や交換をするときは、
   必ずエンジンを停止し、油圧ロックをします。

7. ロータリを着脱するときは、
   平たんな場所で低速で行います。
   トラクタの後輪とロータリの間に立たない。

8. 運転・作業をするときは、
   回転部分には、手や体を近づけない。
   必ず周囲の状況を確かめます。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

正しく作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも本文の中で作業上ぜひ守っていただきたい事項を ⚠ を付して説明のつど取り上げています。よくお読みいただくと共に必ず守っていただくようお願いいたします。

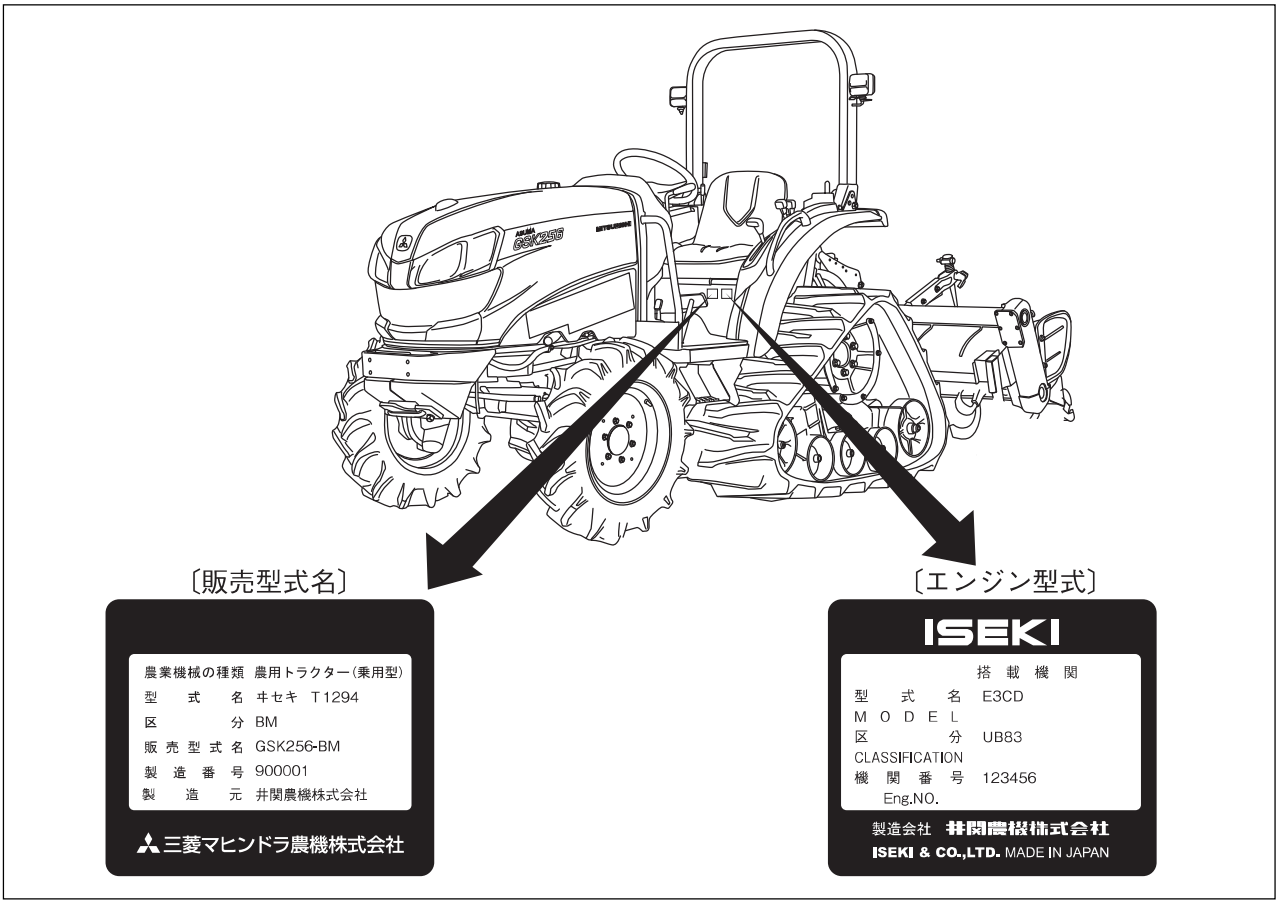
重要なお知らせ

- このたびは、三菱トラクタをお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
- 本商品は、耕うん・代かき・けん引・運搬などの作業機として使用してください。
  改造や使用目的以外の作業はしないでください。
  改造や使用目的以外の作業をした場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。
  （詳細は保証書をご覧ください。）
- 三菱マヒンドラ農機株式会社（以降当社と記す）は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、三菱トラクタ（以降トラクタと記す）を改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。
- このトラクタの取扱上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、この取扱説明書の記載事項やトラクタに表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
  よって、トラクタの操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載およびトラクタ本体に表示されている事項に限らず、事故防止対策に関しては十分な配慮が必要です。
- トラクタの性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいうまでもありませんが、他方、日常の取り扱い、整備いかんによることも、また看過できません。
- このトラクタは、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。このトラクタを国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- このトラクタ（一部仕様を除く）は、小型特殊自動車（農耕トラクタ）として、道路運送車両の保安基準を満たしています。よって、一般道路を走行するときは、小型特殊自動車運転免許が必要です。運転中は、必ず運転免許証を携帯してください。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外のトラクタの使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。
- 本トラクタを譲渡または貸与される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書をトラクタに添付してお渡しください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。また、添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡（または転売）した側は一切の複製物を保持しないでください。
- この取扱説明書の内容はトラクタの改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- 本トラクタとこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。またイラストの一部は、トラクタ内部の説明を容易にするために省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は版権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複写、コピー、翻訳してはならず、また読み取りのできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに「お買いあげ先」にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買いあげ先」へお問い合わせください。

型式と装備内容について

この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分のトラクタについて併記しています。
お買いあげいただいた、トラクタの型式名・区分を機体に貼付してある銘板で確認され、該当部分をお読みください。

■銘板の位置



■上記（例）の販売型式名　GSK256-BM

■装備内容

区分記号	装備内容
BM	オートブレーキ（固定）
M	オートブレーキ（可変） アップストップPTO
X	安全キャブ仕様
（X無し）	安全フレーム仕様
02	狭幅クローラ仕様

標準装備
パワーステアリング 電気式2WD・4WD・スーパーフルターン切換え バックアップ オートリフト 電子油圧（耕深制御・水平制御） 逆転PTO 超低速（クリープ） シンクロ前後進シフト

警告表示について

本トラクタを正しくお使いいただくために、この取扱説明書の指示に従って操作・保守を行ってください。
また、トラクタで危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルを貼付しています。取扱説明書および警告ラベルでは、危険の程度を表す方法として次の表示で区分しています。

■表示の説明

⚠ 危 険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警 告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注 意	その警告に従わなかった場合、けがを負うおそれがあるものを示します。
注 意	その警告に従わなかった場合、装置の破損、故障のおそれがあるものを示します。
補 足	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

■図記号の意味

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味で区分しています。

⚠	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。 （右図の場合は爆発注意）	（例）
⊘	禁止行為	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。 （右図の場合は火気厳禁）	（例）
❗	強制行為	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。 （右図の場合はメガネ着用）	（例）

目　次

重要なお知らせ …… i
型式と装備内容について …… ii
警告表示について …… iii
目　次 …… iv

1. 使用上のポイント

1.1 使用上のご注意 …… 1
1.1.1 運転者の条件 …… 1
1.1.2 作業をする前に …… 2
1.1.3 走行する場合は …… 4
1.1.4 トラックへの積み･降ろし …… 6
1.1.5 作業中は …… 8
1.1.6 点検･整備 …… 10
1.1.7 保管時は …… 12
1.1.8 耕うん爪の点検や交換時は … 13
1.1.9 ロータリの着脱･調整時は … 13
1.1.10 運転･作業時 …… 14
1.1.11 電気配線点検時の注意事項 … 15
1.1.12 バッテリ取り扱い時の注意事項 …… 16
1.1.13 ブースタケーブル使用時の注意事項 …… 17
1.1.14 スーパーフルターンの取り扱いの注意 … 18
1.2 公道走行と標識(ナンバープレート)について …… 19
1.2.1 運転免許証の携帯 …… 19
1.2.2 小型特殊自動車 …… 19
1.2.3 市町村役場への届出と標識(ナンバープレート)の取り付け …… 20
1.2.4 低速車マークについて …… 20
1.2.5 点検整備 …… 21
1.2.6 自動車保険について …… 21
1.2.7 その他の法規について …… 21
1.3 安全フレーム･キャブについて …… 21
1.4 警告ラベルについて …… 22
1.5 警告ラベル貼付箇所 …… 23

2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証 …… 31
2.2 サービスネット …… 31
2.3 銘板の位置 …… 31
2.4 補修用部品の供給年限について …… 31

3. 各部の名称

3.1 全体(安全キャブ仕様) …… 32
3.2 全体(安全フレーム仕様) …… 34
3.3 3点リンク …… 34
3.4 レバー･ペダル関係 …… 35
3.5 スイッチ関係 …… 36
3.6 メータパネル …… 36
3.7 電子油圧操作ボックス …… 37
3.8 メンテナンス関係 …… 38

4. 作業前点検

4.1 運転席に座る前に …… 39
4.2 運転席に座って …… 40
4.3 メインスイッチを「運転」に入れて … 41
4.4 エンジンを始動して、徐行しながら … 41

5. 運転のしかた

5.1 運転前の準備 …… 43
5.1.1 シート …… 43
5.1.2 シートベルト …… 44
5.1.3 チルトの調節 …… 44
5.1.4 バックミラー …… 45
5.1.5 コンビネーションスイッチ … 46
5.2 エンジン始動のしかた …… 47
5.3 エンジン停止のしかた …… 53
5.4 発進のしかた …… 54
5.5 変速のしかた …… 57
5.6 旋回のしかた …… 57
5.7 坂道での運転 …… 57

5.7.1 急な上り坂での発進 …… 57
5.7.2 下り坂での運転 …… 58
5.8 けん引 …… 58
5.9 停車・駐車のしかた …… 59
5.10 運転中の作動確認 …… 61
5.10.1 燃料計 …… 61
5.10.2 ブレーキ連結ロック解除警告灯 …… 61
5.10.3 アワーメータ …… 61
5.10.4 メータ …… 62
5.10.5 エンジンオイル圧力警告灯 62
5.10.6 バッテリ充電警告灯 …… 62
5.10.7 水温警告灯 …… 62
5.11 トラックへの積み・降ろし …… 63

6. 作業前に必要な調整

6.1 輪距の調整 …… 65
6.1.1 前輪 …… 65
6.2 安全フレームの扱い …… 66
6.2.1 倒しかた …… 66
6.2.2 起こしかた …… 67

7. 作業のしかた

7.1 作業時の運転 …… 68
7.1.1 走行速度 …… 68
7.1.2 ほ場の出入り …… 69
7.1.3 ほ場での旋回 …… 70
7.1.4 デフロックペダルと使いかた 71
7.2 走行・作業切換ダイヤル …… 72
7.2.1 「走行」位置 …… 72
7.2.2 「4WD」位置 …… 73
7.2.3 「耕うん」位置 …… 74
7.2.4 「こだわり」位置 …… 75
7.3 スーパーフルターン …… 76
7.4 2WDターン …… 78
7.5 オートリフト …… 80
7.6 オートブレーキ …… 81
7.7 PTOの使いかた …… 83
7.8 3点リンク …… 86
7.9 作業機 …… 88
7.9.1 作業機の取り付け・取り外し 88
7.9.2 ロワーリンク振れ止めスプリング …… 89
7.10 バンパウエイトの取り付け（注文部品）…… 89
7.11 けん引作業について …… 90
7.12 電子油圧装置の使いかた …… 91
7.12.1 作業機昇降装置の使いかた 91
7.12.2 自動耕深制御装置の使いかた …… 97
7.12.3 自動水平制御装置の使いかた …… 100
7.13 チェックヒューズの使い方 …… 102
7.14 燃料載せ台（給油スタンド）の使い方 …… 103

8. ロータリについて

8.1 トラクタへの装着 …… 104
8.1.1 装着前の準備 …… 104
8.1.2 トラクタへの取り付けかた 109
8.1.3 装着後の調整 …… 111
8.2 取り外しかた …… 112
8.3 作業前の点検 …… 113
8.3.1 点検箇所 …… 113
8.4 作業に適した調整と使いかた …… 114
8.4.1 適応作業速度 …… 114
8.4.2 センターカバー …… 114
8.4.3 コーナーカバー …… 114
8.4.4 リヤカバー上げロックの使いかた …… 115
8.4.5 上げロック解除 …… 116
8.4.6 スタンドの使いかた …… 116
8.4.7 加圧ロッド調整のしかた … 117
8.4.8 逆転PTOの使いかた …… 118
8.4.9 草巻き付き防止棒について 119

8.4.10 手入れについて …… 122
8.5 耕うん爪について …… 123
8.5.1 耕うん爪の取り付けかた … 123
8.5.2 爪配列 …… 124

9. 安全キャブの各装置について

9.1 安全キャブ装置 …… 125
9.1.1 ドアの開けかた …… 125
9.1.2 ドアの閉めかた …… 125
9.1.3 乗り降りのしかた …… 126
9.1.4 ドアの施錠と解錠 …… 126
9.1.5 リアガラス …… 127
9.1.6 リヤサイドガラスの開閉 … 128
9.1.7 ルームランプ …… 128
9.1.8 作業灯スイッチ …… 129
9.1.9 作業灯の位置調整 …… 130
9.1.10 ワイパスイッチとウォッシャースイッチ …… 130
9.1.11 CDラジオ(FM・AMつき) 132
9.1.12 小物皿 …… 133
9.1.13 カップホルダ …… 133
9.1.14 作業機制御パネル用タップ・133
9.2 エアコン …… 134
9.2.1 エアコン操作パネル …… 134
9.2.2 エアコンの使い方 …… 137

10. 点検整備

10.1 定期点検・整備箇所一覧表 …… 142
10.2 給油・給水一覧表 …… 145
10.3 エンジン周りのカバー類の脱着 ‥ 147
10.3.1 ボンネットの開閉 …… 147
10.3.2 サイドカバーの脱着 …… 148
10.4 点検・清掃・調整のしかた …… 149
10.4.1 エンジンオイル …… 149
10.4.2 エアクリーナの清掃 …… 150
10.4.3 冷却水 …… 152
10.4.4 ラジエータの清掃 …… 153
10.4.5 燃料 …… 154
10.4.6 ファンベルトの張り具合 156
10.4.7 バッテリ …… 157
10.4.8 ミッションオイル …… 159
10.4.9 油圧ストレーナの清掃 … 160
10.4.10 フロントアクスルのオイル …… 161
10.4.11 クラッチ室の水抜き …… 161
10.4.12 クラッチペダル …… 162
10.4.13 ブレーキペダル …… 162
10.4.14 ステアリング …… 163
10.4.15 ユニバーサルジョイントの点検 …… 163
10.4.16 タイロッドエンドの増し締め …… 164
10.4.17 タイヤの空気圧 …… 164
10.4.18 タイヤ締め付けボルトの点検 …… 165
10.4.19 アクセルレバー・ペダル ・166
10.4.20 電気配線の点検と清掃 ‥166
10.4.21 ヒューズおよびスローブローヒューズの取り扱い …… 167
10.4.22 パワステ用ホース …… 168
10.4.23 水平シリンダホース …… 168
10.4.24 グリース注入 …… 169
10.5 安全キャブの点検・清掃・調整 …… 170
10.5.1 エアコンベルトの点検 … 170
10.5.2 エアコンコンデンサの点検 170
10.5.3 エアコンホース・パイプの点検 …… 171
10.5.4 エアコンフィルタの点検・清掃 …… 171
10.5.5 フロン排出抑制法に基づくエアコン機器の簡易点検 …… 172
10.5.6 ウインドウォッシャー液の点検・補充 …… 172
10.5.7 防振ゴムの点検 …… 172
10.5.8 安全キャブ専用ヒューズの交換 …… 173

10.5.9 安全キャブ専用スローブロー ヒューズの扱い …… 173
10.5.10 安全キャブドアのラッチ部 …… 173
10.6 クローラの点検・整備・調整 …… 174
10.6.1 乗車と作業前点検 …… 174
10.6.2 ゴムクローラの張り調整 (GSK256・236) …… 175
10.6.3 ゴムクローラの張り調整 (GSK226・206) …… 176
10.6.4 遊輪・転輪の点検 (GSK256・236) …… 177
10.6.5 グリース注入 …… 178
10.6.6 遊輪・転輪スクレーパの点検と調整 (GSK256・236) …… 179
10.7 ロータリの手入れと点検・整備 … 180
10.7.1 オイル量の点検と交換 … 180
10.7.2 グリースの補給 …… 182
10.7.3 注油箇所 …… 183
10.7.4 耕うん爪の交換時期 …… 183

11. 格納時の手入れ

11.1 日常の格納 …… 184
11.2 長期の格納 …… 185
11.2.1 格納前作業 …… 185
11.2.2 格納期間中 …… 186
11.2.3 長期格納後の使用 …… 186

12. 不調時の処置

12.1 エンジン関係 …… 187
12.1.1 始動時 …… 187
12.1.2 運転中 …… 188
12.1.3 メータパネル …… 190
12.2 トランスミッション・操作系・油圧関係 …… 191
12.2.1 クラッチ …… 191
12.2.2 走行・ブレーキ …… 191
12.2.3 ステアリングホイール …… 192
12.2.4 スーパーフルターン …… 192
12.2.5 オートリフト …… 193
12.2.6 オートブレーキ …… 193
12.2.7 油圧 …… 194
12.2.8 電子油圧関係 …… 195
12.2.9 水平制御 …… 196
12.3 電装関係 …… 197
12.3.1 バッテリ …… 197
12.3.2 ランプ類 …… 197
12.3.3 ホーン …… 197
12.4 安全キャブ関係(安全キャブ仕様) 198
12.4.1 エアコン …… 198
12.4.2 安全キャブ …… 199
12.5 ロータリ関係 …… 200
12.5.1 ロータリ …… 200

13. 付表

13.1 推奨潤滑油一覧表 …… 201
13.2 純正オイル一覧 …… 202
13.3 純正エアコンガス …… 203
13.4 主な消耗部品一覧表 …… 204
13.5 純正ロータリ適応表 …… 209
13.6 主要諸元表 …… 210
13.7 主要諸元(ロータリ) …… 214
13.8 走行速度表(km/h) …… 215
13.9 注文部品一覧表 …… 216
13.10 簡易点検実施記録表 …… 217

1. 使用上のポイント

本トラクタを正しく御使用になるために必要な情報が記載されています。

1.1 使用上のご注意

本製品を正しくお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んで理解し、正しく活用してください。記号の説明については「警告表示について」の説明を参照してください。

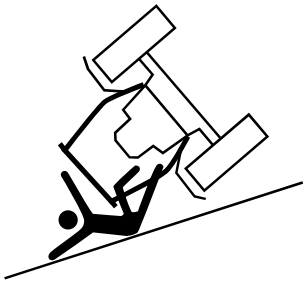
1.1.1 運転者の条件

⚠ 警 告

以下に該当する場合は、運転をしないでください。

- **過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、作業に集中できないとき**
- **18才未満の方**
- **妊娠しているとき**
- **酒を飲んだとき**

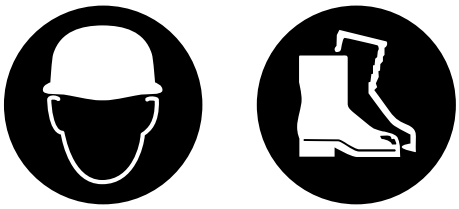
※ 守らないと、誤操作しやすく思わぬ事故の原因になります。



作業に適した服装を着用してください。

はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁です。ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具等をつけて、だぶつきのない服装をしてください。

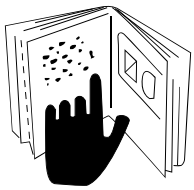
※ 守らないと、機械に巻き込まれたり、すべって転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 注 意

ご使用の前に、この取扱説明書をよく読み、記載内容を十分理解してください。

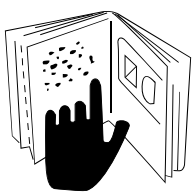
※ 守らないと、思わぬ事故・故障の原因になります。



機械を貸すときは正しい使い方を指導してください。

取り扱いの方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

※ 守らないと、借りた人が、機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



1.1.2　作業をする前に

⚠ 危 険

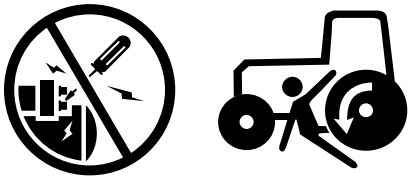
- **トラクタには火気を近づけないでください。**
  くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- **燃料補給は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。**

※　守らないと、燃料に引火し、やけどや火災の原因になります。



エンジンは、電源直結で始動しないでください。

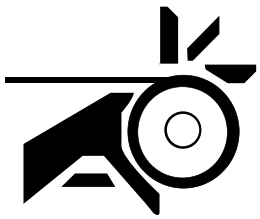
※　守らないと、機械が急に動き出し、巻き込まれるおそれがあります。



⚠ 警 告

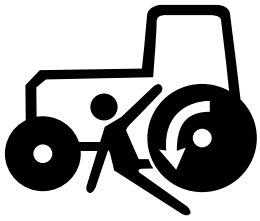
トラクタを運転する前に保護カバー類が外されたままになっていないか確認してください。

※　守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こすおそれがあります。



無理のないゆとりある作業計画をたててください。

※　守らないと、あせり等から傷害事故を引き起こすことがあります。



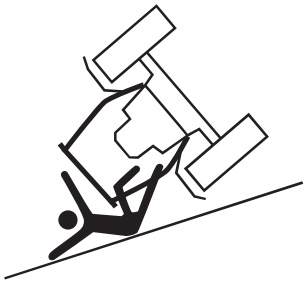
エンジンを始動するときは必ず座席に座り、すべての変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してください。

※　守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。



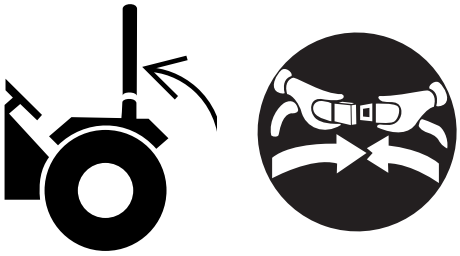
⚠ 警 告

点検・整備は必ず行ってください。
特に、ブレーキおよび主クラッチ関係は、忘れないでください。点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったり、クラッチが切れないことがあります。
※ 守らないと、死亡事故や傷害、機械の破損の原因になります。



- **安全フレームは、正しく装着された状態で運転してください。**
- **トラクタを使用するときは、確実に安全フレームを立てた状態にし、必ずシートベルトを着用してください。**

安全フレームは作業上大切な装備ですので、22ページの「安全フレーム・キャブについて」をお読みください。
※ 守らないと、転倒したときに人身事故を起こすことがあります。



発進するときは、周囲の状況を確認して、ゆっくり発進してください。
特に子供に注意してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。
閉め切った屋内等ではエンジンを始動しないでください。
※ 守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。



⚠ 注 意

カバーの隙間や、ガイド穴などにむやみに手や指を差し込まないでください。
※ 守らないと、手や指が引っかかって抜けなくなり、けがをするおそれがあります。

1.1.3　走行する場合は

⚠ 危険

トラクタを草やワラの上に止めて空吹かしをしたり、高回転にしたりしないでください。

※　守らないと、排気管の熱や排気ガスにより、ワラ等に着火し火災の原因となることがあります。

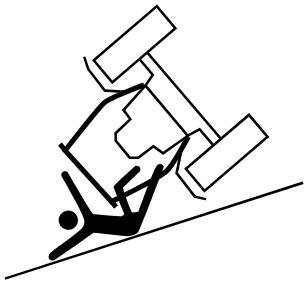


⚠ 警告

- **高速での急旋回や、坂道での急旋回はしないでください。**
- **坂道を上がるときは、低速でゆっくりと、下るときは、エンジンブレーキをかけ、決して変速レバーを中立状態にしないでください。**

足ブレーキの多用はブレーキを傷めます。

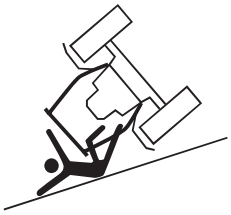
※　守らないと、スリップや転倒事故を引き起こします。



凹凸の激しい道路での高速走行はしないでください。

路面状態に応じた速度で走行してください。

※　守らないと、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。



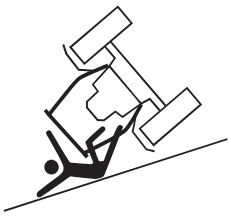
トラクタの上や連結部には、いかなる場合も、絶対に人は乗せないでください。

※　守らないと、人が転落するおそれがあります。



作業中以外は、必ずブレーキ連結解除ペダルロックレバーを「道路走行」位置にしてください。

※　守らないで連結解除ペダルを踏み込むとブレーキが片ぎきとなり、車体が急旋回して、転倒・転落・衝突事故等を引き起こすおそれがあります。

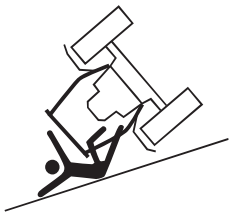


⚠ 警 告

道路を走行するときは、必ず作業機を取り外し、道路交通法を守ってください。
道路では、作業機を装着したトラクタの走行は道路運送車両の保安基準を満たせない場合があります。また、作業機を装着して走行すると、車・人・電柱などに引っ掛けて事故を起こすおそれがあります。
※ 守らないと、死亡事故や傷害事故の原因になります。



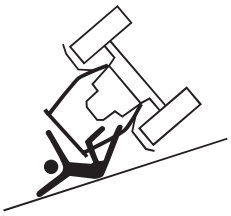
道路走行するときは、デフロックペダルを解除してあるか確認してください。
※ 守らないと、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



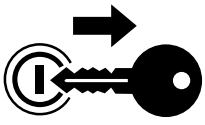
夜間にトラクタの運転をするときは、すべての変速レバーやその他のレバー・ペダル類の位置の確認を、特に注意して行ってください。
※ 確認しないと、予想外の作動をしたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



路肩に注意してください。
側溝のある道路や、両側が傾斜している道路を走行するときは、速度を落として十分注意して走行してください。
また、路肩が軟弱な道路、路肩に窪みがある道路は、トラクタの重量で崩れる場合がありますので、走行しないでください。
※ 守らないと、路肩が崩れて、転倒するおそれがあります。



トラクタから離れるときは、エンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜き取り、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。
止めるところは、地面の硬い広い場所を選んでください。
※ 守らないと、トラクタが自然に動き出したりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

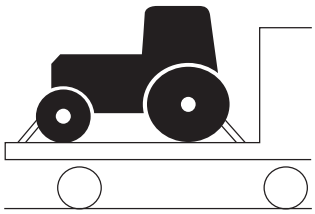




1.1.4 トラックへの積み・降ろし

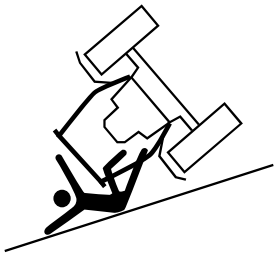
⚠ 警 告

トラック等で運搬するときは、トラクタにパーキングブレーキをかけた後、必ずロープ等で荷台に固定してください。
また、運転中急発進・急旋回・急ハンドルはしないでください。
※ 守らないと、トラクタが移動して転落事故の原因になります。



- **積み・降ろしは、強度・幅・長さの十分ある、スリップしないアユミを使用し、直進性を見定めて、ホイール(前後輪タイヤ）仕様では、積むときは「後進」、降ろすときは「前進」、セミクローラ仕様では、積むときは「前進」、降ろすときは「後進」でゆっくり行ってください。**
- **アユミは、基準を満たすものを使用し、トラクタの重量でアユミが傾かない場所を選んでください。**
- **アユミ板のフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。**

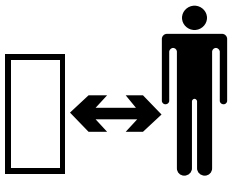
※ 守らないと、転落事故の原因になります。（☞ 64ページ）



⚠ 警 告

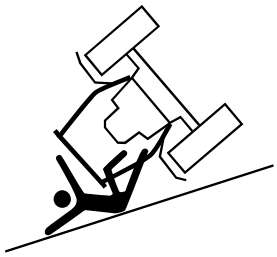
トラクタの周りには人を近づけないでください。

※ 守らないと、死傷事故が起こるおそれがあります。



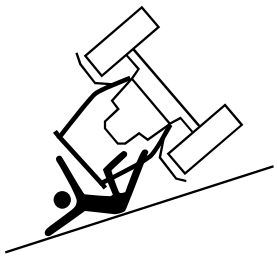
トラックへの積み・降ろし中は、必ずブレーキ連結解除ペダルロックレバーを「道路走行」位置にしてください。また、クラッチペダルを踏込んだり、ブレーキペダルを踏込んだりしないでください。
万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路までゆっくりと降ろし、あらためてエンジンを始動してから行ってください。

※ 守らないと、転落事故の原因になります。



積み込むトラックは、エンジンを止め、変速を「1速」または「R」位置にし、パーキングブレーキをかけ、車輪止めをして行ってください。

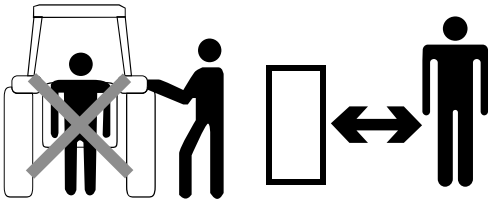
※ 守らないと、積み・降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。



誘導者を付けて、周囲の状況を十分確認して行ってください。

誘導者は機械の直前や直後、真横には、絶対に立たず、十分にトラクタから離れてください。
誘導者とは、合図や声をかけあい、互いの安全に注意してください。

※ 守らないと、傷害事故の原因になります。



1.1.5 作業中は

気象条件等に注意して、作業実施の判断、作業方法や装備の選択に十分配慮してください。

⚠ 警 告

回転部や作業部・マフラ・ラジエータ・エンジン等の過熱部、バッテリ端子等の通電部等、危険な箇所には、手を触れないでください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。



作業機の取り付け・取り外しは、トラクタと作業機の間に立って行わないでください。

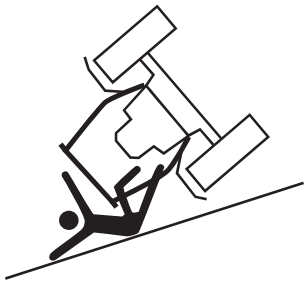
トラクタの脇から扱うようにしてください。

※ 守らないと、トラクタと作業機の間にはさまれたりして、傷害事故を起こす原因になります。



- **畦（あぜ）を横断するときは、作業機の回転を止め、作業機を低くして低速で、畦（あぜ）と直角にゆっくり走行してください。**
- **畦（あぜ）の高さが高いところでのほ場の出入りは、必ずアユミを使用してください。**

※ 守らないと、衝撃で機械を破損させたり、スリップや転倒し傷害事故を起こすことがあります。



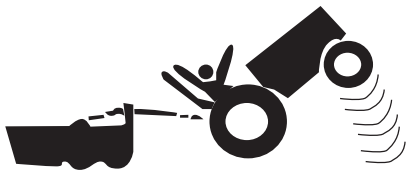
⚠ 警 告

けん引作業は、トラクタ用純正トレーラヒッチ（注文部品）を使用してください。けん引はこのトラクタに合った作業機を使用してください。

このトラクタにはトレーラブレーキが装着されていません。けん引する車両の総重量が1050kgを超える場合のけん引は禁止です。

不明な点がありましたら「お買いあげ先」に相談し、無理なけん引は避けてください。

※ 守らないと、傷害事故の原因になることがあります。

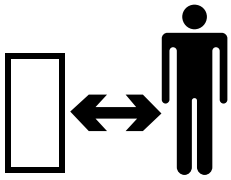


作業中は周りの人に注意（特に子供）してください。

作業中は、作業者以外の人を機械に近づけないでください。

作業を開始するときは、周囲の状況を確認し、特に補助者とともに作業するときは、ホーン等で合図してから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

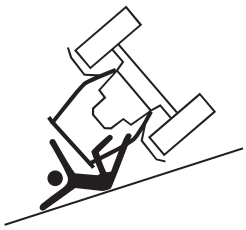


⚠ 注 意

- **夜間作業をされる方には作業灯（注文部品：ランプ（ワーキング）SET（ ☞216ページ））を装着してください。**
- **道路走行中には絶対に作業灯を点灯しないでください。**

※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。





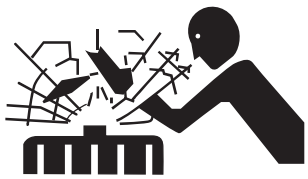
1.1.6 点検・整備

⚠ 警 告

点検・整備は過熱部分が冷えてから行ってください。

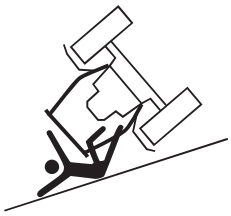
- エンジンが停止後すぐに、点検・整備をしないでください。エンジン等の過熱部分が完全に冷えてから行ってください。
- ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。運転停止後よく冷えてから注意して開けてください。

※ 守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。



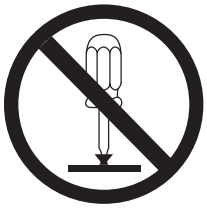
後輪のみをジャッキアップしてエンジンを始動しないでください。

※ 守らないと、前輪が回転して、転倒事故を引き起こすことがあります。



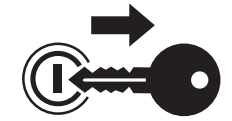
指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は絶対にしないでください。

※ 守らないと、故障や事故の原因になります。



点検・整備は必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックしてから行ってください。

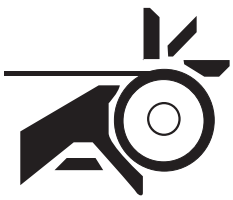
※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。





点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元どおりに取り付けてください。

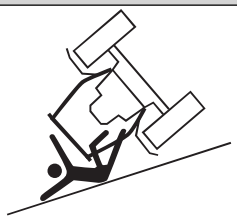
※ 守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こします。



⚠ 警 告

点検・整備するときは、明るく、地面が平たんで硬く、広い場所で行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすことがあります。



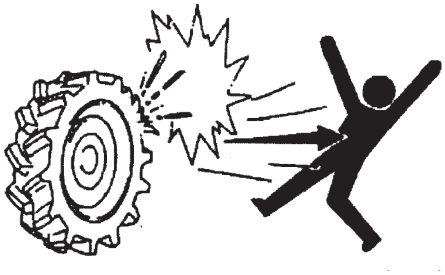
タイヤ・ホイルの取り扱いについては、十分注意してください。

(1) タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。(☞ 165ページ)

(2) タイヤに傷があり､その傷がコード(糸)に達している場合は、使用しないでください。

(3) タイヤ・チューブ・リム等の交換・修理は、必ず「お買いあげ先」にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行うように、法令で決められています。)

※ 守らないと、タイヤ破損のおそれがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。



⚠ 注 意

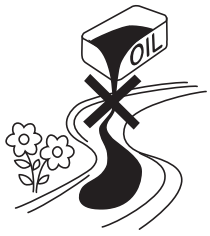
点検・整備は適正な工具を正しく使用して行ってください。

※ 守らないと、整備中の傷害事故や、整備不良による傷害事故を引き起こすことがあります。



- **機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃油、燃料、冷却水(不凍液)、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。**

※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。



1.1.7 保管時は

⚠ 警 告

作業が終了してシートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

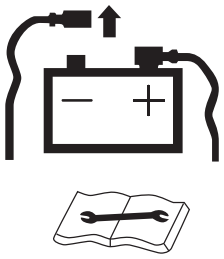
※ 守らないと、火災の原因になることがあります。



長期格納する場合は、バッテリケーブルを取り外してください。

取り外すときは⊖コードから外してください。

※ 守らないと、ネズミ等がケーブルをかじったとき、ショートし、発火して火災の原因になることがあります。



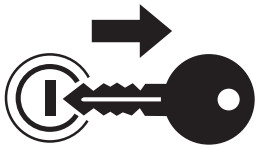
- **燃料パイプの破損や、燃料もれがないか、必ず点検してください。**
- **長期格納するときは、燃料タンクは満タンにして、サビや水の発生を防いでください。**

※ 守らないと、火災事故を引き起こし、やけどをすることがあります。



保管時は、メインスイッチのキーを抜いてください。

※ 守らないと、いたずら等で重大な事故になることがあります。



1.1.8 耕うん爪の点検や交換時は

⚠ 警 告

点検・整備は、必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、油圧降下速度調節つまみを回して油圧ロックしてから行ってください。

※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。



1.1.9 ロータリの着脱・調整時は

⚠ 警 告

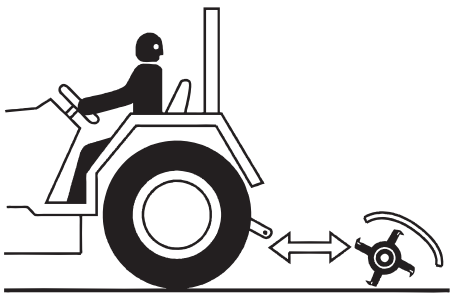
トラクタの後輪とロータリの間に立たないでください。

※ トラクタと作業機の間にはさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。



トラクタを移動してロータリを装着する場合、平たんな場所で、低速で行ってください。

※ 守らないと、ロータリが転倒する等、機械の損傷や傷害事故を起こすおそれがあります。



必要時以外はエンジンを止めてください。

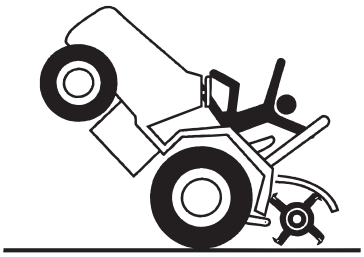
※ トラクタと作業機の間にはさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。



⚠ 警 告

3点リンク（リフトロッド）の止めピンやユニバーサルジョイントのロックピンが外れていないか確認してください。

※ 外れていると、傷害事故や機械の破損の原因となります。



1.1.10 運転・作業時

⚠ 警 告

ユニバーサルジョイントや爪軸等の回転部分には手や体を近づけないでください。

※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。



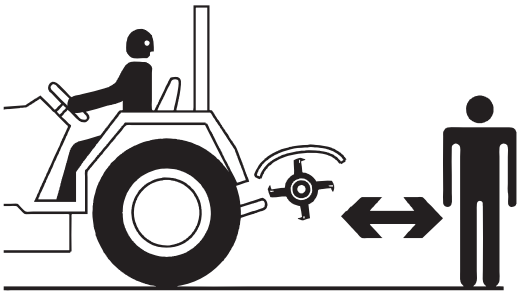
ロータリの上に乗らないでください。

※ 転落事故を引き起こすことがあります。



ロータリを持ち上げ、バックおよび急旋回するときは、必ず周囲の状況を確認してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすことがあります。

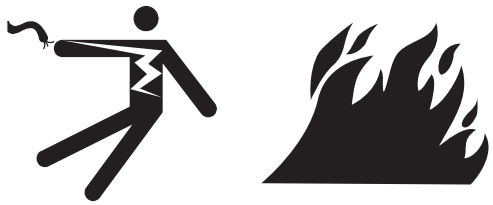


1.1.11　電気配線点検時の注意事項

⚠ 危 険

配線の端子や接続部のゆるみ、および配線の損傷は早めに交換・修理してください。

※　守らないと、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり、火災事故を引き起こすことがあります。



バッテリ、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のワラくず、ゴミ等は、取り除いてください。

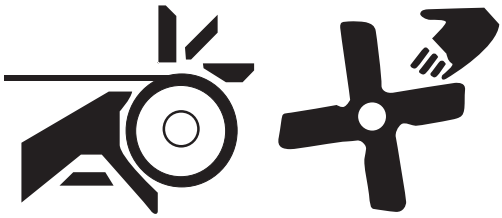
※　守らないと、火災の原因となります。



⚠ 警 告

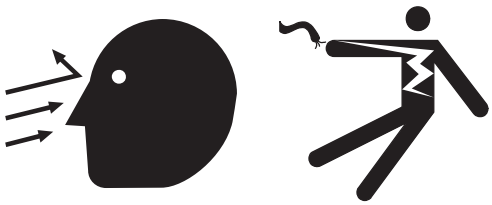
電気配線の点検は必ず、エンジンを停止して行ってください。

※　守らないと、手や衣服を回転部に巻き込まれたりして傷害事故が起きることがあります。



接続部の点検は、メインスイッチを「停止」にし、バッテリの⊖コードを外して行ってください。

※　守らないと、火花が飛んだり、感電したり傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1.1.12 バッテリ取り扱い時の注意事項

⚠ 危険

ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は通風のよいところで行ってください。

※ 守らないと、引火爆発するおそれがあります。




バッテリ液を身体や衣服に付けないようにしてください。

バッテリ液（電解液）は希硫酸で劇物です。

※ 失明や、やけどをするおそれがあります。
もし、目・皮膚・衣服に付いたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。




バッテリの吸気孔は、ふさがないでください。

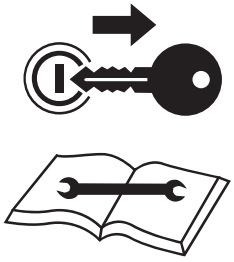
※ バッテリ内部で発生するガスにより、バッテリの内圧が上り、爆発するおそれがあります。



⚠ 警告

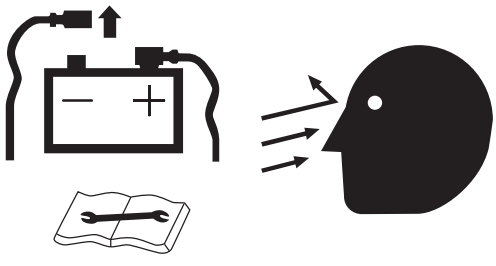
バッテリの脱着および点検をするときは、メインスイッチを「停止」にし、エンジンを停止してください。

※ 守らないと、電気部品を損傷したり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



バッテリコード（端子）を取り外すときは⊖コードを先に外します。バッテリコードを取り付けるときは、⊕コードを先に取り付けます。

※ ショートして火花が飛ぶおそれがあります。



1.1.13　ブースタケーブル使用時の注意事項

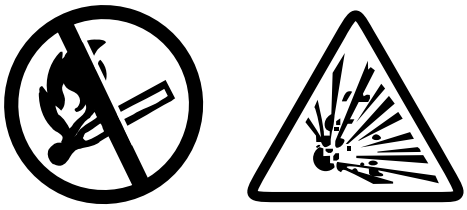
ブースタケーブル使用時には、ブースタケーブルの取扱説明書にしたがい、危険のないように取り扱ってください。

また、「1.1.12バッテリ取り扱い時の注意事項」（☞ 16ページ）も参照してください。

⚠ 危険

ブースタケーブル使用時には、火気を近づけないでください。

※　守らないと、引火爆発することがあります。



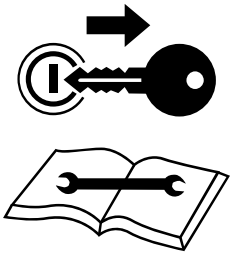
バッテリの補水キャップを取り外してから接続してください。

※　守らないと、引火爆発することがあります。



ブースタケーブル接続前に、エンジンを停止してください。

※　守らないと、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。

※　守らないと、ブースタケーブルが熱をもち、火災ややけどをおうおそれがあります。

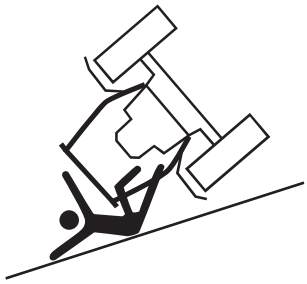


1.1.14　スーパーフルターン の取り扱いの注意

⚠ 警 告

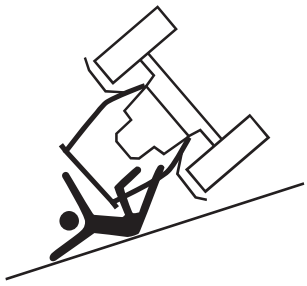
道路走行時は、走行・作業切換ダイヤルを「走行（2WD)」または「4WD」位置にしてください。

※　守らないと、転倒事故の原因になります。



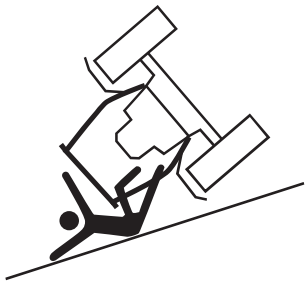
ほ場の出入り、トラックへの積み・降ろしは、走行・作業切換ダイヤルを「4WD」位置にしてください。

※　守らないと、転倒事故の原因になります。



フロントローダ作業等、前輪に重荷重がかかる作業は、走行・作業切換ダイヤルを「走行（2WD)」または「4WD」位置にしてください。

※　守らないと、トラクタの故障や傷害事故の原因になるおそれがあります。



1.2　公道走行と標識（ナンバープレート）について

このトラクタは、小型特殊自動車（農耕トラクタ）として道路運送車両の保安基準を満たしています。
ご使用の際は以下の点を遵守してください。

1.2.1　運転免許証の携帯

このトラクタを運転し、道路走行する場合は、小型特殊自動車を運転できる免許が必要です。
運転中は、必ず運転免許証を携帯し、道路交通法の定めに従って、正しい運転をしてください。
※道路交通法上の小型特殊自動車の基準は下表のとおりです。

車体の大きさ	全　長	4.70m以下
	全　幅	1.70m以下
	全　高	2.0m以下（但しガード部等は2.8m以下）
最　高　速　度		15km/h以下

また、けん引して道路走行をする場合、けん引する車両の総重量が750kgを越える場合は、けん引免許が必要となります。

1.2.2　小型特殊自動車

このトラクタは、道路運送車両の保安基準に適合する形状で製作しています。したがって、次のようなことは絶対にしないでください。

(1)　トラクタの各部構造の改造
(2)　型式の異なるエンジンの搭載
(3)　届け出タイヤ以外のタイヤの装着
(4)　各封印部の開封

これらの改造変更は、「不法改造」に該当し、違法行為となり一切の保証はいたしませんのでご注意ください。

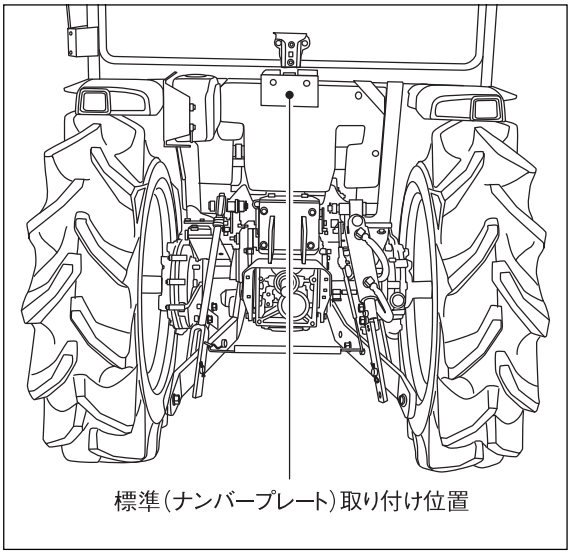
1.2.3　市町村役場への届出と標識（ナンバープレート）の取り付け

（1） このトラクタの所有者となられた方は、市町村条令の定めにより市町村役場に届け出て、標識（ナンバープレート）の交付を受けなければなりません。

（2） 届け出には、軽自動車税申告書（市町村役場にあります）に必要事項を記入の上、軽自動車税を添えて市町村役場へ提出してください。
尚、届け出の手続きは、市町村により異なることがあるので詳細は、市町村役場または「お買いあげ先」にご相談ください。

（3） 交付された標識（ナンバープレート）は、トラクタ後部の標識（ナンバープレート）取り付け場所に取り付けてください。

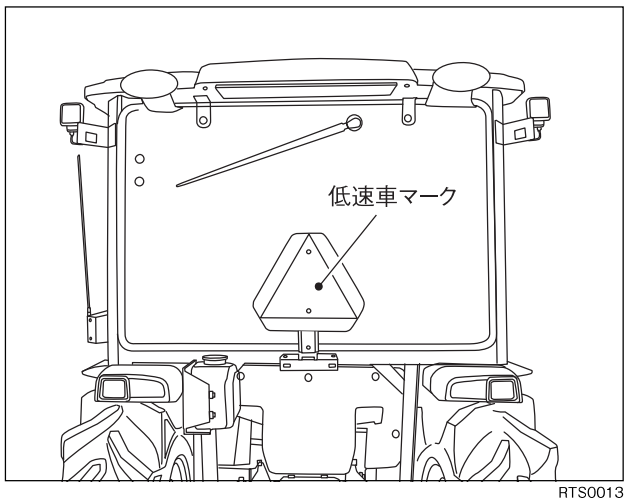
（4） 市町村役場より年一回、納税通知が郵送されますので、軽自動車税を納税してください。



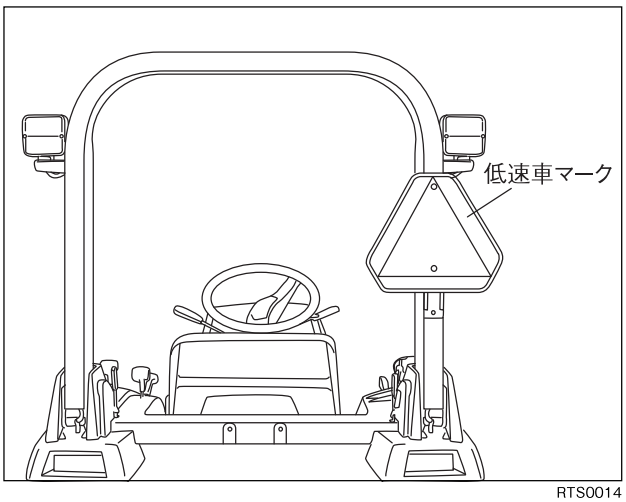
RTS0002

1.2.4　低速車マークについて

このトラクタで道路走行する場合は、低速車表示が必要です。トラクタの速度は自動車に比べると大変遅いため後続車に追突される危険性が、高くなります。これを防止するために低速車であることを知らせる表示板（低速車マーク）の取り付け部を車体後に備えております。道路走行時には必ず取り付けて走行してください。



RTS0013



RTS0014

1.2.5 点検整備

トラクタは必要に応じて点検整備を実施し、常に保安基準に適合するよう維持することが求められます。また、灯火類の点灯、ブレーキのきき等は日常的に点検整備する必要があります。点検整備について詳しくは「お買いあげ先」にお申し付けください。

1.2.6 自動車保険について

農作業用の小型特殊自動車には、自動車損害賠償保険を付けることができません。万一の交通事故補償に備えて、任意保険に加入しておかれることをお勧めします。

1.2.7 その他の法規について

(1) 道路走行輪距
道路を走行するときは、必ず下表の輪距で走行してください。これ以外の輪距や、作業機を取り付けたままでは“道路運送車両の保安基準”を満足しない場合があるので道路走行することはできません。

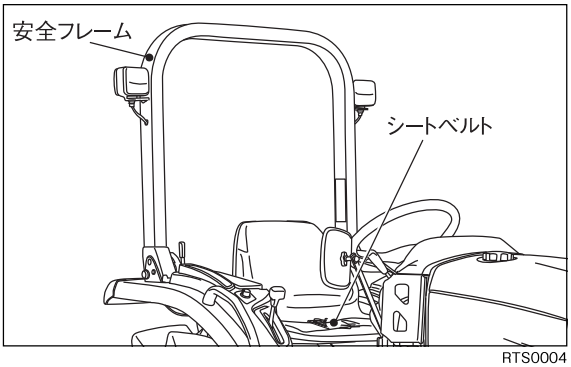
道路走行輪距

クラス名	前　輪	
	タイヤサイズ	輪距（mm）
GSK256/236	7-16-4PR	1030
GSK226/206	6-14-4PR	890

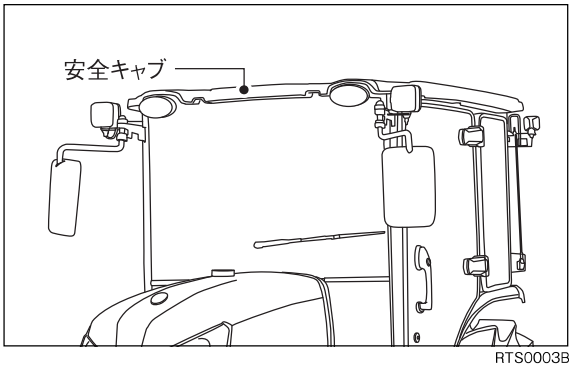
(2) 道路走行時の作業灯
作業灯は“道路運送車両の保安基準”第42条（灯光の色等の制限）において、“走行中に使用しない灯火”とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

1.3 安全フレーム・キャブについて

安全フレーム・キャブはトラクタが万一転倒した場合に、運転者への被害を軽減するためのものです。安全フレーム・キャブの取り扱いには特に注意してください。



RTS0004



RTS0003B

⚠ 警 告

万一トラクタが転倒するときは、ハンドルをしっかり握り、座席より飛び出さないでください。
※　怠ると、トラクタの下敷きになる等、重大事故を引き起こすおそれがあります。

高さに制限のある屋内、果樹園、ハウス内等の作業で、やむをえず安全フレームを後方に倒す場合は、シートベルトを装着しないでください。
※　この状態では体を保護することはできません。

トラクタを使用するときは、確実に安全フレームを立てた状態にし、必ずシートベルトを装着してください。
※　怠ると、転倒したときに重大事故を引き起こすおそれがあります。

安全フレーム・キャブの改造はしないでください。
※　改造すると安全フレームとしての機能がなくなり、転倒したときに重大事故を引き起こすおそれがあります。

万一事故により安全フレーム・キャブが変形したり、損傷した場合は、修理をしないで新しい純正部品と交換してください。
※　怠ると安全フレームの機能がなくなり、転倒したときに重大事故を引き起こすおそれがあります。

補 足

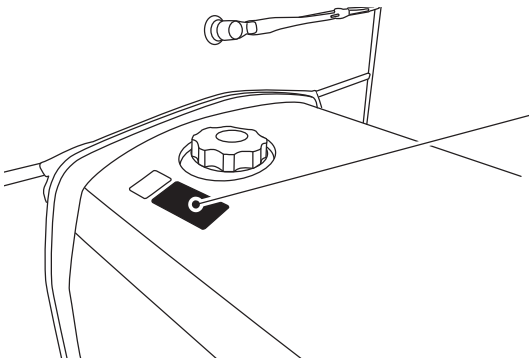
- **安全フレームを倒す場合は、安全フレームと作業機のすき間を確保してください。作業機をゆっくりと最大高さまで上げて確認してください。**

1.4　警告ラベルについて

（1）　このトラクタには、正しく作業していただくため、警告ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。
（2）　警告ラベルが破損したり、なくなったり読めなくなった場合は、新しいラベルを注文し貼り替えてください。
（3）　汚れた場合は、きれいに拭きとり、いつでも読めるようにしてください。
（4）　警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に警告ラベルもお買いあげ先へ注文してください。
（5）　高圧洗浄機で洗車すると、圧力水によりラベルがはがれるおそれがあります。圧力水を直接ラベルにかけないでください。

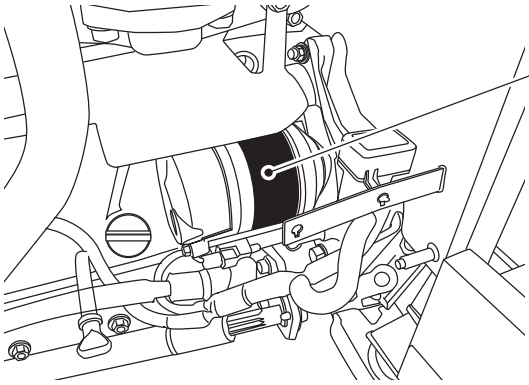
1.5 警告ラベル貼付箇所

⚠ 危険



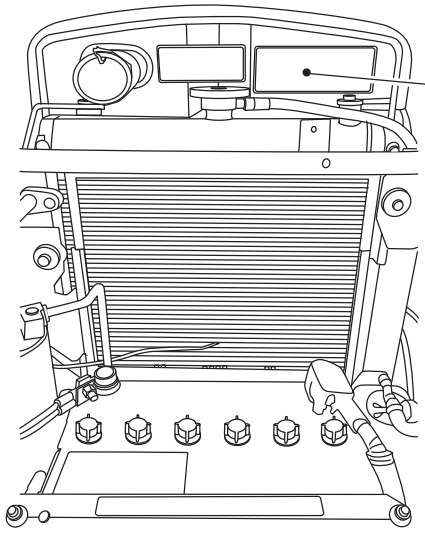


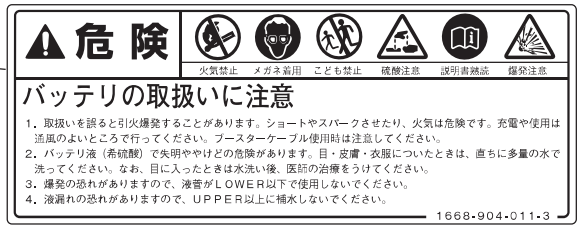
2161-901-038-0
ラベル(キケン/カキゲンキン)





1668-904-009-1
ラベル(キケン/スタータ)

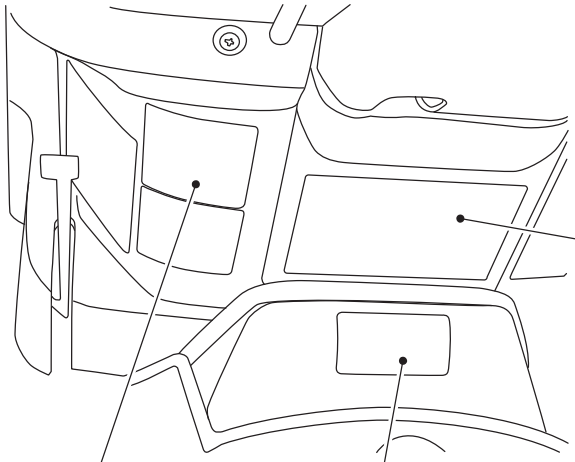


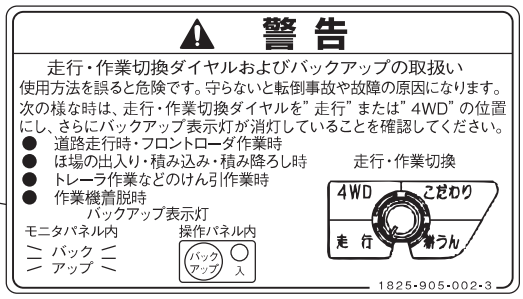


1668-904-011-3
ラベル(キケン/バッテリ)

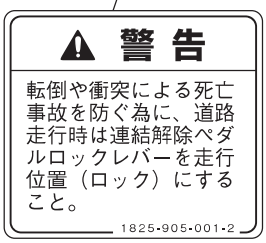
RTS0005B

⚠ 警 告

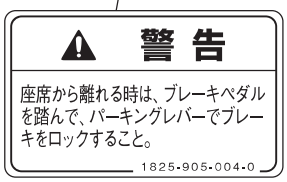




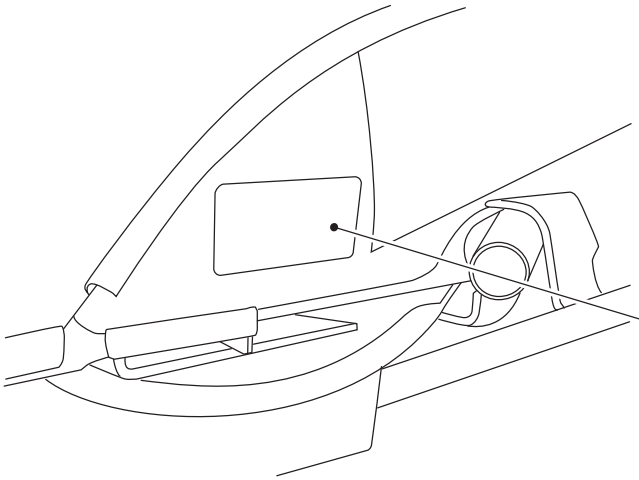
1825-905-002-3
ラベル（ケイコク / フルターン /Q）



1825-905-001-2
ラベル（ケイコク / ロック）



1825-905-004-0
ラベル（ケイコク / パーキング）

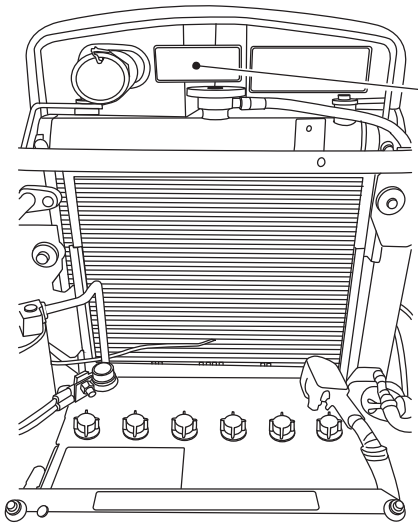




1799-903-071-0
ラベル（ケイコク / マフラ）

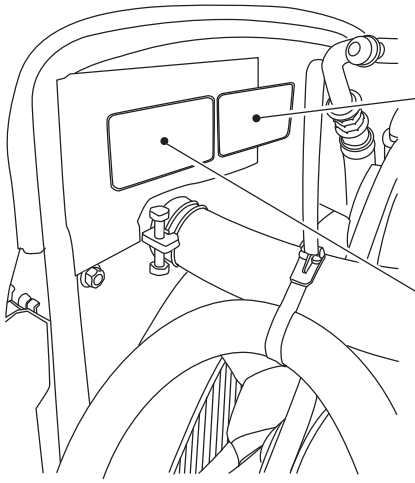
RTS0255

⚠ 警 告





1668-904-007-1
ラベル（ケイコク / ラジエータ）

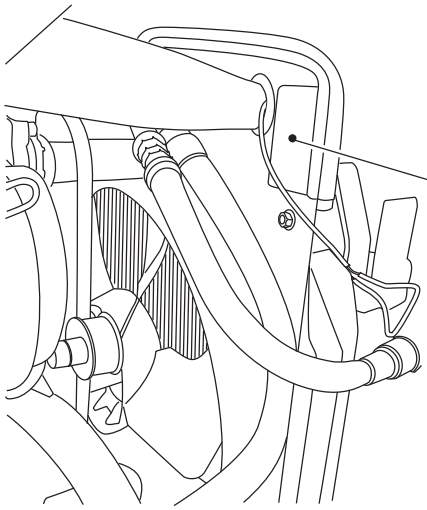




1675-905-007-0
ラベル（ケイコク / マフラ）



1825-905-007-0
ラベル(ケイコク/シールド)

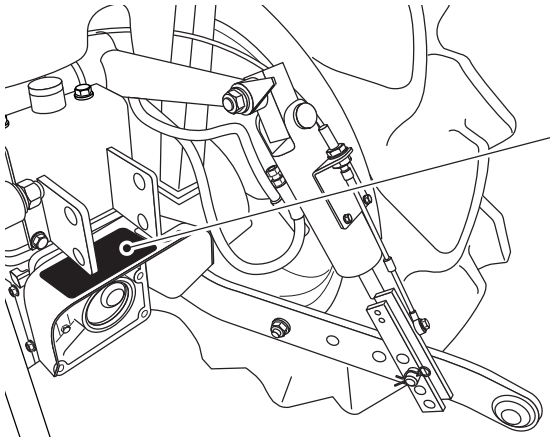


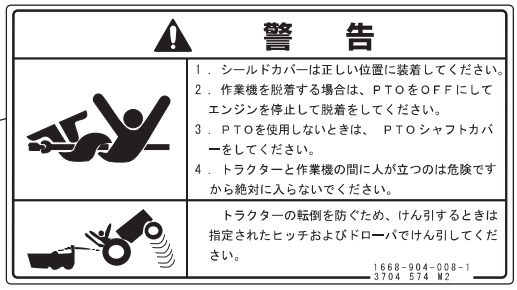


1668-904-002-1
ラベル（ケイコク / ファン）

RTS0006

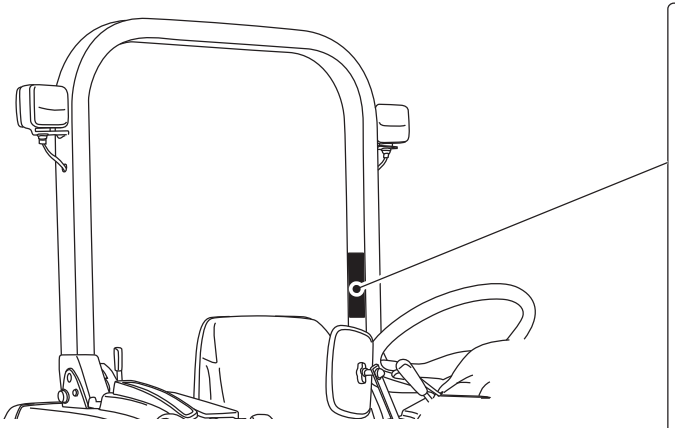
⚠ 警告

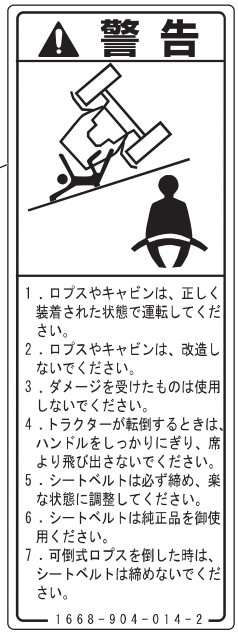




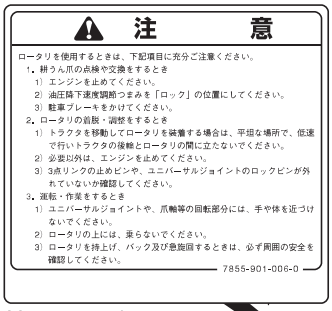
1668-904-008-1
ラベル（ケイコク/シールド/PTO）

（安全フレーム仕様のみ）

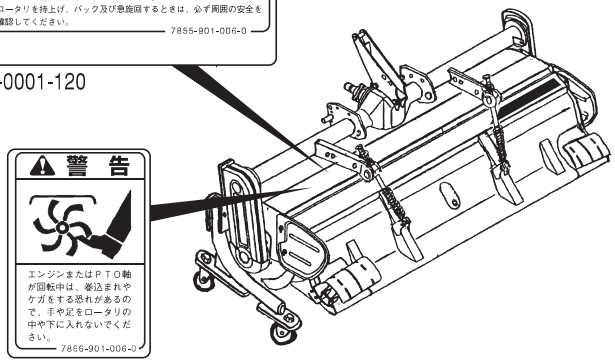




1668-904-014-2
ラベル（ケイコク/ロプス）



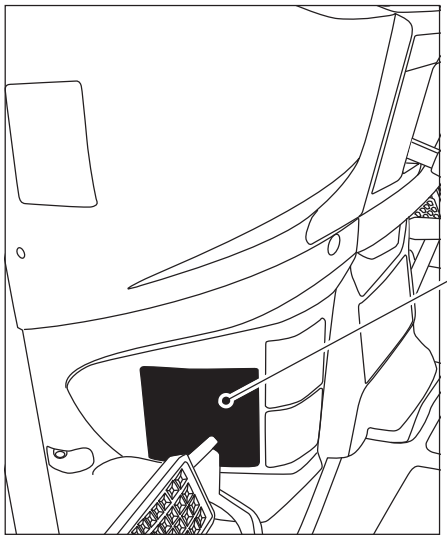
9911-0001-120



9911-0001-130

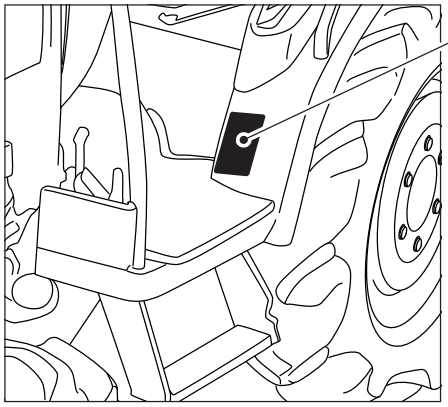
RTS0007

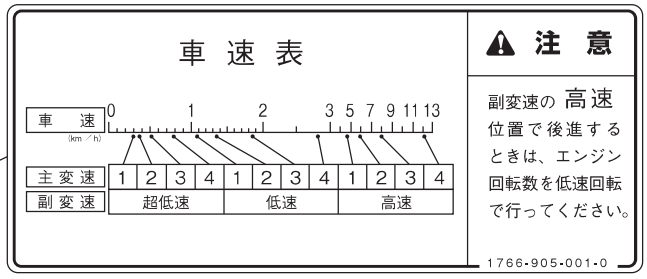
⚠ 注 意



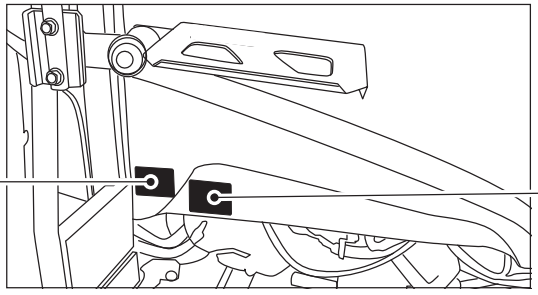


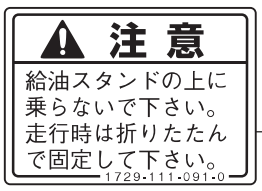
1675-905-001-1
ラベル(チュウイ/ドライブ)





1766-905-001-0
ラベル(チュウイ/スピード/CH)





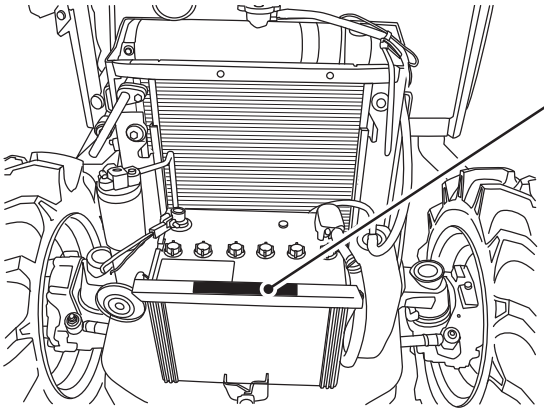
1729-111-091-0
ラベル(チュウイ/タンク)



1799-903-072-0
ラベル(チュウイ/カバー)

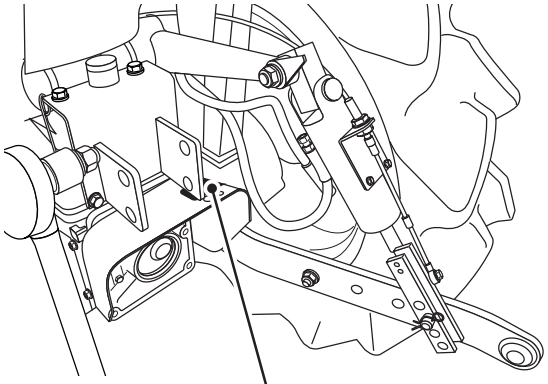
RTS0008B

⚠ 注 意



⚠ 注 意
バッテリを外すときは必ず、アース側㊀を先に外してください。
1765-905-006-0

1765-905-006-0
ラベル（チュウイ/バッテリ）



⚠ 注 意
道路走行
道路走行のときは、道路運送車両の保安基準を守ってください。
（詳細は、取扱説明書を参照してください。）

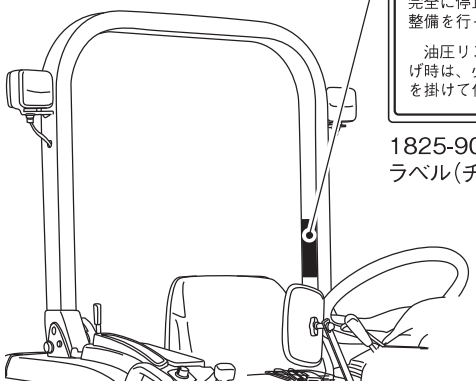
点検、整備時
エンジンを停止し、機会が完全に停止した状態で点検、整備を行ってください。

油圧リンクで作業機持ち上げ時は、必ず油圧下降ロックを掛けて作業してください。
1825-902-017-0

1825-902-017-0
ラベル（チュウイ/ソウコウ）

⚠ 注 意
カバーの上に乗らないでください。
1690-903-001-0

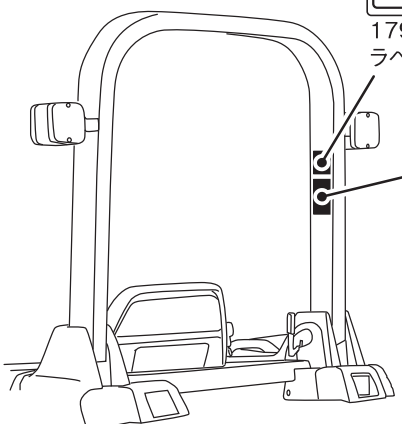
1690-903-001-0
ラベル（チュウイ/カバー）



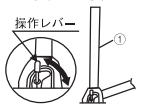
（安全フレーム仕様のみ）

⚠ 注 意
道路走行時には必ず低速車マークを装着してください。
1792-903-001-0

1792-903-001-0
ラベル（チュウイ/SMV）



⚠ 注 意
可倒式安全フレームの取扱い方法



○路上走行や作業をする時は、①の状態で使用してください。

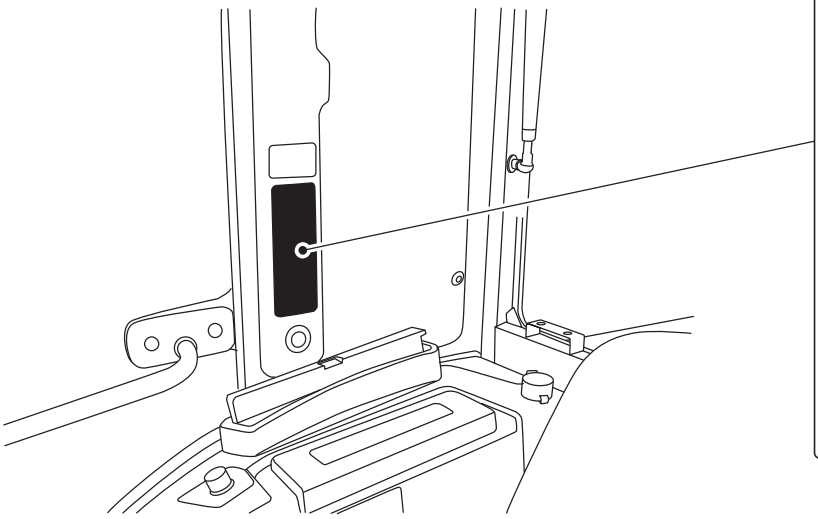
フレームを倒す時はレバーを後方へ倒し、起こす時はレバーを前方に倒してから、フレームを押して操作してください。操作し終わった時、レバーがフレームと平行になり、フレームが確実に固定されていることを確認してください。
1675-905-004-1

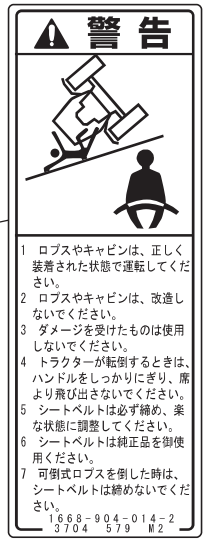
1675-905-004-1
ラベル（チュウイ/SF）

RTS0009

⚠ 警 告

〈安全キャブ仕様のみ〉



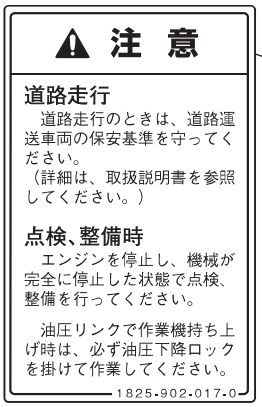


1668-904-014-2
ラベル(ケイコク/ロプス)

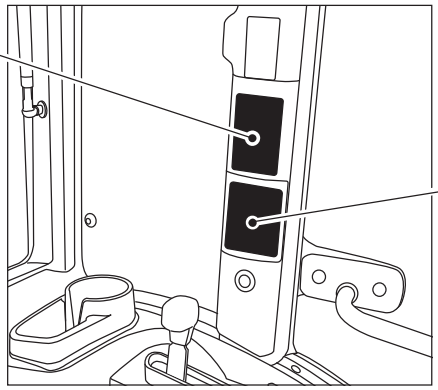
RTS0011

⚠ 注 意

〈安全キャブ仕様のみ〉

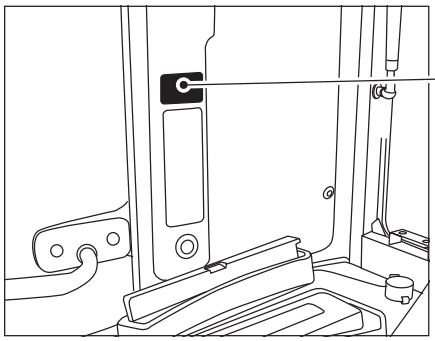


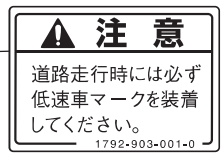
1825-902-017-0
ラベル（チュウイ/ソウコウ）





1766-905-004-0
ラベル（チュウイ/スピード/CCY）





1792-903-001-0
ラベル（チュウイ/SMV）

RTS0012B

2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証

この商品には、三菱保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

2.2 サービスネット

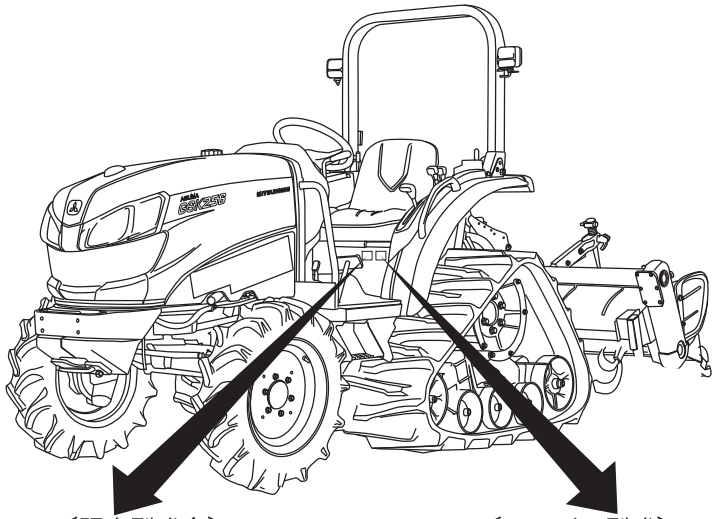
ご使用中の故障やご不審な点、およびサービスに関するご用命は、お買いあげ先へお気軽にご相談ください。その際は、

(1) 販売型式名と製造番号

(2) エンジン型式とエンジン機関番号

をあわせてご連絡ください。

2.3 銘板の位置

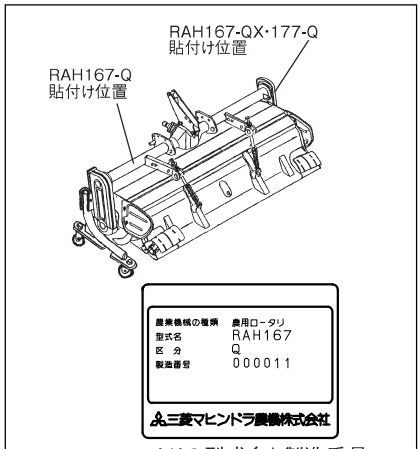


〔販売型式名〕



〔エンジン型式〕





ロータリの型式名と製造番号

MBRAH009

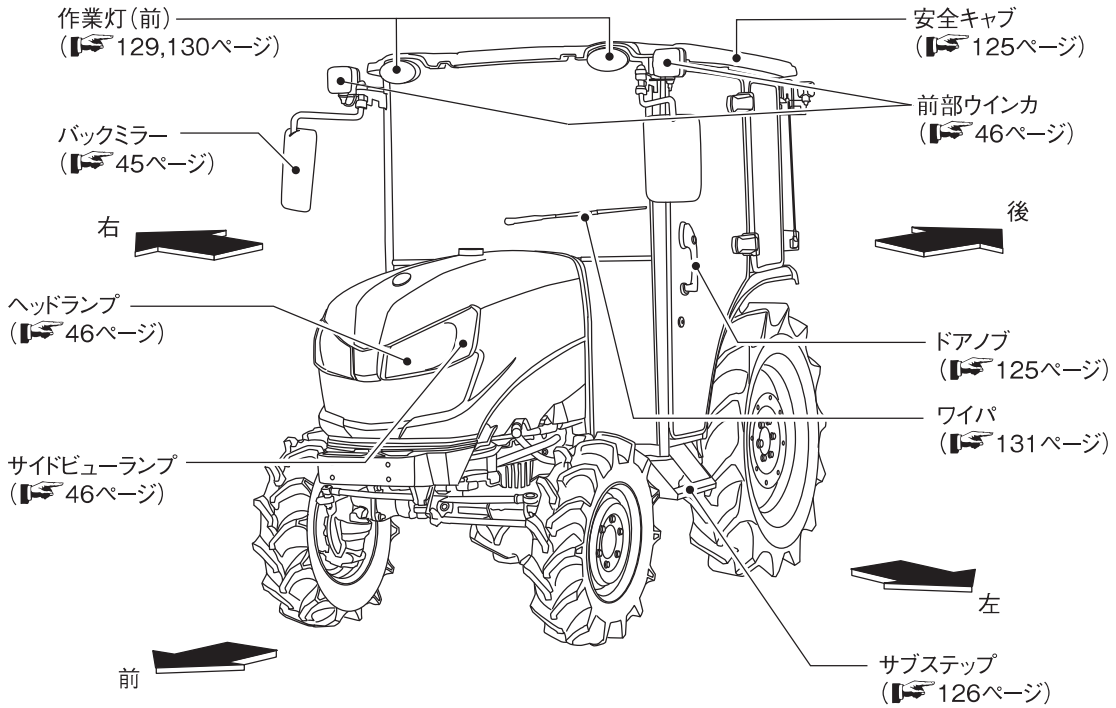
2.4 補修用部品の供給年限について

- この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年といたします。
  ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
- 補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には納期および価格についてご相談させていただきます。

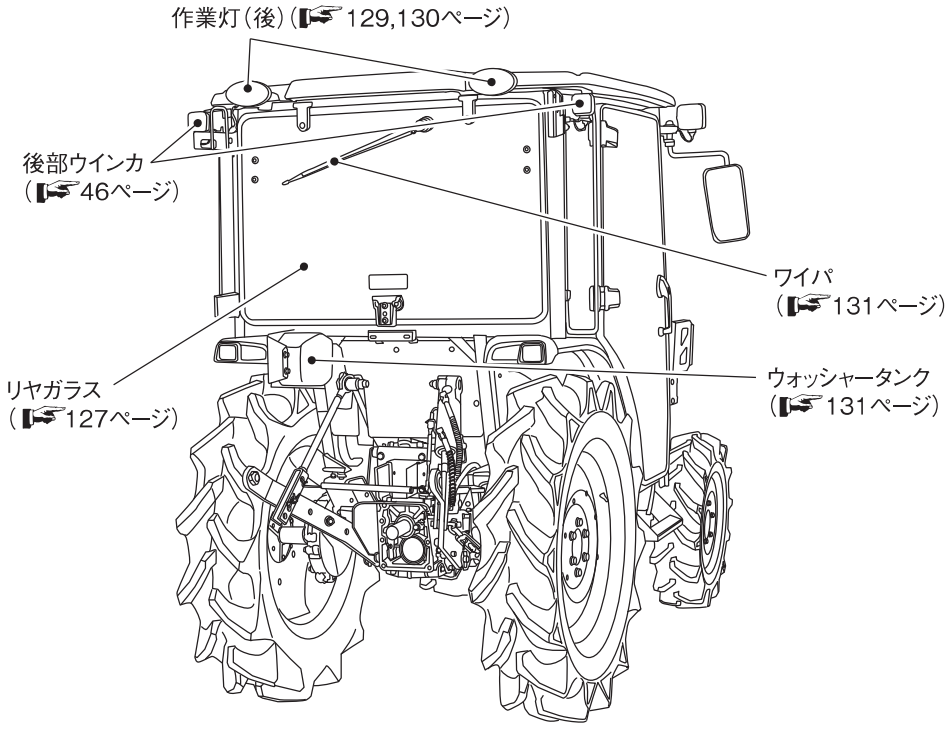
3.　各部の名称

3.1　全体（安全キャブ仕様）

■全体



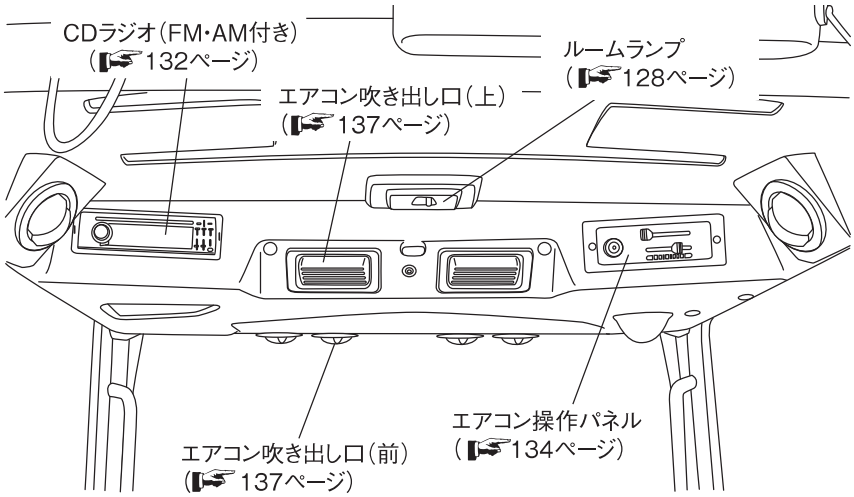
■後面



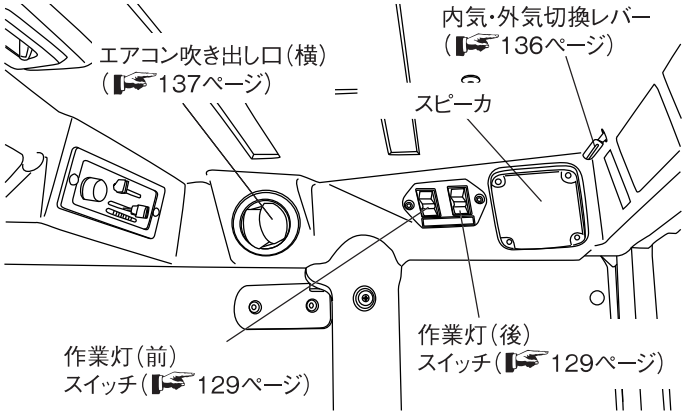
RTS0016BMB

■安全キャブ内部

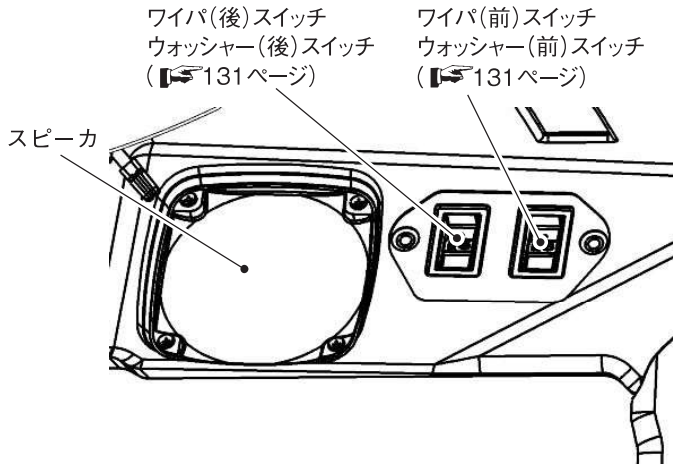
前方



右側面

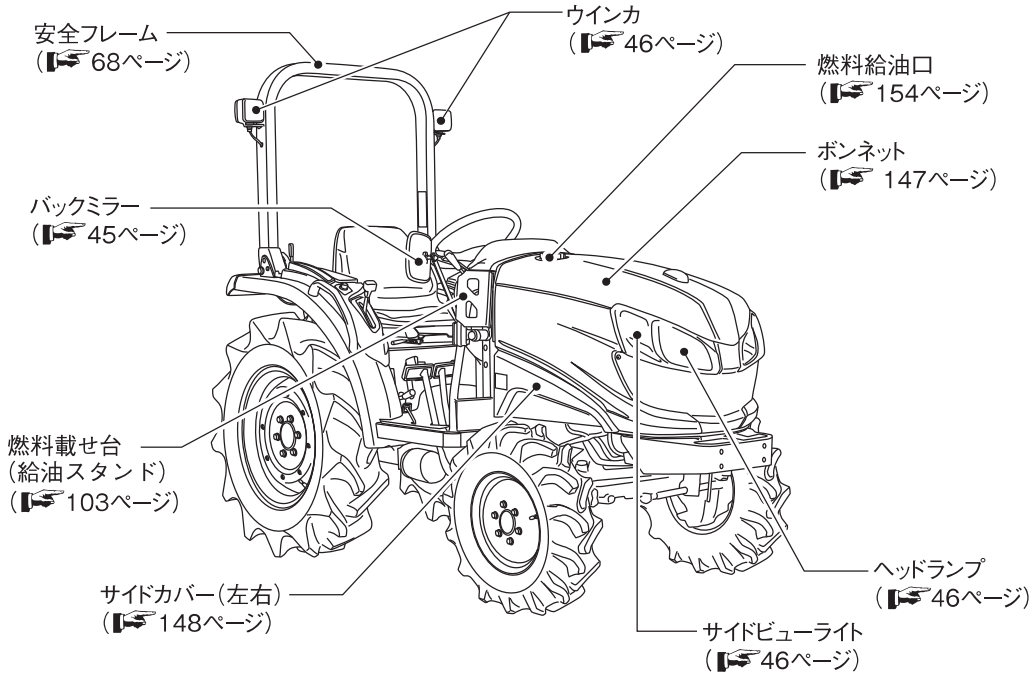


左側面



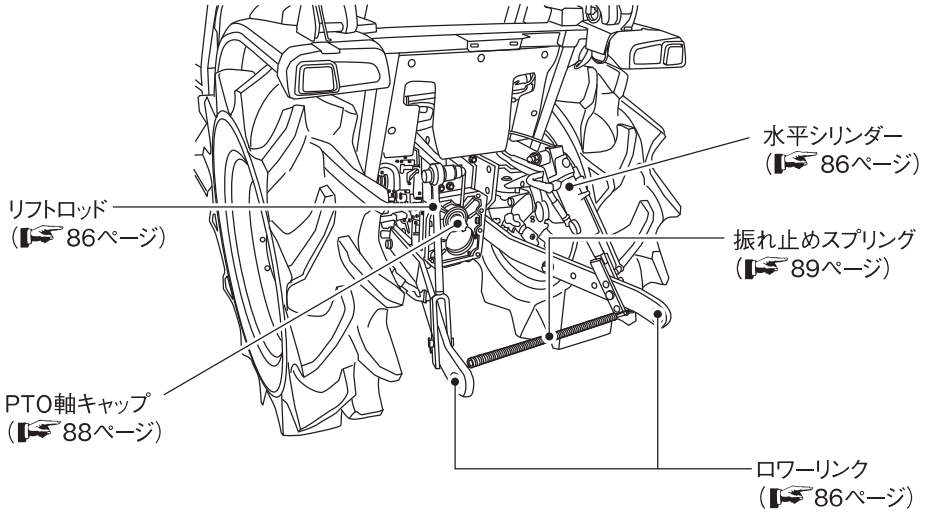
MBRTS0017B

3.2 全体（安全フレーム仕様）



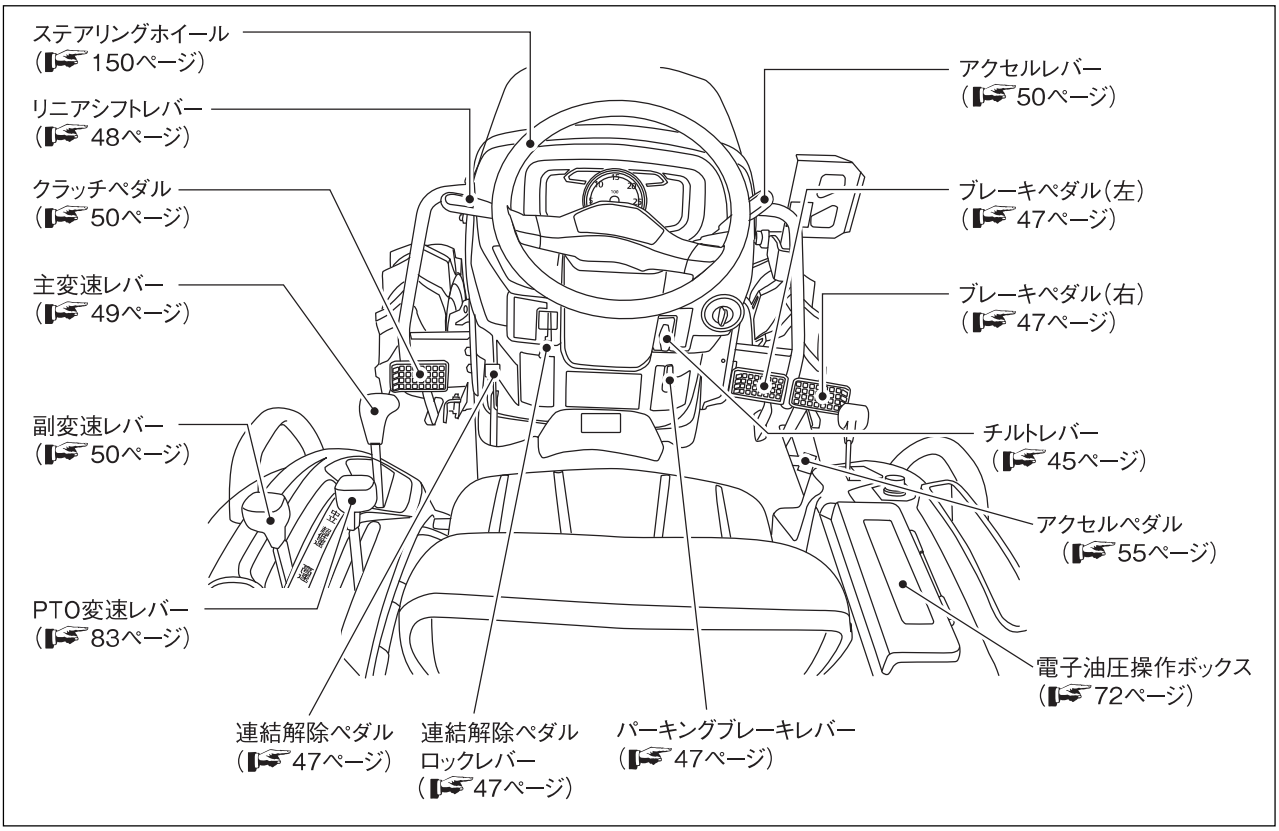
RTS0018MB

3.3 3点リンク

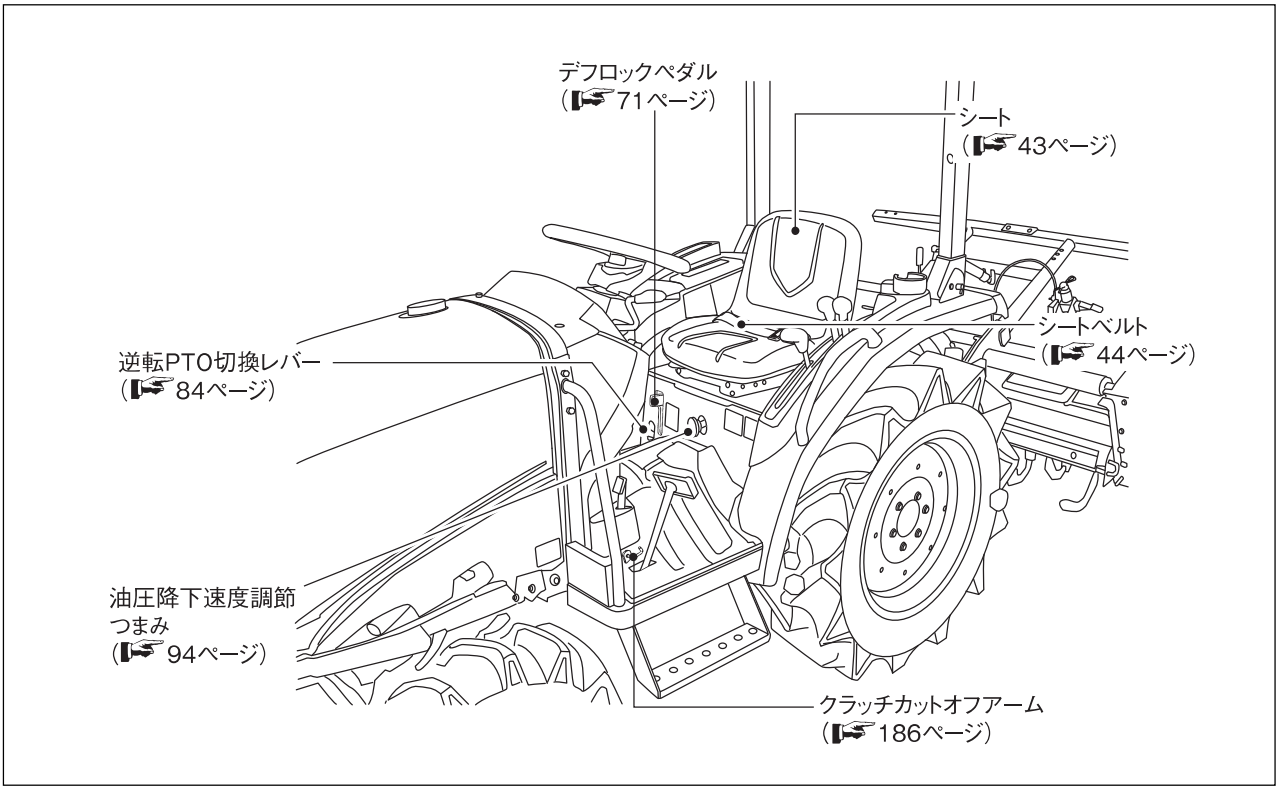


MBRTS0019

3.4 レバー・ペダル関係

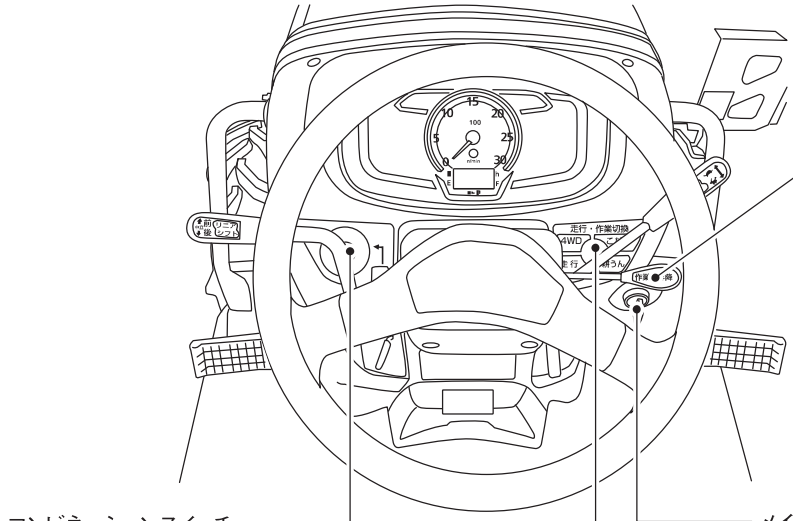


MBRTS0020



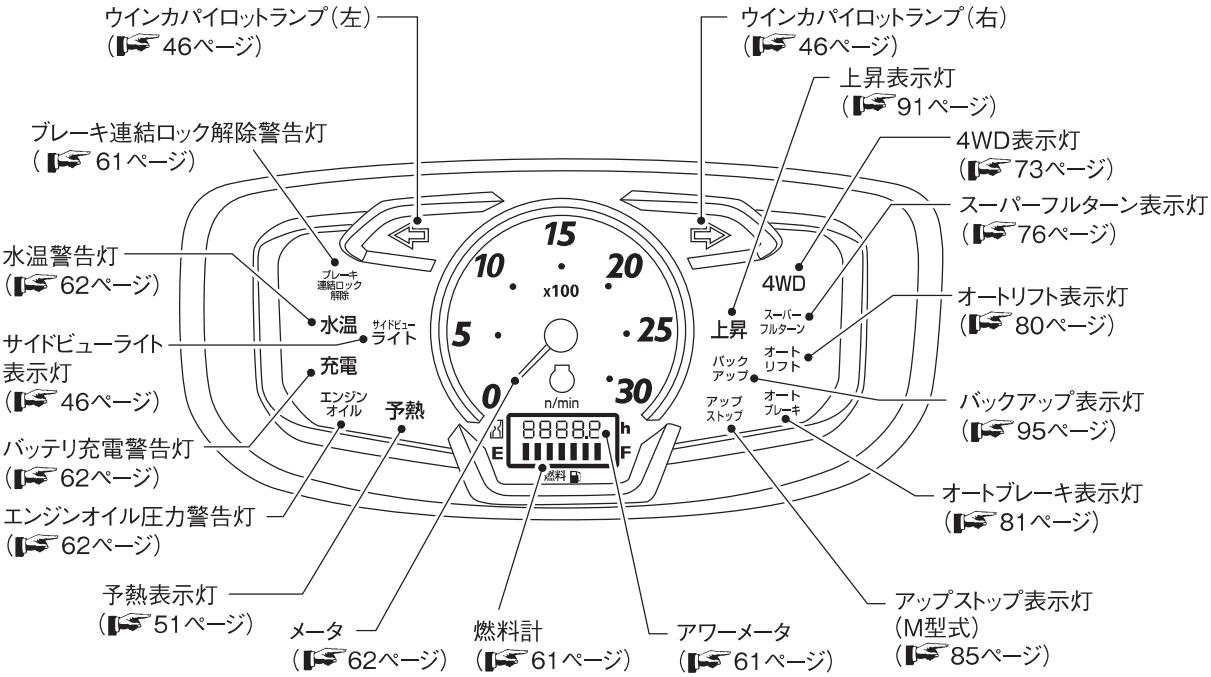
RTS0021MB

3.5 スイッチ関係



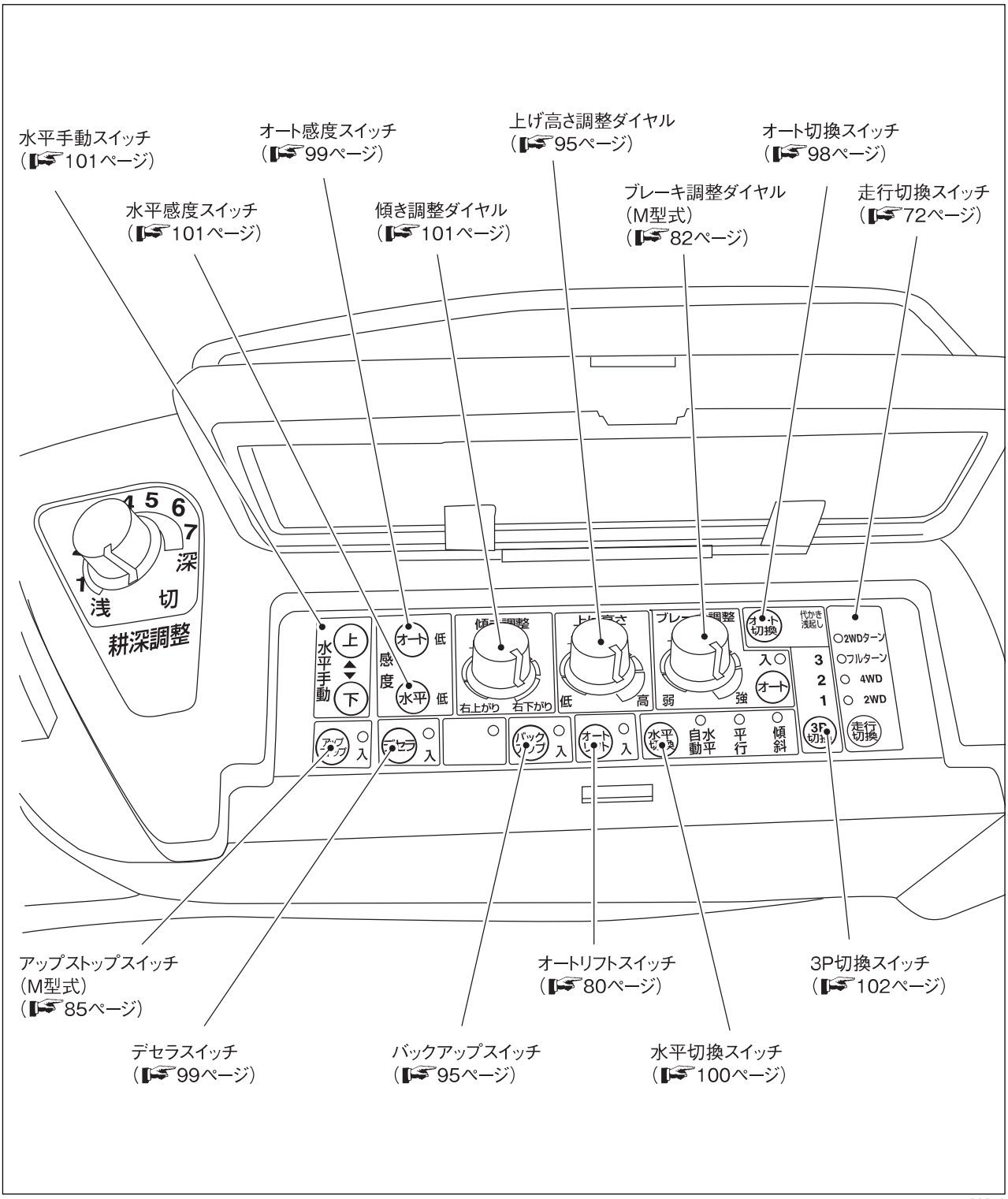
MBRTS0022

3.6 メータパネル



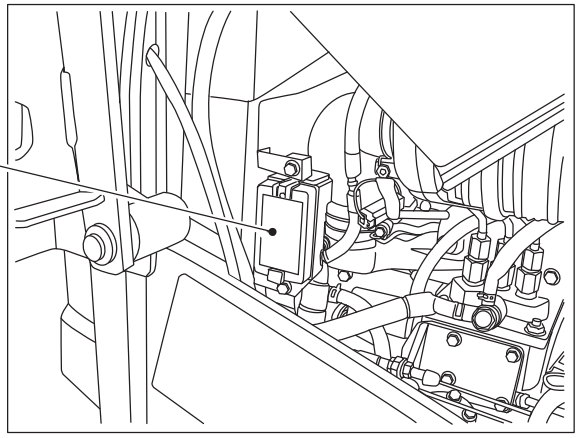
MBRTS0023B

3.7 電子油圧操作ボックス

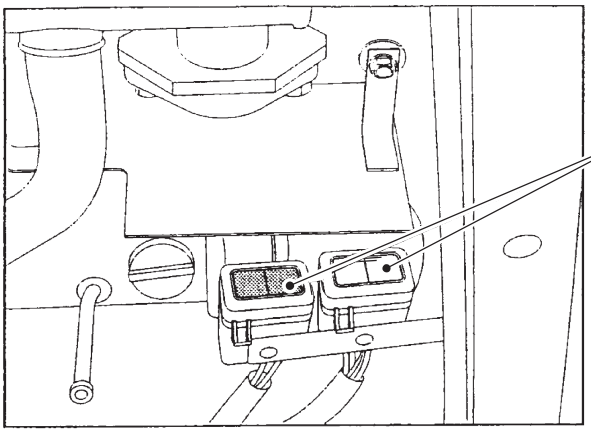


MBRTS0256

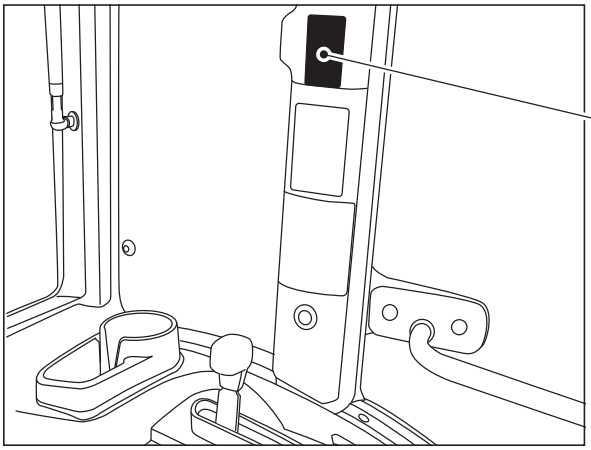
3.8 メンテナンス関係



ヒューズボックス
(☞167ページ)



スローブローヒューズ
(☞167、173ページ)



ヒューズボックス
(☞173ページ)
※安全キャブ仕様のみ、カバー内側

MBRTS0024

4. 作業前点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
作業前点検は毎日欠かさず行ってください。

⚠ 危険

燃料を補給するときは火気厳禁です。くわえタバコ等をしないでください。
※　守らないと、火災の原因になります。

燃料、オイルがこぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
※　守らないと、火災等を引き起こすことがあります。

⚠ 警告

必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックしてから行ってください。
※　守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。

4.1　運転席に座る前に

点検箇所	点検項目	処　置	参照ページ
前日異常のあった箇所	・再度異常がないか点検します	・ある場合は「お買いあげ先」に相談してください	–
警告ラベルの点検	・はがれ、破損等はありませんか	・新しいものに貼り替えてください。	23～26,29
タイヤ	・空気圧は適正ですか ・摩耗、損傷はありませんか	・補充してください ・交換は「お買いあげ先」に相談してください	164,165
油漏れ	・各部に漏れがありませんか	・ある場合は「お買いあげ先」に相談してください。	–
水漏れ	・各部に漏れがありませんか	・ある場合は「お買いあげ先」に相談してください。	–
エンジンオイル	・レベルゲージの上下限の間に油量がありますか	・補給してください スーパーエコディーゼルエンジンオイル（10W-30 CH-4）	149, 201,202
ミッションケースのオイル	・レベルゲージの上下限の間に油量がありますか	・補給してください U・T・Hオイル	159, 201,202
冷却水	・ラジエータキャップを外し、口元まで冷却水がありますか	・補給してください	152,201
ファンベルト	・指で押したときのたわみ量は適正ですか	・張り量を調節してください	156
エアコン用ベルト	・指で押したときのたわみ量は適正ですか	・張り量を調節してください	170

点検箇所	点検項目	処　置	参照ページ
エアコン コンデンサ	・防虫網が目づまりしていませんか ・コンデンサフィンは目づまりしていませんか	・網目を清掃してください ・コンデンサフィンを水道水で清掃してください	170
エアクリーナ	・バキュエータバルブにゴミはたまっていませんか	・バキュエータバルブをつまんでゴミを落としてください	150
燃料キャップ	・ゆるんでいませんか	・確実に締め付けます	154
燃料フィルタ	・水や沈殿物がたまっていませんか	・カップを洗浄してください	155
車体各部	・損傷がありませんか	・ある場合は「お買いあげ先」に相談してください	－
ボルト・ナット	・ゆるみはありませんか	・締め付けてください	－
作業機取付ピン	・脱落していませんか	・装着してください	－
各ランプ類	・損傷がありませんか	・ある場合は「お買いあげ先」に相談してください	－
ラジエータ	・防虫網が目詰まりしていませんか ・ラジエータフィンは目詰まりしていませんか	・網面を清掃してください ・ラジエータフィンを水道水で清掃してください	152
標識（ナンバープレート） 反射器	・汚れはありませんか ・損傷はありませんか	・清掃してください ・交換の必要な場合は「お買いあげ先」に相談してください	－

4.2　運転席に座って

点検箇所	点検項目	処　置	参照ページ
ブレーキペダル	・遊びは適正ですか ・作動は正常ですか	・遊びの調節をしてください ・正常でない場合は「お買いあげ先」に相談してください	162
クラッチペダル	・遊びは適正ですか ・作動は正常ですか	・遊びの調節をしてください ・正常でない場合は「お買いあげ先」に相談してください	162
パーキングブレーキ	・作動は正常ですか	・正常でない場合は「お買いあげ先」に相談してください	162
バックミラー	・汚れはありませんか ・損傷はありませんか	・清掃してください ・交換の必要な場合は「お買いあげ先」に相談してください	－

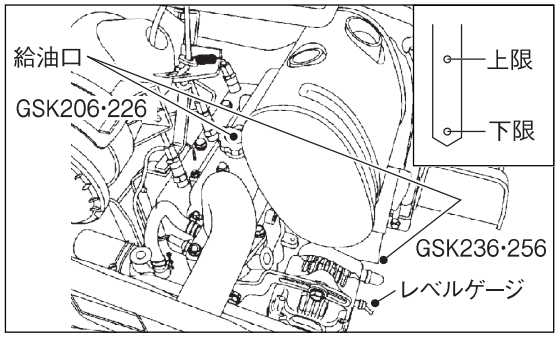
4.3 メインスイッチを「運転」に入れて

点検箇所	点検項目	処置	参照ページ
燃料計	・作動は正常ですか ・燃料は十分入っていますか	・正常でない場合は「お買いあげ先」に相談してください ・給油してください	61
各ランプ類 モニタランプ	・汚れはありませんか ・点灯しますか	・清掃してください ・点灯しない場合は「お買いあげ先」に相談してください	36
メータ類	・作動は正常ですか	・正常でない場合は「お買いあげ先」に相談してください	36, 61,62
ホーン	・鳴りますか	・鳴らない場合は「お買いあげ先」に相談してください	46

4.4 エンジンを始動して、徐行しながら

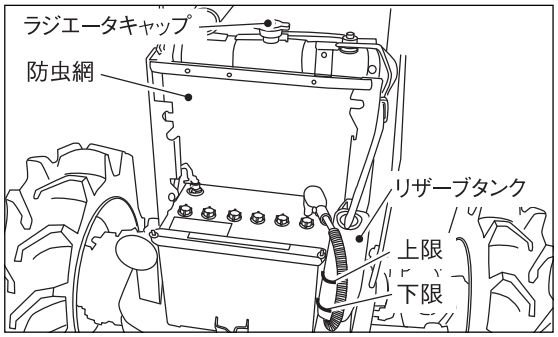
点検箇所	点検項目	処置	参照ページ
バッテリ充電 警告灯 エンジンオイル 圧力警告灯	・エンジン始動後、消灯しますか	・消灯しない場合は「お買いあげ先」に相談してください	36, 51,62
排気ガス	・色は薄青色ですか ・白煙や黒煙を吐きませんか ・異常な音はしませんか	・白煙や黒煙を吐く場合や異常な音がする場合は「お買いあげ先」に相談してください	−
ブレーキ	・効きは悪くありませんか ・片効きしませんか	・「お買いあげ先」に相談してください	162
ステアリングホイール（ハンドル）	・操作力が重くありませんか ・振れや取られがありませんか ・遊びが多くありませんか	・「お買いあげ先」に相談してください	163

〈エンジンオイル〉(☞ 149ページ)



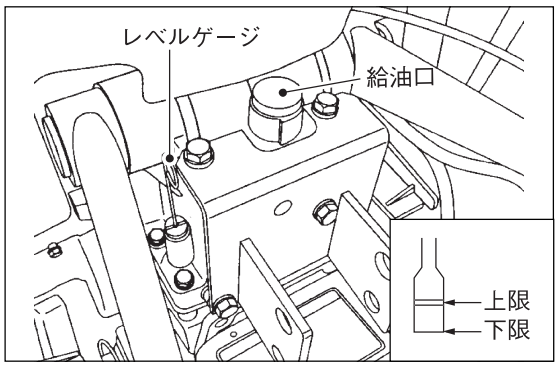
RTS0025

〈冷却水、ラジエータ〉(☞ 152,153ページ)



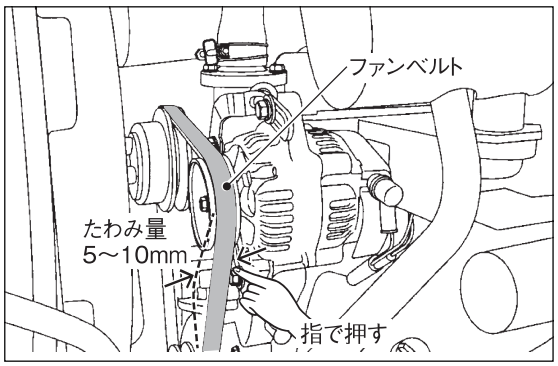
RTS3310B

〈ミッションケースのオイル〉(☞ 159ページ)



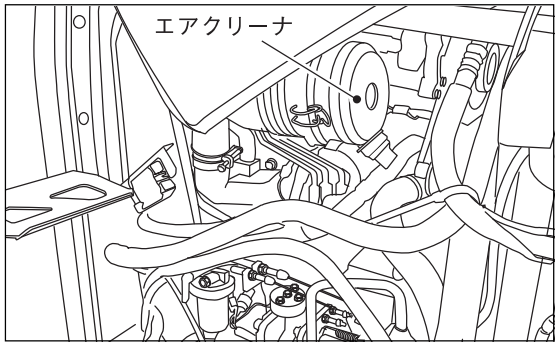
RTS0027

〈ファンベルト〉(☞ 156ページ)



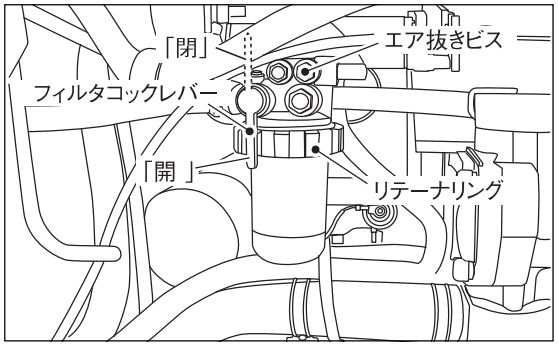
RTS0028

〈エアクリーナ〉(☞ 150ページ)



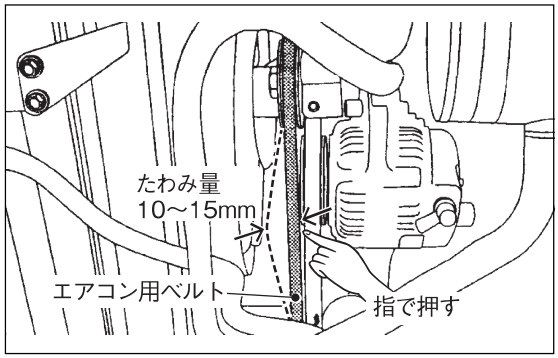
RTS0029

〈燃料フィルタ〉(☞ 155ページ)



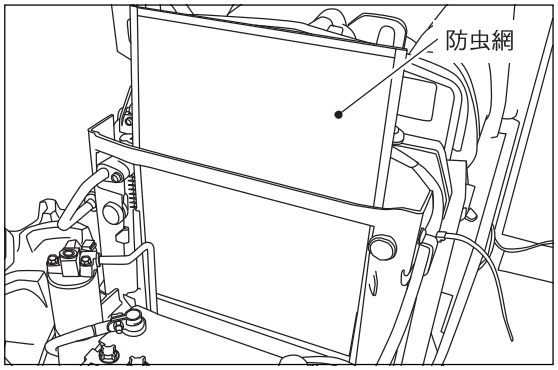
RTS0030B

〈エアコン用ベルト（安全キャブ仕様)〉(☞ 170ページ)



RTS0031

〈エアコンコンデンサ（安全キャブ仕様)〉(☞ 170ページ)



RTS3337

5.　運転のしかた

5.1　運転前の準備

正しい運転姿勢になるよう、シート位置、シートベルト位置、バックミラー位置を調節してください。

⚠ 警 告

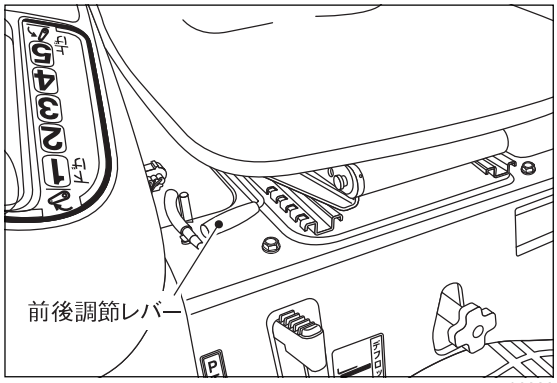
調節はエンジンを始動する前に行ってください。

※　走行中に調節すると、正常な運転ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

5.1.1　シート

(1)　シート下にあるシート前後調節レバーを「上方に引く」とシートは前後に調節できます。

(2)　調節後は、レバーがロック位置でロックされていることを確認してください。

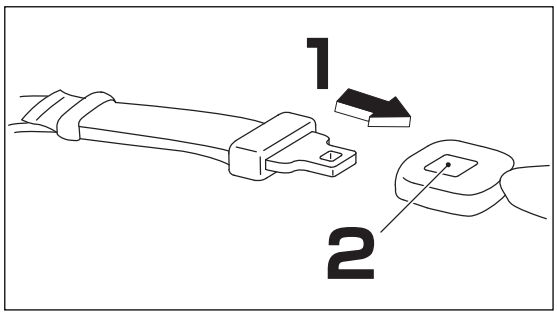


RTS0033

5.1.2 シートベルト

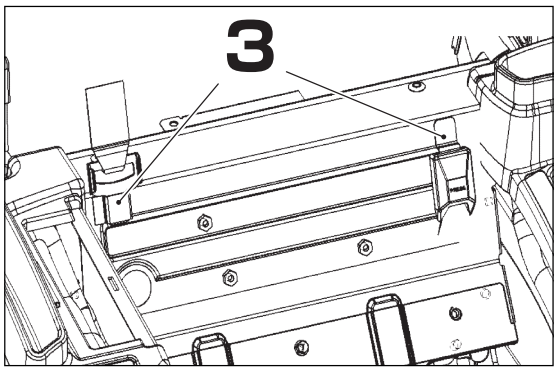
1 ベルトがねじれていないことを確認し、ベルトを金具に押し込み装着します。

2 ベルトを外すときは、金具の中央の部分を押してください。



RTS0034

3 外したベルトは、シート後部のホルダに収納してください。



RTS0035

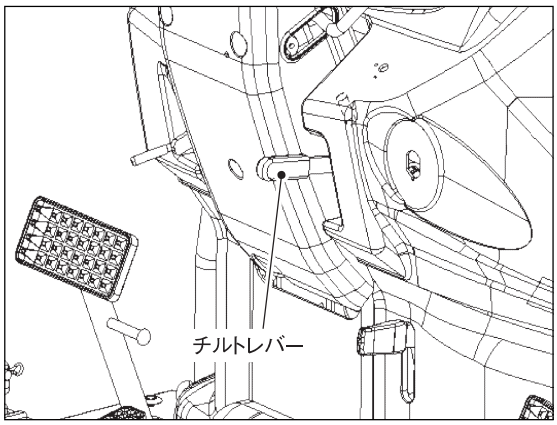
5.1.3 チルトの調節

運転姿勢に合せて、ステアリングホイール（ハンドル）の向きを3段階に調節できます。

1 ステアリングホイール（ハンドル）を手で持ち、チルトレバーを下に下げた状態で位置を調整します。

2 チルトレバーから手を離すと、ステアリングホイール（ハンドル）の向きが固定できます。

3 調整後、チルトレバーが確実に元の位置に戻っていることを確認してください。



RTS0036

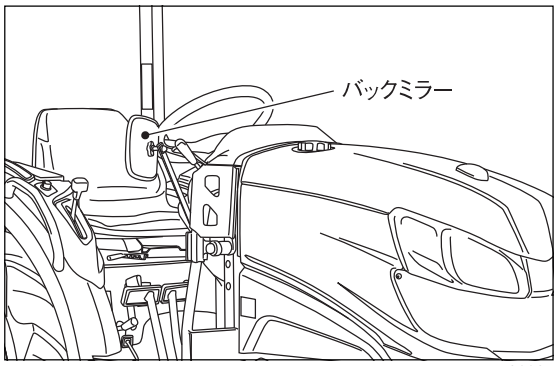
5.1.4 バックミラー

⚠ 注 意

狭い場所での走行や、トラクタを格納するときにはバックミラーを接触させないよう注意してください。
※ バックミラーは車体より側方へ張り出しているため、思わぬ事故を起こすことがあります。

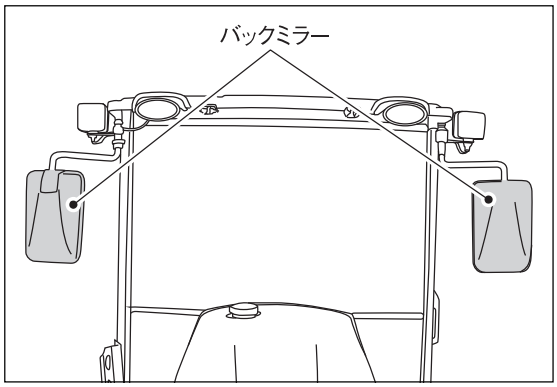
道路走行時は、バックミラーを格納したままで運転しないでください。
※ 走行中、後方の確認ができないため思わぬ事故を起こすことがあります。

(1) バックミラーは、上下・左右に角度調節できます。運転席に座って見やすい位置に調節してください。



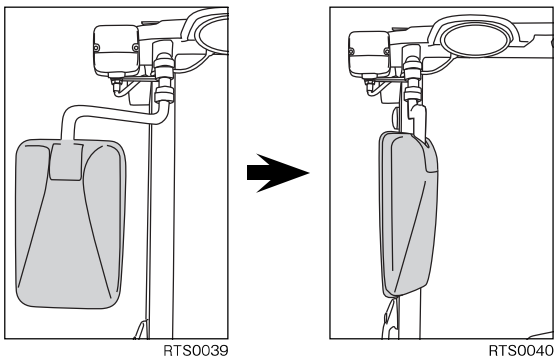
RTS0037

(2) 安全キャブ仕様のバックミラーは、上下・左右に角度調節できます。運転席に座って見やすい位置に調節してください。
バックミラーは、格納できますので、狭い場所などで利用してください。



RTS0038

使 用 時　　格 納 時


RTS0039　　RTS0040

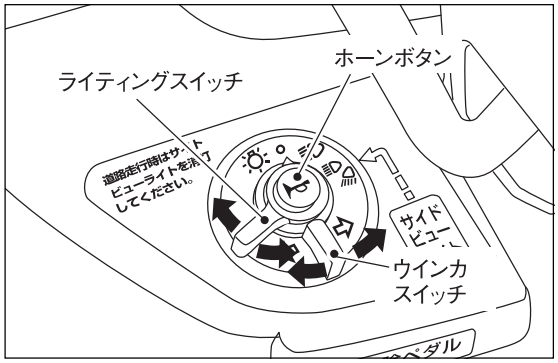
5.1.5 コンビネーションスイッチ

■ライティングスイッチ

○ ……ヘッドランプ消灯位置です。

……ヘッドランプ点灯位置です。

……ヘッドランプとサイドビューライト点灯位置です。
このとき、サイドビューライトの表示灯も点灯します。



RTS0041

⚠ 注 意

道路走行中、サイドビューライトは必ず消灯してください。
※ サイドビューライトを点灯したまま道路を走行することは、他の交通車両の妨害となることから禁止されております。

■ウインカスイッチ

(1) スイッチを操作すると、ウインカランプおよびメータパネル内のウインカパイロットランプが点滅します。

(2) 右折または左折が終わったら、スイッチを中央に戻してください。

補 足

- **ウインカパイロットランプが、異常に速く点滅するときは、ウインカランプの球切れが考えられます。**
  すべてのウインカランプが点滅するか確認してください。

■ホーンボタン

メインスイッチを「運転」の位置にして、ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

5.2 エンジン始動のしかた

⚠ 警 告

エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、すべての変速レバーやその他のレバー類の位置と、周囲の状況を確認してから行ってください。
※ 守らないと、急発進することがあり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

エンジンを始動するときは、必ずPTO変速・リニアシフトレバー・副変速レバーを中立にしてください。
※ 変速したままエンジンを始動すると、不意にトラクタ本体が動いたりPTO軸が回転し、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

室内でエンジンを始動するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。
※ 換気が不十分な場合、排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。

注 意

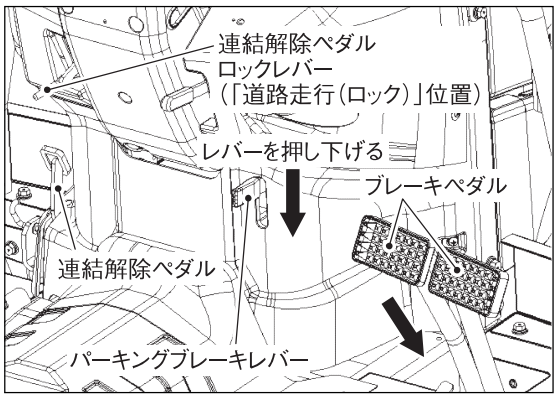
パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。
※ かけたまま走行するとブレーキを傷めます。

1 連結解除ペダルロックレバーを「道路走行(ロック)」位置にし、連結解除ペダルが収納されて左右のブレーキペダルが連結されているか確認してください。

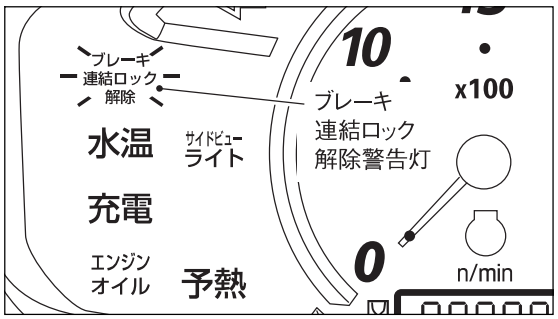
2 ブレーキペダルをいっぱい踏み込み、パーキングブレーキレバーを矢印方向に「下げ」たままブレーキペダルをはなすとパーキングブレーキがかかります。

補 足

- **ブレーキペダルを強く踏むと、パーキングブレーキは自動的に解除されます。**
- **連結解除ペダルロックレバーが「ほ場(解除)」位置のときは ブレーキ連結ロック解除警告灯が点灯します。**
- **連結解除ペダルロックレバーが「道路走行(ロック)」位置にないときはパーキングブレーキレバーが押し下げれません。**

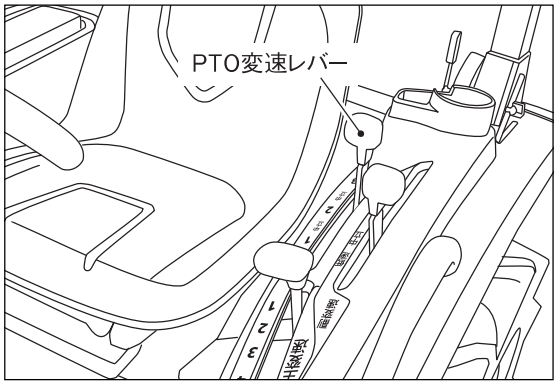


RTS0042



RTS0043

3 PTO変速レバーを「中立」にします。

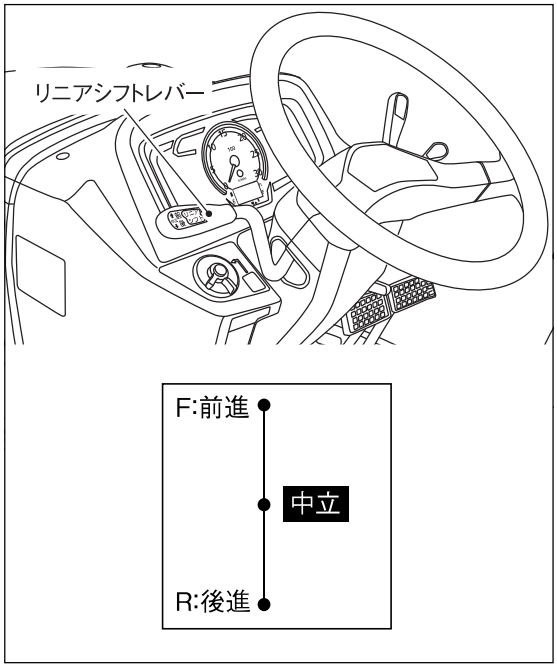


RTS0045

4 リニアシフトレバーを「中立」にします。

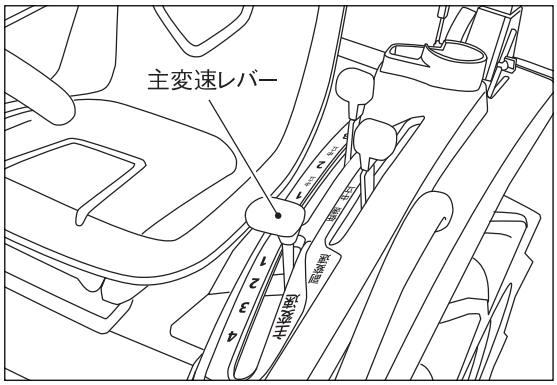
補 足

- **リニアシフトレバーは、前進・後進シフトを行うレバーです。**
  走行しない場合は「中立」にしてください。



RTS0046B

5 主変速レバーが任意の変速位置に確実に入っていることを確認してください。

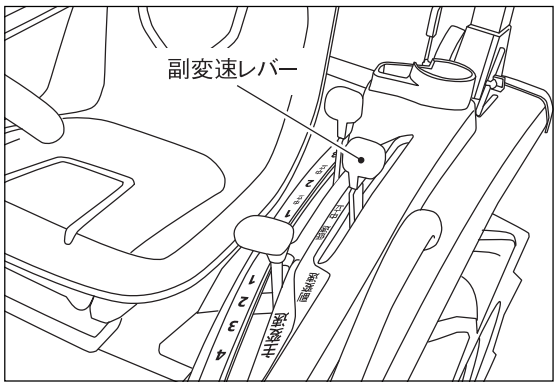


RTS0047

補 足

- **主変速レバーは「1速」「2速」「3速」「4速」の4段変速が出来ます。リニアシフトレバー、副変速レバーとの組み合わせにより、前後進12段の変速が出来ます。**

6 副変速レバーを「中立」にします。



RTS0048

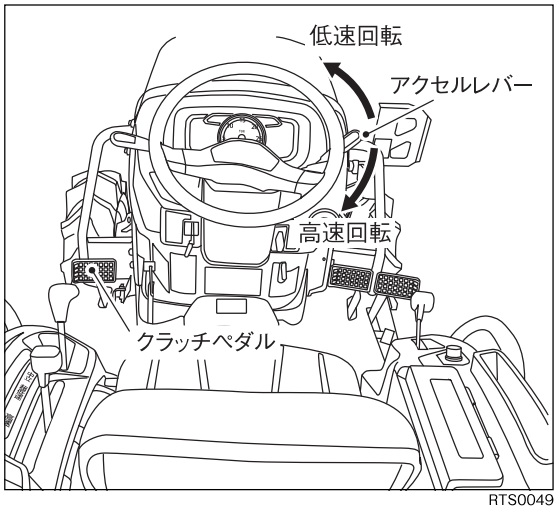
補 足

- **副変速レバーは「超低速」「低速」「高速」の３段の変速が出来ます。**

注 意

リニアシフト・主変速・副変速のレバー操作は、クラッチペダルを踏みトラクタが完全に停止してから操作してください。
※　走行中に変速するとミッションの損傷につながります。

7 アクセルレバーを「中程」まで引きます。



RTS0049

補 足

- **アクセルレバーはエンジンの回転数を制御するレバーです。手前に引くと高速回転になり、前方に押すと低速回転になります。**

8 クラッチペダルを踏み込み、クラッチを「切」にします。

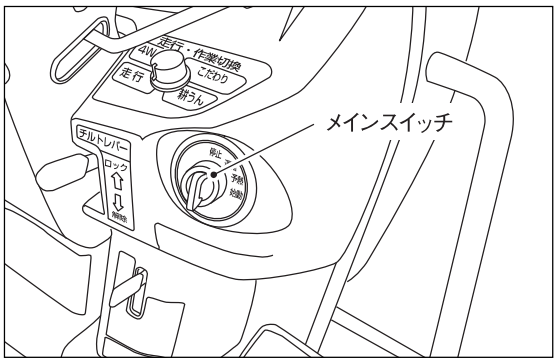
補 足

- **クラッチペダルは、踏み込むとクラッチが切れ、足を離すとクラッチがつながります。**
- **クラッチペダルをいっぱい踏み込み、クラッチを「切」にしないと、エンジンは始動しません。**
- **クラッチペダルは切るときは速く、つなぐときはゆっくりと操作してください。**

注 意

作業中は、クラッチペダルに足を乗せたままにしないでください。
※　半クラッチ状態となり寿命が短くなります。

9 メインスイッチにキーを差し込み、「運転」の位置に回します。（イラストは安全フレーム仕様）



RTS0050

注 意

メインスイッチを「運転」の位置、安全キャブ仕様は「ACC」の位置で長時間放置しないでください。
※　バッテリ上がりの原因となります。

（1）　このときモニタランプのエンジンオイル圧力警告灯およびバッテリ充電警告灯が点灯していることを確認してください。（ ☞ 36,62ページ）

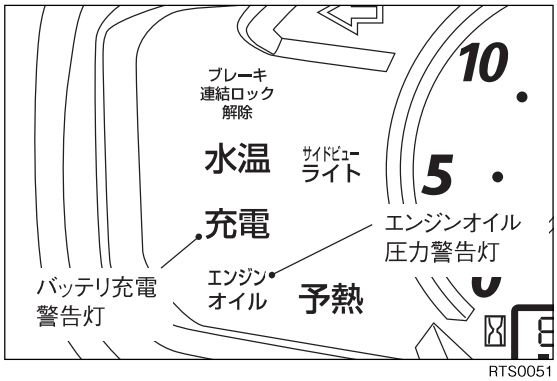
（2）　メインスイッチは次の位置があります。

・安全キャブ仕様

停止 …… エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置です。
ＡＣＣ …… エンジンが停止中、CDラジオが使用できます。
運転・予熱 … 自動的に予熱します。およびエンジン回転中の位置です。
始動 …… エンジンを始動する位置です。手を離すと自動的に「運転・予熱」位置に戻ります。

・安全フレーム仕様

停止 …… エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置です。
運転 …… エンジン回転中の位置です。
予熱 …… 予熱位置です。5秒間保持した後、「始動」してください。
始動 …… エンジンを始動する位置です。手を離すと自動的に「運転」位置に戻ります。



RTS0051

10 キーを「始動」の位置に回します。
エンジンが始動したら、ただちにメインスイッチを「運転」の位置に戻してください。
エンジン始動後、エンジンオイル圧力警告灯、バッテリ充電警告灯が消灯していることを確認してください。

注 意

エンジン回転中は、メインスイッチを「始動」の位置にしないでください。
※　スタータの破損の原因となります。

スタータの作動は1回10秒程度とし、エンジンが始動しないときは10秒程停止してから、再び操作を繰り返してください。
※　連続してスタータを作動させると、バッテリが放電し寿命が短くなります。

11 クラッチペダルからゆっくり足を離し、エンジン中速回転（約1500 rpm）で十分に暖機運転を行ってください。
気温により右表程度の時間、暖機運転を行ってください。

気温	暖機運転時間
0℃以上	5～10分
0℃～-10℃	10～20分
-10℃～-20℃	20～30分
-20℃以下	30分以上

⚠ 警 告

暖機運転中は必ずパーキングブレーキをかけてください。
※　守らないと、トラクタが自然に動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

換気が不十分な場所では、暖機運転をしないでください。
※　排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。

注 意

走行・作業前には必ず、暖機運転を行ってください。
※　守らないと、エンジンの寿命を短くしたり、油圧ポンプの焼き付き、および油圧系の故障の原因となります。

補 足

- **本トラクタの油圧オイルは、ミッションオイルを兼用しています。寒冷時はオイルの粘度が高くなり、油圧ポンプがオイルを吸い込みにくくなることがあります。また、油圧系より音が発生することがありますので暖機運転は必ず行ってください。**
- **上記の現象はオイルの温度上昇と共に解消しますので、異常ではありません。**

5.3 エンジン停止のしかた

⚠ 警 告

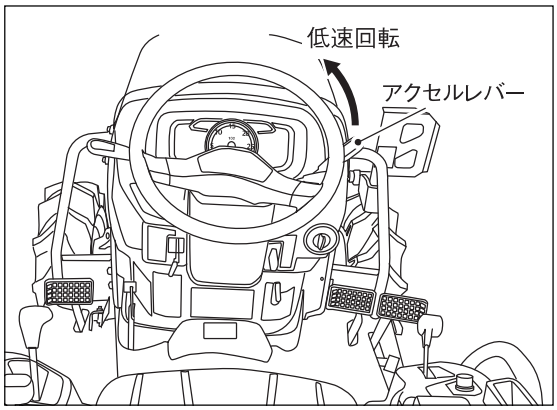
エンジン停止時は、パーキングブレーキを確実にかけてください。
※ 守らないと、坂道等でトラクタが自然に動き出し、事故の原因となります。

エンジン停止のため、エンジン周辺部にふれる場合は注意してください。
※ エンジン周辺部は高温のため、やけどをするおそれがあります。

1 アクセルレバーを前方にいっぱい押し、エンジンを低速回転にします。

補 足

- **エンジンを高速回転のまま停止しないでください。**
- **長時間運転後は、アイドリング回転で5～10分間ほど無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。**



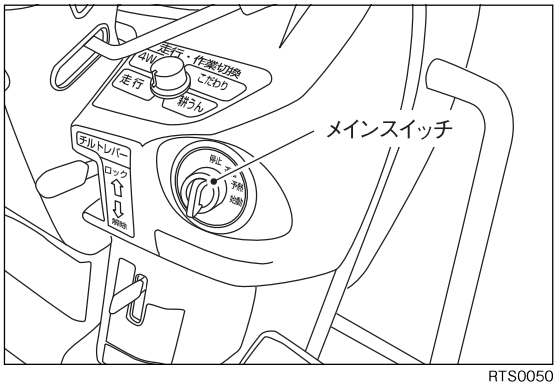
RTS0052

2 メインスイッチを「停止」位置にします。エンジンは停止します。

補 足

- **万一、故障しエンジンが停止しないときは、「お買いあげ先」にご相談ください。**

3 メインスイッチのキーは必ず抜きます。



RTS0050

5.4 発進のしかた

発進をする前に、下記の項目を確認してください。

⚠ 警 告

トラクタを発進させるときは、前後左右の状況を確認し、トラクタの近辺に人を近づけないでください。（特に子供に注意してください。）

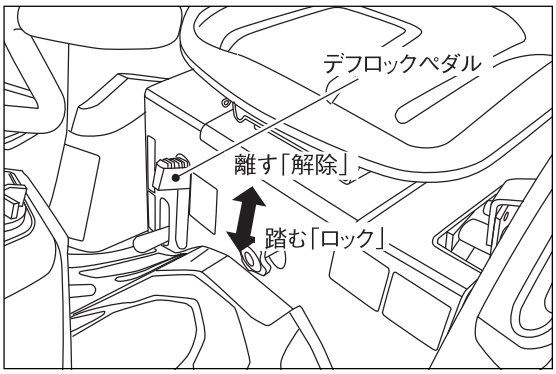
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

トラクタや作業機に他の人や物を乗せないでください。

※ 守らないと、人が転落したり物が落下したりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

道路を走行するときは、デフロックペダルが解除してあるか確認してください。

※ 解除していないとデフの差動装置が働かず、転倒・転落・衝突事故等を引き起こすおそれがあります。

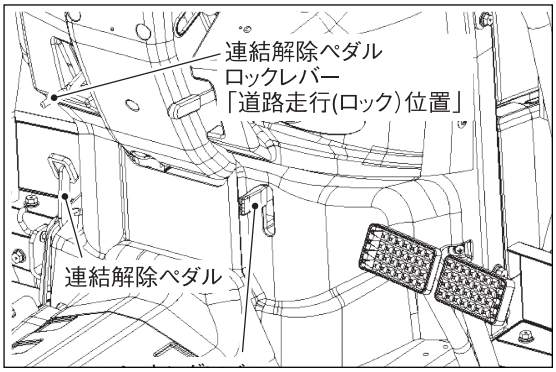


RTS0054

道路走行するときは、必ず連結解除ペダルロックレバーを「道路走行(ロック)」位置にし、連結解除ペダルが収納されていることを確認してください。

ブレーキ連結ロック解除警告灯の消灯を確認してください。

※ 守らないとブレーキが片ぎきとなり車体が急旋回して、転倒・転落・衝突事故等を引き起こすおそれがあります。

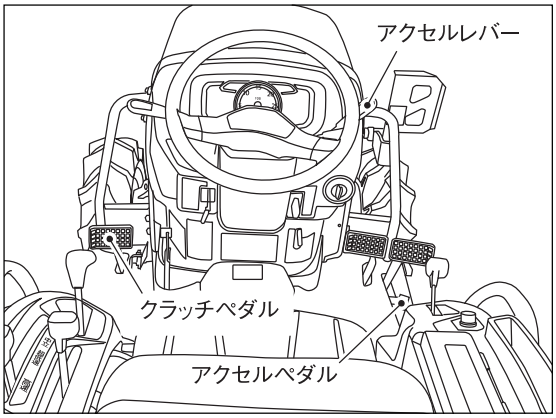


RTS0042A

⚠ 警告

道路走行するときは、アクセルレバーではなく必ずアクセルペダルを使用してください。

※ 守らないと、正常な走行スピードのコントロールができなくなるおそれがあります。



RTS0056

クラッチペダルは、ゆっくり離してください。

※ 急に離すと急発進して転倒・転落・衝突事故等を引き起こすおそれがあります。

道路走行時には、走行・作業切換ダイヤルを「走行」または「4WD」位置にしてください。

※ 守らないと、スーパーフルターンが作動し、衝突・転倒事故の原因になります。

負荷の大きなけん引をする場合や、湿田での脱出時はトラクタが後方に転倒しないよう注意してください。

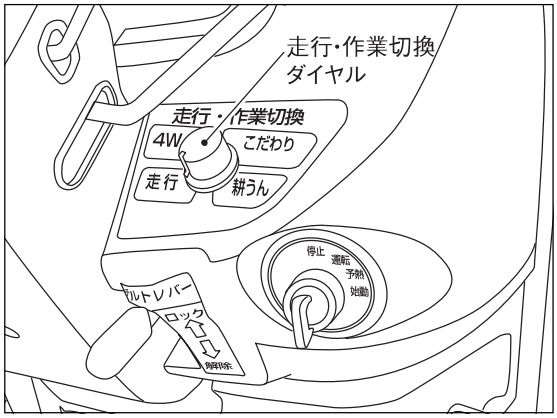
※ 守らないと、衝突・転倒事故の原因になります。

注意

作業中は、クラッチペダルに足を乗せたままにしないでください。

※ 半クラッチ状態となり寿命が短くなります。

1 走行･作業切換ダイヤルを「走行」または「4WD」位置にします。（ ☞ 72ページ）

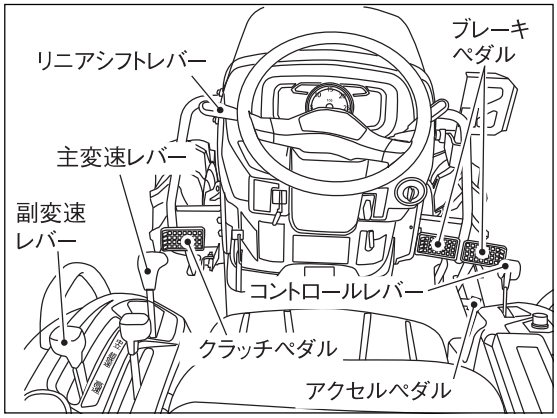


RTS0057

2 コントロールレバーを上げ、作業機を上げます。

(1) エンジン始動後「上昇表示灯」が点滅しているときは、作業機昇降装置が「準備状態」になっています。
（☞ 91ページ参照）

(2) コントロールレバーを「上げ」か「下げ」方向に操作して「準備状態」を解除してください。「上昇表示灯」が消灯します。コントロールレバーで作業機を上げ（下げ）てください。



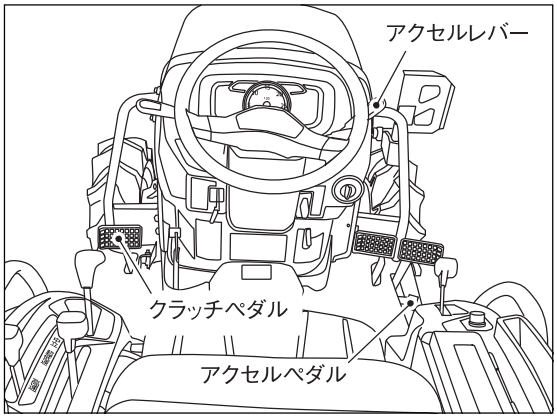
RTS0058

3 クラッチペダルを踏み込んで、クラッチを切ります。

4 リニアシフトレバー、主変速レバー、副変速レバーを希望する変速位置に入れます。

5 ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキを外します。

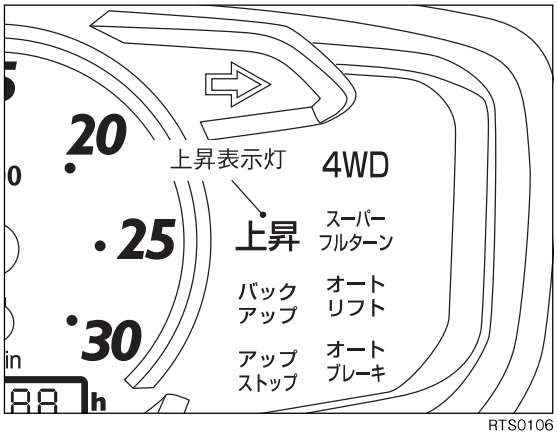
6 アクセルレバーまたはアクセルペダルでエンジン回転を上げながら、クラッチペダルをゆっくりと離します。



RTS0056

補 足

- **アクセルペダルはアクセルレバーと連動しています。ペダルを踏み込むとエンジン回転が上がり、ペダルから足を離すとアクセルレバーの設定回転まで戻ります。**
- **走行中はクラッチペダルおよびブレーキペダルから足を離してください。**
- **クラッチの寿命を延ばすため、発進以外は半クラッチ操作をできるだけ避けてください。また、速度調節をクラッチで行わないようにしてください。**
- **道路走行するときは、PTO変速レバーは常に中立にしておいてください。**



RTS0106

5.5　変速のしかた

変速のしかたについては、「副変速レバー」「主変速レバー」の項目を参照してください。
（ ☞ 49, 50ページ）

5.6　旋回のしかた

⚠ 警 告

旋回するときは、できるだけエンジン回転を落とし、必要な場合は変速位置を低速にしてください。
※　高速で急旋回すると、機体バランスを崩し、転倒事故につながります。

5.7　坂道での運転

⚠ 警 告

坂道では急旋回をしないでください。
※　守らないと、機体バランスを崩し、転倒事故の原因になるおそれがあります。

坂の途中では、クラッチを切ったり、リニアシフトレバー・副変速レバーを中立にしないでください。また、下り坂では、エンジンブレーキを使用し、足ブレーキの多用はしないでください。
※　守らないと、スリップや転倒事故の原因となるおそれがあります。

坂の状況に応じた適切なスピードで走行してください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

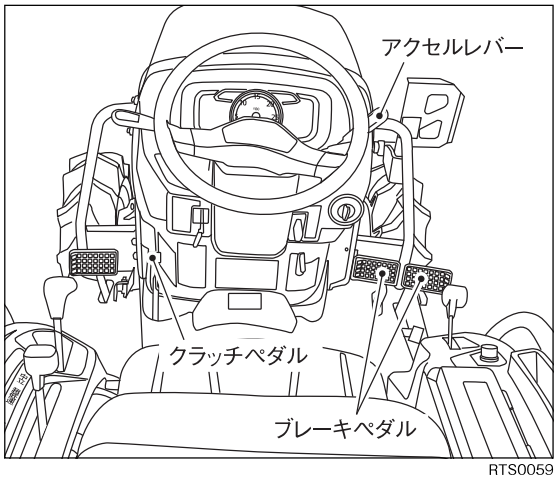
5.7.1　急な上り坂での発進

1 ブレーキペダルを踏み込みます。

2 クラッチペダルを踏み込んで、クラッチを切ります。

3 各変速レバーを低速位置に入れます。

4 アクセルレバーでエンジン回転を中速（約1500 rpm）にします。

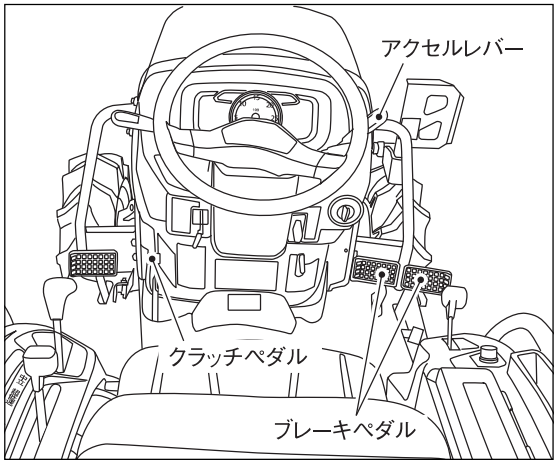


RTS0059

5 クラッチペダルをゆっくり離し、半クラッチ状態にします。

6 同時にブレーキペダルの踏み込みを少しゆるめます。

7 アクセルレバーをさらに引いて、エンジンの回転を上げながら、ブレーキペダルを離すと同時にクラッチペダルから足をゆっくり離すとトラクタは発進します。



RTS0059

5.7.2 下り坂での運転

下り坂では、エンジンブレーキを使用してください。
ブレーキペダルを踏むだけで下るのは危険です。

5.8 けん引

⚠ 警 告

けん引する車両の総重量が1050kgを超える場合のけん引は禁止です。
※ このトラクタにはトレーラーブレーキが装着されていません。

けん引作業を行う場合は、必ず純正品のヒッチを使用してください。
※ 守らないと、トラクタが浮き上がったり、傾いたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

けん引はこのトラクタに合った作業機をけん引ヒッチに取り付けて使用してください。
※ 適切でない作業機をけん引すると傷害事故の原因になります。
不明な点がありましたら「お買いあげ先」に相談し、無理なけん引は避けてください。

補 足

- **けん引して道路走行する場合、けん引する車両の総重量が750 kgを超えるときは、けん引免許が必要となります。**

5.9 停車・駐車のしかた

⚠ 危険

トラクタを草やワラの上に止めて空ぶかしをしたり、高回転にしないでください。
※ 排気管の熱や排気ガスによりワラ等に着火し、火災の原因になるおそれがあります。

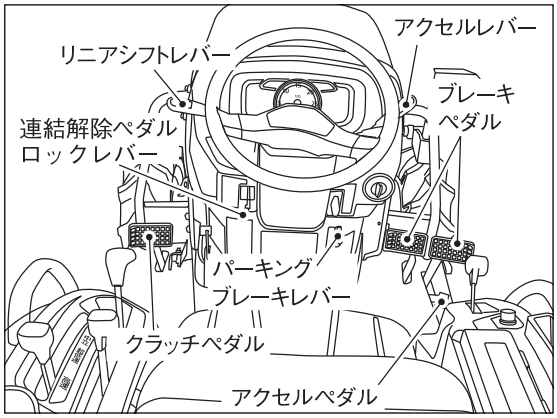
⚠ 警告

トラクタから離れるときは、エンジンを停止し、キーを抜き取り、パーキングブレーキをかけ、車止めをしてください。
また、駐車するところは広く平たんで地面の硬い場所を選んでください。
※ 守らないと、トラクタが自然に動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

駐・停車のときは必ずパーキングブレーキをかけてください。
このトラクタは常時噛合式のトランスミッション機構を採用していますので、リニアシフトレバー・副変速レバーが「中立」でも車体が動くことがあります。特に
① ミッションオイルが低温のとき
② エンジン回転が高いとき
に起こりやすくなります。この現象は異常ではありません。
※ 守らないと、トラクタが自然に動き出すおそれがあります。

1 アクセルレバーを前方に押し、アクセルペダルから足を離して、エンジン回転を下げます。

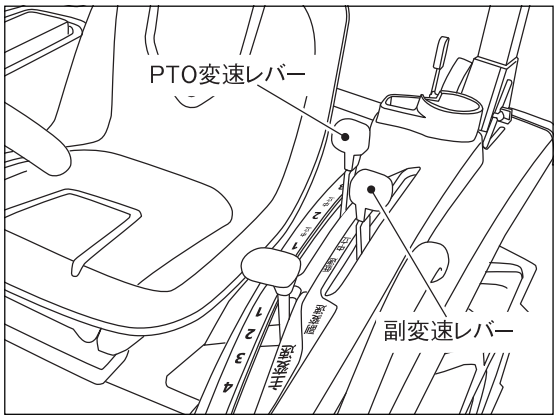
2 クラッチペダルを踏み込み、同時にブレーキペダルを踏み込みます。



RTS0060

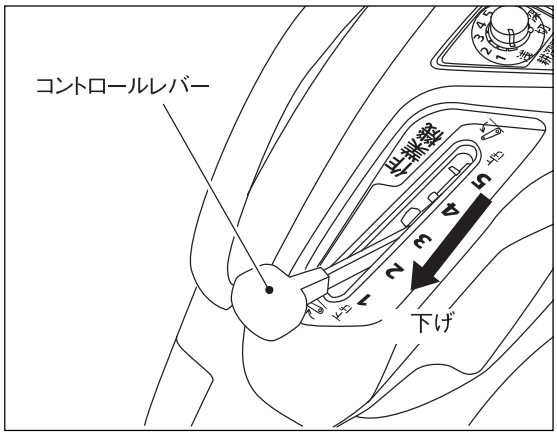
3 トラクタが完全に停止してから、リニアシフトレバー、副変速レバーを「中立」、PTO変速レバーを「中立」にします。

4 連結解除ペダルロックレバーが「道路走行(ロック)」位置にあることを確認してから、ブレーキペダルを踏み込み、パーキングブレーキレバーを押し下げて、パーキングブレーキをかけます。



RTS0061

5 作業機を装着している場合は、コントロールレバーを下げて、作業機を降ろしてください。



RTS0062

5.10　運転中の作動確認

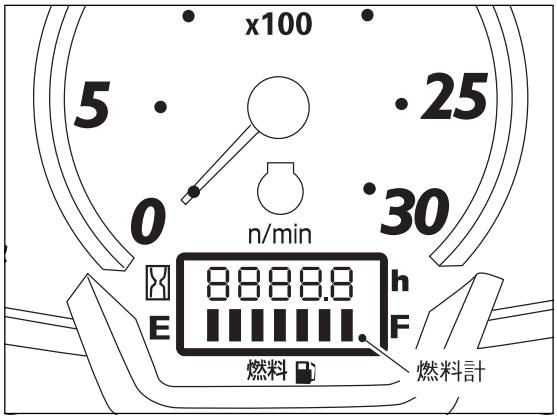
このトラクタは、トラクタメータパネルにある計器やランプによって、運転中に必要な情報を伝えます。
運転中、メータパネル類に異常はないか、モニタランプが点灯していないかを常に注意してください。
道路走行中は、メータパネル類で確認し速度の出しすぎに注意してください。

5.10.1　燃料計

メインスイッチを「運転」の位置で燃料の量を表示します。

補 足

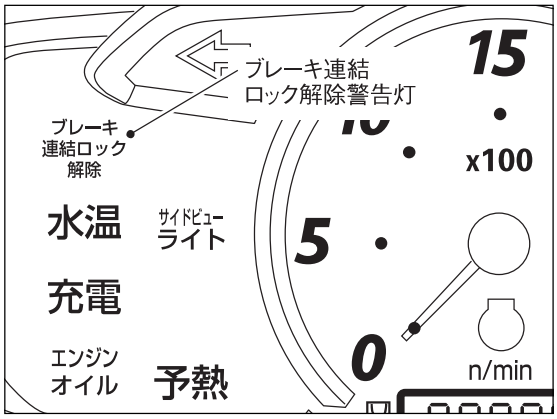
- **トラクタが傾斜している場合、正しい燃料の量を示さないことがあります。**
- **トラクタが傾斜した後、水平になっても、正しい燃料の量を示すまでに少し時間がかかります。**
- **燃料残量が少なくなると、液晶が点滅します。**



RTS0063

5.10.2　ブレーキ連結ロック解除警告灯

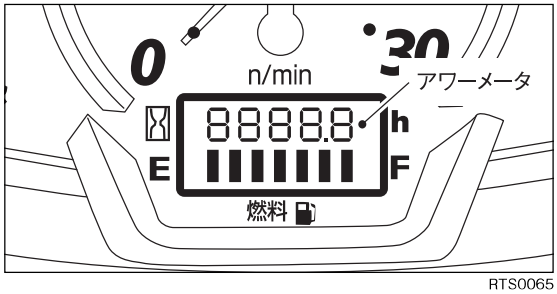
連結解除ペダルロックレバーを「ほ場（解除）」位置にするとブレーキ連結ロック解除警告灯が点灯します。
道路走行やほ場での移動など片ブレーキ作業をしない時は、連結解除ペダルロックレバーを「道路走行（ロック）」位置にして、ブレーキ連結ロック解除警告灯の消灯を確認してから、走行してください。



RTS0064

5.10.3　アワーメータ

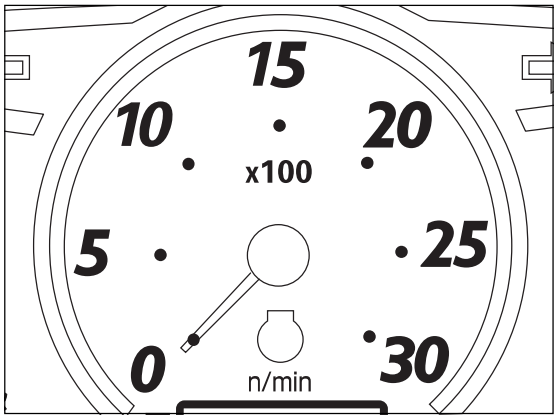
積算時間は、5桁になっています。
最後の1桁は、1/10時間を示します。



RTS0065

5.10.4 メータ

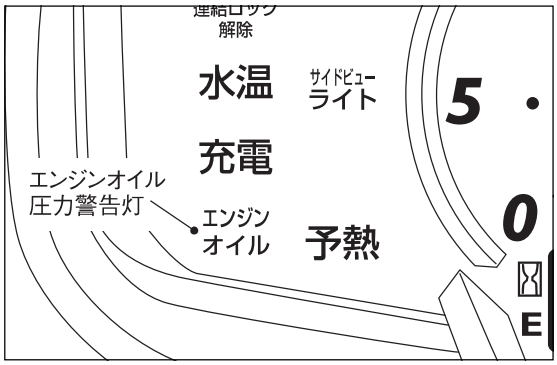
メータの外周部がエンジン回転数を示します。



RTS0066

5.10.5 エンジンオイル圧力警告灯

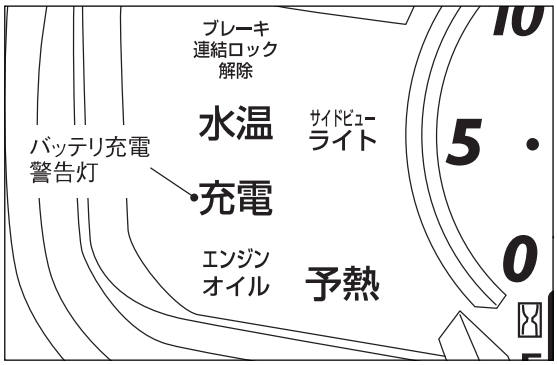
エンジン回転中、潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。
点灯したままのときは、エンジンオイル量および潤滑油系統を点検してください。



RTS0067

5.10.6 バッテリ充電警告灯

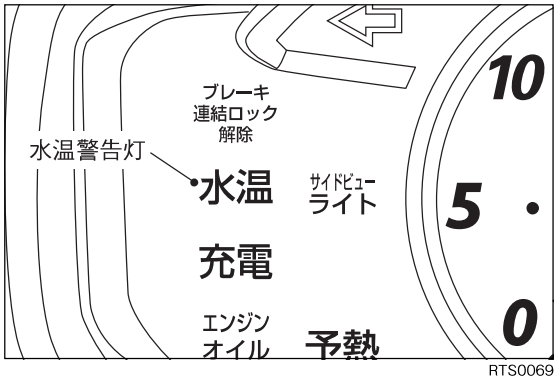
エンジン運転中充電しているとランプが消えます。



RTS0068

5.10.7 水温警告灯

メインスイッチが「運転」で、冷却水の温度がオーバーヒート近くになると点滅し、さらに温度が上がりオーバーヒートになると、点灯します。このような状態になったときには「11. 不調時の処置」(☞ 188ページ) を参照してください。



RTS0069

5.11 トラックへの積み・降ろし

トラックへの積み・降ろしは平たんで広く硬い場所で行ってください。
また、アユミは基準以上のものを用意してください。

⚠ 警 告

積み込むトラックは、エンジンを止め、変速を「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをして行ってください。

※ 守らないと、積み・降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。

- **積み・降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定めて、積むときは「後進」、降ろすときは「前進」でゆっくり行ってください。**
- **アユミ板は、基準以上のものを使用し、トラクタの重量でアユミ板が傾かない場所を選んでください。**
- **アユミ板のフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。**
- **万一に備えて、トラクタの周りには人を近づけないでください。**

※ 守らないと、転落事故の原因になります。

トラックへの積み・降ろし中は、必ず連結解除ペダルロックレバーを「道路走行（ロック）」位置にしてください。
また、クラッチペダルを踏み込んだり、ブレーキペダルを踏み込んだりしないでください。
万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行ってください。

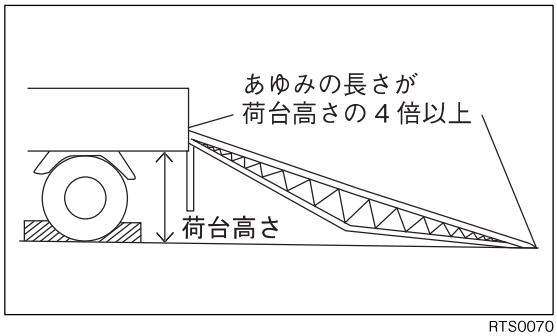
※ 守らないと、転落事故の原因になります。

トラック等で運搬するときは、トラクタにパーキングブレーキをかけた後、必ずロープ等で荷台に固定してください。また、運転中急発進・急旋回・急ハンドルはしないでください。

※ 守らないと、トラクタが移動して転落事故の原因になります。

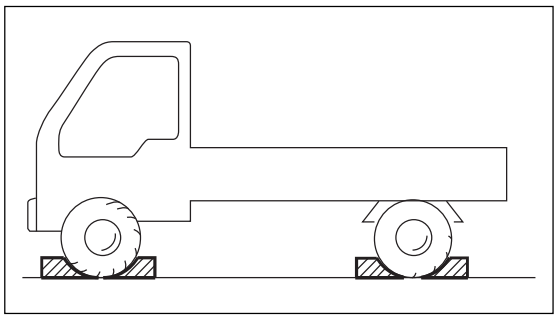
補 足

- アユミ板の基準
  - ・長さ：荷台高さの4倍以上
  - ・幅　：35cm以上
  - ・強度：1,000kg以上（1本当り）
  - ・数量：2本使用
  - ・すべり止めの処理があること。



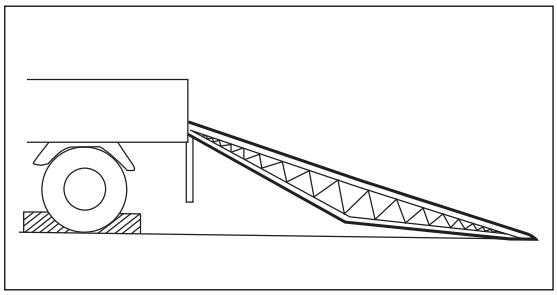
RTS0070

1 積み込むトラックのエンジンを止め、変速を「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをします。



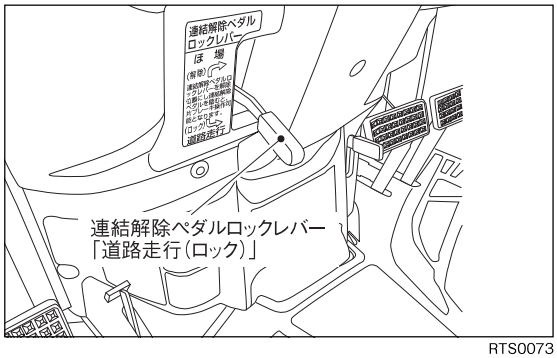
RTS0071

2 アユミ板のフックを荷台に段差のないように、また、ずれないように掛けてください。



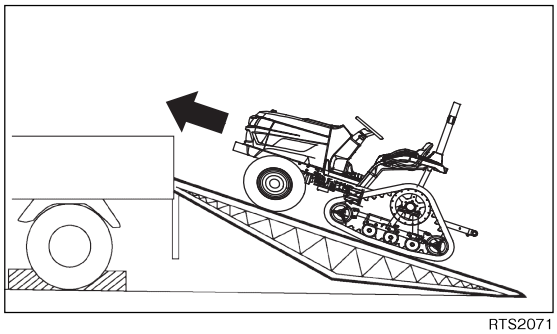
RTS0072

3 連結解除ペダルロックレバーを「道路走行（ロック）」位置にし、連結解除ペダルが収納位置にあること、またブレーキペダルが左右連結されていることを確認してください。



RTS0073

4 ハーフクローラ仕様の場合
積み・降ろしの際はあらかじめ直進性を見定めてから行ってください。
トラックに積むときは「前進」、降ろすときは「後進」で、ゆっくり行ってください。
逆方向で積み・降ろしを行うと、前輪が浮き上がることがあります。



RTS2071

6.　作業前に必要な調整

6.1　輪距の調整

6.1.1　前輪

前輪輪距は変更できません。
左右のタイヤを入れ替えることはしないでください。

6.2 安全フレームの扱い

⚠ 警 告

作業上、やむをえず安全フレームを倒さなければならないとき以外は、立てて使用してください。
安全フレームを倒したときは、シートベルトは装着しないでください。
※ 安全フレームを「倒した」状態では、安全フレームとしての機能はありません。転倒時には重大事故を起こすおそれがあります。

安全フレームを「倒す」または「起こす」ときは、平たんな場所でパーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、坂道等でトラクタが自然に動き出し、傷害事故の原因となります。

補 足

- **安全フレームを倒すときは、安全フレームと作業機のスキマを確保してください。作業機をゆっくりと最大高さまで上げて確認してください。**

注 意

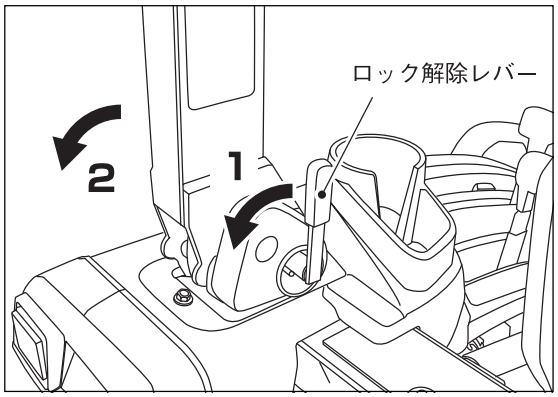
安全フレームを倒したまま作業機を上昇させる場合は干渉に注意してください。（特にロータリの尾輪を上向きに装着している場合）
※ 守らないと安全フレームとウインカと作業機が干渉・破損するおそれがあります。上げ位置調整を必ず行ってください。

6.2.1 倒しかた

1 安全フレームを片手で支え、ロック解除レバー（左右各1箇所）を車体後方へ止まるまで回します。

2 安全フレームを後方へ倒します。

3 ロック解除レバーが自動的に回転し、安全フレームが固定されます。



RTS0081

6.2.2 起こしかた

1 安全フレームを片手で支え、ロック解除レバー（左右各1箇所）を車体前方へ止まるまで回します。

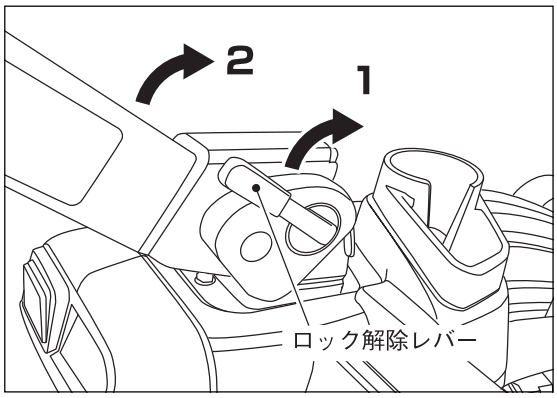
2 安全フレームを前方へ起こします。

3 ロック解除レバーが自動的に回転し、安全フレームが固定されます。

4 ロック解除レバーが安全フレームと平行になることを確認してください。

補 足

- **安全フレームを前後に動かし、確実に固定されているか確認してください。**



RTS0082

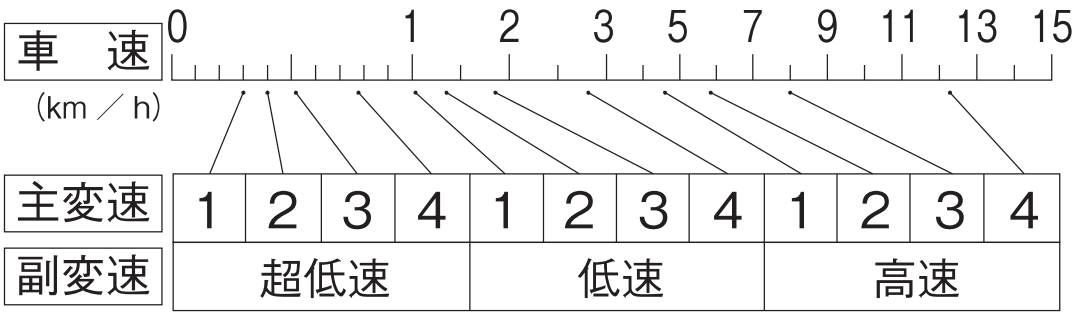
7. 作業のしかた

7.1 作業時の運転

7.1.1 走行速度

(1) トラクタの走行速度は、作業内容・ほ場の条件により異なります。最適な速度で、作業をしてください。

車速の目安



7.1.2 ほ場の出入り

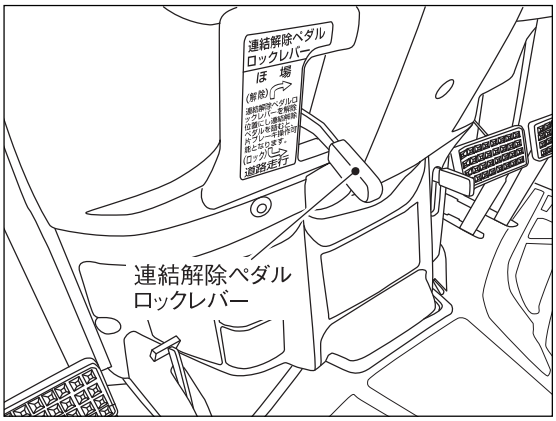
⚠ 警 告

必ず連結解除ペダルロックレバーを「道路走行（ロック）」位置にし、左右のブレーキペダルが連結されていることを確認してください。

※ 守らないと、ブレーキが片ぎきして、転倒事故を引き起こすことがあります。

道路とほ場の高低差が大きい場合や、畦（あぜ）の高さが高い場合は、必ずアユミ板を使用してください。

※ 使用しなかった場合、衝撃で機械を破損させたり、転倒するおそれがあります。



RTS0055

畦（あぜ）等の段差を横断するときは、ＰＴＯの回転を停止し、作業機の地上高を低くし低速で、畦（あぜ）と直角にゆっくりと走行してください。

※ 斜めに走行すると、スリップや転倒の原因となります。

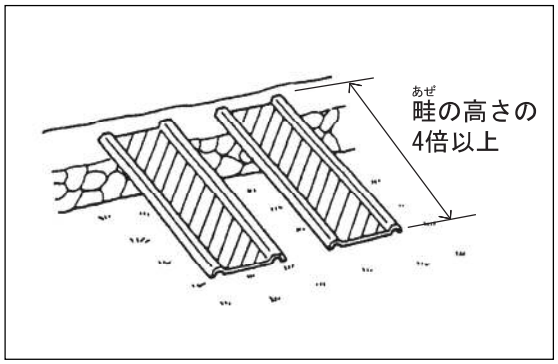
常に前・後輪のバランスを考えながら操作をしてください。

※ バンパウエイト代わりに人が乗ったりすると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

(1) 連結解除ペダルロックレバーを「道路走行（ロック）」位置にし、左右のブレーキペダルが連結されていることを確認してください。

(2) 道路とほ場の高低差が大きい場合や、畦（あぜ）の高さが高い場合は、必ずアユミ板を使用してください。

(3) ゆっくりとした速度で、畦に直角に前進でのり越えてください。



RTS0084

7.1.3 ほ場での旋回

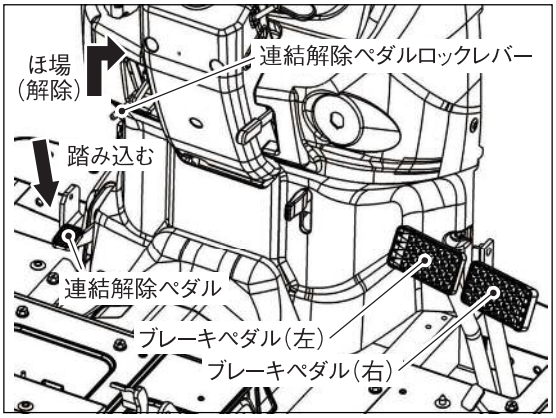
⚠ 警 告

連結解除ペダルロックレバーは、ほ場内でのみ「ほ場（解除）」位置にしてください。
ほ場の出入りや道路走行時は、連結解除ペダルロックレバーを「道路走行（ロック）」位置にし、ブレーキペダルが連結されていることを確認してください。（メータパネル内のブレーキ連結ロック解除警告灯が消灯していることを確認してください。）
※　守らないと、ブレーキが片ぎきして、転倒事故を引き起こすことがあります。

作業機を装着すると、かなりの長さになり旋回半径が大きくなりますので、周囲の人や構築物に注意してください。
※　守らないと、傷害事故や機械の破損を引き起こすおそれがあります。

(1)　ほ場での旋回は、連結解除ペダルロックレバーを「ほ場（解除）」位置にし、連結解除ペダルを踏込んで左右のブレーキペダルを左右独立して使用すれば、小さく旋回できます。
この場合は、ステアリングホイール（ハンドル）を切ると同時に旋回しようとする方向のブレーキペダルを踏み込んでください。

(2)　作業速度やほ場の傾斜の程度に配慮し、適切な作業をしてください。



RTS0085

7.1.4 デフロックペダルと使いかた

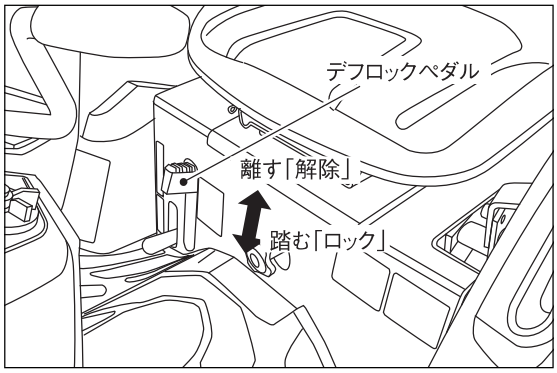
⚠ 警 告

デフロックを入れたままで旋回しないでください。
※ 解除していないとデフの差動装置が働かず、転倒・衝突事故等を引き起こすおそれがあります。

道路走行するときは、デフロックペダルを解除してあるか確認してください。
※ 解除していないとデフの差動装置が働かず、転倒・転落・衝突事故等を引き起こすおそれがあります。

左右の後輪が同じ回転速度で駆動する装置です。片側の後輪がスリップしたとき、ペダルを踏み込むとスリップが防止できます。

(1) ペダルを踏み込む …… ロックされます。
(2) ペダルから足を離す …… 自動的にロックが外れます。外れない場合は、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。



RTS0054

■デフロックの使い方

デフロック装置は、非常に便利で役に立ちますが取り扱いを誤ると転倒等の危険や故障の原因にもなります。注意して使用してください。

<デフロックの使用例>

(1) ほ場への出入りに片輪がスリップし、トラクタが進まないとき。

(2) 凹凸ほ場で片側がスリップするとき。

(3) 軟弱ほ場で片側がスリップし、走行不能になったとき。

補 足

- **デフロックを使用するときは、エンジン回転を低速にしてください。**
- **デフロックペダルから足を離してもデフロックが外れない場合は、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。**

7.2 走行・作業切換ダイヤル

⚠ 警 告

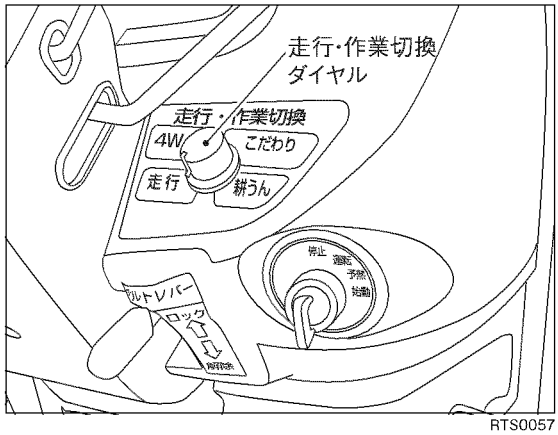
ほ場の出入り、トラックへの積み・降ろし、傾斜地作業やフロントローダ作業等の前輪に荷重がかかる作業は、走行・作業切換ダイヤルを「走行(2WD)」または、「4WD」位置にして行ってください。
※　守らないと、転倒事故の原因となるおそれがあります。

走行･作業切換ダイヤルは、ボリューム方式を使用していますので、部品のバラツキにより、各モードの境目近くではラベルと表示灯が一致しない場合があります。ダイヤルはなるべく各モードの真中位置に合わせ、希望するモードの表示灯が点灯していることを確認してください。
※　守らないと、転倒事故の原因となるおそれがあります。

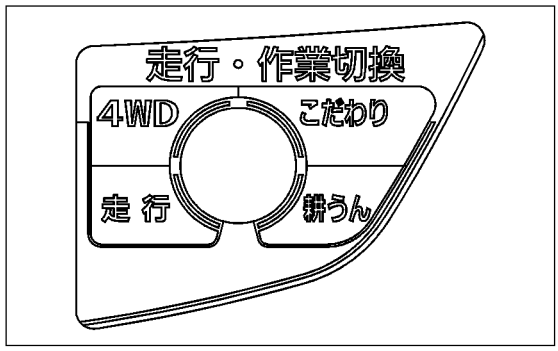
作業が変わったり、道路走行に移ったりする場合に、駆動状態やいろいろな制御の設定をワンタッチで行うことができるダイヤルです。

7.2.1 「走行」位置

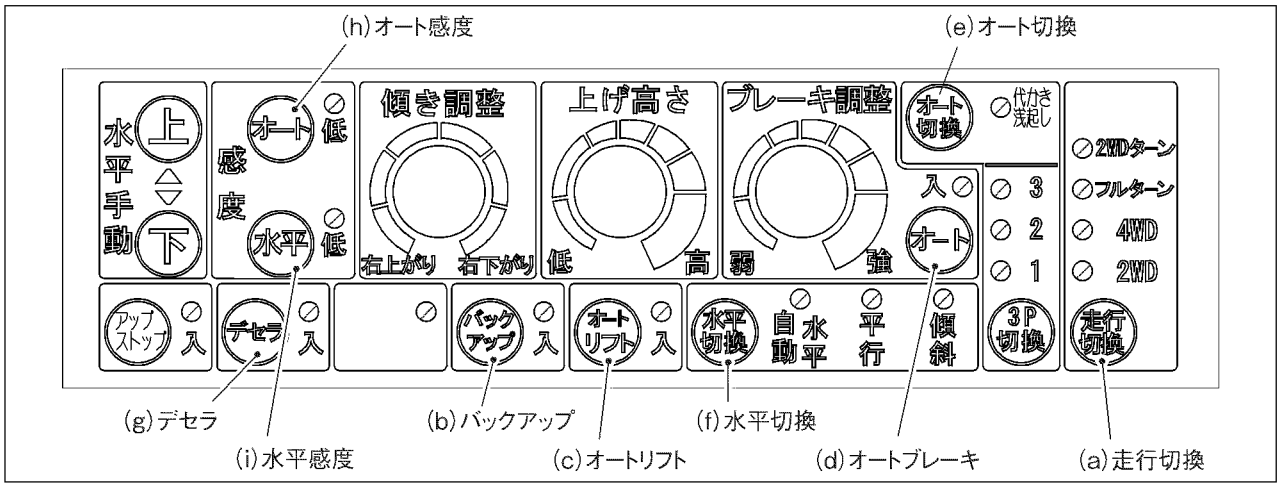
道路走行やフロントローダ作業をする場合に使用します。
(1)　固定される設定。
（a）走行切換：「2WD」になります。
「2WD」が作動します。
※「走行」位置では「4WD」、「フルターン」、「2WDターン」には設定できません。
（b）バックアップ：「切」になります。
（c）オートリフト：「切」になります。
（d）オートブレーキ：「切」になります。
※「走行」位置では「入」設定に変更できません。
一時的に変更可能な設定。
（e）オート切換：「標準」になります。
（f）水平切換：「手動」になります。
（g）デセラ：「切」になります。
（h）オート感度：「標準」になります。
（i）水平感度：「標準」になります。
自動的に上記(初期設定)の設定になります。
「走行」位置で（e）～(i)の設定を変更した場合、他のダイヤル位置に切り換えた後でも、「走行」位置に切り換えると「走行」位置で設定した状態に切り換わります。
「走行」位置で設定していた状態はメインスイッチを「停止」状態にすると、初期設定に戻ります。



RTS0057



RTS0086B



RTS0087B

補 足

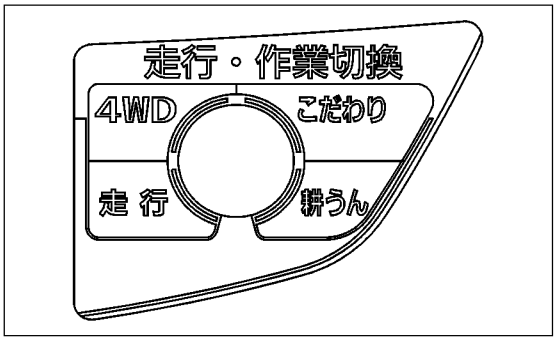
● **各装置の詳細は、73～82,85ページおよび、91～102ページを参照してください。**

7.2.2 「4WD」位置

道路走行やフロントローダ作業をする場合に使用します。

(1) 固定される設定。

(a) 走行切換：「4WD」になります。
「4WD」が作動します。
※「4WD」位置では「2WD」、「フルターン」、「2WDターン」には設定できません。



RTS0086B

(2) 一時的に変更可能な設定。

(b) バックアップ：「切」になります。
(c) オートリフト：「切」になります。
(d) オートブレーキ：「切」になります。
(e) オート切換：「標準」になります。
(f) 水平切換：「手動」になります。
(g) デセラ：「切」になります。
(h) オート感度：「標準」になります。
(i) 水平感度（S･Q型式）：「標準」になります。
自動的に上記(初期設定)の設定になります。
「4WD」位置で(b)～(i)の設定を変更した場合、他のダイヤル位置に切り換えた後でも、「4WD」位置に切り換えると「4WD」位置で設定していた状態に切り換わります。
「4WD」位置で設定した状態はメインスイッチを「停止」状態にすると、初期設定に戻ります。

補 足

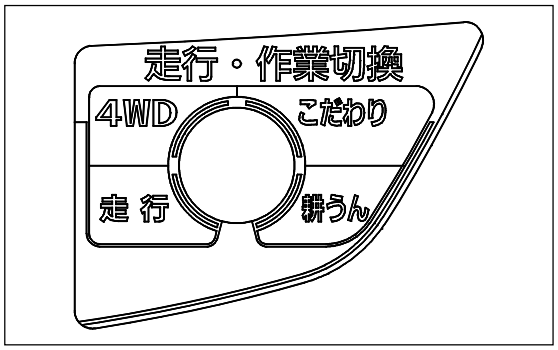
● **各装置の詳細は、73～82,85ページおよび、91～102ページを参照してください。**

7.2.3 「耕うん」位置

ロータリで一般的な耕うん作業をする場合に使用します。

(1) 一時的に変更可能な設定。

（a）走行切換：「フルターン」になります。
直進時は「4WD」、旋回時は「スーパーフルターン」が作動します。
（b）バックアップ：「入」になります。
（c）オートリフト：「入」になります。
（d）オートブレーキ：「入」になります。
（e）オート切換：「標準」になります。
（f）水平切換：「自動水平」になります。
（g）デセラ：「入」になります。
（h）オート感度：「標準」になります。
（i）水平感度：「標準」になります。
自動的に上記(初期設定)の設定になります。
「耕うん」位置で(a)～(i)の設定を変更した場合、他のダイヤル位置に切り換えた後でも、「耕うん」位置に切り換えると「耕うん」位置で設定した状態に切り換わります。
「耕うん」位置で設定していた状態はメインスイッチを「停止」位置にすると、初期設定に戻ります。



RTS0086B

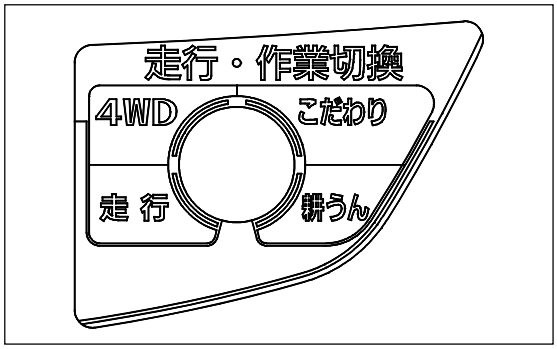
(2) 作業が終わり、道路走行するときは、ダイヤルを「走行」位置に合せてください。

(3) 作動状態はトラクタメータのモニタランプが点灯・点滅し確認できます。

補 足

- **各装置の詳細は、73～82,85ページおよび、91～102ページを参照してください。**
- **ダイヤルを「耕うん」位置にすれば一度に各装置が作動可能状態になります。作業や条件によって任意に設定を変えたい場合は75ページを参照してください。**

7.2.4 「こだわり」位置



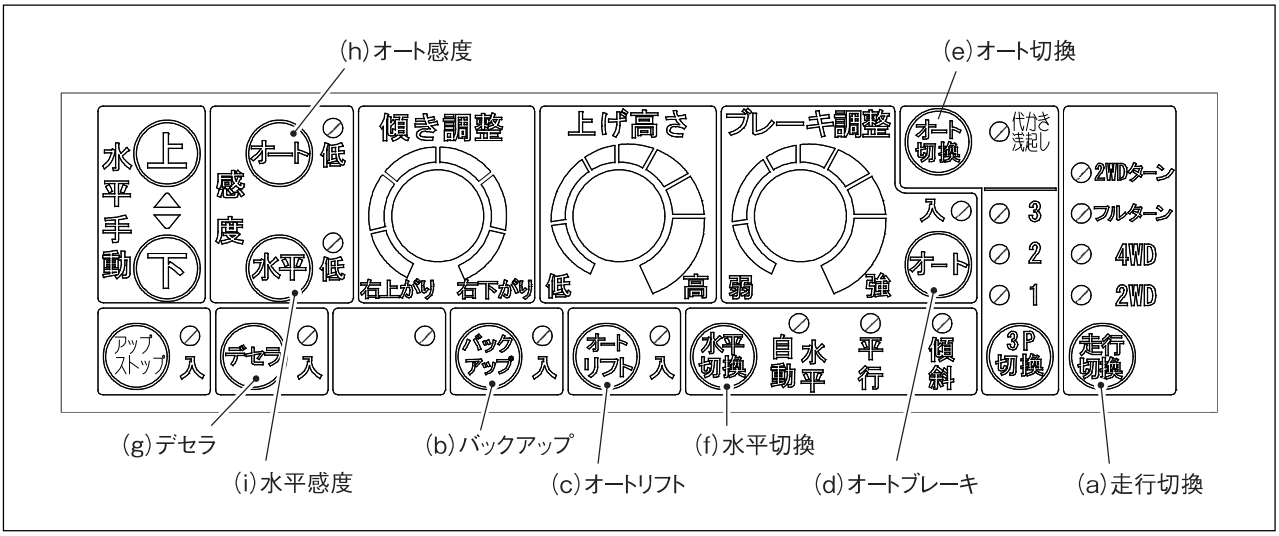
RTS0086B

「耕うん」位置では一般的な耕うん作業に便利な装置が、すべて作動可能状態となりますが、作業や条件によって任意に設定を変えたい場合には、「こだわり」位置で設定して使用してください。
作業開始前、「こだわり」位置に切り換えるだけで任意の設定にすることができます。

(1) 変更可能な設定

（a）走行切換
（b）バックアップ
（c）オートリフト
（d）オートブレーキ
（e）オート切換
（f）水平切換
（g）デセラ
（h）オート感度
（i）水平感度

出荷時は、上記(初期設定)の設定になります。
「こだわり」位置で(a)～(i)の設定を変更した場合、他のﾀﾞｲﾔﾙ位置に切り換えた後でも、「こだわり」位置に切り換えると、「こだわり」位置で設定した状態に切り換わります。
「こだわり」位置で設定した状態はメインスイッチを「停止」位置にしても、設定された状態が記憶されていますので、毎回記憶させた設定になります。
※誤操作防止のため、3秒間は記憶されません。



RTS0087B

補 足

● 各装置の詳細は、73～82,85ページおよび、91～102ページを参照してください。

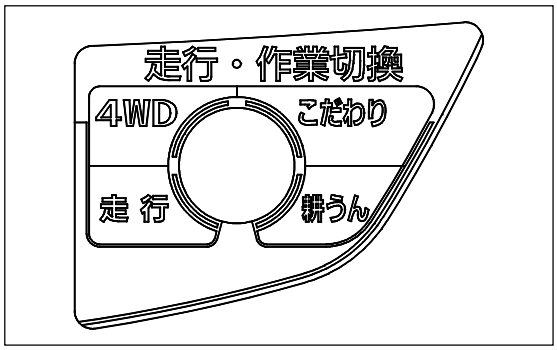
7.3 スーパーフルターン

ロータリでの耕うん作業時、ステアリングを操作して旋回すると、スーパーフルターンが作動します。
前輪の回転が速くなり、小回りがきいて素早く旋回できます。

■走行・作業切換ダイヤル

(1) 走行・作業切換ダイヤルが「耕うん」の位置でスーパーフルターンが作動します。電子油圧操作ボックス内の走行切換で「2WD」「4WD」「2WDターン」にすることでスーパーフルターンを「切」にすることができますが、メインスイッチ「停止」位置にするとスーパーフルターンが「入」に設定が戻ります。

(2) 走行・作業切換ダイヤルが「こだわり」位置のとき、電子油圧操作ボックス内の走行切換で「フルターン」ランプ点灯にしてスーパーフルターンを「入」にすると、スーパーフルターンが作動します。この場合、メインスイッチを「停止」位置にしてもスーパーフルターンが「入」のまま記憶していますので、「こだわり」位置にすると毎回スーパーフルターンが作動できるようになります。



RTS0086B

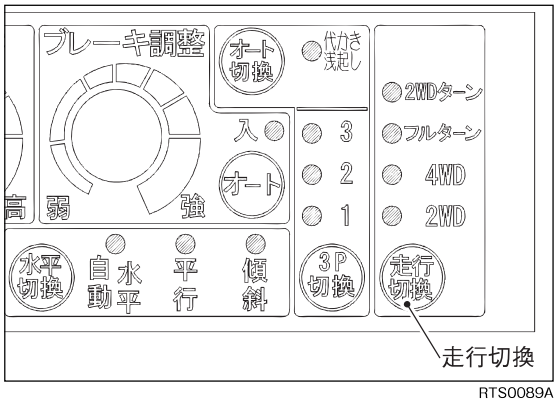
■スーパーフルターン表示灯

(1) 走行・作業切換ダイヤルが「耕うん」のとき、および、「こだわり」で、走行切換を「フルターン」に設定しているとき、スーパーフルターン表示灯が点灯します。

(2) また、下記の状態では、表示灯は点滅し、スーパーフルターンは作動しません。
(a) 副変速レバーが「高速」位置のとき



RTS0088B



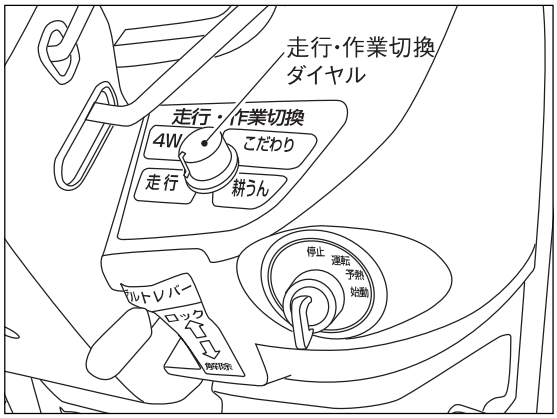
RTS0089A

■スーパーフルターンの作動

(1) 旋回時ステアリングホイール（ハンドル）を切っていき、前輪の切れ角が設定角以下では通常の4WDの回転数で前輪が駆動されます。

(2) それ以上の切れ角になると、スーパーフルターン機能が働き、前輪が通常の約2倍の回転数で駆動され、旋回径が小さくなり、素早く旋回できます。

※ステアリングホイール（ハンドル）が直進時は、4輪駆動になります。



RTS0057

⚠ 警 告

道路走行時は、走行・作業切換ダイヤルを「走行（2WD)」または「4WD」位置にしてください。
※ 守らないと、スーパーフルターンが作動し転倒事故の原因になります。

ほ場の出入り、トラックへの積み・降ろしは、走行・作業切換ダイヤルを「4WD」位置にしてください。
※ 守らないと、スーパーフルターンが作動し転倒事故の原因になります。

フロントローダ作業等、前輪に重荷重がかかる作業は、走行・作業切換ダイヤルを「走行(2WD)」または「4WD」位置にしてください。
※ 守らないと、スーパーフルターンが作動しトラクタの故障や傷害事故の原因となるおそれがあります。

※ほ場の条件により、スーパーフルターンでの旋回が困難な場合は、「4WD」にて切り返し旋回を行ってください。

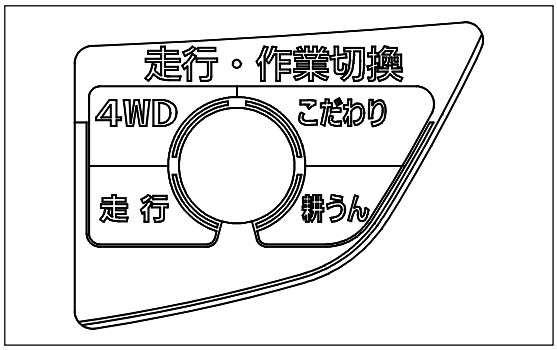
7.4 2WDターン

ロータリでの耕うん作業時、直進状態では4WDが作動し、ステアリングを操作して旋回すると、2WDに切り換ります。前輪の引きずりが少なくなり、旋回時にほ場を荒らしにくくなります。

■走行・作業切換ダイヤル

(1) 走行･作業切換ダイヤルが「耕うん」位置のとき、電子油圧操作ボックス内の走行切換で「2WDターン」ランプ点灯にして2WDターンを「入」にすると、2WDターンが作動しますが、メインスイッチ「停止」位置にするとスーパーフルターンが「入」に設定が戻ります。

(2) 走行・作業切換ダイヤルが「こだわり」位置のとき、電子油圧操作ボックス内の走行切換で「2WDターン」ランプ点灯にして2WDターンを「入」にすると、2WDターンが作動します。この場合、メインスイッチを「停止」位置にしても2WDターンが「入」のまま記憶していますので、「こだわり」位置にすると毎回2WDターンが作動できるようになります。



RTS0086B

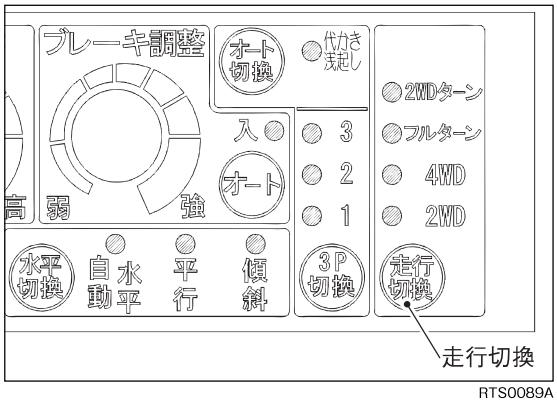
■表示灯

(1) 走行・作業切換ダイヤルが「耕うん」のとき、および、「こだわり」で､走行切換を「2WDターン」に設定しているとき、ハンドルが直進状態のとき、4WD表示灯が点灯します。

(2) また、下記の状態では、2WDターンは作動しません。
(a) 副変速レバーが「高速」位置のとき



RTS0088B



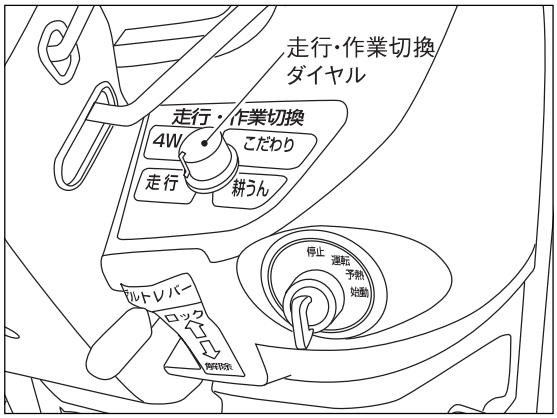
RTS0089A

■2WDターンの作動

(1) 旋回時ステアリングホイール（ハンドル）を切っていき、前輪の切れ角が設定角以下では通常の4WDの回転数で前輪が駆動されます。

(2) それ以上の切れ角になると、2WDターン機能が働き、2WDに切り換り、前輪の引きずりが少なくなり、旋回時にほ場を荒らしにくくなります。

※ステアリングホイール（ハンドル）が直進時は、4輪駆動になります。



RTS0057

⚠ 警 告

道路走行時は、走行・作業切換ダイヤルを「走行（2WD)」または「4WD」位置にしてください。
※ 守らないと、2WDターンが作動し転倒事故の原因になります。

ほ場の出入り、トラックへの積み・降ろしは、走行・作業切換ダイヤルを「4WD」位置にしてください。
※ 守らないと、2WDターンが作動し転倒事故の原因になります。

フロントローダ作業等、前輪に重荷重がかかる作業は、走行・作業切換ダイヤルを「走行(2WD)」または「4WD」位置にしてください。
※ 守らないと、2WDターンが作動しトラクタの故障や傷害事故の原因となるおそれがあります。

※ほ場の条件により、2WDターンでの旋回が困難な場合は、「4WD」にて切り返し旋回を行ってください。

7.5 オートリフト

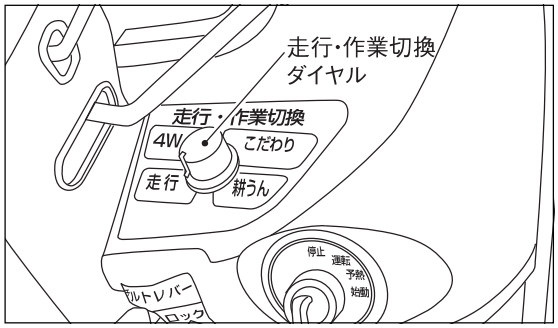
ロータリでの耕うん作業時、ステアリングホイール（ハンドル）を操作して旋回し始めると、オートリフトが作動し、自動的にロータリが上昇します。

■走行・作業切換ダイヤル

(1) 走行・作業切換ダイヤルが「耕うん」の位置でオートリフトが作動します。
電子油圧操作ボックス内のオートリフトをランプ消灯にすることでオートリフトを「切」にすることができますが、メインスイッチ「停止」位置にするとオートリフト「入」に設定が戻ります。

(2) 走行・作業切換ダイヤルが「こだわり」位置のとき、電子油圧操作ボックス内の「オートリフト」をランプ点灯にしてオートリフトを「入」にすると、オートリフトが作動します。メインスイッチを「停止」位置にしてもオートリフトが「入」のまま記憶していますので、「こだわり」位置にすると毎回オートリフトが作動できるようになります。

(3) また、走行・作業切換ダイヤルが「4WD」の位置で電子油圧操作ボックス内のオートリフトを「入」にすることでもオートリフトが作動します。



RTS0057

■オートリフト表示灯

(1) 走行･作業切換ダイヤルが「耕うん」および、「こだわり」･「4WD」でオートリフト「入」に設定しているとき、オートリフト表示灯が点灯します。

(2) 下記の状態では表示灯は点滅し、オートリフトは作動しません。
(a) 副変速レバーが「高速」位置のとき
(b) ロータリを「下げ」た後、5秒間
(c) リニアシフトレバーが「後進」のとき
(d) オートリフトを「入」操作、またはロータリーを「下げ」た後、一度もハンドルを旋回位置から戻していないとき

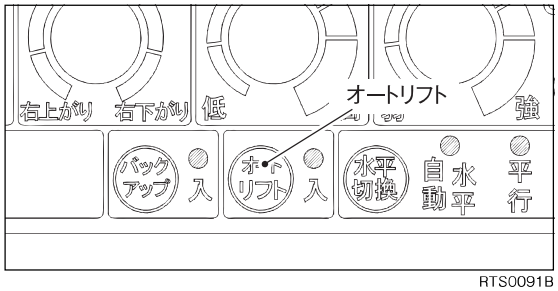


RTS0090

■オートリフトの作動

(1) ステアリングホイール（ハンドル）を操作して旋回し始めると、オートリフトが作動し、自動的にロータリが上昇します。

(2) 旋回終了後、ロータリを降下させるときは、フィンガップレバーまたはコントロールレバーを操作してください。



RTS0091B

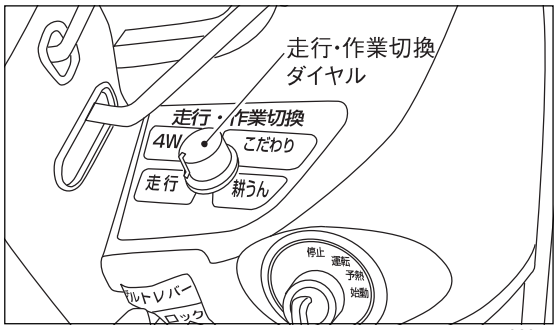
補 足

- **高速での走行時は、オートリフトは作動しないようになっていますが、走行・作業切換ダイヤルは「走行」位置にすることを心がけてください。**
- **オートリフトはステアリングホイール（ハンドル）の回転速度にも連動しています。曲がったほ場では旋回操作をしなくても、オートリフトが作動する場合があります。**
この場合は、電子油圧操作ボックス内のオートリフトを「切」(ランプ消灯）にしてください。

7.6 オートブレーキ

耕うん作業時、ステアリングホイール（ハンドル）を操作して旋回すると、自動的に片ブレーキが作動します。旋回操作が簡単になります。

■走行・作業切換ダイヤル



RTS0057

(1) 走行・作業切換ダイヤルが「耕うん」の位置でオートブレーキが作動します。
電子油圧操作ボックス内のオートブレーキをランプ消灯にすることでオートブレーキを「切」にすることができますが、メインスイッチ「停止」位置にするとオートブレーキ「入」に設定が戻ります。

(2) 走行・作業切換ダイヤルが「こだわり」位置のとき、電子油圧操作ボックス内の「オートブレーキ」をランプ点灯にしオートブレーキを「入」にすると、オートブレーキが作動します。メインスイッチを「停止」位置にしてもオートブレーキが「入」のまま記憶していますので、「こだわり」位置にすると毎回オートブレーキが作動できるようになります。

(3) また、走行・作業切換ダイヤルが「4WD」の位置で電子油圧操作ボックス内のオートブレーキを「入」にすることでもオートブレーキが作動します。

■オートブレーキ表示灯

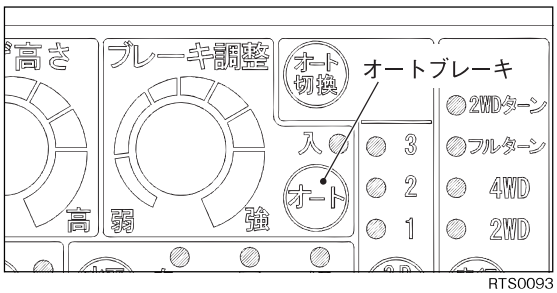


RTS0092

(1) 走行･作業切換ダイヤルが「耕うん」および、「こだわり」･「4WD」でオートブレーキ「入」に設定しているとき、オートブレーキ表示灯が点灯します。

(2) また、下記の状態では、表示灯は点滅し、オートブレーキは作動しません。
(a) 副変速レバーが「高速」位置のとき
(b) ロータリ「上昇」後、20秒間オートブレーキが作動しないとき
（旋回操作がないとき）
(c) リニアシフトレバーが「後進」のとき

■オートブレーキの作動



RTS0093

(1) ステアリングホイール（ハンドル）を操作して旋回し始めると、自動的に片ブレーキが作動します。

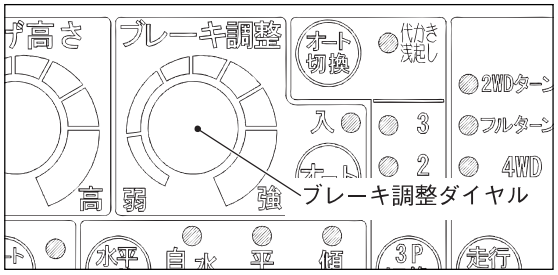
(2) 旋回終了後、ロータリを降下させるときは、フィンガップレバーまたはコントロールレバーを操作してください。

■ブレーキ調整（M型式）

(1) 片ブレーキのブレーキ力を調整することができます。

(2) 電子油圧操作ボックス内のブレーキ調整ダイヤルを、右に回すとブレーキ力は強くなり、左に回すとブレーキ力は弱くなります。

(3) 調整の目安を下表に示します。



RTS0093A

ほ場条件	ダイヤル位置	旋回径	旋回跡
乾　　田 未耕うん地	「ブレーキ調整」の「強」	小さくなります	地面が軟らかい場合はかなり荒れます
畑　　地 湿　　田	「ブレーキ調整」の「弱～中程」	ブレーキカが弱いほど旋回径は大きくなります	ブレーキ力が弱いほど荒れにくくなります。
湿　　田 超　湿　田	「ブレーキ調整」の「弱」	大きくなります	

補 足

- **ブレーキ力はダイヤルを「ブレーキ調整」の「強」にしても、ほ場条件によってはタイヤがロックしない場合があります。**
- **高速での走行時は、オートブレーキは作動しないようになっていますが、走行･作業切換ダイヤルは「走行」位置にすることを心がけてください。**
- **オートブレーキはステアリングホイール（ハンドル）の回転速度にも連動しています。曲がったほ場では旋回操作をしなくても、オートブレーキが作動する場合があります。この場合は、電子油圧操作ボックス内のオートブレーキを「切」(ランプ消灯）にしてください。**

7.7 PTOの使いかた

■PTO軸回転速度

トラクタのPTO軸回転速度は、作業内容・ほ場の条件により異なります。最適な速度で作業をしてください。

PTO変速レバー		作業内容	回転数（min^{-1}）※定格時		
			GSK256・236	GSK226	GSK206
正転	1速	ロータリ耕うん	523	544	523
	2速		819	815	783
	3速	うね立	1266	1231	1184
逆転	1速	土寄せ（未耕地耕うん作業はしないでください）	505	526	505
	2速		792	788	757
	3速		1224	1190	1145

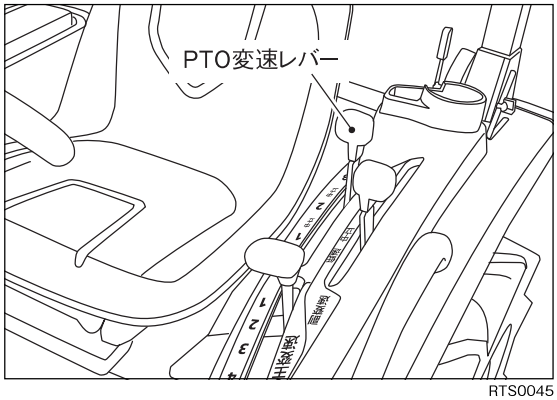
■PTO変速レバー

⚠ 警 告

低速回転で使用するべき作業機を、高速回転で使用しないでください。
※　守らないと、作業機を破損したり、傷害事故の原因になります。

作業機に指定されたPTO軸回転速度を遵守してください。
※　守らないと、作業機を破損したり、傷害事故の原因になります。

PTO軸(動力取出軸)の回転速度は、レバー操作により、3段階に変速できます。
「1」位置 …… 荒起こし作業をします。
「2」位置 …… 通常耕起をします。
「3」位置 …… 砕土作業をします。



RTS0045

補 足

- **PTO変速レバーを操作するときは、必ずクラッチペダルを踏み込んで、PTO軸の回転が完全に停止してから行ってください。**
  入りにくい場合は、もう一度クラッチペダルを踏み直してから操作してください。

■逆転PTO変速

⚠ 警 告

逆転でロータリ作業機を使用するときは、車速はできるだけゆっくりとし、エンジン回転を低くしてお使いください。

※ 守らないと、土や小石等が飛散して、周囲の人や作業者に危害を及ぼすおそれがあります。

注 意

逆転では既耕地での土寄せ作業以外は絶対に行わないでください。

※ 作業機の破損の原因となります。

使用方法を誤らないでください。

※ トラクタ・作業機の故障の原因となります。

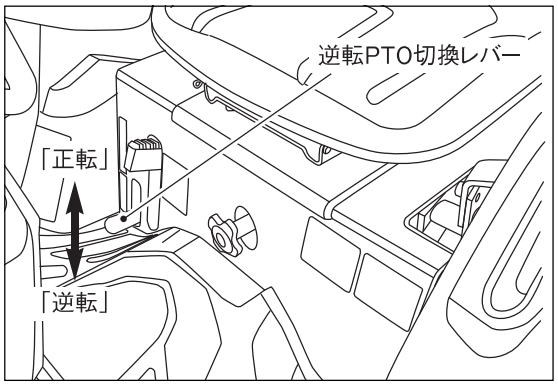
PTO軸の回転方向は逆転させることができます。

(1) 逆転PTO切換レバーを「逆転」の位置にすると、PTO軸の回転方向が逆転します。

(2) ほ場の四隅に土がたまった場合の土寄せ作業に威力を発揮します。

補 足

- **逆転での作業を終えた後、ロータリの爪の増し締めを行ってください。**



RTS0095

■アップストップPTOスイッチ（M型式）

PTO軸を次のような回転状態に選択できます。

(1) 「入」(ランプ点灯)

アップストップ機能が作動し、作業機が上昇し始めると、自動的にPTO軸の回転が停止します。

(a) ブロードキャスター、ドリルシーダー等の作業が楽になります。

(b) ロータリ作業で、耕うん爪が土中にあるときに回転が停止します。

・耕うん溝が小さくなり枕地の凸凹が少なくなります。

・爪に付着した泥、ワラが飛散しにくくなります。

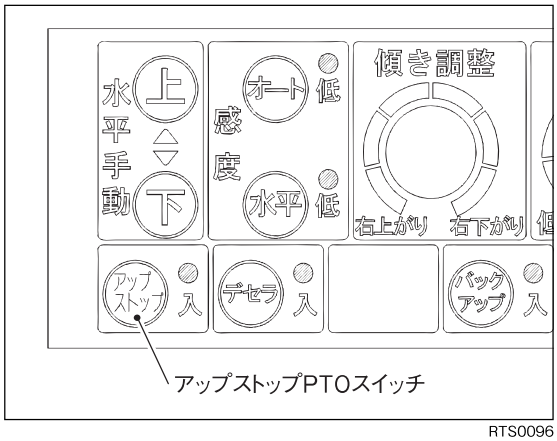
(c) ユニバーサルジョイントの保護および騒音防止ができます。

フィンガップレバー、またはコントロールレバーを「下げ」にすると、すぐにPTOは回転し始めます。

また、クラッチペダルをいっぱい踏み込めばPTO軸の回転は停止します。

(2) 「切」(ランプ消灯)

アップストップPTOは作動しません。



RTS0096

補 足

- **フィンガップレバー/ポジションレバーによる操作、作業機の慣性により、「入」「切」のタイミングが異なる場合があります。**

⚠ 注 意

PTOレバーが入っていて、アップストップPTOスイッチが「入」のとき、作業機を降ろすとPTO軸が回り始めます。トラクタの回りには人を近づけないでください。

※ 思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

必要のないときは、必ずPTO変速レバーを中立にしてください。

※ 守らないと、誤操作等による思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

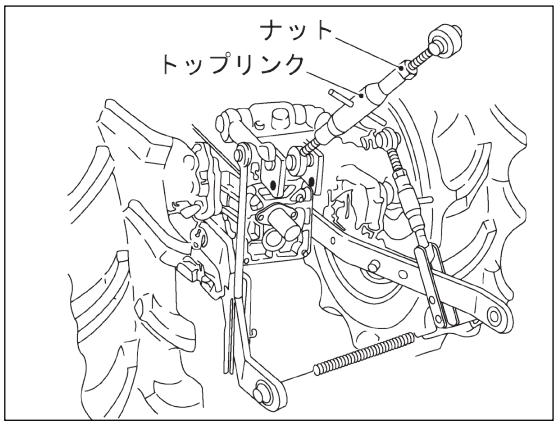
7.8 3点リンク

このトラクタの3点リンクは、JIS０型のリンクに対応しています。作業機は正しく取り付け、調整してください。

■トップリンク（注文部品216ページ参照）

(1) トップリンクの取り付け位置（穴）は、作業機の種類によって異なります。
作業機の取扱説明書の指示に従ってください。

(2) トップリンクの長さを伸縮させ、作業機の傾きを調整してください。



RTS0097

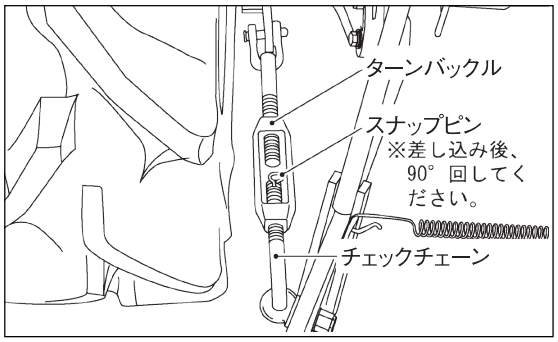
補 足

- **一般作業機（標準3Pロータリ等）を取り付けの場合は、トップリンクマストが、トラクタ側の部材(リヤフレーム等)と干渉する場合がありますので、注意して上げてください。干渉する場合は、上げ位置の規制を行ってください。（ ☞ 95ページ）**

■チェックチェーンの調整

ロワーリンクの左右の振れ幅をチェックチェーンで調整してください。

作業機	チェーンの張り具合
プラウ	5～6 cm左右に動く程度に張り、スナップピンで回り止めをする。
ロータリ ハロー	ゆるみのない程度に張り、スナップピンで回り止めをする。



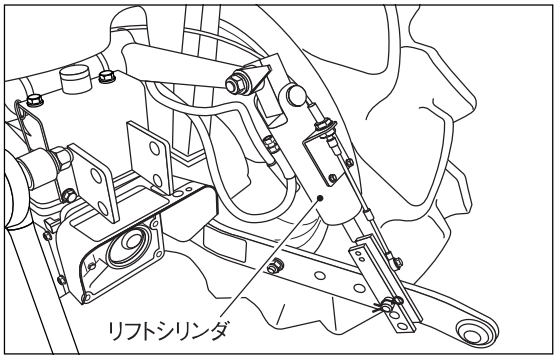
RTS0098

補 足

- **3点リンク用作業機を装着したとき、チェックチェーン、および、ロワーリンクが後輪と干渉するおそれがある場合は、後輪輪距を広げてください。**

■リフトロッドの調整

水平手動スイッチを作動し、左右のロワーリンクの高さを調整してください。
スイッチから手を離すと、その位置でリフトシリンダの作動が止まります。（ ☞ 101ページ）



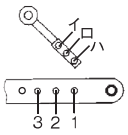
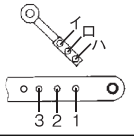
RTS0100

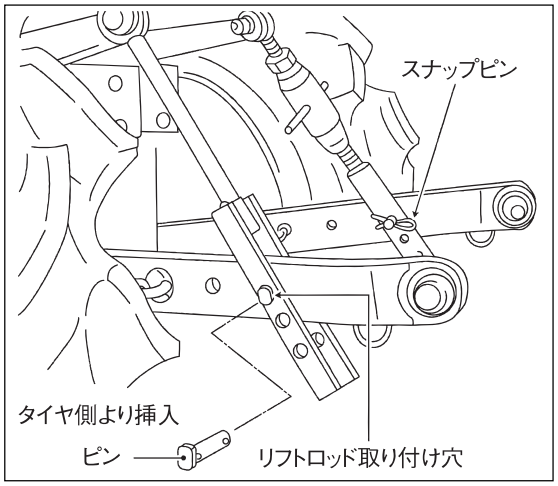
■リフトロッド取り付け穴位置

リフトロッドのロワーリンクへの取り付けは、右図のように、一般作業機、特3Pロータリの場合と使い分けてください。
ピンはタイヤ側から取り付けてください。

補 足

- **一般作業機（標準3Pロータリ等）を取り付けの場合は、トップリンクマストが、トラクタ側の部材(リヤフレーム等)と干渉する場合がありますので、注意して上げてください。干渉する場合は、上げ規制を行ってください。（ ☞ 95ページ）**

GSK 256・236		特3Pロータリ	2-イ
		一般作業機	3-ロ 3-ハ
GSK 226・206		特3Pロータリ	2-ロ
		一般作業機	3-ロ 3-ハ



RTS0101

7.9 作業機

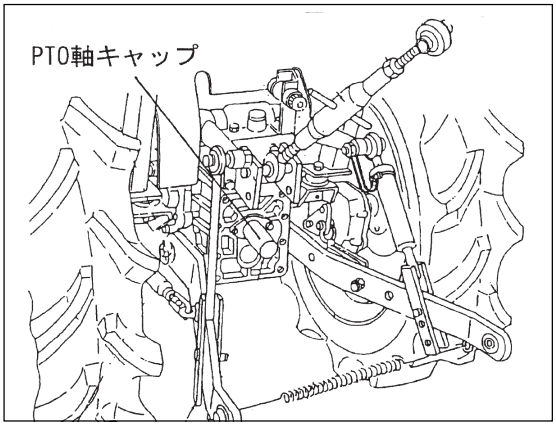
7.9.1 作業機の取り付け・取り外し

作業機の取り付け・取り外しは、作業機の取扱説明書に従い、行ってください。

⚠ 警告

作業機の取り付け・取り外しは、トラクタと作業機の間に立たないでください。
※ トラクタと作業機にはさまれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

作業機を外した状態で、PTO軸を回転させないでください。また、PTO軸を使わない場合は、PTO軸キャップを取り付けてください。
※ 守らないと、手や衣服が軸に巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



RTS0102

作業機に寄りかかったり、乗ったりしないでください。
※ 守らないと、転倒したり、転落するおそれがあります。

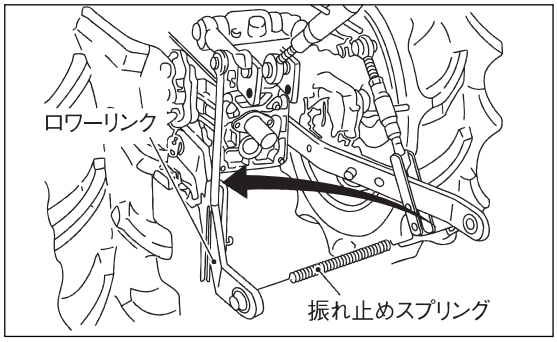
作業機の取り付け・取り外しは、平たんで地面の硬い場所で行ってください。
※ 守らないと、機械が急に動いたり、傾いたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

直装タイプの作業機を取り付け・取り外しするとき、および、ヰセキ純正クイック5Pヒッチ、作業機メーカのオートヒッチを取り付け・取り外しをするときは、必ずエンジンを停止してください。
特にPTO軸とユニバーサルジョイントを取り付け・取り外しするときは、PTO変速レバーを中立にしてください。
※ 守らないと、手や衣服が軸に巻き込まれたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

7.9.2 ロワーリンク振れ止めスプリング

(1) 作業機を使用しないときは、左右のロワーリンクの間に振れ止めスプリングを掛け、ロワーリンクがタイヤ・クローラに当たらないようにしてください。

(2) 作業機を装着したときは、ロワーリンク（左）前方のフックを利用し、スプリングを収納してください。



RTS0103

7.10 バンパウエイトの取り付け（注文部品）

⚠ 警 告

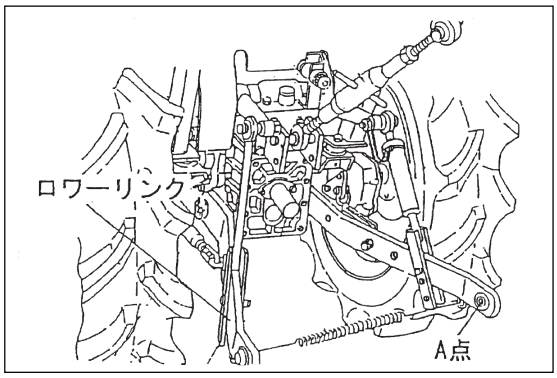
バンパウエイトを装着しても前輪荷重がトラクタ総重量の20%以下になる作業機は装着しないでください。
※ 守らないと、トラクタの前輪が浮き上がったり、傾いたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

バンパウエイトは純正品を使用してください。
※ 守らないと、バンパウエイトが確実に固定されず、脱落します。

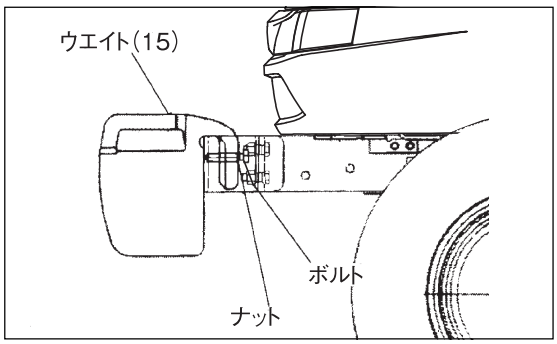
前輪荷重が20%以下になるのは、ロワーリンクA点での荷重が下表の数値以上のときです。

	前輪荷重が20%以下となるロワーリンクA点荷重
GSK226・206	380 Kg以上
GSK256・236	425 Kg以上

バンパウエイトの必要枚数は使用する作業機の取扱説明書を参考にするか、「お買いあげ先」にご相談ください。
標準装備のバンパには、ウエイトを最大4枚まで装着可能です。（☞ 216ページ）



RTS0104



RTS0105

7.11 けん引作業について

⚠ 警 告

けん引作業を行う場合は、必ず純正品のトレーラヒッチ（ ☞ 216ページ）を使用してください。

※ 守らないと、トラクタの前輪が浮き上がったり、傾いたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

7.12 電子油圧装置の使いかた

補 足

- **電子油圧装置の性能を発揮するためには、十分な暖機運転を行って使用してください。**
  （ ☞ 52ページ）

⚠ 警 告

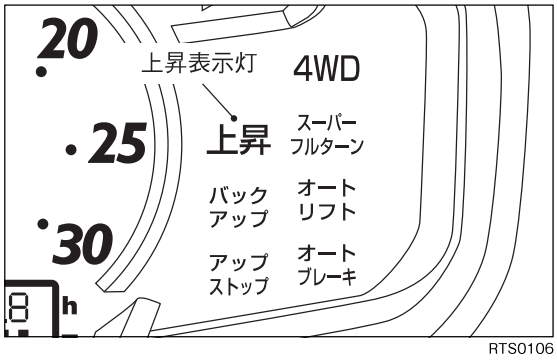
作業中、トラクタから離れるときは必ず作業機を下げて、エンジンを停止してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

7.12.1 作業機昇降装置の使いかた

■準備状態

(1) このトラクタの電子油圧装置では、エンジン始動時等では、制御をすぐに開始せず「準備状態」になります。
エンジン始動時やセンサカプラを抜き差ししたときに、油圧装置が昇降動作することを防止しています。

(2) このとき、上昇表示灯が点滅しています。



RTS0106

補 足

下記の場合、準備状態になります。

- **エンジンを始動したとき**
- **耕深調整ダイヤルを耕深調整範囲から「切」または、「切」から耕深調整範囲に切り換えたとき**
- **リヤカバーセンサのカプラを抜き差ししたとき**
- **リフトアーム角センサのカプラを抜き差ししたとき**
- **センサチェック用「ヒューズ」を抜き差ししたとき**

■準備状態の解除

(1) コントロールレバーを「上げ」か「下げ」方向に操作し、コントロールレバー操作位置と作業機高さが一致したとき、ブザーが「ピッ」と鳴り、準備状態が解除できます。

(2) 準備状態が解除され、上昇表示灯の点滅が止まります。

■コントロールレバー

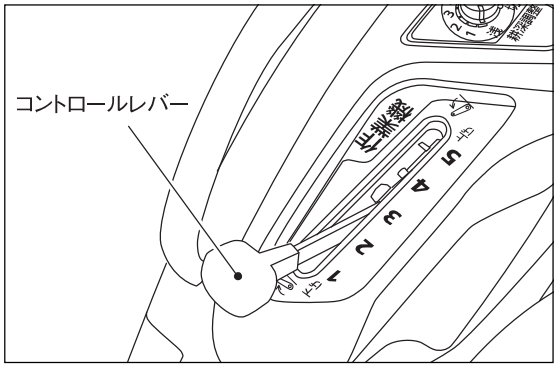
コントロールレバーは、作業機を自由に「上げ」「下げ」できる装置です。途中でレバーを止めると作業機もその位置を保つポジションコントロールができます。

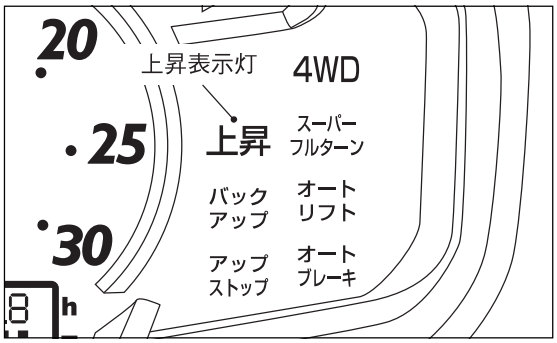
使いかた

(1) レバーを後方いっぱいまで引く
　作業機 …… 上げ位置設定高さまで上がる
　「上昇」表示灯 …… 点灯

(2) レバーを前方いっぱいまで倒す
　作業機 …… 下がる。
　（フリーフローティングの状態になります。）
　「上昇」表示灯 …… 消灯

(3) レバーを途中で止める
　作業機 …… ポジションコントロールの位置で、停止する。
　「上昇」表示灯 …… 消灯





■フィンガップレバー・フィンガップスイッチ

⚠ 警 告

フィンガップレバー・フィンガップスイッチはほ場内での作業時のみ使用してください。ほ場以外ではコントロールレバーを使用してください。

※　これを怠ると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注 意

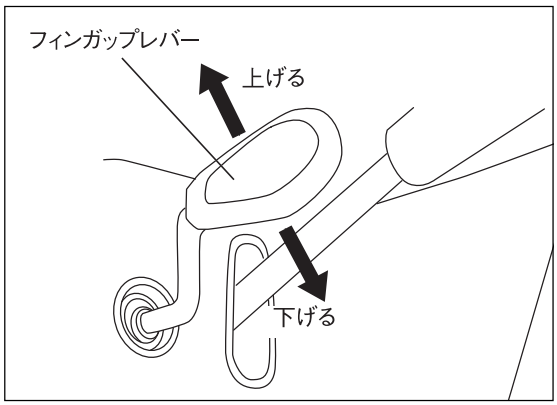
あぜ際の作業をするために作業機を降ろすときは、コントロールレバーでゆっくり下げてください。

※　フィンガップレバー・フィンガップスイッチで下げると畦（あぜ）と作業機が干渉し、畦（あぜ）や作業機が破損するおそれがあります。

フィンガップレバーをワンタッチで操作するだけで、作業機上昇・下降ができます。

(1) レバーを上げる
- 作業機 …… 上げ位置設定高さまで上がる。
- 上昇表示灯 …· 点灯

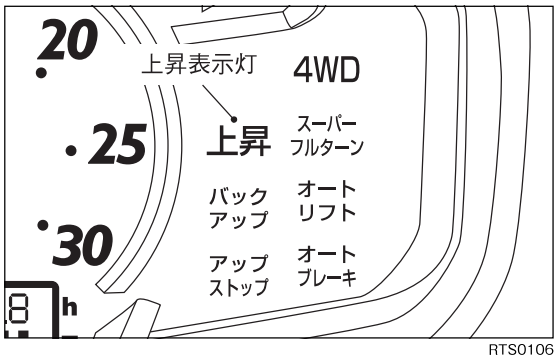
(2) レバーを下げる
- 作業機 …… コントロールレバー位置まで下がる。
- 上昇表示灯 …· 消灯



RTS0108

補 足

- **上昇表示灯が点滅中の準備状態では、フィンガップレバーで作業機の上昇・下降はできません。準備状態の解除をしてください。**
  (☞ 91ページ)
- **フィンガップレバーを上げ方向に操作すると、作業機は上がります。最上昇位置まで上げると、作業機の種類によってはトラクタと干渉する場合があります。**
  特に、作業機を付け換えたときは、コントロールレバーを操作し、作業機をゆっくり上げ、トラクタと干渉しないことを確認してください。
- **最上昇位置でトラクタ干渉する場合は、上げ高さ調整ダイヤルで干渉しない位置に設定してください。(☞ 95ページ)**



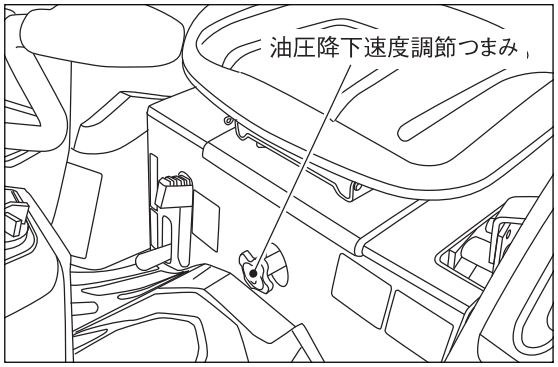
RTS0106

■油圧降下速度調節つまみ

⚠ 警 告

次のような場合は、必ず油圧降下速度調節つまみを「ロック」にしてください。
(1) 道路走行するとき。
(2) ロータリの爪交換、草、ワラ等の除去。(必ず、エンジンも停止してください)
(3) 作業機の点検・調整。(必ず、エンジンも停止してください)
その後、コントロールレバーを下げ方向に動かして、作業機が落下しないことを確認してください。確認後、コントロールレバーは再度後方にいっぱいに引いてください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になるおそれがあります。

作業機の降下速度を調節できます。
作業機の種類、作業状況によって降下速度を調節してください。



RTS0109

(1) 反時計回りに操作すると
作業機は、はやく降ります。
重量が軽い作業機に適用します。

(2) 時計回りに操作すると
作業機は、ゆっくり降ります。
重量が重い作業機に適用します。

(3) 時計回りにいっぱいまで操作すると、作業機は降下しません。(ロックします)

補 足

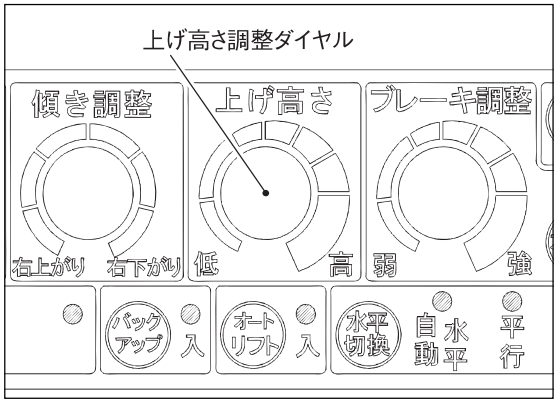
- **ロータリ作業をするときは、降下速度を遅くしてください。**
- **プラウ作業をするときは、降下速度を早くしてください。**
- **ロックするとき、必要以上にノブを回さないでください。ノブが固着してゆるまなくなることがあります。**

■上げ高さ調整ダイヤル

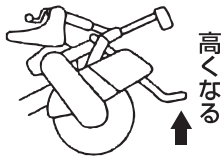
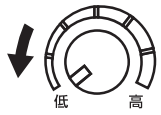
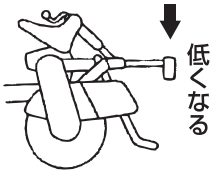
コントロールレバーを最上げにして、作業機を最上昇させた位置およびフィンガップレバーで作業機を上げたときや、バックアップで作業機が上がったときの上げ位置を、任意の高さに規制できます。

(1) ダイヤルを「高」側に回すと、作業機の最上昇位置が高くなります。

(2) ダイヤルを「低」側に回すと、作業機の最上昇位置が低くなります。



MBRTS0110

上げ高さ調整ダイヤル	作業機最上昇位置
 低い 高い 「高」側に回す	
 低い 高い 「低」側に回す	

■バックアップスイッチ

⚠ 警 告

ほ場以外では、必ずバックアップスイッチを「切」にしてください。

※ これを怠ると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注 意

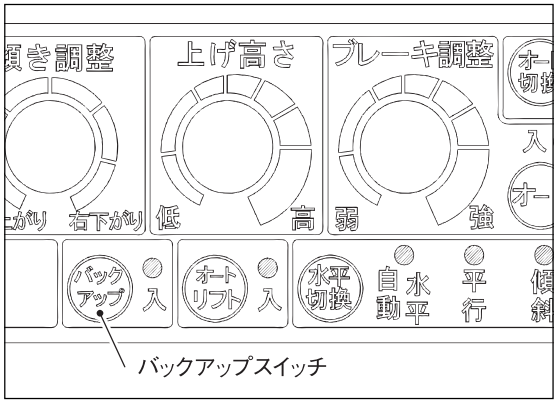
コントロールレバーまたは、フィンガップレバーを操作して作業機を上げてから後進してください。

このバックアップは、リニアシフトレバーを「後進」に操作したときのみ、作業機が自動的に上昇するシステムになっています。リニアシフトレバーが「後進」位置のまま作業機を下げた場合、そのまま後進してもバックアップは作動せず、作業機は下がったままになります。

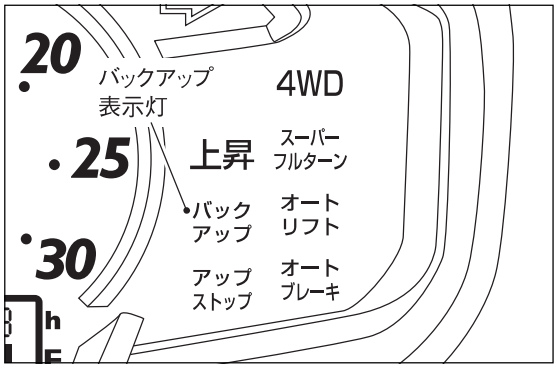
※ 守らないと、機械が破損するおそれがあります。

リニアシフトレバーを「後進」の位置にすると、作業機が自動的に上がります。作業機の上げ操作をしないまま後進してしまい、作業機が破損してしまうことを防止します。

(1) バックアップスイッチを「入」の位置にする、または走行・作業切換ダイヤルを「耕うん」位置にすると、バックアップが作動可能となります。
バックアップ表示灯が点灯します。



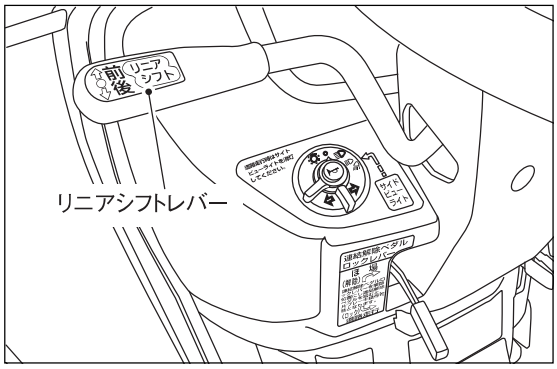
RTS0111



RTS0112

(2) リニアシフトレバーを「後進」の位置にします。作業機が上げ高さ調整ダイヤル設定位置まで自動的に上がります。

(3) 作業機を下げる場合は、フィンガップレバーを下げるか、コントロールレバーを一度最上げ位置にします。さらにレバーを下げると作業機が降下します。



RTS0113

補 足

- **この機能は、リニアシフトレバーを「後進」の位置にしたときのみ、作業機が上がります。**
- **リニアシフトレバーを「後進」の位置にしている間、ブザーが鳴ります。バックアップスイッチの切換位置に関係なくブザーは鳴ります。**

■上昇表示灯

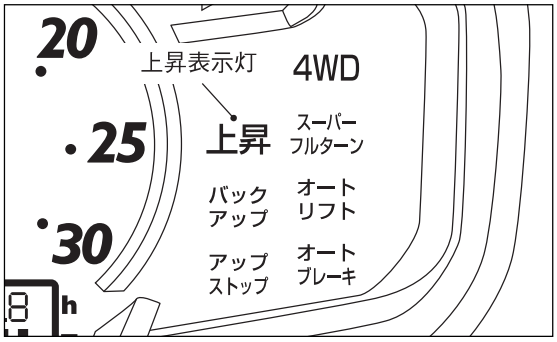
作業機の状態が、上昇ランプの表示状態によってわかります。

点灯 …… 作業機上昇

消灯 …… 作業機下降

点滅 …… 準備状態

準備状態の解除方法は、95ページを参照してください。



RTS0106

7.12.2 自動耕深制御装置の使いかた

補 足

●自動耕深制御装置を十分に機能させるために、作業機を最上げ位置から接地するまでの時間が1～1.5秒程度となるよう、油圧降下速度調節つまみを調整してください。
接地するまでの時間が長すぎると、整地の仕上がりが悪くなります。

■耕深調整ダイヤル

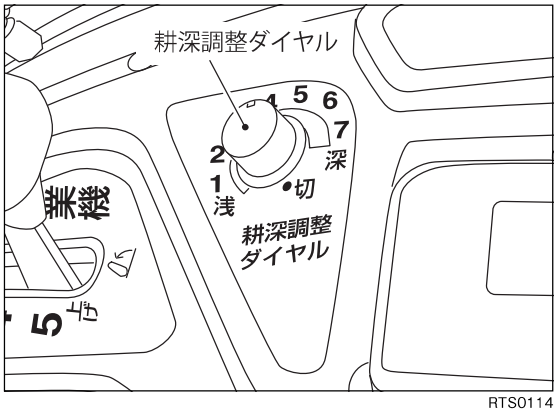
(1) 自動耕深制御での耕うん深さの調整と、ポジションコントロールへの切り換えができます。

(2) このダイヤルで希望の耕うん深さを設定してください。

「深」…… 耕うん深さが深くなります。

「浅」…… 耕うん深さが浅くなります。

「切」…… 自動耕深制御は作動しません。ポジションコントロールになります。

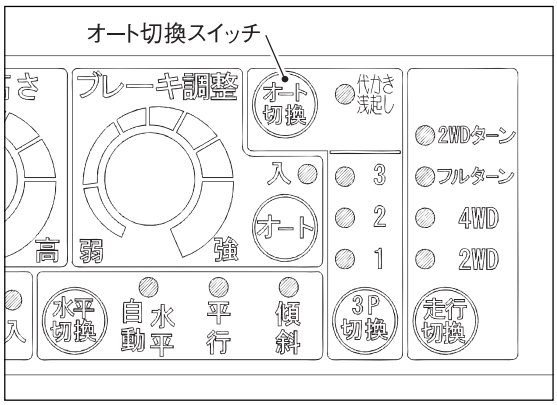


RTS0114

補 足

- **耕深調整範囲から「切」、または「切」から耕深調整範囲に切り換えたときは、「準備状態」になります。**
  「準備状態」のときは、自動耕深制御は作動しません。
  「準備状態」を解除して、作業をしてください。(☞ 95ページ)
- **うね立て作業等ロータリのリヤカバーを上げたまま作業するときや、尾輪を付けて作業する場合は、耕深調整ダイヤルを「切」にしてください。**

■オート切換スイッチ



RTS0115

(1) オート切換スイッチを1回押すごとに下記の状態に切り換わります。
「標準」消灯…… 自動耕深制御装置が作動します。
「代かき・浅起し」点灯 … 自動耕深制御装置が作動します。
代かきや浅起し作業に有効で、耕深設定が浅いときに、作業機をコントロールレバーで吊ったような感じでリヤカバーオート制御を行います。

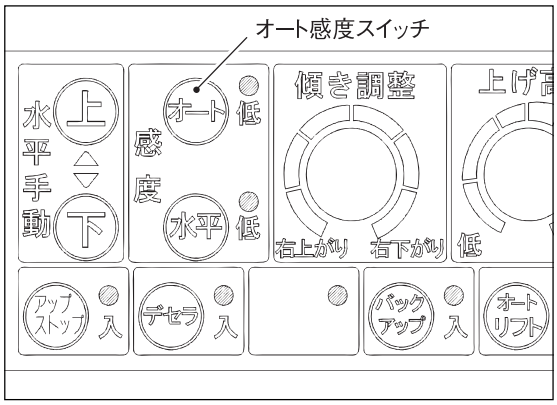
補 足

- **耕深調整範囲から「切」、または「切」から耕深調整範囲に切り換えたときは、「準備状態」になります。**
  「準備状態」のときは、自動耕深制御は作動しません。
  「準備状態」を解除して、作業をしてください。(☞ 91ページ)
- **「代かき・浅起し」点灯位置で耕深設定が特に浅いときにデセラ作動位置のほうが深くなって、デセラが作動しなくなり整地の仕上がりが悪くなることがあります。**
  デセラ作動位置の調整は「お買いあげ先」へお問い合せください。(☞ 99ページ)

■オート感度スイッチ

(1) オート感度スイッチを1回押すごとに自動耕深制御の動作感度が切り換わります。
「低」消灯時 …… 一般的な作業で使用します。
「低」点灯時 …… ロータリの昇降動作が鈍くなります。

(2) 浅起こしやロータリがハンチングする（細かく上下を繰り返す）ようなとき、「低」にするとスムーズに作業ができます。



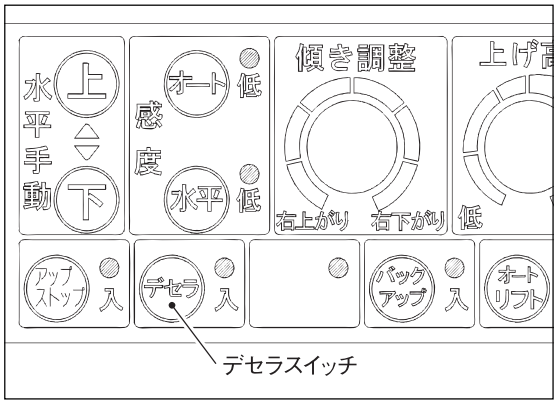
MBRTS0116

■機構

自動耕深制御がスムーズに作動するよう、ある一定の位置からロータリの降下速度が遅くなるようにした機構です。

「入」点灯時 …… デセラ機構が作動します。

「入」消灯時 …… デセラ作動スイッチを1回押すと、ランプが消灯し、デセラ機構も作動しません。



MBRTS0117

■ダッシング（デセラ）作動位置調整

(1) 純正ロータリを装着した場合、工場出荷時のダッシング（デセラ）機構がきき始める位置は、ロータリの耕うん爪が接地前5～10cm程度範囲に設定しています。

(2) 他の作業機を装着したとき等、デセラ作動位置を変更することができます。
「お買いあげ先」へお問い合せください。

補 足

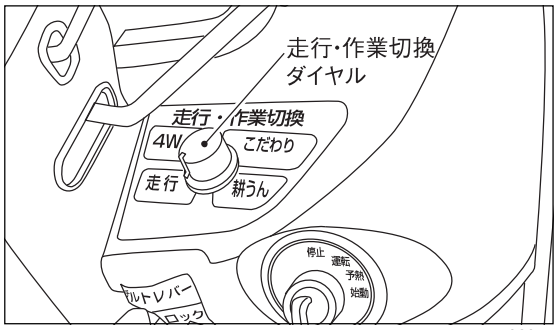
- **自動耕深制御装置を十分に機能させるために、作業機を最上げ位置からダッシング（デセラ）作動位置までの時間が1～1.5秒程度となるよう、油圧降下速度調節つまみを調整してください。**
  接地するまでの時間が長すぎると、整地の仕上がりが悪くなります。
- **ダッシング（デセラ）作動位置の設定が悪いと、自動耕深制御の性能が十分発揮できず、整地の仕上がりが悪くなることがあります。デセラ作動位置の調整は「お買いあげ先」へお問い合せください。**

7.12.3 自動水平制御装置の使いかた

トラクタが左右方向に傾いても、作業機の水平姿勢を一定に保つシステムです。
水田、傾斜地を問わず、均平性がよくなります。

■走行・作業切換ダイヤル

走行・作業切換ダイヤルを「耕うん」にすると、自動水平制御装置が作動できます。
「耕うん」以外の位置では、電子油圧操作ボックス内の水平切換スイッチによって、「入」「切」を選択できます。



RTS0057

■水平切換スイッチ

(1) 走行・作業切換ダイヤルを「耕うん」にするだけで、自動的に水平切換スイッチランプの「自動水平」が点灯し、自動水平制御装置が作動可能な状態になります。

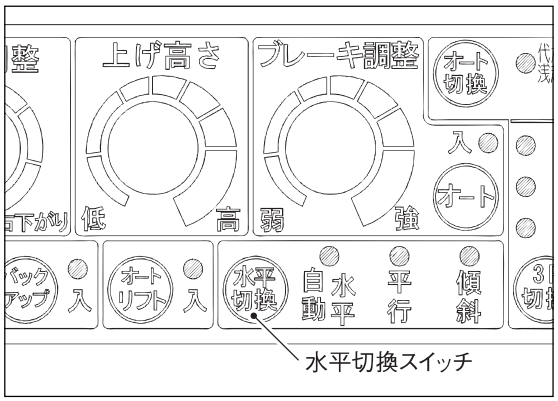
(2) スイッチを1回押すごとに下記の状態に切り換わります。

(a) 「自動水平」点灯
自動水平制御装置が作動し、トラクタ本体の傾きに関係なく、傾き調整ダイヤルで設定した一定角度に作業機を保ちます。

(b) 「傾斜」点灯
傾斜地面に対して常に平行になるように作業機を保ちます。

(c) 「平行」点灯
作業機がトラクタ本体と平行になります。

(d) 消灯
水平手動スイッチにより、作業機をトラクタ本体に対し、希望の傾きにすることができます。



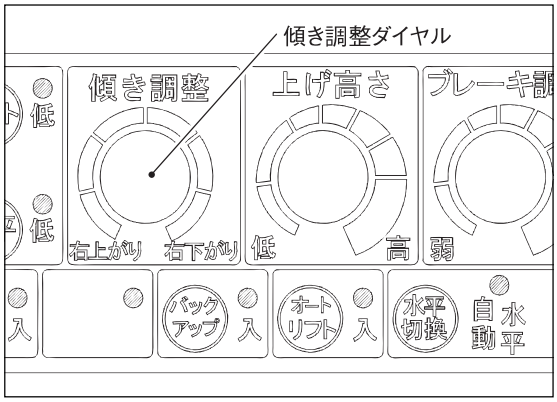
RTS0120

■傾き調整ダイヤル

水平切換スイッチが「自動水平」のとき、作業機の傾きを任意に設定できます。

「右下がり」… 作業機が右下がり方向に動き、設定した位置を基準に自動水平装置が働きます。

「右上がり」… 作業機が右上がり方向に動き、設定した位置を基準に自動水平装置が働きます。



MBRTS0121

■水平手動スイッチ

注 意

トラクタと干渉する場合は、上げ高さ調整ダイヤルで干渉しない位置に設定してください。

※ 守らないと、作業機を最上げ位置にし、かつ水平装置が「右上げ」になったとき、作業機によってはトラクタと干渉し破損するおそれがあります。

(1) 作業機を手動で、左右に傾斜させることができます。

「下」…… 作業機が右下がり方向に動きます。

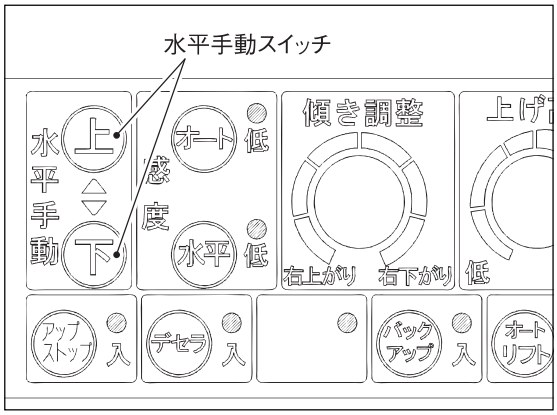
「上」…… 作業機が右上がり方向に動きます。

(2) **水平手動スイッチから手をはなすと下記の状態になります。**

(a) 水平切換スイッチが「自動水平」・「傾斜」・「平行」のときは、もとの傾きに戻ります。

(b) 水平切換スイッチが消灯しているときには手をはなした位置で傾きがとまります。

作業機取り付け時等に使用すると便利です。



MBRTS0122

■水平感度スイッチ

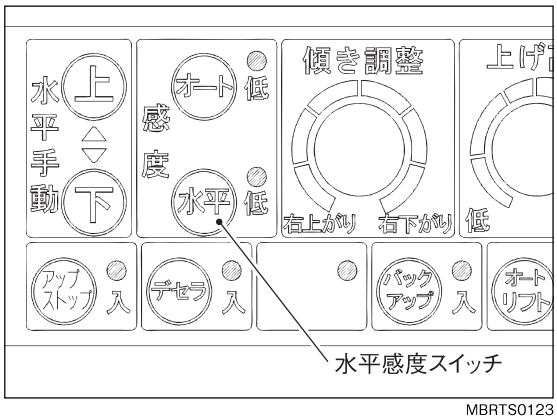
(1) 自動水平制御の動作感度が切り換わります。

「低」消灯時 …… 一般的な作業で使用します。(標準)

「低」点灯時 …… 自動水平制御の動作が鈍くなります。

(2) 作業機が左右にハンチングする（細かく上下を繰り返す）ようなとき、「低」にするとスムーズに作業ができます。

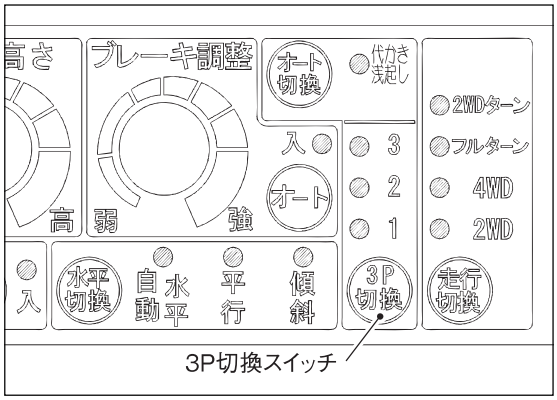
おもに、代かき作業で使用します。



MBRTS0123

■3P切換スイッチ

作業機の取り付け方によって、切り換える必要があります。
スイッチを1回押すごとに切り換わります。



RTS0124

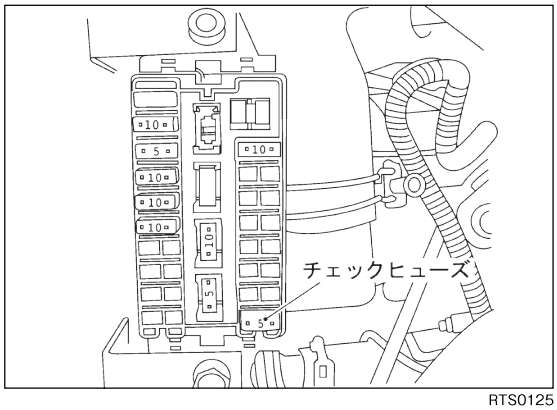
「1」点灯時	・スーパーヒッチの場合
「2」点灯時	・直装の場合
「3」点灯時	・カテゴリ0規格の一般作業機の場合

補 足

- **3P切換を適正に行わなかった場合、水平制御は作動しますが、精度が悪くなります。**
  必ず、取り付け作業機にあった位置に切り換えてください。

7.13 チェックヒューズの使い方

このヒューズを外すと、水平油圧装置のスイッチやセンサ類の故障や、配線の外れをチェックすることができます。詳細は「お買いあげ先」にご相談ください。



RTS0125

補 足

- **チェックヒューズが外れていると、電気制御装置が作動しません。必ずチェックヒューズをつないで操作してください。**

7.14 燃料載せ台（給油スタンド）の使い方

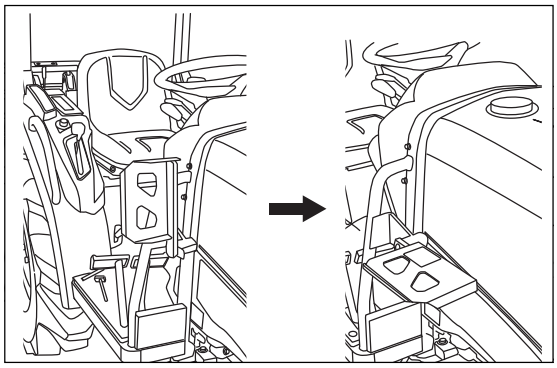
(1) ステアリングホイール（ハンドル）を操作し、前輪を直進状態（真っ直ぐ）にします。

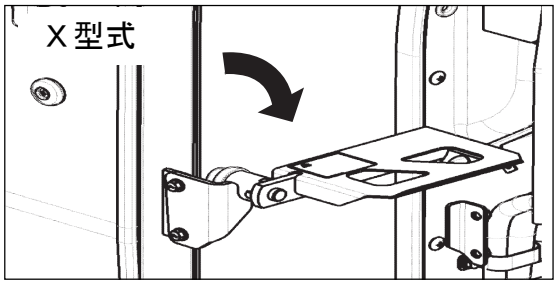
(2) 燃料載せ台（給油スタンド）を下方向に回転させます。

(3) ピンが溝に確実に入り込んだことを確認してください。

(4) 燃料容器（ポリタンク容器）を静かに置いて給油をしてください。

(5) 収納するときは、握り部をつかんで外側に引っ張り、ピンが溝からはずれてから下方向に回転させ、カチッとロックする位置で止めてください。


RTS0126



RTS0127

⚠ 警 告

燃料置き台（給油スタンド）の上に乗らないでください。
※ 守らないと、傷害事故やトラクタの破損を引き起こすおそれがあります。

注 意

走行時は折りたたんで固定してください。
※ 守らないと、トラクタの破損を引き起こすおそれがあります。

8. ロータリについて

8.1 トラクタへの装着

8.1.1 装着前の準備

⚠ 注 意

トラクタを移動してロータリを着脱する場合は、平たんな所で、低速で行いトラクタの後輪とロータリの間に立たないでください。
※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

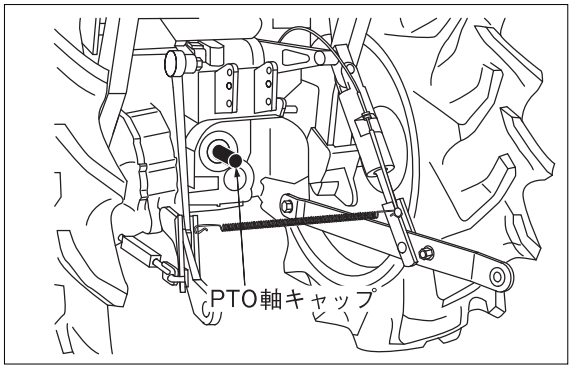
保護カバー類を外した状態でロータリを使用しないでください。
※ 巻き込まれ等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

必要以外はエンジンを止めてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

3点リンク（ロワーリンク・リフトロッド・トップリンク）の止めピンやユニバーサルジョイントのロックピンが外れていないかを確認してください。
※ 外れていると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ロータリ取り付け部品の種類、トップリンクの長さ、ロワーリンク穴位置、リフトロッド穴位置を確認してください。
※ 間違うと、ジョイント抜けやトップリンクの破損等による傷害事故の原因となります。

（1） ＰＴＯ軸キャップを外します。
トラクタのＰＴＯ軸キャップを外してください。
ＰＴＯ軸を使用しないときは、ＰＴＯ軸にグリースを塗布した後、必ず元の位置に取り付けてください。



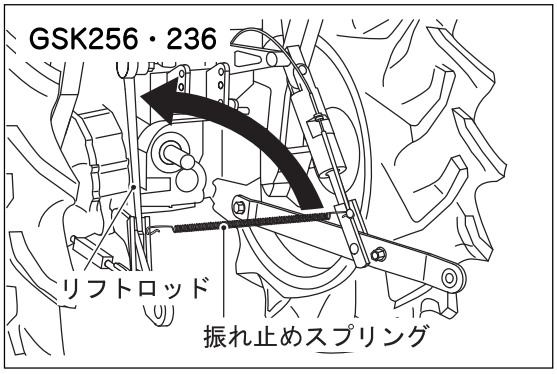
RO0426_B

（2）ロワーリンク振れ止めスプリングを収納してください。

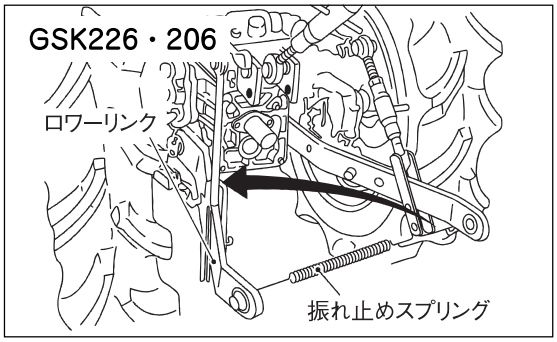
補 足

- **スプリング収納位置は機種により異なります。**
  GSK256・236
  リフトロッド（左）上下のフック
  GSK226・206
  ロワーリンク（左）前後のフック

- **ロータリを取り外したときは、左右のロワーリンクの間に振れ止めスプリングを掛け、ロワーリンクがタイヤ・クローラに当たらないようにしてください。**



TR0286_B

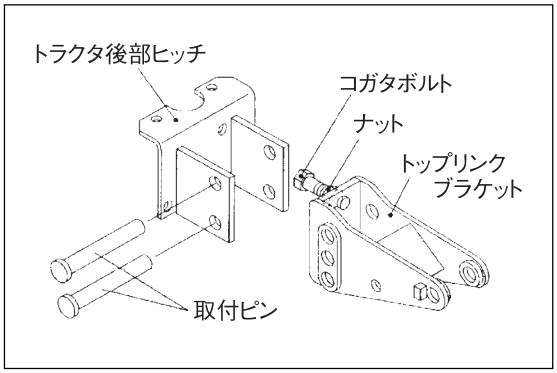


RTS0103

（3）トラクタ後部ヒッチとトップリンクブラケットをピンで固定してください。

補 足

- **トップリンクブラケットを固定用コガタボルトが上側になるよう、トラクタ後部ヒッチに取り付けてください。**



（4）トップリンクブラケットが動かなくなるまでコガタボルトを調節し、ナットにて固定してください。

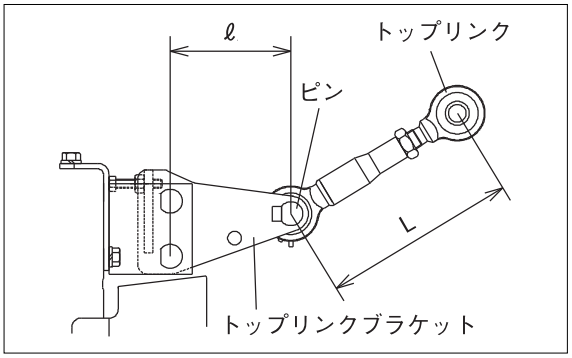
補 足

- **使用初期に、トップリンクブラケットにガタが発生することがあります。その際は増締めを行い、確実に固定してください。**

（5）トップリンクをトップリンクブラケットにピンで取り付けてください。

補 足

- **トップリンクブラケットの長さℓ、トップリンクの標準セット時の長さLは下表の通りです。**
  調整を必要とする場合は、振動・騒音が少なくなるように長さを調整してください。

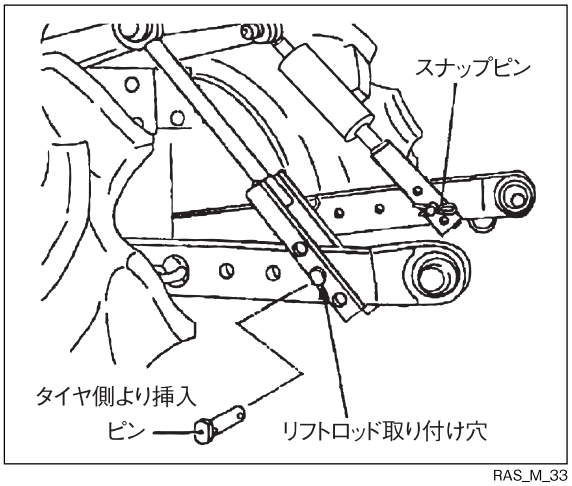


RAS_M_45

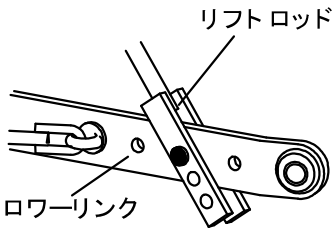
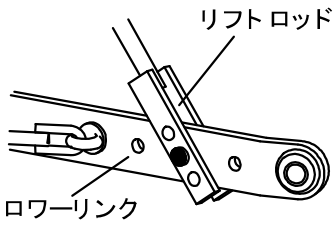
（6）ロワーリンクとリフトロッドの取り付け位置を調整し、固定してください。

補 足

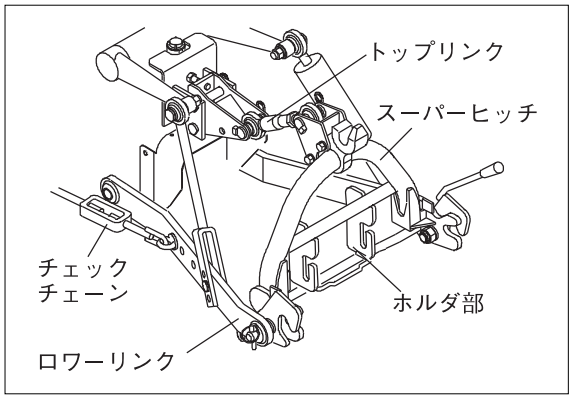
- **ロワーリンク、リフトロッドの取り付け位置は下表の通りです。もし、異なっている場合は調整してください。**



RAS_M_33

トラクタ型式	GSK256・236	GSK226・206
ロータリ型式	RAH177-Q・167-QX	RAH167-Q
トップリンクブラケットの長さL(mm)	177	130
トップリンクの長さL(mm)	235	220
ロワーリンク取り付け位置	中央の穴	中央の穴
リフトロッド取り付け位置	上から１番目の穴	上から２番目の穴
		

（7） チェックチェーンをゆるめ、スーパーヒッチをロワーリンク（2点）とトップリンク（1点）の3点で固定してください。



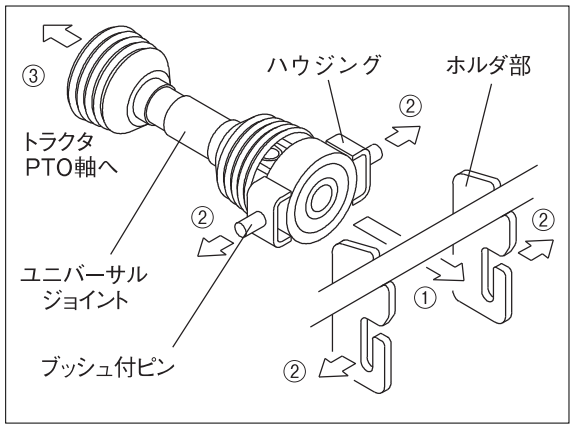
RAS_M_46

（8） ユニバーサルジョイント（ロータリ側）をスーパーヒッチのホルダ部に通します。（矢印①）

（9） ハウジングの左右のピンにブッシュが装着されていることを確認し、ホルダ部の溝に合せセットしてください。

補 足

- **ブッシュが装着されていないとロータリが装着できなくなります。必ず取り付けてください。**

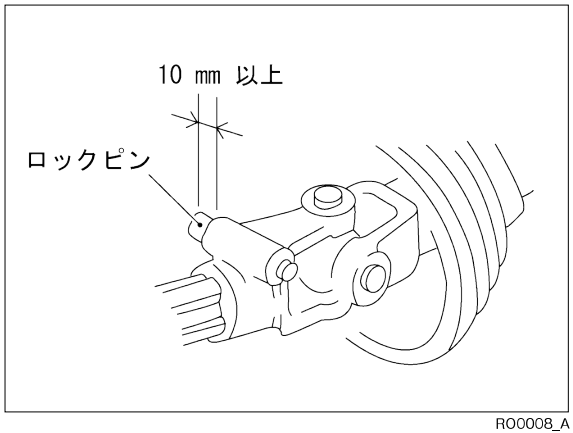


RAN-S_0018

（10） ユニバーサルジョイント（PTOの軸側）のロックピンを指で押し、トラクタのPTO軸に差し込みます。ロックピンを確実に溝に入れてください。（矢印③）

補 足

- **ユニバーサルジョイントのロックピンが、正確に溝に入ったかどうかは、ロックピンの頭が10mm以上出ているかどうかで確認してください。**



RO0008_A

（11） ユニバーサルジョイントを前後に押し引きし、動かないことを確認してください。

⚠ 注 意

ロータリを装着していない状態では絶対にPTOを回さないでください。

※ 回転させると、傷害事故の原因となります。

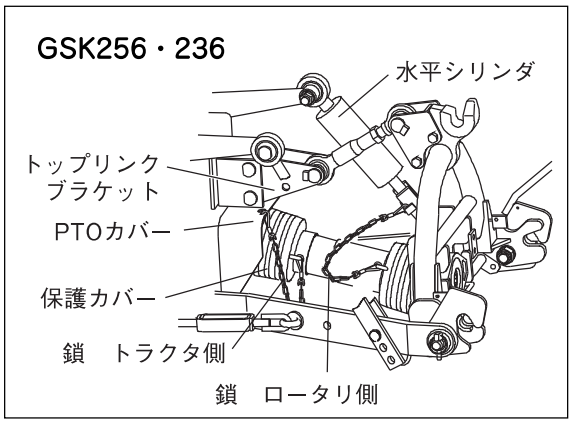
（12）ユニバーサルジョイントの保護カバーの鎖を取り付け、回り止めをしてください。

補 足

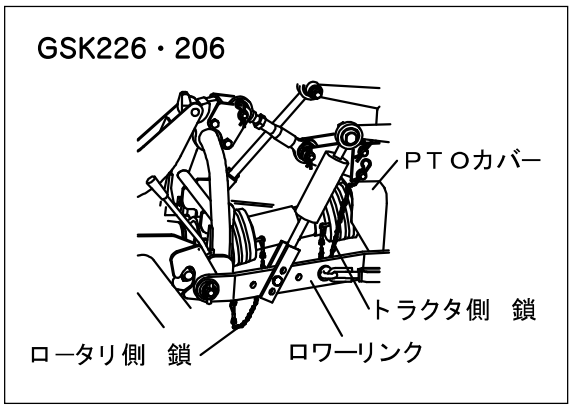
● **鎖の取り付け位置は機種により異なります。**

GSK236・256
(1) トラクタ側
ＰＴＯカバーの穴
(2) ロータリ側
水平シリンダ下側プレートの穴

GSK206・226
(1) トラクタ側
ＰＴＯカバーの穴
(2) ロータリ側
右側ロワーリンクのフック



RAS_M_18B

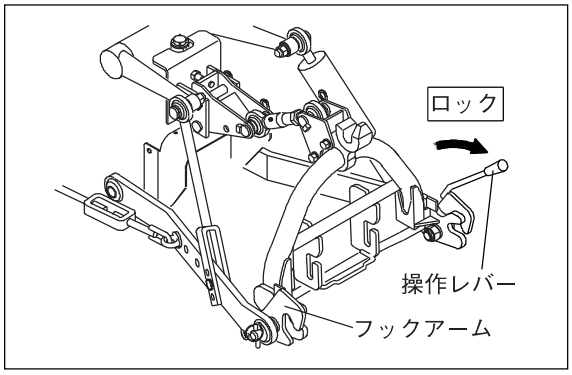


MBRHA003

（13）操作レバーを矢印の方向に倒し、フックアームをロック状態にしてください。

補 足

● **スーパーヒッチでロータリを装着する際は、フックアームをロック状態のままで行います。**
フックアームをロック状態でロータリを装着することで、ロータリとスーパーヒッチが平行に保たれやすくなり、スムーズにロータリが装着できます。



RAS_M_47

⚠ 注 意

スーパーヒッチの左右フックアームが確実にロック状態になっているか、確認してください。
※　ロック状態になっていないと、ロータリが脱落し破損するおそれがあります。

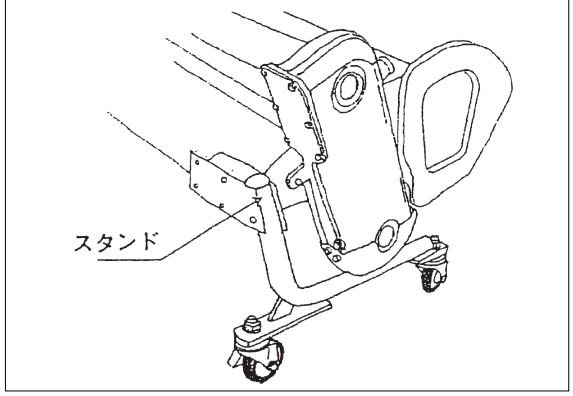
8.1.2 トラクタへの取り付けかた

⚠ 注 意

スタンドの取り扱い方は112ページを参照し、確実にロックされていることを確認してください。

（1） ロータリを着脱時の状態にします。
（a） スタンドが図のように着脱時の状態になっていることを確認してください。

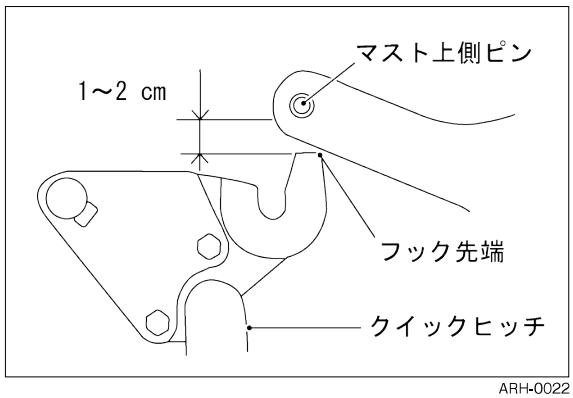
ロータリ着脱状態



（2） スーパーヒッチを下げ、フックの先端がマスト上側ピンのやや下（1～2cm）にくるようにバックしてください。

補 足

- **トラクタをロータリの中心に合わせ、まっすぐ直角になるようにバックしてください。**

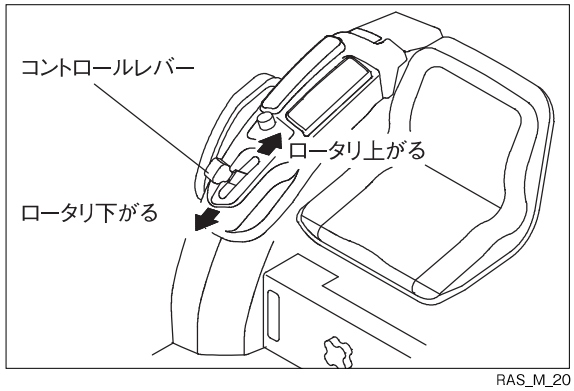


ARH-0022

（3） スーパーヒッチをゆっくり上げてください。

補 足

- **ユニバーサルジョイント（スプライン部）が噛み合ない場合は、無理をせずロータリを下げ、手順（1）より再度やり直してください。**

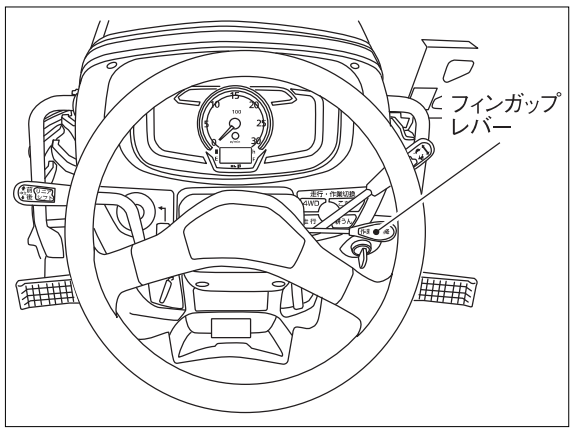


RAS_M_20

（4） フック部がマスト上側ピンに確実に引っ掛かったことを確認し、ロータリをつり上げてください。

補 足

- **ユニバーサルジョイント（スプライン部）が完全に噛み合うまで、ロータリを持ち上げすぎないでください。**
- **耕うん爪の一番低い部分を地面から5～10cm程度の高さにしてください。**
- **ロータリの上げ下げはコントロールレバーで行ってください。フィンガップレバーでの操作はしないでください。**



MBRTS0022C

（5） ロータリをつり上げるとロータリは自動的にスーパーヒッチと固定されます。同時にユニバーサルジョイント（スプライン部）が噛み合います。

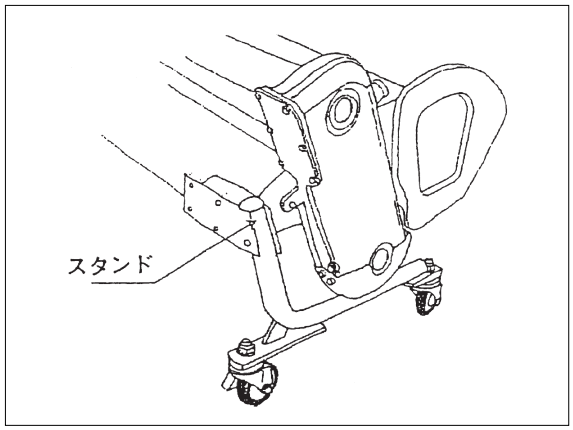
補 足

- **ユニバーサルジョイント（スプライン部）が噛み合ない場合は、無理をせずロータリを下げ､手順 (2) より再度やりなおしてください。**

⚠ 注 意

フックアームによりロータリの外れを防止しています。確実にロック状態にあるか確認してください。確認ができたら装着は完了です。

（6） スタンドを取り外します。



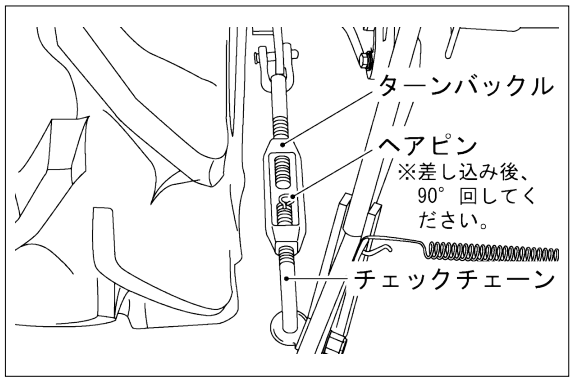
8.1.3 装着後の調整

（1）ロータリの爪軸が、トラクタの車軸と平行になるよう、ロータリの左右の傾き調整をしてください。

補 足

- **ロータリがトラクタと平行になっていないと左右の耕深が異なり、砕土・均平性能が悪くなります。**

（2）トラクタとロータリの中心を合わせます。
ユニバーサルジョイントが、上から見て一直線になるようにチェックチェーンを左右均等に張りヘアピンで固定し、ロータリの横ぶれを防止してください。



補 足

- **ユニバーサルジョイントの直線がずれていると、振動や騒音の原因となります。**
- **ロータリを回転しながら上げ下げし、ユニバーサルジョイント部からの異音・振動がないか確認します。**
  この時、耕うん爪が接地しないよう注意してください。もし異音・振動が発生した場合は、ロワリンクとリフトロッドの取り付け位置を確認後、トップリンク長さを音の出ない長さに調整してください。

8.2 取り外しかた

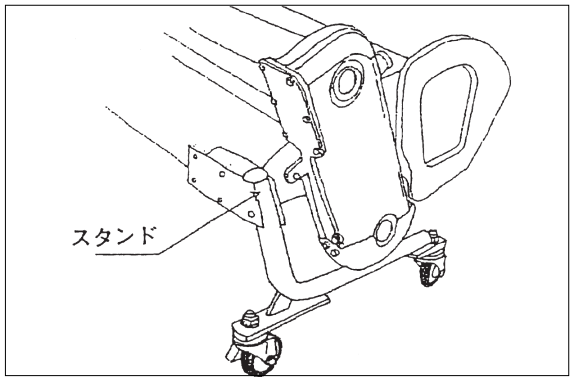
⚠ 注 意

ロータリに寄りかかったり、乗ったりしないでください。
※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ロータリ取り外し時はPTOを中立にし、平たんな場所で行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ロータリの着脱時は、必ずスタンドを取り付けてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

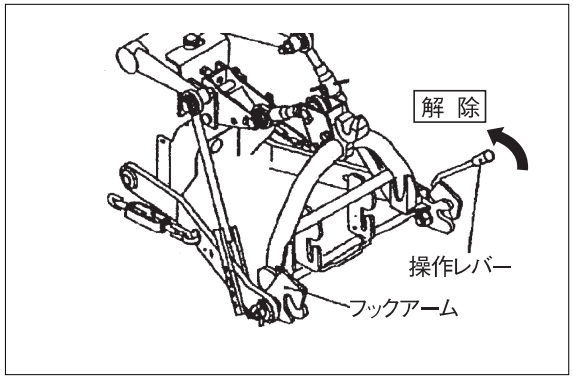
（1） ロータリを着脱状態にします。
（a） スタンドが図のように着脱時の状態になっていることを確認してください。



（2） 操作レバーをロック解除（矢印）の方向に操作してくださ。

（3） ロータリを降ろすと、トラクタとロータリが分離されます。

（4） トラクタを低速で静かに前進させてください。



8.3 作業前の点検

⚠ 注 意

トラクタを平たんな広い場所に置き、エンジンを止めてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

油圧降下速度調節つまみを「ロック」の方向いっぱいに回してください。(☞ 94ページ)
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

パーキングブレーキをかけてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

保護カバー類を外したときは、必ず元の状態に取り付けてください。
※ 守らないと、巻き込まれ等、傷害事故の原因となります。

8.3.1 点検箇所

点検箇所	点検項目	処 置	参照ページ
前日異常のあった箇所	・再度異常がないか点検します	・ある場合は「お買いあげ先」に相談してください	–
ロータリ取付けピン	・脱落していませんか	・装着してください	106
チェックチェーン	・ゆるみはありませんか	・ゆるみがなくなるように調整してください	111
ユニバーサルジョイントのロックピンのロック状態	・ロックピンのでしろは適正ですか	・ロックピンのでしろを調節してください	107
ボルト･ナット	・ゆるみはありませんか	・締め付けてください	–
クリーンバー（草巻付き防止バー)のゆるみ	・ゆるみはありませんか	・バーのたるみがなくなるまで締め付けてください	119･120 121
耕うん爪取り付けボルト(標準型)	・ゆるみはありませんか	・めがねレンチで力いっぱい締め付けてください	123

8.4 作業に適した調整と使いかた

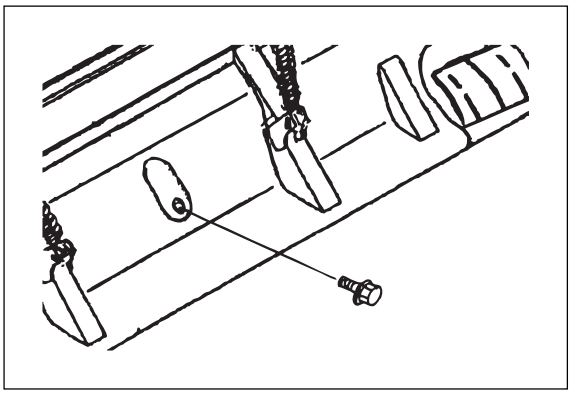
8.4.1 適応作業速度

●作業目的と耕作地の条件に合わせて、変速位置（車速）を決めてください。
次表は、作業の目安として活用してください。

車速・PTO / 作業	車速（ｋｍ／ｈ）	PTO
荒耕し	1.2～2.6	1～2
細土耕うん・細土うね立	0.4～1.8	3
代かき	2～4.7	2・3
乾土うね立	0.8～2	1～2
施肥・播種・マルチ作業	0.2～0.6	2・3

8.4.2 センターカバー

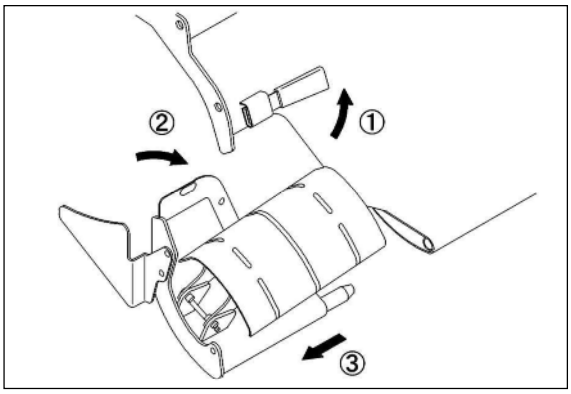
●畦立作業をする時は取り外してください。取扱いは、図の要領で行ってください。



8.4.3 コーナーカバー

尾輪作業で尾輪を前に寄せ残耕を少なくする。または片培土作業をするときに取り外してください。
取り外しは、図の要領で番号順に行ってください。

①レバーを矢印の方向に回転させてください。
②コーナーカバーを矢印の方向に回転させます。
③コーナーカバーを矢印の方向に取り外してください。



RAN-S_0041

8.4.4 リヤカバー上げロックの使いかた

●このロータリはレバー操作により、リヤカバーをはね上げた状態（上げロック）で固定することができる構造となっています。次の作業に活用してください。

「上げロック」……爪交換・泥落し・洗浄作業

⚠ 注 意

爪交換・泥落とし・洗浄作業は必ず、エンジンを止めてから行ってください。
※　守らないと、傷害事故を起こすおそれがあります。

「耕深調節ダイヤル」を「切」にしてください。
※　守らないと、傷害事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警 告

リヤカバー上げロックでリヤカバーをはね上げた状態では、絶対に耕うん作業や路上走行はしないでください。
※　傷害事故を引き起こすおそれがあります。

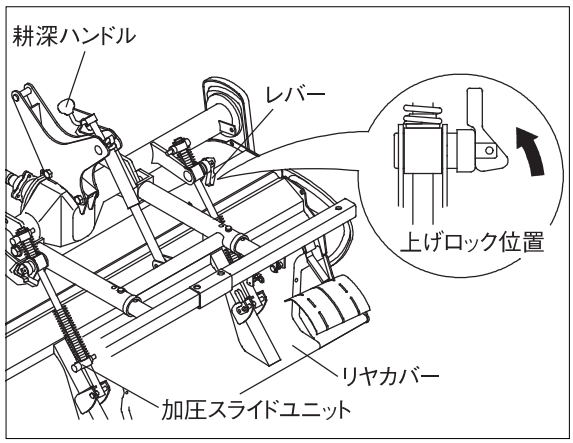
(1)　加圧スライドユニットを１番下の溝にセットし、スプリングがたわまない状態にします。

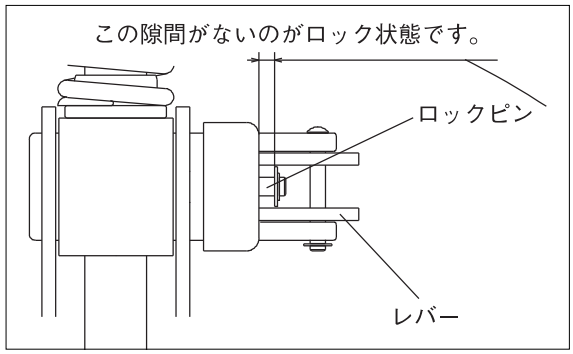
(2)　左右２個のレバーを上げロック位置にします。

(3)　リヤカバーの後部を持ち上げると自動的に上げロックになります。

補 足

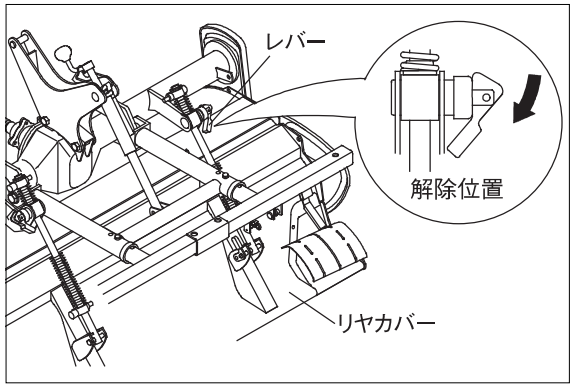
● **左右のレバーが正確に「ロック」の状態になったかどうかの確認は、ロックピンにあそびがなく、密着していることで確認してください。**





8.4.5 上げロック解除

(1) 左右２個のレバーを解除位置にします。



(2) リヤカバー後部を持ち上げると、自動的にロックは解除されます。

補 足

- **必ずリヤカバーの保持が左右とも「解除」したことを確認確認してください。**
- **自動耕深制御をするとき、リヤカバーを保持した状態では、使用できません。**

8.4.6 スタンドの使いかた

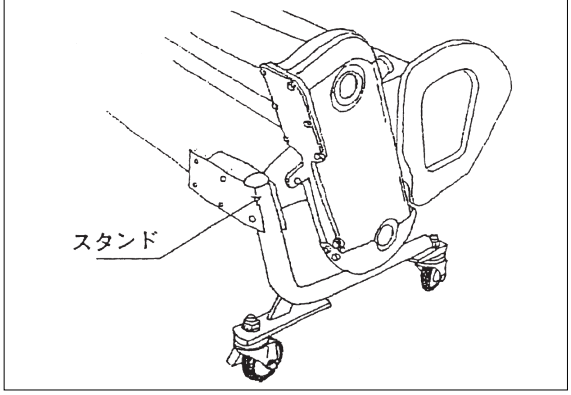
●ワンタッチで脱着できるスタンドが付いています。ロータリの着脱時に使用してください。

⚠ 注 意

スタンドは確実にピン止めされていることを確認してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

スタンドはロータリの着脱時又は納屋等の収納時以外（作業時は）取り外しておいてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

スタンド状態

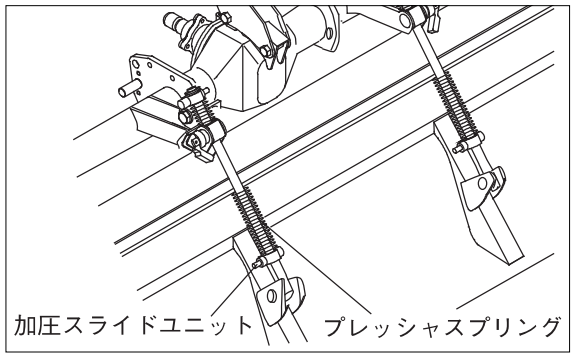


8.4.7 加圧ロッド調整のしかた

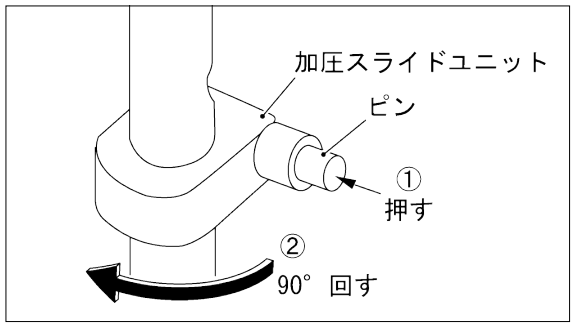
⚠ 注 意

ピンが確実に溝にはいったかどうかの確認は、ピンの頭が15mm以上出ているかどうかで確認してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

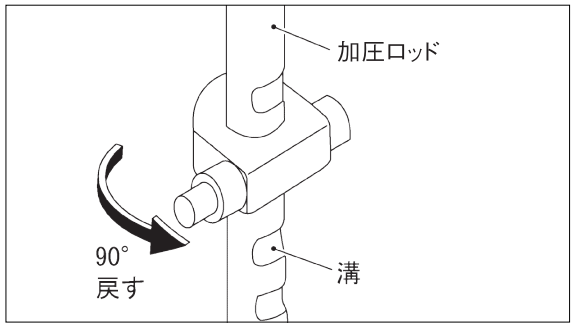
加圧ロッドの調節は、加圧スライドユニットの位置を必要とする所まで移動することで行ってください。



（1）加圧スライドユニットは、ピンを指で押し、ユニットを90°回すことにより、加圧ロッドの溝に引掛かることなく移動ができます。

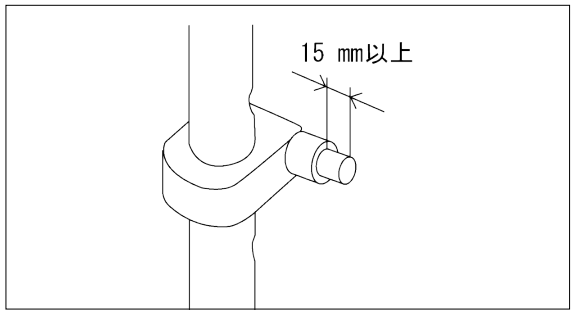


（2）固定ユニットを必要とする所まで移動した後、90°もどすと自動的にロックされます。ピンが確実に溝に入っているかを必ず確認してください。



補 足

- **加圧ロッドの加圧力を必要以上に強くすると馬力ロスの原因となります。**
- **ピンが確実に溝にはいったかどうかは、ピンの頭が15mm以上出ているかどうかで確認してください。**



8.4.8 逆転PTOの使いかた

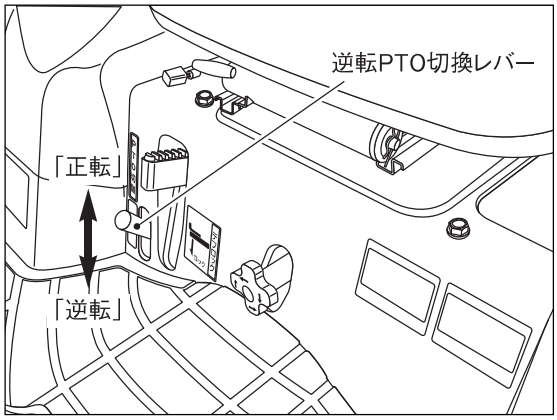
トラクタの逆転ＰＴＯは、次のような作業をする場合に使用してください。

（1）土寄せ作業

代かき作業等で泥が盛り上がった場合、逆転PTOを使用して前進しながら土寄せを行うと効果があります。

補 足

- **PTOは1速で作業してください。**
- **エンジン回転数を低速（1200～1500rpm）で作業すると泥飛びも少なくなります。**



RTS0095

(2) 草、ワラ等の除去作業

⚠ 注 意

巻き付いた草、ワラ等を除去する場合は、確実にエンジンを停止させ、油圧降下速度調節つまみを「ロック」の方向いっぱいに回し、キーを抜いてから行ってください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

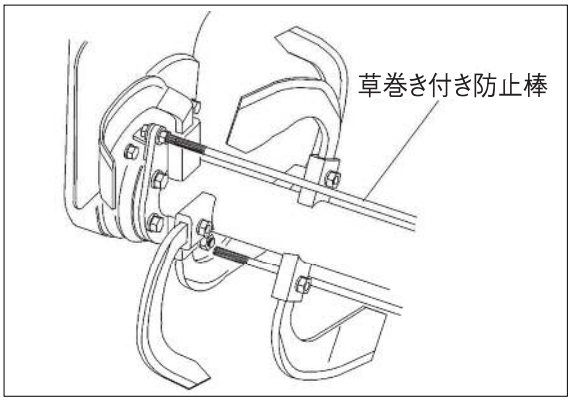
⚠ 注 意

逆転PTOを使用しての一般ほ場における土寄せ作業や逆転耕うん作業は絶対に行わないでください。
※　ロータリ破損の原因となります。

耕うん中に草等が巻き付いた場合、ロータリを持ち上げて、逆転での空転、正転での空転を数回繰り返すと、草の巻き付きがゆるみ取りやすくなります。

8.4.9　草巻き付き防止棒について

爪軸と平行して取り付けられた棒が、爪軸への草の巻き付きを少なくし、草のからみによる馬力不足を抑えます。



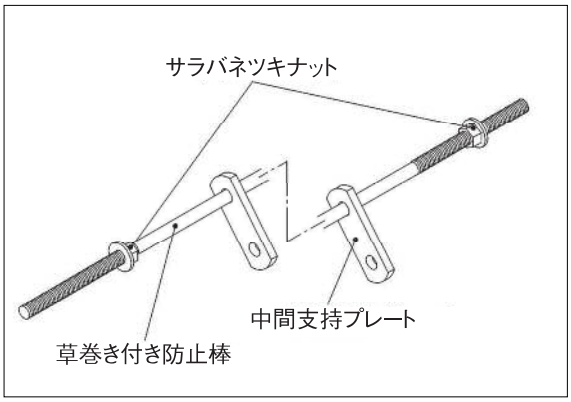
MBRAN_S068

補 足

- **石の多いほ場では、草巻き付き防止棒の使用を控えてください。**
- **草巻き付き防止棒が損傷した場合は、すみやかに新品に交換してください。**
- **耕うん爪は、三菱純正部品を使用してください。**
- **耕うん前に草巻き付き防止棒がゆるんでいないか確認してください。ゆるんでいる場合は“草巻き付き防止棒の取り付けかた”を参考に増し締を行ってください。**
- **外側のナットは必要以上に強い力で締め付けないでください。破損するおそれがあります。**

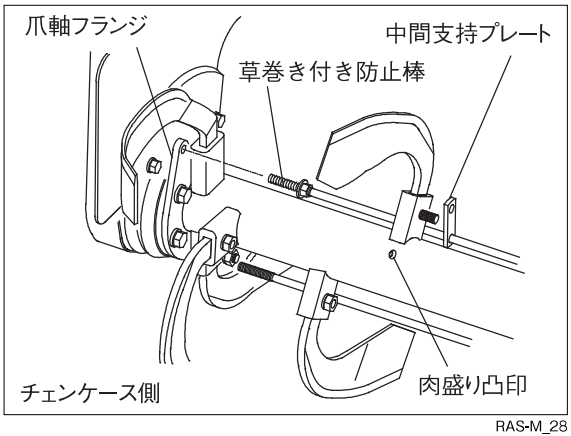
（1）草巻き付き防止棒の取り付け方（RAH167-Q）

①草巻き付き防止棒に、中間支持プレートを2枚通し、バーの両端にM10のサラバネツキナットを組み付けます。



MBRAN_S069

②チェンケース側は爪軸のフランジの穴に、サイドプレート側は一番右側の爪ホルダの取付プレート部の穴にクリーンバーを通します。
その際、中間支持プレートを取付けホルダの位置に合うように調整してください。

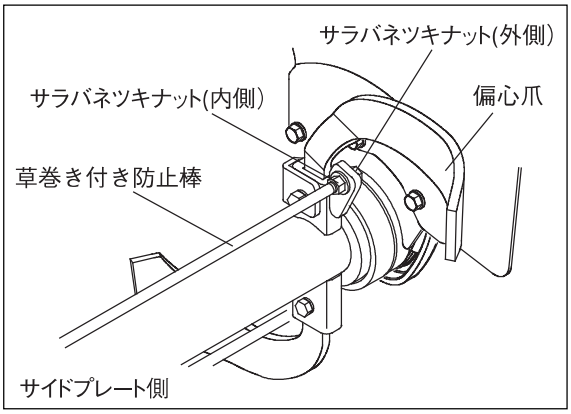


RAS-M_28

補 足

- **中間支持プレートの取付けホルダには、回転方向に肉盛り凸印があります。**

③草巻き付き防止棒を外側のM10のサラバネツキナットにてたるみのないように締付け、内側のナットで確実にロックしてください。
必要以上に、強く締めないでください。

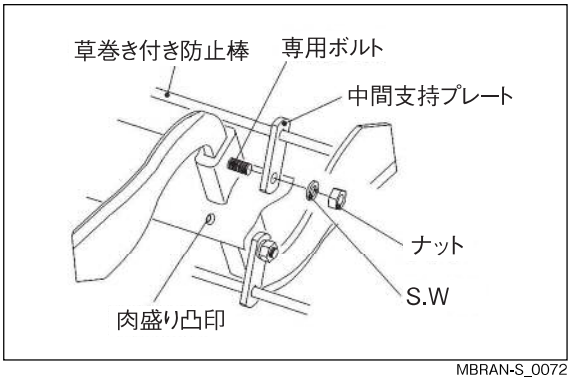


MBRAS-M_29

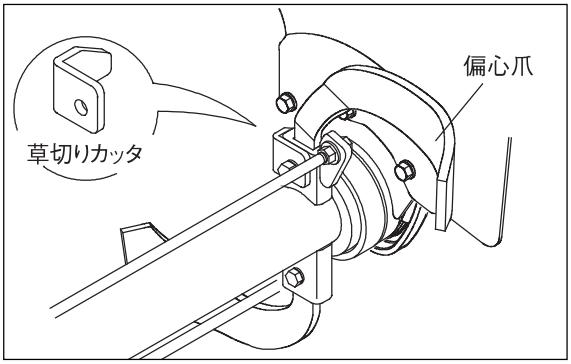
④中間支持プレートを爪ホルダに、専用ボルトにて爪と共締めにて組付けます。

補 足

- **右側の偏芯爪は草切カッタを共締めします。**



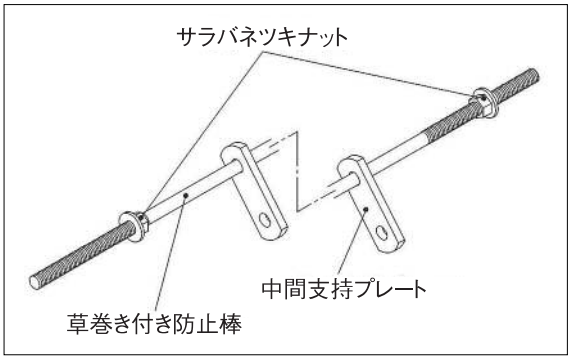
MBRAN-S_0072



RAS-M_30

（2）草巻き付き防止棒の取り付けかた（RAH167-QX・RAH177-Q）

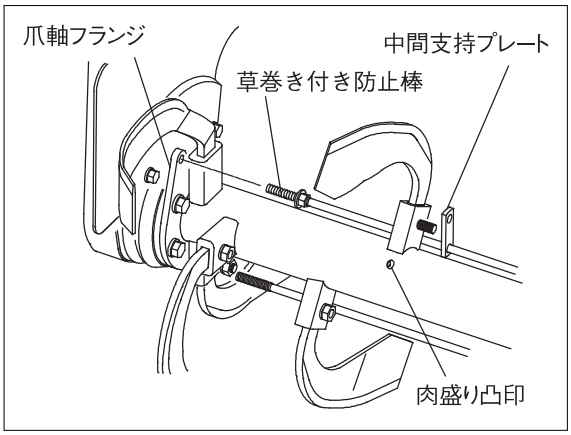
①草巻き付き防止棒に中間支持プレートを2 枚通し、バーの両端にM10 のサラバネツキナットを組付けます。



②爪軸両端のフランジの取付け穴に、草巻き付き防止棒を通します。その際、中間支持プレートを取付けホルダの位置に合うように調整してください。

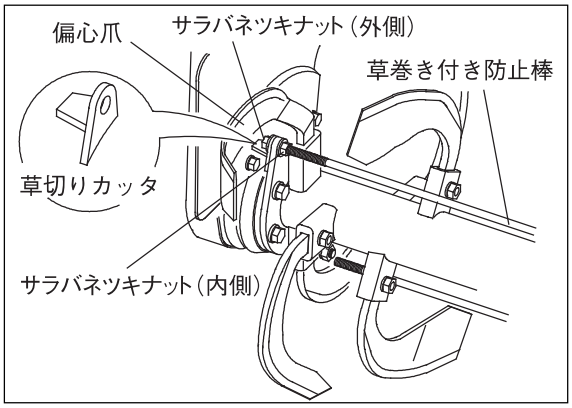
補 足

- **中間支持プレートの取付けホルダには、回転方向に肉盛り凸印があります。**

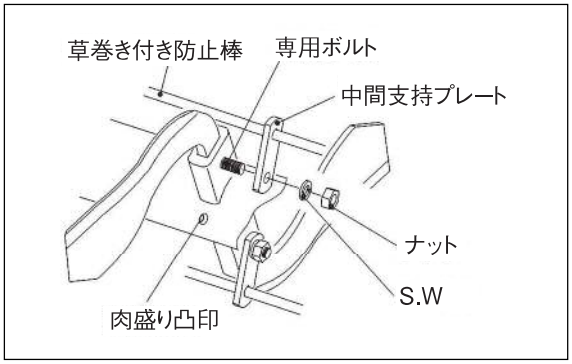


③偏心爪側の草巻き付き防止棒両端には草切りカッタを組付けます。

④草巻き付き防止棒を外側のM10 のサラバネツキナットにてたるみのないように締付け、内側のナットで確実にロックしてください。この時、必要以上に強く締めないでください。



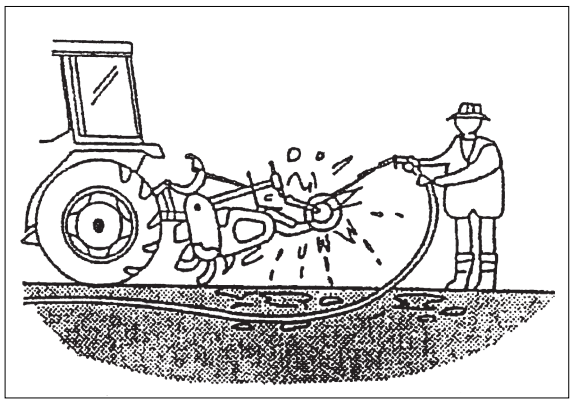
⑤中間支持プレートを爪ホルダに、専用ボルトにて爪と共締めにて組付けます。



8.4.10 手入れについて

●水洗いをする場合は電装品等に直接圧力水をかけないようにしてください。

●高圧洗浄機で洗車すると圧力水によりラベルがはがれるおそれがあります。圧力水を直接ラベルにかけないでください。



8.5 耕うん爪について

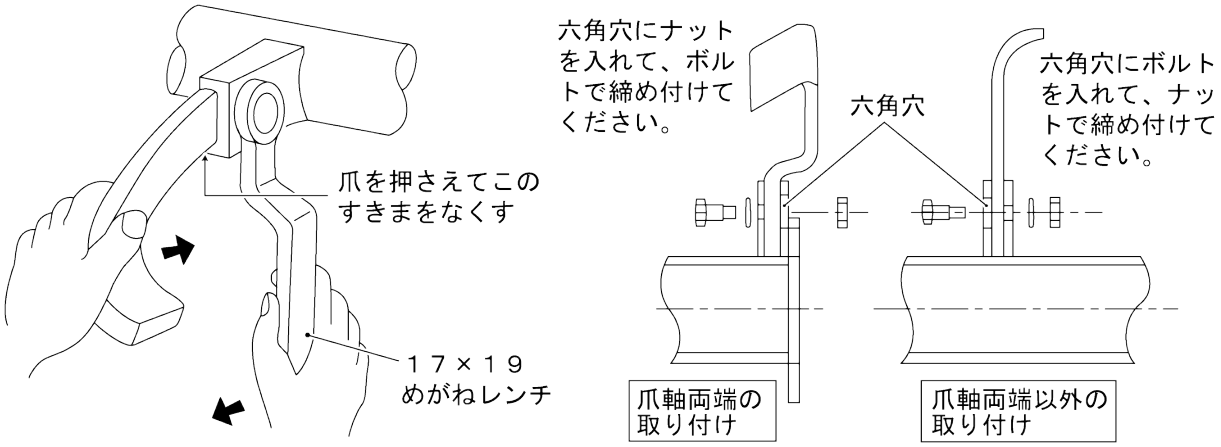
⚠ 注 意

トラクタを平たんな広い場所に置き、エンジンを止めてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

油圧降下速度調節つまみを「ロック」の方向いっぱいに回してください。（ ☞ 94ページ）
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

パーキングブレーキをかけてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

8.5.1 耕うん爪の取り付けかた



補 足

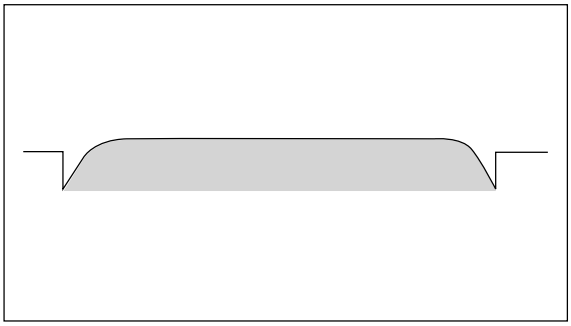
- 爪を抜いて作業をすると、爪軸のバランスが狂い、振動や騒音が出ることがありますので注意してください。
- めがねレンチで力いっぱい締め付けてください。
- 耕うん爪は回転径の正しい「三菱純正部品」をご使用ください。

8.5.2 爪配列

爪の配列は、作業に合せて次のとおり使い分けることができます。作業内容に合せて選択してください。

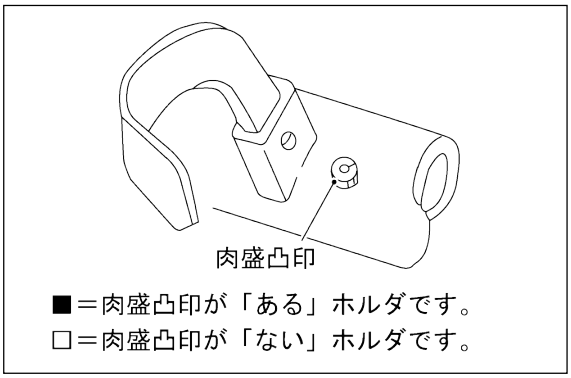
■平面耕（標準）

一般水田・畑の耕うん作業・代かき作業・畑の細土・均平作業等に使用できます。

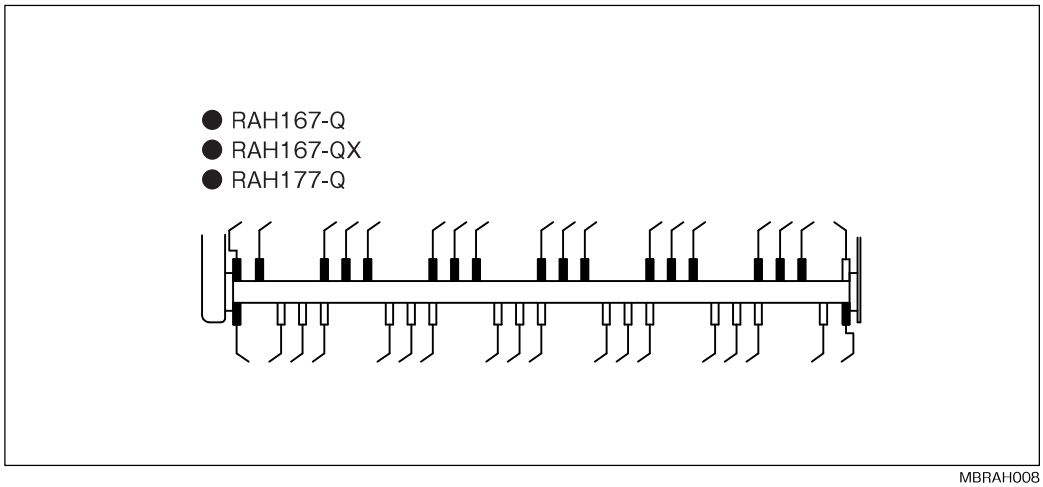


補 足

- **肉盛り凸印のあるホルダには、肉盛り凸印側に爪の曲りがくるように取り付けます。その他のホルダには逆に曲がった爪を取り付けてください。**



■＝肉盛凸印が「ある」ホルダです。
□＝肉盛凸印が「ない」ホルダです。



9.　安全キャブの各装置について

9.1　安全キャブ装置

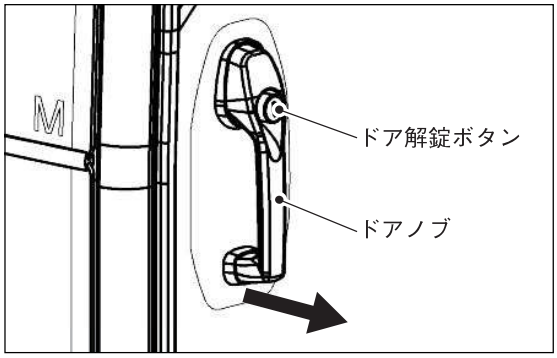
注 意

ガラスの取り扱いはていねいに行ってください。
安全キャブ内には物を載せないでください。
※　破損し、傷害事故を起こすおそれがあります。

9.1.1　ドアの開けかた

■車外から

ドア解錠ボタンを押し込み解錠し、ドアノブを引いてドアを開けます。



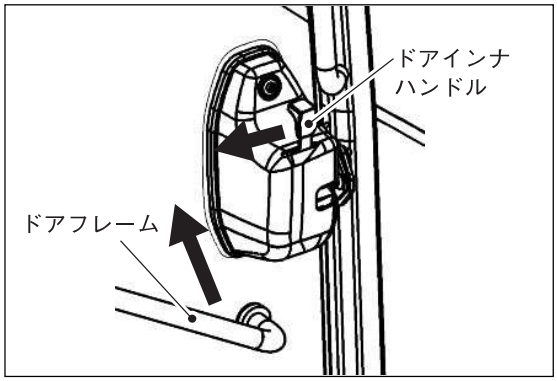
RTS0128

■車内から

ドアインナーハンドルを手前に引いて解錠し、ドアフレームを外側へ押しドアを開けます。

補 足

- **装着した作業機が、ドアと干渉するおそれがある場合は、１段階のみドアの開き量を狭くすることができます。**
  詳細は、「お買いあげ先」までご相談ください。



RTS0129

9.1.2　ドアの閉めかた

ドアノブ、または、ドアフレームをにぎり、ゆっくりと閉めます。

⚠ 注 意

ドアを閉めるときは、手等を挟む可能性があるため十分注意してください。
※　守らないと、傷害事故を起こすおそれがあります。

注 意

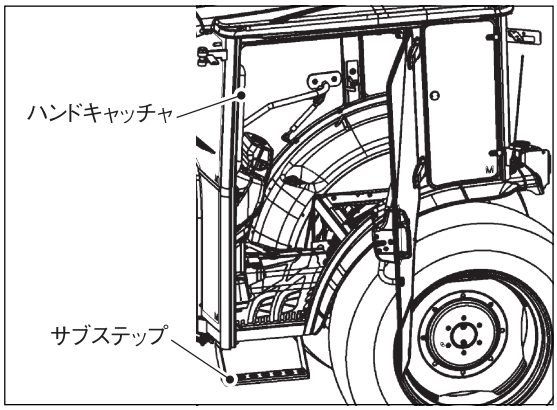
ドアを開いたまま、もしくは、半ドアの状態で道路走行や作業をしないでください。
※　守らないと、ドアが不意に開いたり、ドアの破損を引き起こすおそれがあります。

9.1.3 乗り降りのしかた

注 意

乗り降りするときに、ドア開閉ダンパに荷重をかけないでください。
※ 守らないと、ダンパが変形し、ドアの破損等を引き起こすおそれがあります。

乗り降りする際は、ハンドキャッチャーに手をかけ、
サブステップに確実に足を乗せてください。



RTS0130

⚠ 注 意

ドアにぶらさがらないでください。
※ 守らないと、ドアの破損、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

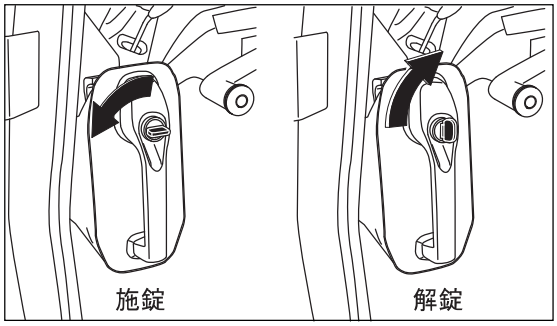
ドアの作動範囲以上に無理にドアを押し開けないでください。
※ 守らないと、ドアの破損、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

9.1.4 ドアの施錠と解錠

(1) キーをドアロック部に差し込み、反時計回りに90°回すと、施錠します。
キーは水平位置にして抜き取ります。
(2) 時計回りに90°回すと、解錠します。
キーは垂直位置にして抜き取ります。

補 足

- **安全キャブ内からはドアの施錠と開錠はできません。**



TJV0403

注 意

トラクタから離れるときには、盗難防止のため確実に施錠してください。
※ 守らないと、トラクタが盗難されるおそれがあります。

9.1.5 リアガラス

⚠ 注 意

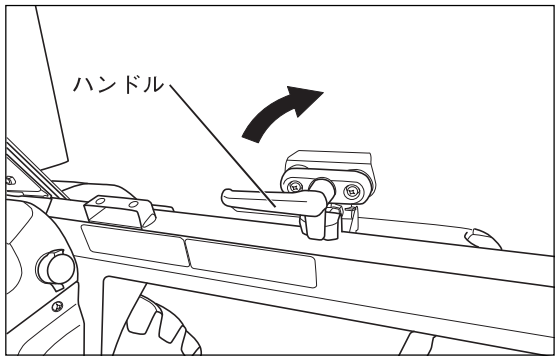
リアガラスを開けるときは、後部の状況を確認してください。
※ 守らないと、ウインドの破損、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

リアガラスを閉めるときは、手等を挟む可能性があるため十分注意してください。
※ 守らないと、傷害事故を起こすおそれがあります。

注 意

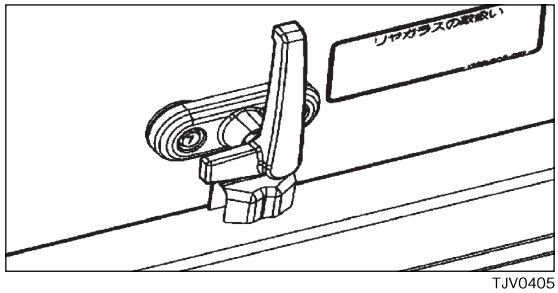
ハンドルをロック位置のままリアガラスを閉めないでください。
リアガラスを開けたまま走行または、作業しないでください。
※ 守らないと、ハンドルが破損するおそれがあります。

1 ハンドル部を持ち90°回転してロックを解錠します。リアガラスを少し押し出すとダンパの作用によって自動的に開きます。

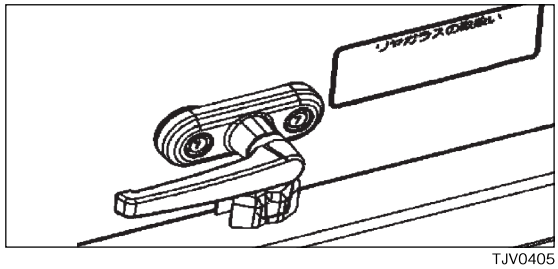


TJV0404

2 閉めるときはハンドルを解錠した状態で、ロックが確実にできるところまで前方に引き、90°回転してロックしてください。



TJV0405



TJV0405

9.1.6 リヤサイドガラスの開閉

左右後部にあるリヤサイドガラスは開閉することができます。

注 意

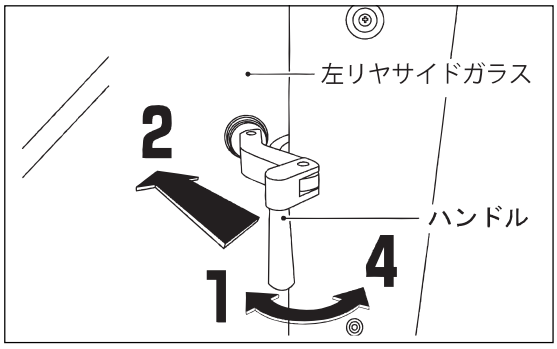
道路走行するときは、リヤサイドガラスを閉め確実にロックしてください。
※ 守らないと、リヤサイドガラスが破損するおそれがあります。

1 リヤサイドガラスを開けるときは、ハンドルを引きロックを解除します。

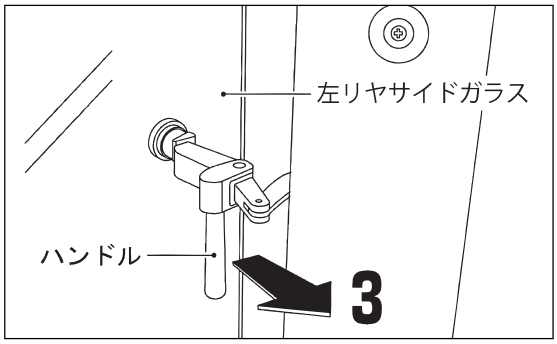
2 次にハンドルを外へ押し込めば、リヤサイドガラスは開いた状態で固定できます。

3 リヤサイドガラスを閉じるときは、ハンドルを持ち、ガラスを手前に引きます。

4 ハンドルを矢印方向へ回し、確実にロックしてください。



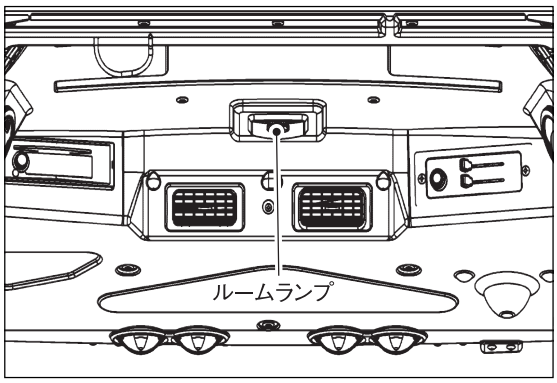
TJV0407



TJV0408

9.1.7 ルームランプ

スイッチの位置により点灯状態が次のようになります。
「ON」……常時、点灯します。
「・」……ドアを開けたとき、点灯します。
ドアを閉めると、消灯します。
「OFF」……常時、消灯します。



RTS0131

9.1.8 作業灯スイッチ

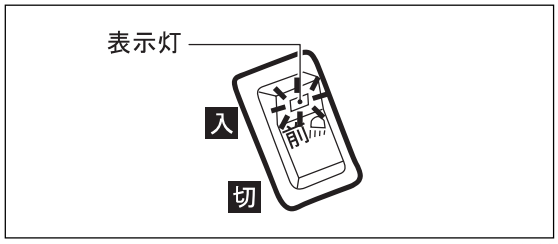
⚠ 注 意

道路走行中、作業灯は必ず消灯してください。

※ 作業灯を点灯したまま道路を走行することは、違法行為になるとともに、他の車両の交通を阻害するおそれがあります。

(1) スイッチの上側を押し「入」にすると、作業灯は点灯します。
このとき、スイッチの表示灯も点灯します。

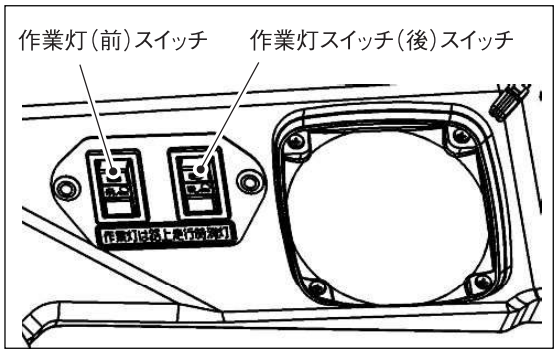
(2) スイッチの下側を押し「切」にすると、作業灯は消灯します。
このとき、スイッチの表示灯も消灯します。



RTS0132

補 足

- **ほ場での夜間作業で、作業灯の威力が発揮できます。**
  トラクタの前方の広い範囲が明るくなり、作業しやすくなります。
- **エンジンを停止したときは、バッテリ上がりを防止するために、作業灯スイッチは必ず「切」にしてください。**
- **作業灯を点灯しての外部電源の使用は避けてください。**
  バッテリが放電することがあります。
- **作業灯点灯消灯は、天井右横の作業灯スイッチで行います。**



RTS0133

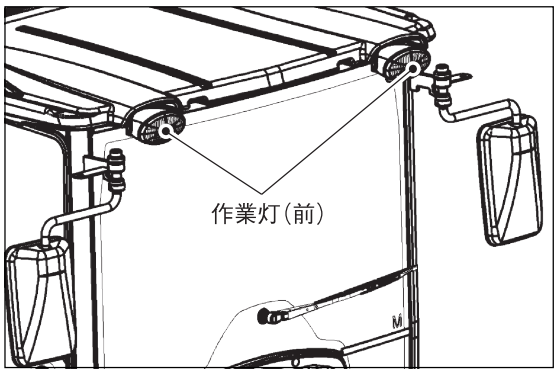
9.1.9 作業灯の位置調整

(1) 作業灯の照射方向を替えることができます。取り付けボルトをゆるめ「上下」および「左右」方向に回してください。

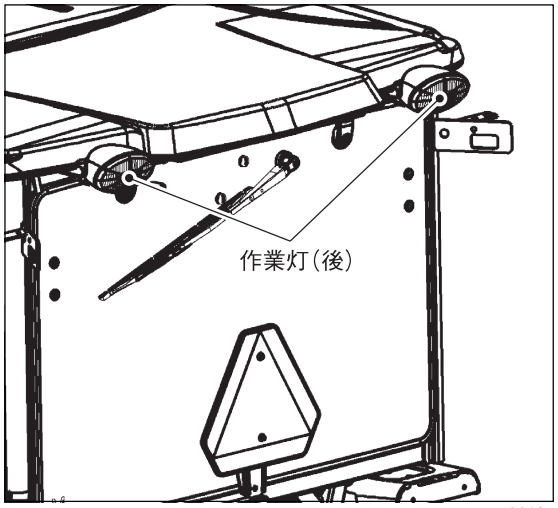
(2) 調整後、取り付けボルトは締め付けてください。

補 足

- **作業灯（後）は、左右方向及び下方向の調整となります。**



RTS0134



RTS0135

9.1.10 ワイパスイッチとウォッシャースイッチ

注 意

エンジンを停止したまま、ワイパーを長時間使用しないでください。
※ 守らないと、バッテリ容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

ウォッシャー液が出ないときは、ウォッシャースイッチを操作しないでください。
※ 守らないと、ウォッシャーモータの故障の原因になります。

ワイパースイッチはウォッシャー液を噴出させてから使用してください。
※ 守らないと、カラふきとなりガラスに傷をつけます。

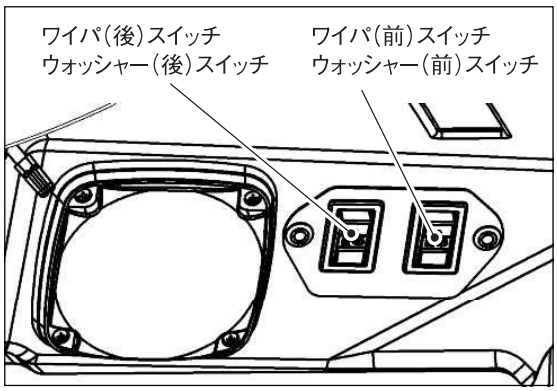
凍結時にワイパーを作動するときは氷を取り除いて使用してください。
寒冷時、ワイパーブレードが凍結することがあります。
※ 守らないと、ワイパーモータ・ワイパーブレードの故障の原因になります。

■ワイパ（前)(後）とウォッシャー（前)(後)

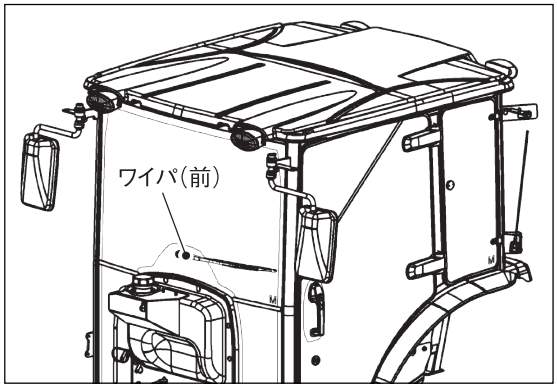
(1) スイッチの上側を押すと、ワイパが作動します。さらに押し込むとウォッシャー液が噴出します。
(2) スイッチの下側を押すと、ワイパは停止します。さらに押し込むと、ウォッシャー液が噴出します。

補 足

- **ワイパの操作は、天井左横のワイパスイッチで行います。**



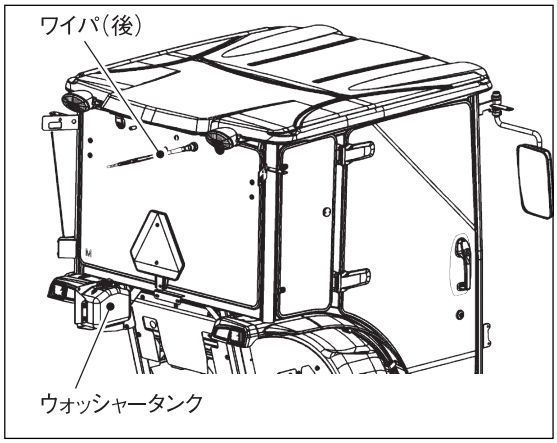
RTS0136



RTS0137

■ウォッシャータンク

ウォッシャー液が少なくなったら、自動車用ウォッシャー液を補充してください。
ウォッシャータンクは、リヤフェンダ内側にあります。



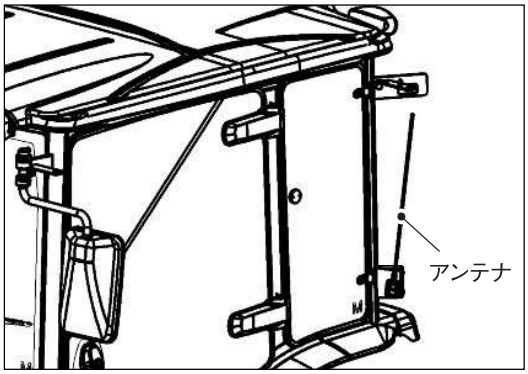
RTS0138

9.1.11 CDラジオ（FM・AMつき）

注 意

トラクタ本体に機体カバー等をかけるときは、トラクタ本体側に押してください。

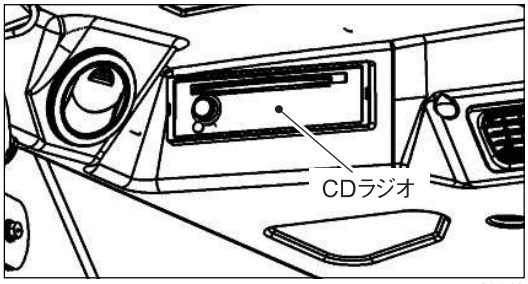
※ 守らないと、アンテナの破損につながります。



RTS0139

CDを使用しないときは、CDを抜き取ってください。

※ そのまま放置すると、野外に日中放置しているときなど安全キャブ内が高温になりCDが変形するなどし、故障の原因になります。



RTS0140

（1） 取り扱い方法は、添付の取扱説明書を参照ください。

（2） ラジオの受信感度が悪い場合は、アンテナを伸ばして使用してください。

■故障・修理の問い合わせ

このCDラジオが故障した場合は、下記メーカにもご相談いただけます。

クラリオン株式会社

クラリオンお客様相談室

TEL：0120-112-140

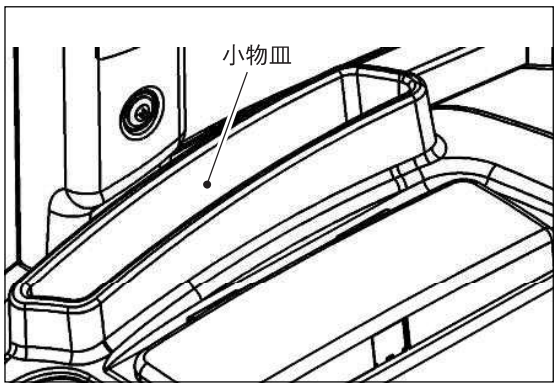
（土・日・祝日・メーカ指定休日を除く/9：30～12：00、13：00～17：00）

FAX：048-601-3807

Clarionホームページ　http://www.clarion.com/jp/ja/info/inquiry/

9.1.12 小物皿

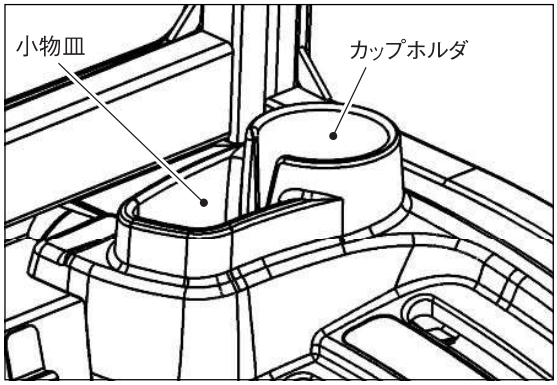
凹型になっていますので、小物を置くことができます。



RTS0141

9.1.13 カップホルダ

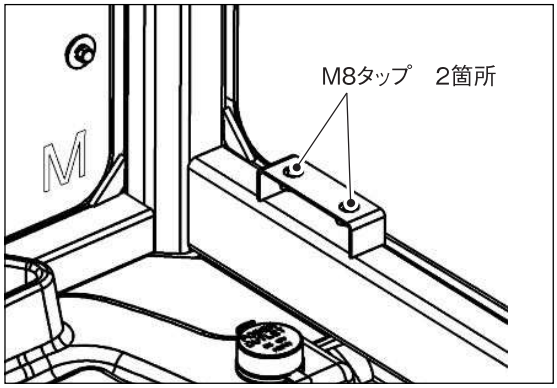
カンやペットボトルを置くことができます。



RTS0142

9.1.14 作業機制御パネル用タップ

フロントローダやその他の作業機を制御するパネルを固定できます。



RTS0143

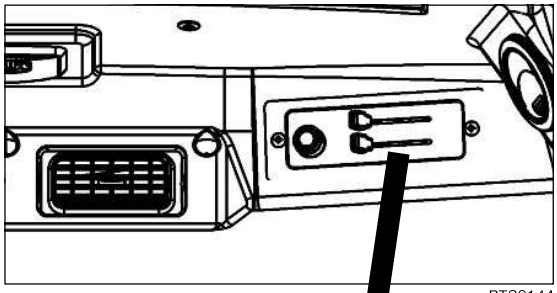
9.2 エアコン

9.2.1 エアコン操作パネル

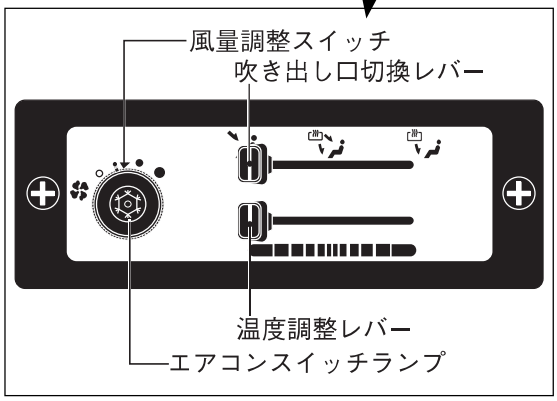
■エアコンスイッチ・ランプ

(1) スイッチを押すと、スイッチランプが点灯し、エアコンが作動します。
(ただし、風量調整スイッチが「停止」のときは、作動しません。)

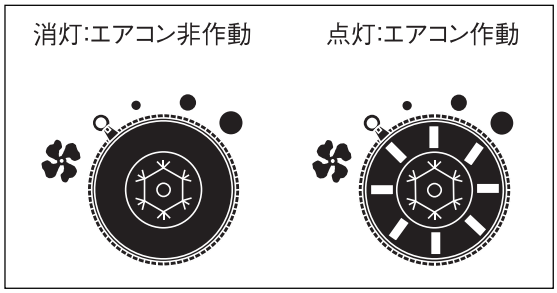
(2) もう一度スイッチを押すと、スイッチランプが消灯し、エアコンが切れます。



RTS0144



RTS0145

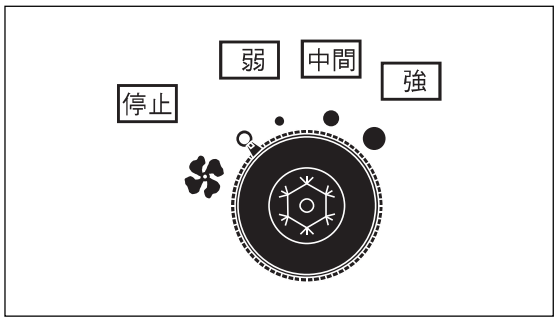


RTS0146

■風量調整スイッチ

(1) スイッチを切り換えることで、３段階に風量が調整できます。

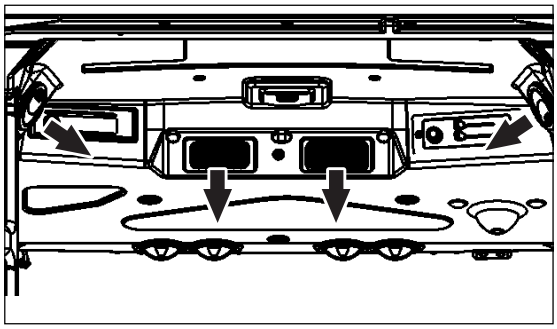
(2) 右に回すと風量が増え、左に回すと風量は減ります。左に回しきると、エアコンは停止します。



RTS0147

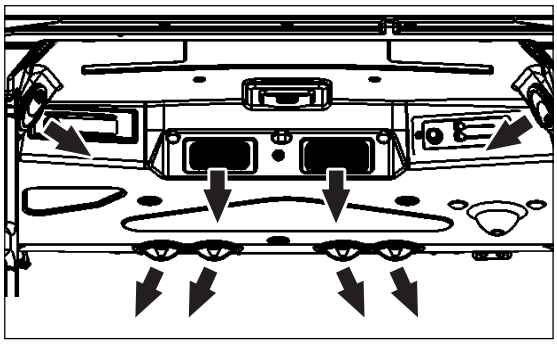
■吹き出し口切換レバー

冷房・暖房時の、冷風・温風の吹き出し場所を切りかえることができます。



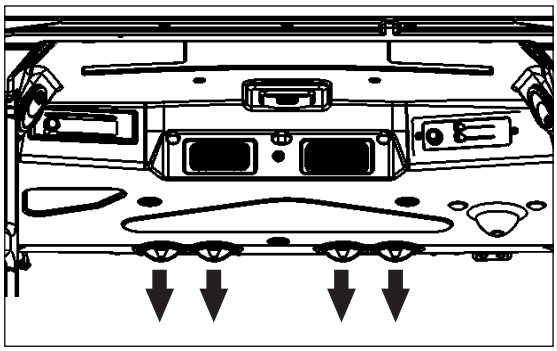
RTS0148

（1） 吹き出し口（上）、および、吹き出し口（横）から風が吹き出します。



RTS0149

（2） 吹き出し口（上）、吹き出し口（横）に加え、吹き出し口（前）から風が吹き出します。吹き出し口が多くなるので、風量は少なくなります。
運転中はこの位置が最適です。



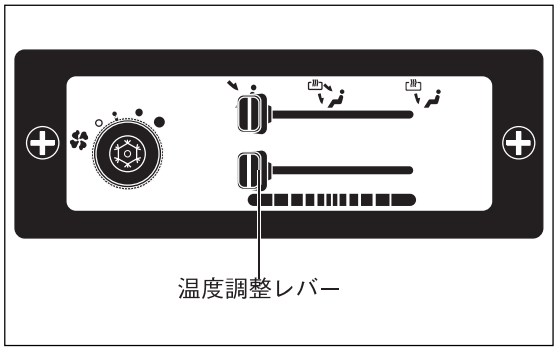
RTS0150

（3） 吹き出し口（前）から風が吹き出します。デフロスタ（ガラスの曇り止め）にも使えます。

■温度調整レバー

冷房・暖房時の冷風・温風の温度を調整することができます。

（1）左側 …… 冷風が出ます。
（2）右側 …… 温風ができます。
（3）中間 …… レバーの位置で、温度を調整できます。



RTS0151

■内外気切換レバー

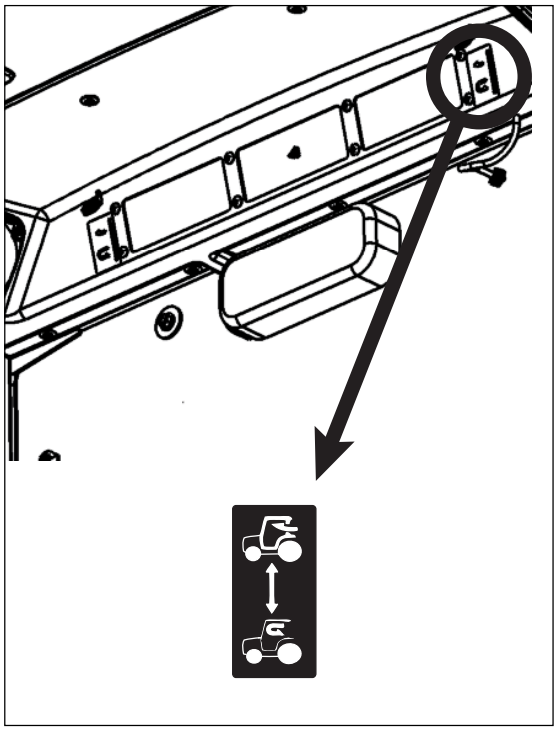
外気導入と内気循環に切り換えることができます。

（1）「外気導入」…… 外気を取り込みながら、冷風・温風を吹き出します。
通常作業時や、ガラスが曇った場合に使用します。



（2）「内気循環」…… 外気を取り入れず、室内の空気を循環させ、冷風・温風を吹き出します。
はやく、冷暖房を効かせたいときに使用します。工場出荷時はこの位置になっています。





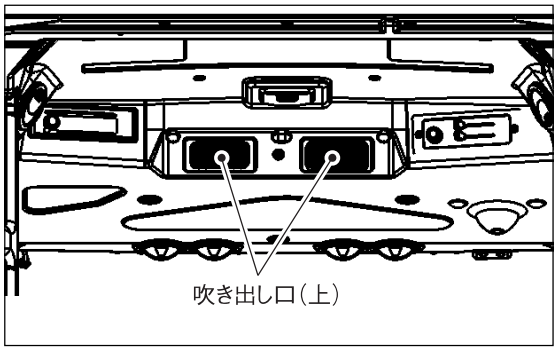
RTS0152

9.2.2 エアコンの使いかた

■吹き出し口

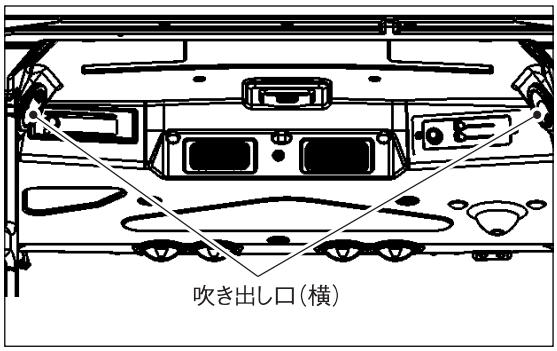
吹き出し口は、（上）（横）（前）の３か所にあります。
３か所とも、風の吹き出し角度・方向を調節することができます。

(1) 吹き出し口（上）
運転者方向に直接、冷風・温風を吹き出します。吹き出し口は2つあります。
それぞれ独立して、吹き出し方向を調節することができます。



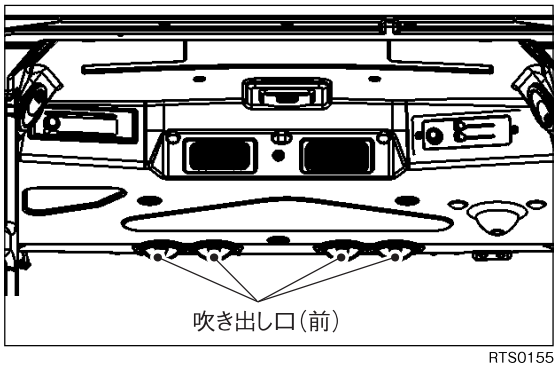
RTS0153

(2) 吹き出し口（横）
運転者の側方から、冷風・温風を吹き出します。
吹き出し口は左右一つずつあります。
それぞれ独立して、吹き出し方向を調節することができます。



RTS0154

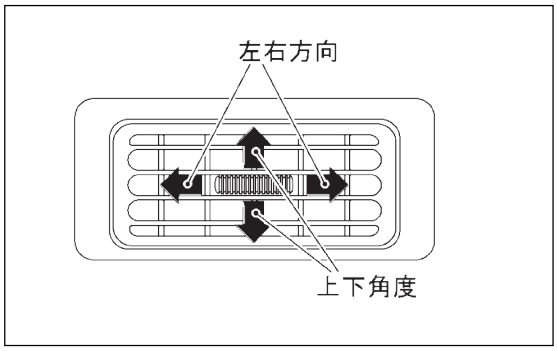
(3) 吹き出し口（前）
安全キャブの前方から、冷風・温風を吹き出します。
フロントガラス方向に吹き出し口を向ければ、デフロスタ（ガラスの曇り止め）にも使用できます。
吹き出し口は4つあります。
それぞれ独立して、吹き出し方向を調節することができます。



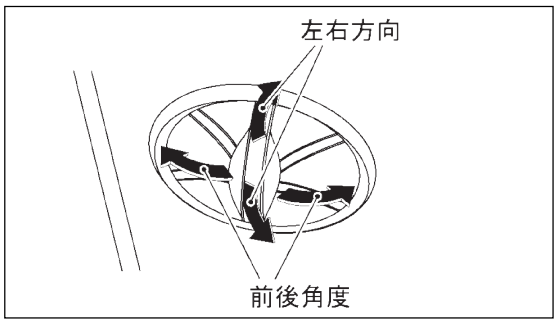
RTS0155

■吹き出し角度・方向の調節

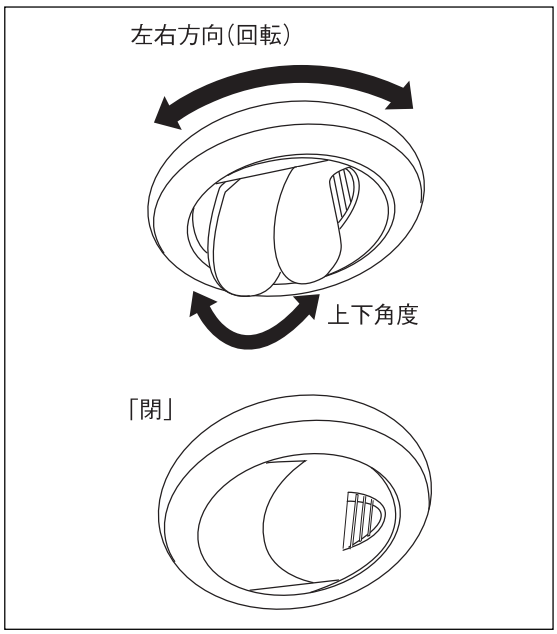
吹き出し口の「上下角度」「左右方向」「前後角度」の調節ができます。
また、吹き出し口を「閉」にすることで他の吹き出し口の風量を増やすことができます。（吹き出し口横）



RTS0156



RTS0157



RTS0158

■冷房・除湿

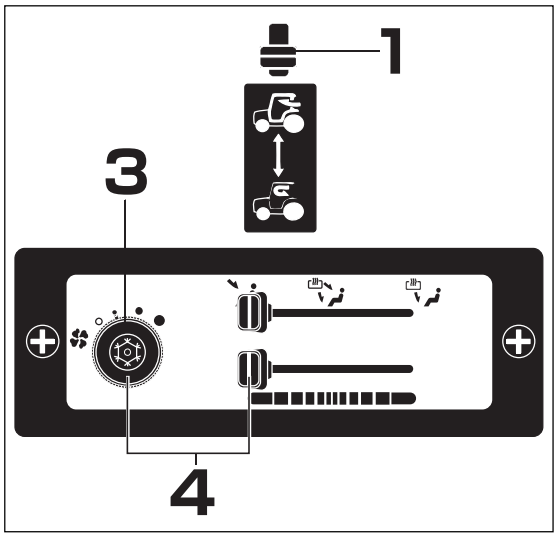
1 内外気切換レバーを「内気循環」にします。

2 エアコン操作パネルのスイッチ・レバーを右図の位置にします。

3 エアコンスイッチを押して作動させます。

4 吹き出し口（上）から冷風が吹き出し、安全キャブ内が冷房・除湿できます。お好みに合せ、風量・風向・温度を調節してください。

5 適温になったら「外気導入」に切り換えてください。



RTS0159

補 足

- 急速に体を冷やしたい時は、 の位置で使用してください。
- 室内全体を冷やしたい時は、 の位置で使用してください。

■暖房

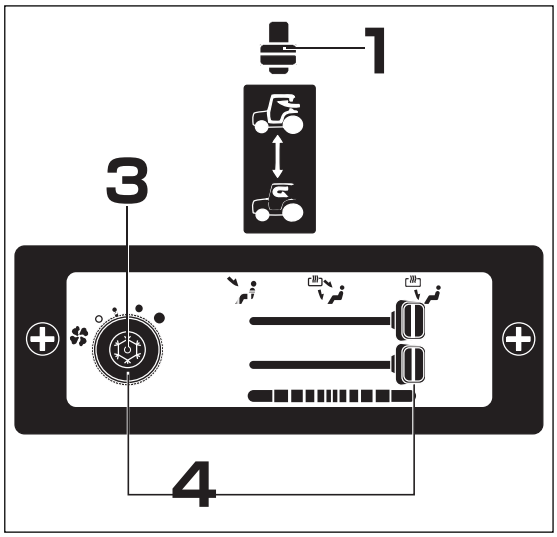
1 内外気切換レバーを「内気循環」にします。

2 エアコン操作パネルのスイッチ・レバーを右図の位置にします。

3 エアコンスイッチは切ってください。

4 吹き出し口（前）から温風が吹き出し、安全キャブ内が暖房できます。お好みに合わせ、風量・風向・温度を調節してください。

5 適温になったら「外気導入」に切り換えてください。



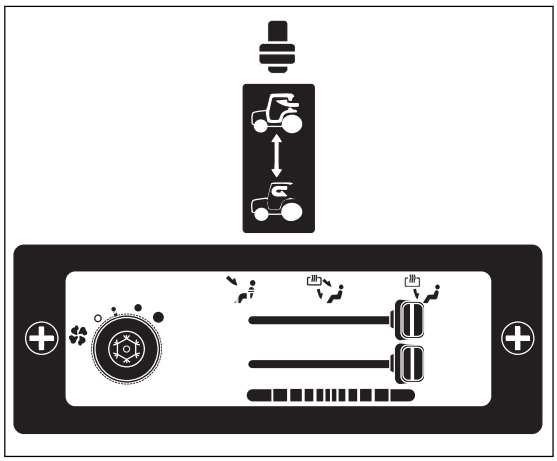
RTS0160

■除湿暖房

湿度の高いとき使用します。

1 暖房の状態からエアコンスイッチを押してエアコンを作動させます。

2 吹き出し口（前）から温風が吹き出すとともに、安全キャブ内が除湿されます。

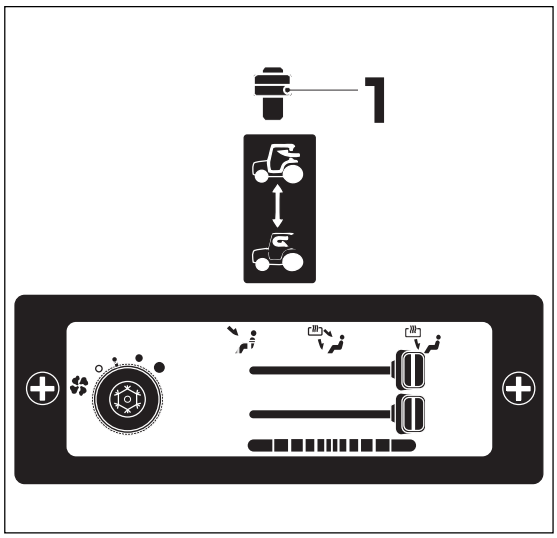

RTS0161

■デフロスタ（ガラスの曇り止め・除去）

1 内外気切換レバーを「外気導入」にします。

2 エアコン操作パネルのスイッチ・レバーを右図の位置にします。ガラスの曇りを除去するときはエアコンスイッチを入れてください。

3 吹き出し口（前）から温風が吹き出し、ガラスが曇りにくくなります。



RTS0162

9. 安全キャブの各装置について

補 足

- 外気温が極端に低いときは、エアコンが作動しない場合がありますが、故障ではありません。
- エアコンを使用しないときは、風量調整スイッチを切ってください。エアコンの全機能が停止します。
- 車両の使われ方、ブロワ風量、温度調節により、吹き出し口に結露する恐れがあります。

10. 点検整備

次ページの一覧表に従い、定期的に点検整備を行ってください。

⚠ 警 告

給油および点検整備をするときは、(1)トラクタを平たんで広い地面の硬い場所に置き、(2)エンジンを停止し、(3)パーキングブレーキをかけ、(4)油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックし、(5)キーを抜き、(6)さらにロータリの爪軸の下に木の台を置き、(7)エンジン各部が十分冷えてから、状態を確認して行ってください。

※　状態を確認せずに点検整備すると、傷害事故を引き起こすことがあります。

⚠ 注 意

- **廃液等を地面にたれ流すことや、河川、湖沼、海洋への投棄をしないでください。**
- **廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。**

※　廃棄物をみだりに廃却、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

■新車初期点検

アワーメータが50時間になるか、最初のシーズンを終了したときは、必ず新車時の初期点検整備を実施してください。

新車時の初期点検整備はトラクタの耐久性にとって大事な項目ですのでお買いあげ先での点検、整備をおすすめします。

補 足

- **点検整備項目の中には、消耗品の扱いとなっている部品も含んでいます。交換が必要な部品は「純正部品」を注文してください。**
- **専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、「お買いあげ先」へ問い合せください。**
- **抜き取った廃油等の油脂類は、専門の処理業者、または、「お買いあげ先」へ依頼して処理してください。**

10.1 定期点検・整備箇所一覧表

○：点検、補充、調整　△：清掃、洗浄　★：お買いあげ先での交換・点検をおすすめします

点検項目 ＼ 点検時間			アワーメータ表示時間																	備考	参照ページ
			作業前	新車初期点検★	50時間	100時間	150時間	200時間★	250時間	300時間	350時間	400時間★	450時間	500時間	550時間	600時間★	1回/3ヶ月	1回/1年★	1回/2年★		
エンジン	エンジンオイル	交換	○	★		★		★		★		★		★		★				100時間ごと	149
	エンジンオイルフィルタ	交換		★				★				★				★				200時間ごと	150
	エアクリーナエレメント	洗浄 交換	○	△		△		△		△		△		△		★		★		100時間ごと 600時間ごと、または1回/1年	151
	リザーブタンク冷却水・水量	洗浄 交換	○	○		○		○		○		○		○		★			★	100時間ごと 600時間ごと、または1回/2年	152
	ラジエータ本体	洗浄		○															△	1回/2年	153
	ラジエータホース	点検 交換	○	○				○				○				○			★	200時間ごと 1回/2年	153
	燃料フィルタ	洗浄 交換	○	△		△		△		△		★		△		△				100時間ごと 400時間ごと	155
	燃料パイプ・ホース	点検 交換		○		○		○		○		○		○		○			★	100時間ごと 1回/2年	155
	ファンベルト	点検	○	○		○		○		○		○		○		○				100時間ごと	156
	バッテリ液面チェック	点検	○	○		○		○		○		○		○		○		○		100時間ごと または1回/1年	157
	エンジンバルブクリアランス	点検														★				600時間ごと	−
本機	ミッションオイル （交換時にはストレーナを清掃）	交換	○	★				★				★				★				200時間ごと	159
	ミッションオイルフィルタ	交換		△				△				△				△				200時間ごと	160
	フロントアクスルのオイル	点検 交換	○	○				○				○				★				200時間ごと 600時間ごと	161
	クラッチ室の水抜き	点検		○		○		○		○		○		○		○				100時間ごと	161
	クラッチペダルの遊び	点検 調整	○	○		○		○		○		○		○		○				100時間ごと	162
	ブレーキペダルの遊び	点検 調整	○	○				○				○				○				200時間ごと	162

○：点検、補充、調整　△：清掃、洗浄　★：お買いあげ先での交換・点検をおすすめします

点検項目 ＼ 点検時間			アワーメータ表示時間																	備考	参照ページ
			作業前	新車初期点検★	50時間	100時間	150時間	200時間★	250時間	300時間	350時間	400時間★	450時間	500時間	550時間	600時間★	1回/3ヶ月	1回/1年★	1回/2年★		
本機	ステアリングジョイント	点検調整は★		○				○				○				○				200時間ごと	163
	タイヤの空気圧	点検補充	○	○				○				○				○				200時間ごと	164 165
	タイヤ締め付けボルト	洗浄交換	○	○		○		○		○		○		○		○				100時間ごと	165
	電気配線	点検交換		○														○	★	1回/1年 1回/2年	166
	パワステ用ホース	点検交換		○		○		○		○		○		○		○			★	100時間ごと 1回/2年	168
	水平シリンダホース	交換		○															★	1回/2年	168
	各部のグリース注入		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				50時間ごと 作業前後に実施 代かき、湿田作業は毎日	169
ロータリ	ギヤケース チェンケース	点検交換	○	○	●	○		○		○		●		○		○				100時間ごと 400時間ごと	180 181
	グリースの補給 ①ユニバーサルジョイント	補充	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				作業前後に実施	182
	注油 ①スーパーヒッチ回転部	補充	○	○		○		○		○		○		○		○				作業前後に実施	183

■安全キャブ仕様

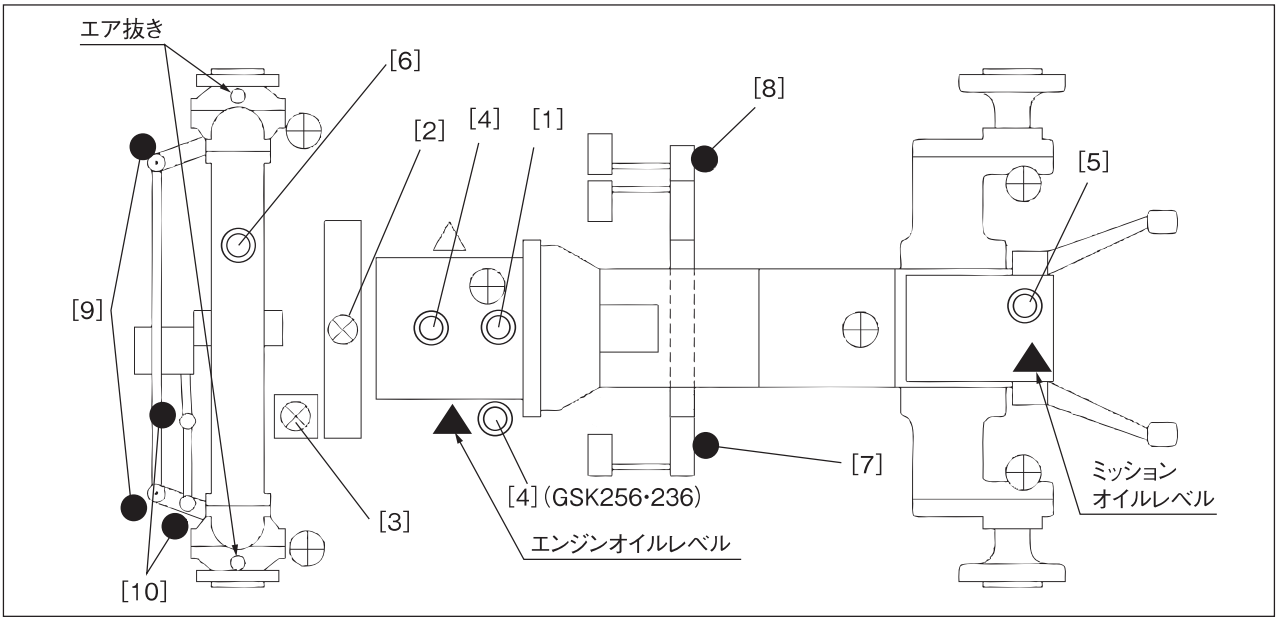
エアコン	エアコン用ベルト	点検調整	○	○				○				○				○				200時間ごと	170
	エアコンコンデンサ	点検洗浄		△				△				△				△				200時間ごと	170
	エアコンホース・パイプ	点検																○		1回/1年	171
	エアコンフィルタ	点検洗浄	○														△			1回/3ヶ月	171
	フロン排出抑制法に基づく簡易点検	点検															○			1回以上/3ヶ月 実施し記録する事	172 217
	ウインドウォッシャー液	補充	○																	随時	172
	防振ゴム	点検																○		1回/1年	172
	電気配線	点検交換		○														○	★	1回/1年 1回/2年	173

■セミクローラ仕様

○：点検、補充、調整　△：清掃、洗浄　★：お買いあげ先での交換・点検をおすすめします

点検項目		点検時間	アワーメータ表示時間																	備考	参照ページ
			作業前	新車初期点検★	50時間	100時間	150時間	200時間★	250時間	300時間	350時間	400時間★	450時間	500時間	550時間	600時間★	1回／3ヶ月	1回／1年★	1回／2年★		
クローラ部	ゴムクローラの張り調整	点検調整	○	○		○		○		○		○				○				新車初期点検時は必須	175 176
	各部グリースアップ	補充	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					178
	各部ボルト、ナットの緩み	点検	○																		－
	転輪、遊輪のオイルとオイルシール（RTS25・23C）	点検交換	○					○				★				○			★	200時間ごとの点検と400時間ごとのオイル交換	177
	転輪、遊輪のオイルシール（RTS22・20C）	点検	○					★				★				★					－
	スプロケットの摩耗	点検	○																		174
	ゴムクローラの損傷	交換	○																		174
	各部の泥、雪付着	点検洗浄	○																		174
	スクレーパと転輪、遊輪の隙間（RTS25・23C）	点検調整	○	○																作業前の点検	179

10.2 給油・給水一覧表



●：グリース給油（グリースニップル）◎：給油口　⊕：排油口　▲：検油口　⊗：ラジエータ（給水口）
△：ラジエータ（排水口）

番号	給油（水）箇所		容量(L)	使用オイル他
[1]	燃料		28.0	ディーゼル軽油（イ）
[2]	ラジエータ本体	GSK226･206	3.5	不凍液（LLC）
		GSK256･236	5.1	
[3]	リザーブタンク		0.6	
[4]	エンジンオイル	GSK256・236・226・206	3.1	ディーゼル（API ＣＦ級以上，SAE10W-30）
		GSK256・236-X	4.4	
[5]	ミッションオイル		25	U・T・Hオイル
[6]	フロントアクスル		5.0	ギヤオイル（API GL-4級以上，＃８０）
[7]	クラッチペダル		適量	リチューム系の一般グリース
[8]	ブレーキペダル			
[9]	タイロッドエンド（前）			
[10]	タイロッドエンド（後）			

※ディーゼル軽油(イ)とは、バイオディーゼル燃料を混合しない軽油です。

補 足

- 表中の容量は交換の際の目安です。交換後は必ずレベルゲージ等で適量かどうか確認してください。
- 使用オイルは推奨潤滑油一覧表（ ☞ 201ページ）を参照してください。

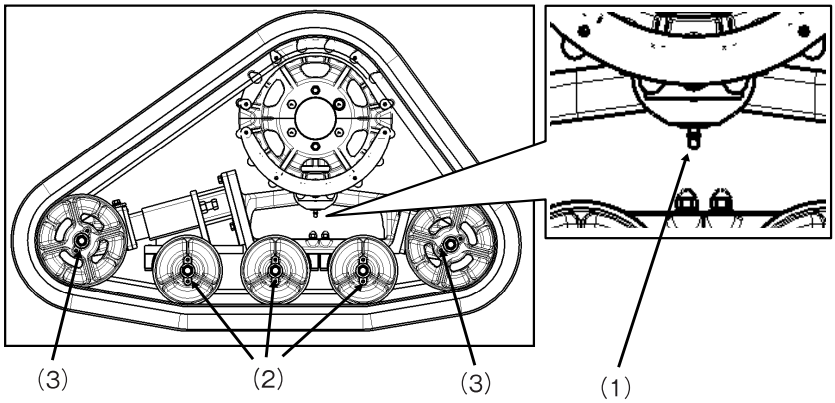
■クローラ部の給油

注 意

グリースアップの必要な場所は50時間ごとにグリースアップしてください。
(代掻き時は毎回実施してください。)
※ 守らないと、各部のシール性が低下し、泥水等が侵入して、各部で破損が発生し、最悪走行できなくなるおそれがあります。

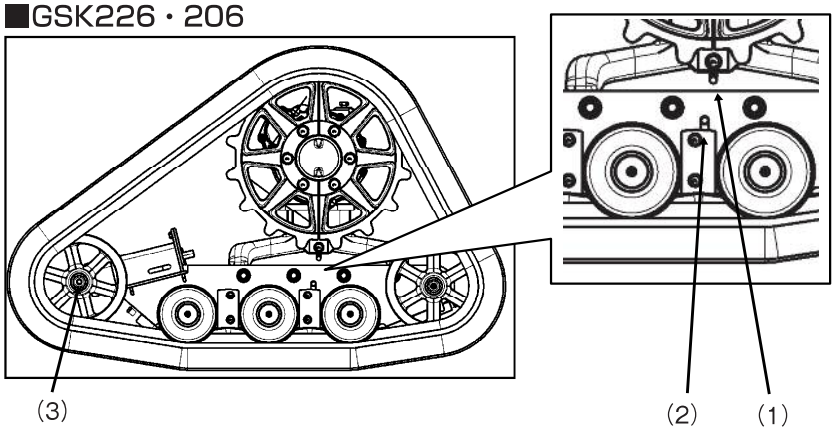
軸受部のオイル量をチェックし、不足ある場合は補充してください。
(GSK256・236)

■GSK256・236



番号	給油箇所	容量（cc）	使用オイル他
〔1〕	揺動支点部	適 量	リチウム系の一般グリース
〔2〕	転 輪	60	ギヤオイル API GL4級以上、#80)
〔3〕	遊 輪	120	

■GSK226・206



番号	給油箇所	容量（cc）	使用オイル他
〔1〕	揺動支点部	適 量	リチウム系の一般グリース
〔2〕	転輪・後遊輪		
〔3〕	前遊輪		

補 足
- 表中の容量は交換の目安です。交換後は必ず検油口等で適量かどうか確認してください。（ ☞ 177ページ）
- 使用オイルは推奨潤滑油一覧表（ ☞ 201ページ）を参照ください。

10.3　エンジン周りのカバー類の脱着

⚠ 警 告

エンジン関係の点検・清掃・調整を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
また、エンジン停止直後は、マフラ、およびその周辺は大変熱くなっています。
十分冷えてから点検・清掃・調整を行ってください。
※　守らないと、回転部に巻き込まれたりやけどしたり、人身事故の原因になります。

ボンネットやエンジン周辺のカバー類を脱着するときは、巻き込まれないように注意してください。
※　守らないと、回転部に巻き込まれ人身事故の原因になります。

10.3.1　ボンネットの開閉

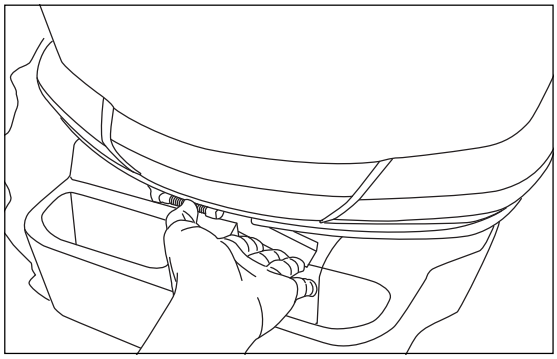
⚠ 警 告

ボンネットを開き、点検・調整するときは、必ずボンネットが、ダンパーで開位置に保持されているか確認してください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

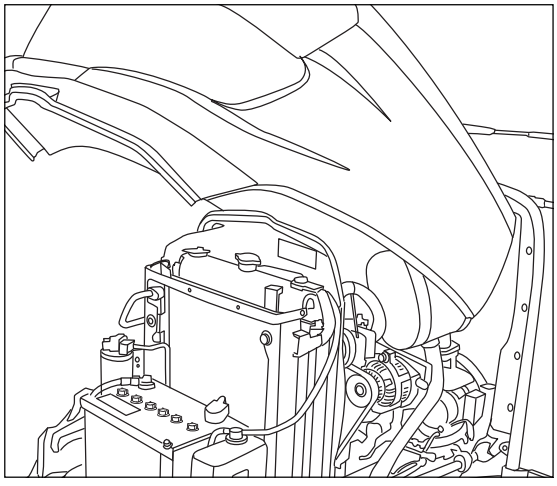
1 レバーを上方向に操作するとロックが外れます。

2 ボンネット先端を持ち上げると、ダンパーにより軽く開きます。

3 ボンネットを閉めるときは、ボンネット先端を持ち降ろしてください。
最後に押し込むと自動的にロックします。



RTS2395



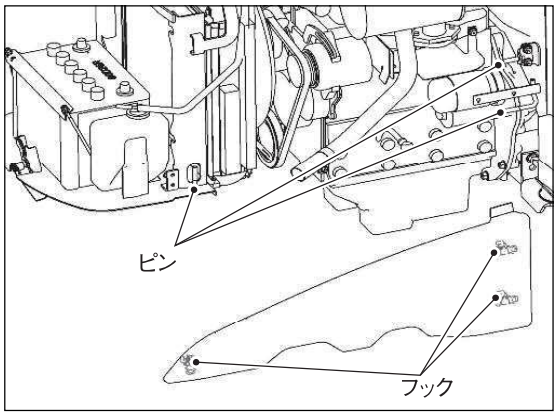
RTS3302

10.3.2 サイドカバーの脱着

1 ボンネットを開けます。

2 サイドカバーのフック付近を持って外側に開いてください。

3 サイドカバーを取り付けるときは、フックをピンに押し込んでください。



RTS2396

10.4　点検・清掃・調整のしかた

10.4.1　エンジンオイル

■点検・補給

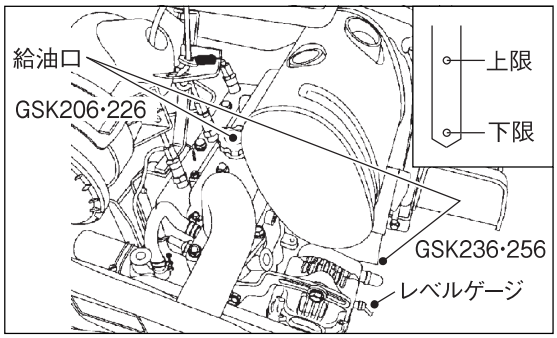
1 レベルゲージを抜いて先端をきれいにふき、改めて差し込みます。

2 再度抜いて、「上限」と「下限」の間にオイルがあるか調べます。

3 レベルゲージが「下限」以下の場合は、補給してください。

補 足

- **エンジンオイルは「上限」以上に入れないでください。**
- **エンジンオイルは必ず 純正オイルを使用してください。**
  （ ☞ 184ページ）

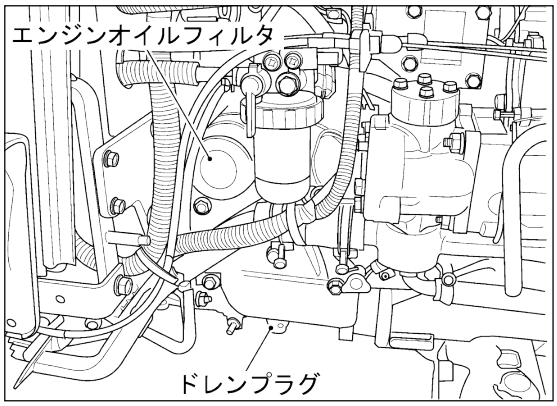


RTS0025

■交換

1 ドレンプラグを外して容器にオイルを排出します。

2 ドレンプラグを締めて、給油口からエンジンオイルを規定量まで入れてください。



RTS3304

⚠ 注 意

- **抜き取った廃油等の油脂類は、専門の処理業者、または、「お買いあげ先」へ依頼して処理してください。**
  廃油等を捨てたり放置すると、法令違反となり処罰されます。

■エンジンオイルフィルタの交換

1 市販のフィルタレンチでオイルフィルタを取り外します。

2 新しいオイルフィルタのOリングにオイルを薄く塗布してから、手で確実に締め付けます。（シール面のゴムパッキンが接触してから、約2/3回転、締め付けてください。）

3 給油口からエンジンオイルを規定量まで補給します。

4 エンジンを約5分間運転し、オイルランプの作動に異常がないことを確認してから止めます。（☞ 51ページ）

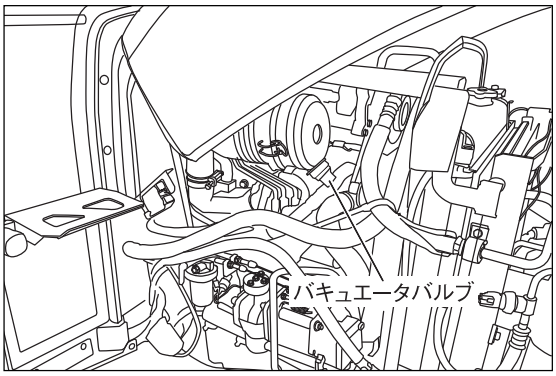
5 再びレベルゲージで油面を確認し、不足していれば給油口からエンジンオイルを補給してください。

10.4.2 エアクリーナの清掃

■バキュエータバルブの清掃

1 ボンネットを開けます。

2 バキュエータバルブを指でつまんで内部のゴミを落とします。
水分があるときは、エアクリーナ内部を布でふき取ってください。



RTS3305

■エレメントの清掃

注 意

清掃時は、エレメントを石やコンクリートのような硬い物でたたかないでください。
※　エレメントが破損・変形すると、エンジンの性能が発揮できなくなります。

1 クリップを外し、エアクリーナ本体からエレメントを取り外します。

2 エレメントの清掃は以下の要領で行ってください。

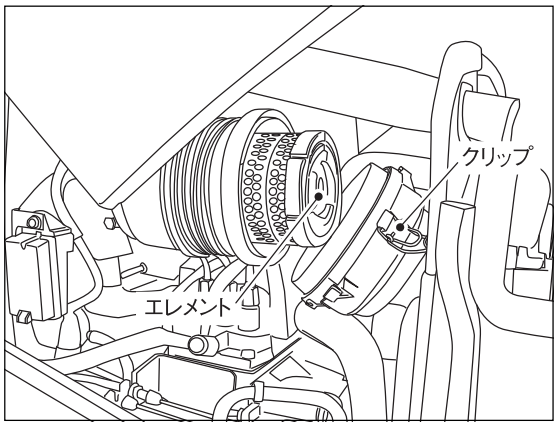
(1)　乾いたホコリが付いている場合
エレメントの内側から空気を吹き付けるかまたは、手で軽くたたいてゴミを取り除いてください。

(2)　湿ったホコリ、油分等で汚れている場合
家庭用中性洗剤を水で薄め、エレメントを約30分浸し、その後軽くすすぎ洗いをし、自然乾燥させてください。

3 エレメント清掃後、確実に組み付けてください。

補 足

- **エアクリーナ各部の締め付けは、確実に行いゴミを吸い込まないようにしてください。**



RTS3306

■エレメントの交換

エレメントは5回清掃後または破損している場合は交換してください。

10.4.3 冷却水

⚠ 警 告

ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。
運転停止後十分に冷えてから注意して開けてください。
※ 守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。

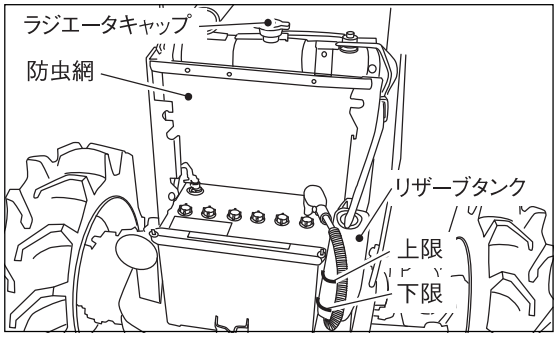
■点検・補給

1 ボンネットとフロントグリルを開きます。

2 リザーブタンク内の冷却水が上限「FULL」と下限「LOW」の間にあることを確認します。

3 少ない場合はリザーブタンク上限「FULL」まで補給します。

4 冷却水が「LOW」より低い位置にある場合はエンジンが十分に冷えてから、ラジエータキャップを外し、本体の液量も確認してください。

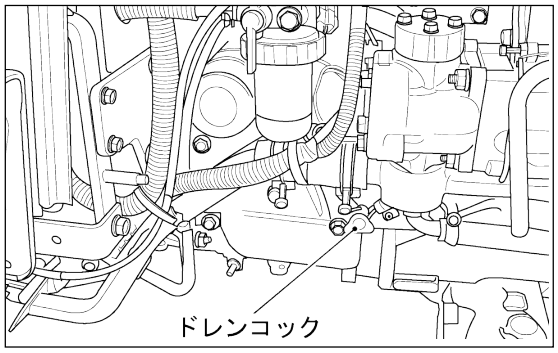


RTS3310B

■交換

1 冷却水は、エンジン右側のドレンコックを開けて容器に抜きます。同時にラジエータキャップを開けると、排出しやすくなります。

2 リザーブタンクの排水は、リザーブタンクを外して行います。



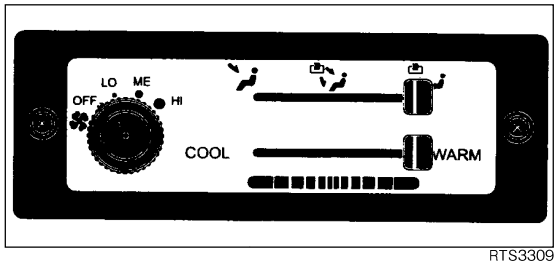
RTS3308

3 水道水でラジエータ内部をよく洗浄します。

4 ドレンコックを閉じて、冷却水をラジエータ内にいっぱい入れ、リザーブタンクには給水口より上限「FULL」まで入れます。

5 ラジエータキャップを確実に締めます。

6 エンジンを始動し、約5分間中速回転（約1500rpm）で運転した後、エンジンを停止してください。
安全キャブ仕様は、エアコン操作パネルを右図の位置（暖める）にしてエンジンを運転してください。



RTS3309

7 エンジン停止後、十分に冷却水が冷えた後、ラジエータキャップを外します。

8 ラジエータ内の冷却水を確認します。不足している場合は、リザーブタンクの給水口より上限「FULL」まで補給します。

補 足

- **冷却水は上限「FULL」以上は絶対入れないでください。**
  ラジエータの性能が十分発揮できなくなるほか、冷却水が漏れる原因となります。

■不凍液の使いかた

冷却水が凍結すると、エンジンを破損することがあります。冬期、気温が0℃以下になるようなときは、不凍液を混入してください。

(1)　不凍液を入れる前に、よくラジエータ内部を洗浄してください。
(2)　不凍液の混合比は、不凍液メーカや気温により異なります。不凍液メーカの説明書に従ってください。
(3)　不凍液は水とよく混合し、注入してください。
(4)　不凍液の補給
　(a) 蒸発の場合……冷却水が減った分だけ清水を補給してください。
　(b) ブリーザより漏れた場合……同じ比率に混合した不凍液を補給してください。

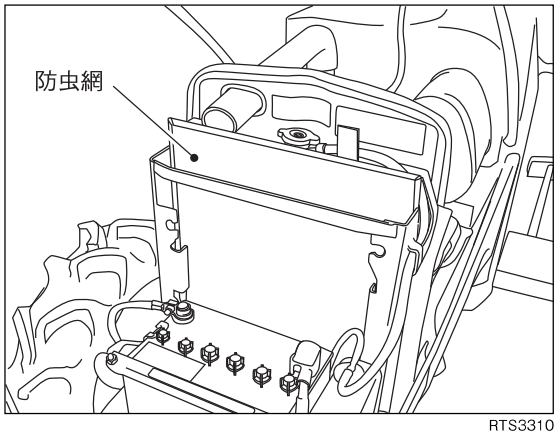
10.4.4　ラジエータの清掃

⚠ 警 告

ラジエータの清掃をするときは、必ずエンジンを停止してください。
※　守らないと、回転部に巻き込まれる等の傷害事故を起こすおそれがあります。

■防虫網の清掃

水田・草地や夜間の作業をすると、ラジエータに草・ワラくず・虫等が付着して詰まることがあります。ボンネットを開け、防虫網を引き出して清掃をしてください。



RTS3310

■ラジエータコアの清掃

フィンとチューブの間にまでゴミが入った場合は、水道水で流してください。

補 足

- **ラジエータが目詰まりするとオーバーヒートし、エンジンの焼き付き等の重大な損傷につながる場合があります。**
- **強い圧力水を直接ラジエータにかけると、フィンが変形することがあります。十分注意してください。**
- **エンジン回りの電気配線・電装品には直接水をかけないでください。**

■ラジエータホースの点検

ラジエータホースは200時間ごとにひび、亀裂、冷却水漏れがないか点検してください。異常があれば交換してください。

ラジエータホースなどゴム製品は、使わなくても劣化する消耗品です。異常がなくても締付バンドと共に2年に1回は新品と交換してください。

10.4.5 燃料

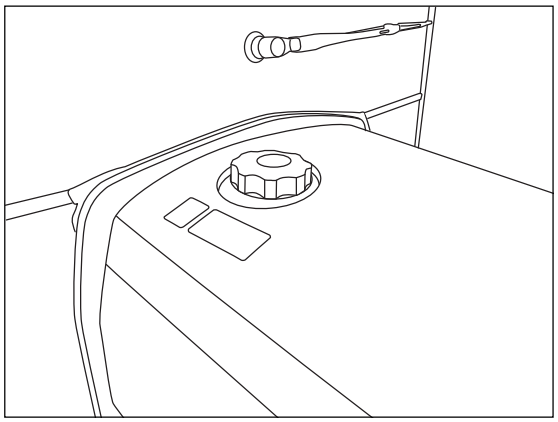
⚠ 危険

燃料を補給するときは、くわえたばこ等の火気厳禁です。
※ 守らなかった場合、火災の原因になります。

燃料は、ディーゼル軽油を使用してください。

補 足

- **燃料タンク内に、水・ゴミ等が入らないよう注意してください。**
- **給油後は、燃料キャップが確実に閉まっていることを確認してください。**



RTS3311

■満タン警報ブザー

満タン警報ブザーが装備されています。

1 メインスイッチを「運転」位置にしてください。

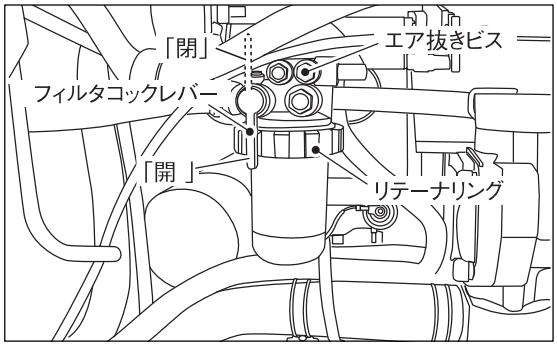
2 燃料キャップを外し、燃料を給油してください。給油時にブザーが断続的に鳴り、満タンに近づくと断続音から連続音に変わり燃料の給油状況をお知らせします。

補 足

- **連続音に変わったら、入れすぎに注意しながら給油してください。**
- **安全キャブ仕様は、ドアを開けた状態で給油してください。（ドアを閉めているとブザーが聞こえません。）**
- **ブザーはメインスイッチを「運転」位置にしてから10秒後に鳴り始めます。**

3 給油が終わったら、メインスイッチを「停止」位置に戻してください。

■燃料フィルタの清掃・交換



RTS0030B

1 燃料中に含まれる水・ゴミがフィルタ内に沈殿しているか点検します。

2 水・ゴミがたまっている場合は、リテーナリングを外し、排出します。
400時間ごとまたは汚れのひどいときは交換してください。

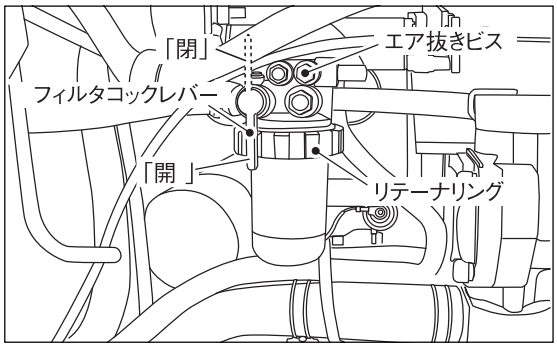
3 締め付けは、燃料漏れのないよう十分注意してください。

■燃料ホースの点検

燃料ホースは100時間ごとに、点検してください。
ひび・亀裂・燃料漏れがある場合は交換してください。
燃料ホースなどゴム製品は、使わなくても劣化する消耗品です。異常がなくても締付バンドと共に2年に1回は新品と交換してください。

■エア抜き

燃料切れや燃料フィルタ・燃料ホースを取り外したときは、燃料系統のエア抜きをする必要があります。



RTS0030B

1 燃料フィルタのコックレバーを「閉」にして、燃料タンクに燃料を入れます。

2 燃料フィルタのコックレバーを「開」にして、メインスイッチを「運転」にします。

3 燃料フィルタの下に燃料用の受けをおいてから、燃料フィルタのエア抜きビスをゆるめ、燃料の流出を確認します。

4 エア抜き後、燃料漏れのないよう確実に、エア抜きビスを締め付けます。フィルタ等に付着した燃料はきれいに清掃してください。燃料の受けで受けた燃料は専門の処理業者または、「お買いあげ先」へ依頼して処理してください。

10.4.6 ファンベルトの張り具合

⚠ 警 告

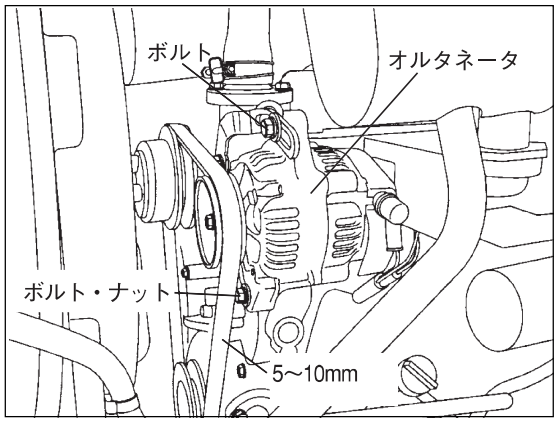
マフラは、エンジン停止後、十分冷えてから点検を行ってください。
※ 守らないと、やけどをすることがあります。

■点検

1 ベルトの中央部を押さえて、5～10mm程度たわむか、確認します。

2 ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足の原因となります。下記の要領で調整してください。

3 ベルトに亀裂やはがれがないか点検し、損傷があれば新品と交換してください。



RTS3314

■調整

1 オルタネータを取り付けているナットとボルトをゆるめます。

2 オルタネータを動かし、ベルトの中央部を押さえて、ベルトの張りが5～10mmたわむ程度に調整します。

3 調整後はナットとボルトを確実に締め付けます。

補 足

- **新品のファンベルトは組み付け直後、運転すると、必ず初期伸びが発生します。交換調整後約1時間運転した後、初期伸び調整を再度行ってください。**
  この調整を行わないと、オーバーヒートや充電不足の原因になります。

10.4.7　バッテリ

⚠ 危 険

ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は風通しのよいところで行ってください。
※　守らないと、引火爆発するおそれがあります。

バッテリ液を身体や衣服に付けないようにしてください。
バッテリ液（電解液）は希硫酸で劇物です。
※　失明や、やけどをするおそれがあります。
もし、目・皮膚・衣服に付いたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

⚠ 警 告

ブースターケーブル使用時には、十分注意して取り扱ってください。
※　注意を怠ると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。（☞ 17ページ）

■取り扱い

（1）　気温が低下すると、バッテリの性能も低下します。冬期は特にバッテリの管理に注意してください。
（2）　バッテリは使用しなくても自己放電しますので、補充電を行ってください。
●夏期……2ケ月ごと
●冬期……3ケ月ごと
（3）　トラクタを長期格納する場合は、バッテリを外し日光の当たらない乾燥した場所に保存してください。
トラクタに取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）を外してください。
アースを外したときは、その旨をメモ書きしてトラクタに貼り付けておくと便利です。
（4）　新品のバッテリと交換する場合は、必ず指定した型式のバッテリを使用してください。

クラス	バッテリ型式
GSK236･256	80D26R
GSK226･206	55B24R

補 足

- バッテリは必ず車体から取り外して充電してください。電装品の損傷の他に配線等を傷めることがあります。
- バッテリの急速充電はバッテリの寿命を短くしますから、できるだけ避けてください。
- 充電は、バッテリの⊕を充電器の⊕に、⊖を⊖にそれぞれ接続して、普通の充電法で行ってください。
- バッテリを外し、再度取り付けるときには、バッテリの⊕⊖のコードを元どおりに配線し、周りに接触しないように締め付けてください。
- バッテリコード（端子）を取り外すときは、⊖コードを先に外します。バッテリコードを取り付けるときは、⊕コードを先に取り付けます。
  これを怠ると、ショートして火花が飛んだりします。

10.4.8　ミッションオイル

■点検・補給

1 平たんな場所へトラクタを置きます。

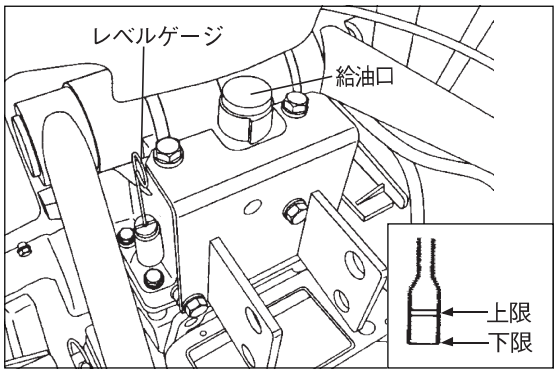
2 レベルゲージを外し、先端をきれいにふき、元の状態までねじ込みます。

3 再び外し、「上限」と「下限」の間にオイルがあるか調べます。

4 「下限」以下の場合は補給してください。
ただし、「上限」以上は入れないでください。

補 足

- **ミッションオイルはU・T・Hオイルを使用してください。**
（ ☞ 202ページ）

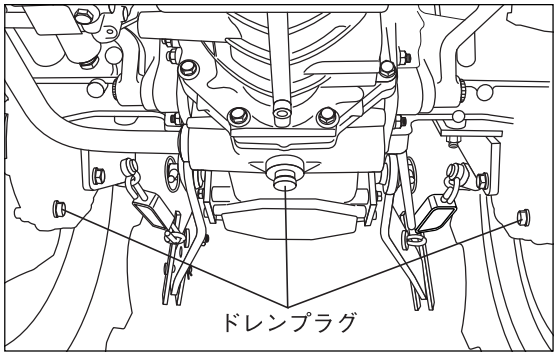


RTS3315

■交換

1 ドレンプラグを外して、容器にオイルを排出します。

2 ドレンプラグを元通りに戻した後、給油口からオイルを規定量まで入れてください。
給油後、オイル量の点検を行ってください。



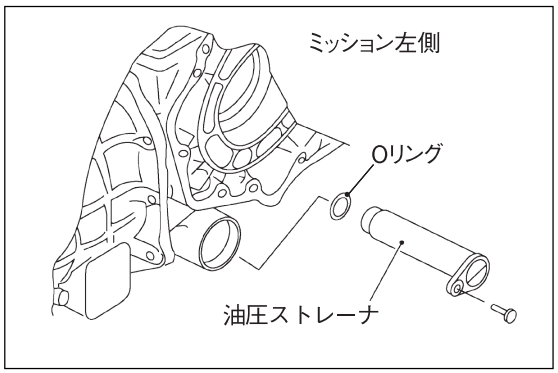
RTS3316

⚠ 注 意

- **抜き取った廃油等の油脂類は、専門の処理業者、または、「お買いあげ先」へ依頼して処理してください。**
廃油等を捨てたり放置すると、法令違反となり処罰されます。

10.4.9 油圧ストレーナの清掃

油圧ストレーナが詰まると、油圧系統の故障の原因となります。清掃は定期的に「お買いあげ先」で行ってください。



RTS4301

1 ミッションオイルを容器に抜きます。（☞ 159ページ）

2 ボルトを外し、ストレーナを外します。

3 ストレーナを軽油で洗浄します。

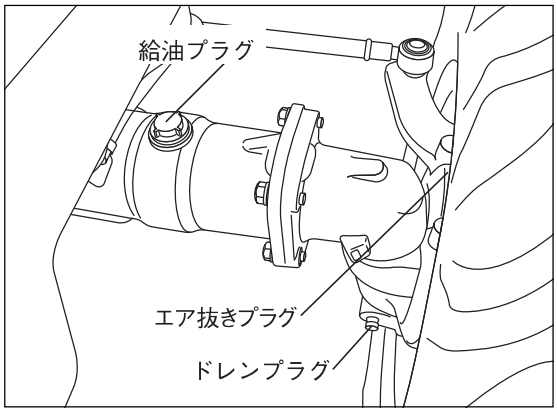
4 洗浄後、ストレーナをケース内へ挿入し、ボルトを締め付けます。

5 給油口からミッションオイルを規定量まで入れます。（☞ 159ページ）

10.4.10　フロントアクスルのオイル

■点検

給油プラグを外し、内部のシャフト中心までオイルがあるかを調べます。
少ない場合はオイルを補給してください。



RTS3318

■交換

1 左右のドレンプラグとエア抜きプラグを外して容器にオイルを抜きます。

2 ドレンプラグを締めて、給油口からオイルを入れます。

3 給油プラグとエア抜きプラグを確実に締めてください。

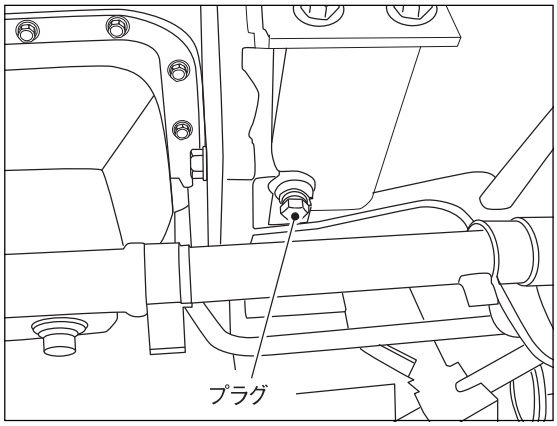
補 足

- **オイルはギヤオイル(API GL4級以上、＃80）　を使用してください。**

（ ☞ 202ページ）

10.4.11　クラッチ室の水抜き

クラッチ室下部のプラグを抜き、水やオイル漏れがないか点検してください。



RTS0270

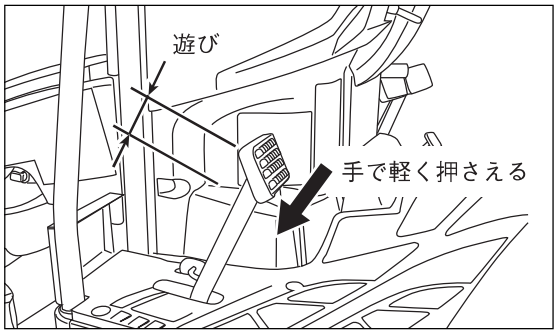
10.4.12　クラッチペダル

■点検

クラッチペダルの遊び量が、20～30mmあるか確認してください。

注 意

クラッチペダルの調整が悪いと、クラッチ切れ不良、スリップを起こしクラッチの破損につながります。



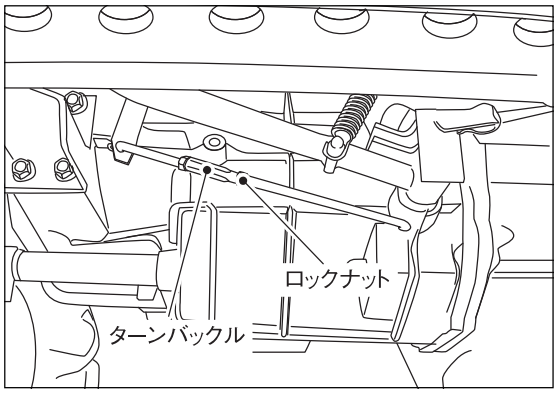
RTS3320

■調整

1 ロックナットをゆるめます。

2 ターンバックルを回してクラッチペダルの遊び量を20～30 mmに調整します

3 ロックナットを確実に締め付けてください。



RTS3321

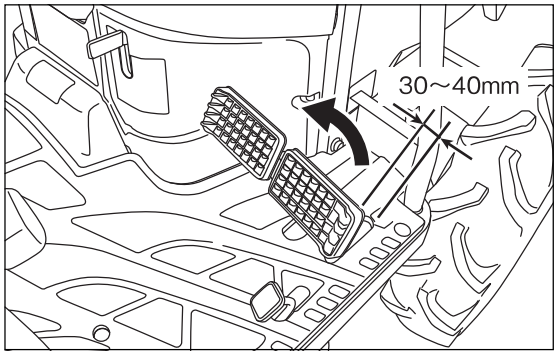
10.4.13　ブレーキペダル

⚠ 警 告

調整時、左右のブレーキペダルの踏み込み量を必ず合せてください。
※　守らないと、ブレーキが片ぎきになり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■点検

左右のブレーキペダルの遊び量が、30～40 mmおよび、ブレーキの踏み込み量が左右で均一になっているかを確認してください。
連結解除ロックレバーを「ほ場」位置にして連結解除ペダルを踏み込み、左右のブレーキペダルの連結を解除してから調整をしてください。



RTS3322

■調整

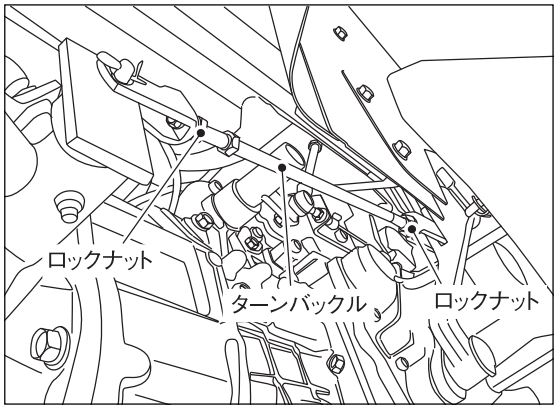
1 パーキングブレーキを解除します。

2 ロックナットをゆるめます。

3 ターンバックルを回してブレーキペダルの遊び量が30～40mmとなり、踏み込み量が左右で均一になるように調整してください。

4 前後2箇所のロックナットを確実に締め付けてください。

5 調整後、パーキングブレーキが確実にかかること、および、ブレーキが正常に作動することを確認してください。



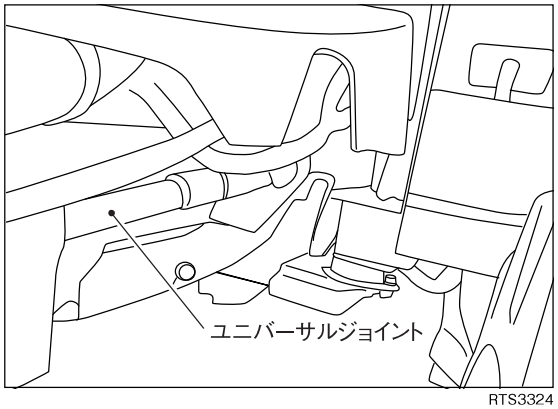
RTS3323

10.4.14　ステアリング

ステアリング系統には、はなはだしい遊びやガタがないことを確認してください。
遊びはステアリングホイール（ハンドル）の外周で30～60mmが標準です。
はなはだしい遊びやガタがある場合は「お買いあげ先」で修理してください。

10.4.15　ユニバーサルジョイントの点検

ユニバーサルジョイントを手で触り、ガタがないか確認してください。
異常の場合は、ただちに「お買いあげ先」で整備してください。



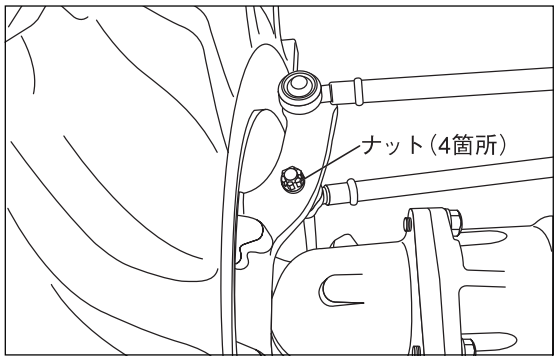
RTS3324

10.4.16　タイロッドエンドの増し締め

⚠ 警 告

ナットがゆるんでいると、ハンドルを取られたり、異常に振れることがあります。
※　このまま走行すると、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

タイロッドエンドのナット（4箇所）がゆるんでいないか確認してください。
異常の場合は、ただちに「お買いあげ先」で整備してください。



RTS3325

10.4.17　タイヤの空気圧

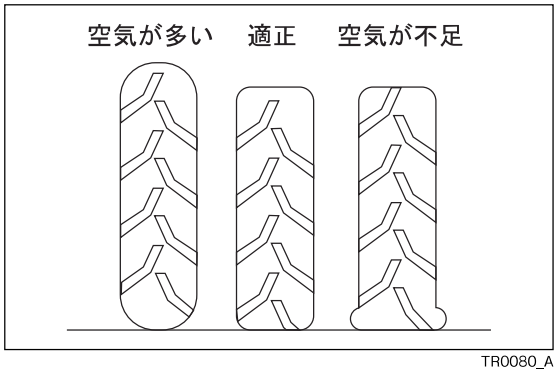
⚠ 警 告

タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。
※　タイヤ破裂のおそれがあります。

タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載されている規定圧を必ず守ってください。
※　空気の入れ過ぎは、タイヤの破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。

タイヤ・チューブ・リム等の交換・修理は、必ず「お買いあげ先」にご相談ください。
※　法律で特別教育を受けた人が行うように定められています。

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観上の目安は右図のとおりです。



TR0080_A

クラス名	フロントタイヤ		
	タイヤサイズ	空気圧	
		kgf/cm2	kPa
GSK256 GSK236	7-16-4PR	180	1.8
GSK226 GSK206	6-14-4PR	180	1.8

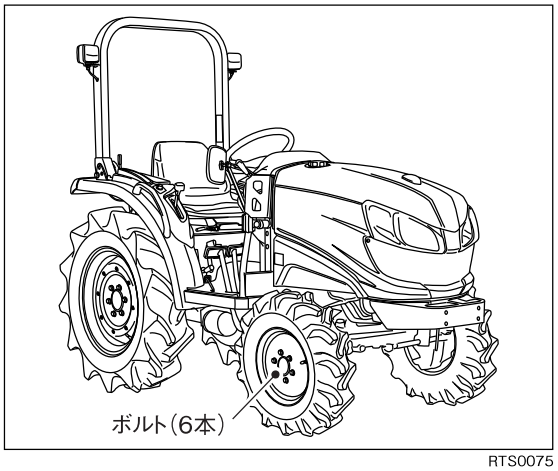
10.4.18　タイヤ締め付けボルトの点検

⚠ 注 意

タイヤ締め付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。
※　ゆるんだまま走行すると脱輪のおそれがあり、傷害事故を引き起こす原因になります。

タイヤの締め付けボルトがゆるんでいないかを調べてください。
異常がある場合は、ただちに「お買いあげ先」で整備してください。

締付トルク
・前輪：79～93N・m



RTS0075

10.4.19　アクセルレバー・ペダル

アクセルレバーの回動が重くなったり、軽くなったりしたときは、調整を「お買いあげ先」に依頼してください。

10.4.20　電気配線の点検と清掃

⚠ 危 険

傷んだ配線は、すみやかに「お買いあげ先」で交換・修理してください。
※　配線の端子や接続部のゆるみ、および、配線の損傷は電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり火災事故になるおそれがあります。

バッテリ、電気配線、および、マフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミ等は、取り除いてください。
※　守らないと、火災の原因となります。

注 意

メータパネル、バッテリ、エンジン周りの電気配線・電装品および電子油圧操作部には圧力水をかけないでください。
※　電気部品の故障の原因となります。

1年に1回、「お買いあげ先」での定期点検を受けてください。また安心して作業できるよう電気配線は、2年に1回交換することをお奨めします。
※　守らないと、故障が発生しやすくなります。

下記の項目について定期的に点検してください。

(1)　配線の損傷がないこと。
　　配線被覆が破れているときは、ビニールテープを巻き補修してください。
(2)　配線のクランプにゆるみがないこと。
　　配線がクランプより外れているときは、所定のクランプに配線を固定してください。
(3)　ターミナル、ブロック（ソケット）の接続部にゆるみがないこと。
(4)　各スイッチが確実に作動すること。

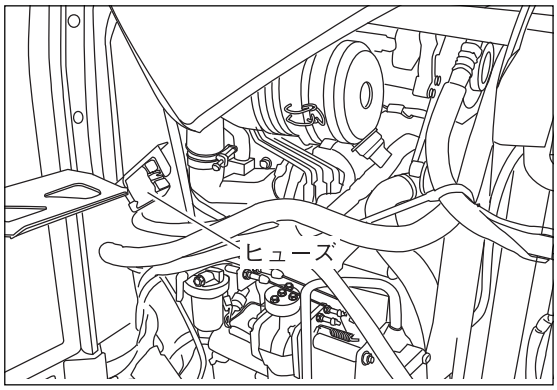
10.4.21　ヒューズおよびスローブローヒューズの取り扱い

⚠ 警 告

ヒューズが切れたときは、切れた原因を調査し、修理してください。
「お買いあげ先」にお問い合せください。
※　大容量のヒューズや、針金等で代用すると焼損の原因や思わぬ傷害事故を引き起こす原因となります。

■ヒューズの交換

ヒューズはボンネットを開き、右サイドカバー後方に取り付けています。ヒューズが切れた場合は、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。
ヒューズボックスカバーにマークが貼り付けてあります。これと照らし合せて確認してください。



RTS3327A

X型以外

	スペアヒューズ	ヒューズ抜き工具
メータパネル 電子油圧　15A		メータパネル 常時電源　10A
燃料ポンプ キーストップ 10A		外部電源　20A
外部電源リレー ゼネレータ　10A		予熱信号　10A
ワークランプ ウインカ　10A		キーストップ リレー　10A
ヘッドライト ホーン　10A		セフティリレー　10A
		チェック　5A

X型

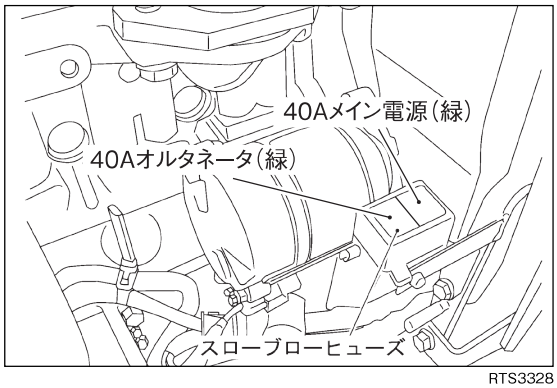
	スペアヒューズ	ヒューズ抜き工具
メータパネル 電子油圧　15A		メータパネル 常時電源　10A
燃料ポンプ キーストップ 10A		外部電源　20A
外部電源リレー ゼネレータ　10A		キーストップ リレー　10A
グロー コントローラ　5A		セフティリレー　10A
ワークランプ ウインカ　10A		グロー コントローラ 10A
ヘッドライト ホーン　10A		
作業灯　ソケット ワイパリレー 10A		
CD ラジオ　10A		
		チェック　5A

■スローブローヒューズ

⚠ 警 告

ヒューズが溶断したときは、溶断した原因を調査し、修理してください。
「お買いあげ先」にお問い合せください。
※　大容量のヒューズや、針金等で代用すると焼損の原因や思わぬ傷害事故を引き起こす原因となります。

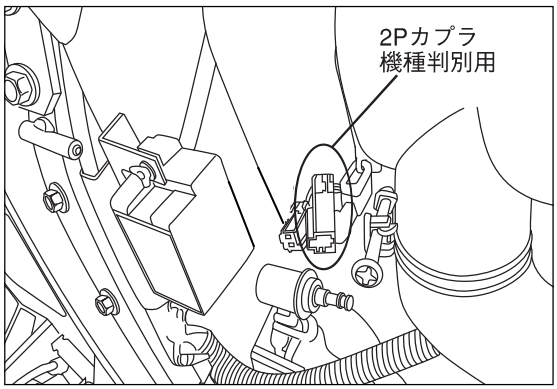
配線中にスローブローヒューズが2個（40A・40A）設置されています。
スローブローヒューズはヒューズの一種で、過大電流が流れたりショートしたときに、溶断して配線の損傷を防ぎます。
<チェック方法>
黒いケースのフタを開けるとスローブローヒューズが見えます。溶断している場合は、スローブローヒューズを抜き、交換してください。



RTS3328

■機種判別用カプラ

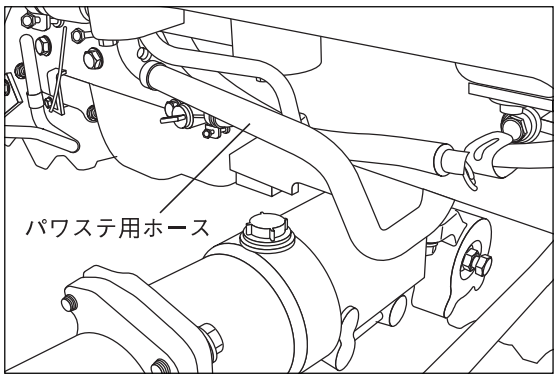
機種判別用の物ですから、外れていても接続したりしないでください。



RTS3329

10.4.22　パワステ用ホース

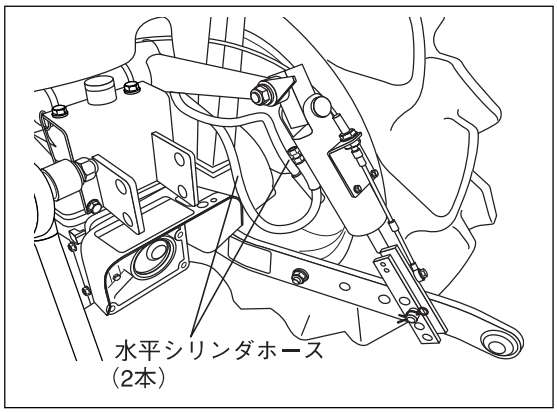
(1)　パワステ用ホースは100時間ごとに、ひび・亀裂・油漏れがないか点検してください。
　　異常がある場合は交換してください。
(2)　パワステ用ホースは異常がなくても、2年に1回は交換してください。



RTS3330

10.4.23　水平シリンダホース

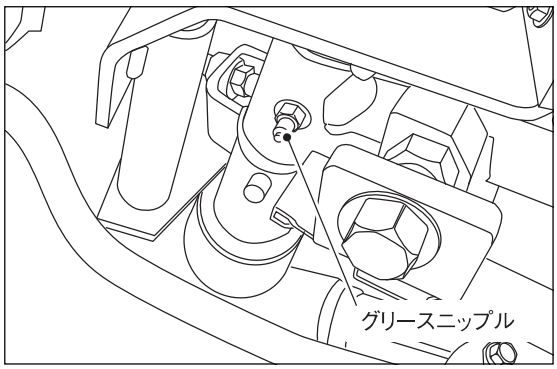
(1)　水平シリンダホースに、ひび・亀裂・油漏れがないか点検してください。
　　異常がある場合は交換してください。
(2)　水平シリンダホースは異常がなくても、2年に1回は交換してください。



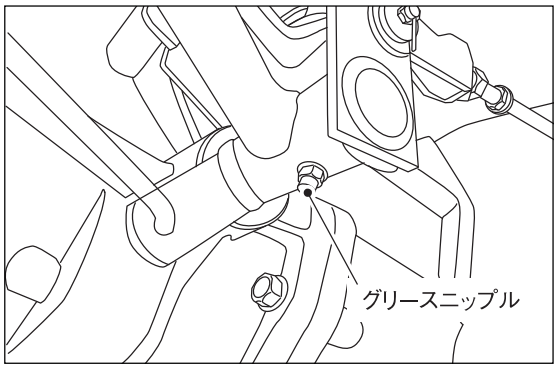
RTS3331

10.4.24　グリース注入

(1)　クラッチペダル・ブレーキペダル
ステップ下側の3箇所にグリースを少量注入してください。

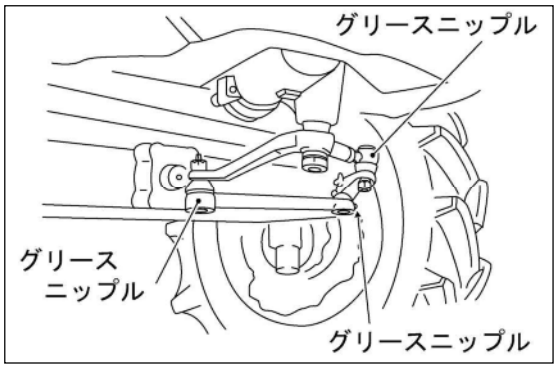


RTS0271



RTS0272

(2)　タイロッドエンド
タイロッドの両端のグリースニップル4箇所にグリースを少量注入してください。

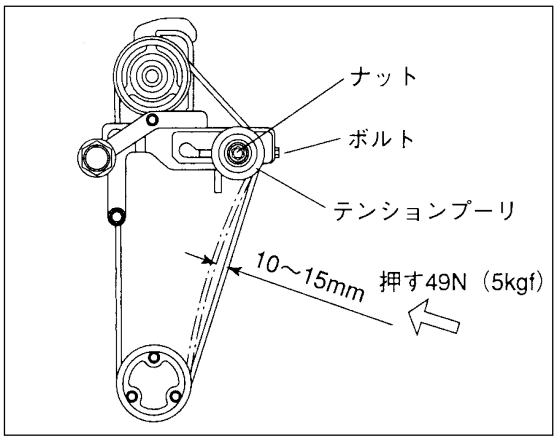


RTS3334

10.5　安全キャブの点検・清掃・調整

10.5.1　エアコンベルトの点検

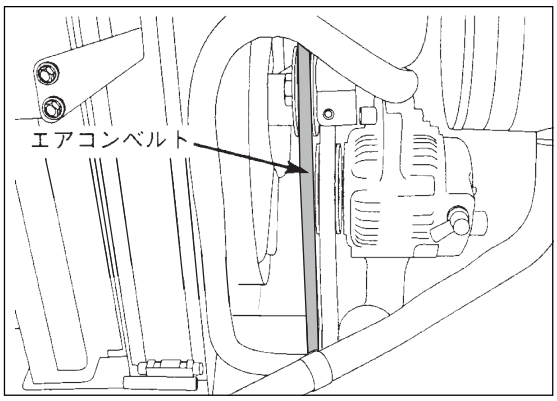
ベルトの中央部を手で抑えて10～15mm程度たわむか、確認してください。
ベルトの張りがゆるいと、エアコンが作動しません。
ベルトに亀裂やはがれがないか点検し、損傷があれば新品と交換してください。



RTS3335

■エアコンベルトの調整

(1)　テンションプーリを締め付けているナットをゆるめてください。
(2)　ボルトでテンションプーリを動かし、ベルトの張りが10～15mmたわむ程度に調整します。
(3)　調整後ナットとボルトを確実に締め付けてください。



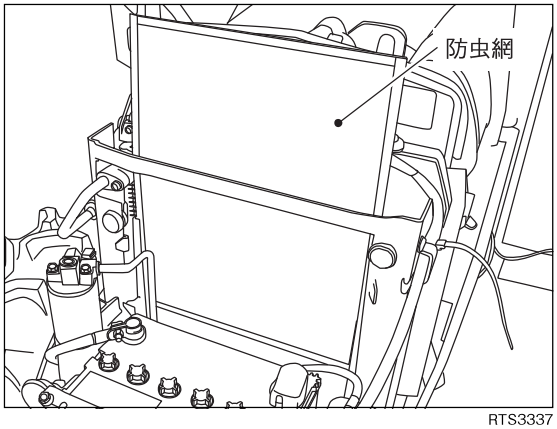
RTS3336

補 足

- **新品のエアコンベルトは組み付け直後運転すると、必ず初期伸びが発生します。ベルトを交換した場合は、交換調整後約１時間運転した後に、初期伸び調整を再度行ってください。この調整を行わないと、エアコンが効かなくなります。**
- **必ず指定ベルトを使用しベルトの張りすぎに注意してください。指定ベルト以外を組み付けたり、張りすぎると、ベルト切れすることがあります。**

10.5.2　エアコンコンデンサの点検

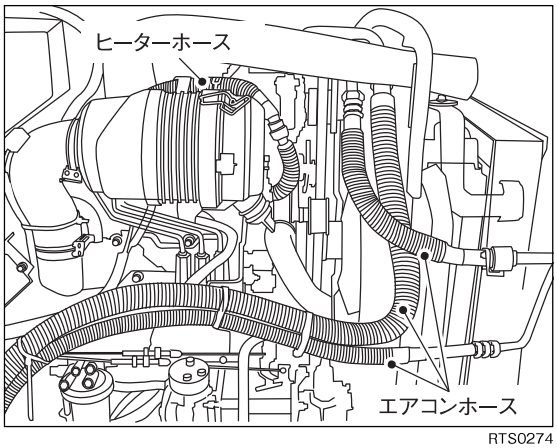
コンデンサに附着した泥やゴミは防虫ネットを取り外して水道水で洗い落としてください。



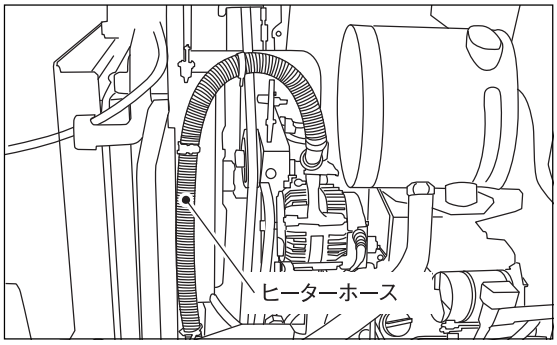
RTS3337

10.5.3　エアコンホース・パイプの点検

エアコンホース・パイプに、ひび・亀裂がないか点検してください。
異常がある場合は「お買いあげ先」で交換してください。



RTS0274



RTS0275

10.5.4　エアコンフィルタの点検・清掃

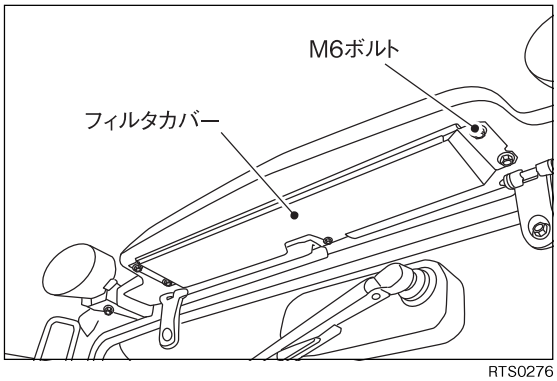
エアコンフィルタの点検・清掃は、使用条件によって異なりますが、１ケ月に１回程度実施してください。
清掃を怠ると、エアコン風量の低下やエアコン本体の故障の原因となります。

(1)　M6ボルト（４箇所）を取り外しフィルタカバーを開けます。

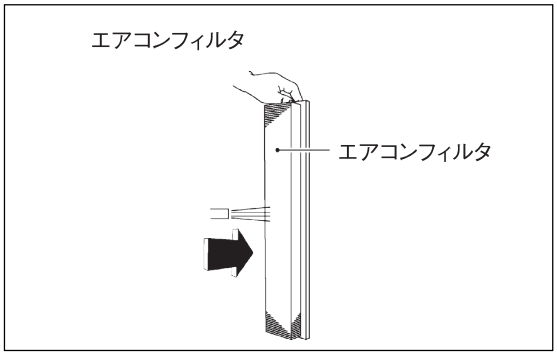
(2)　エアコンフィルタを取り出してください。

(3)　風のながれ方向の逆方向より、空気を吹き付けてください。

(4)　清掃後、元通りに組付けてください。



RTS0276



RTS0277

10.5.5　フロン排出抑制法に基づくエアコン機器の簡易点検

■点検

フロン排出抑制法により、エアコン機器の管理者（トラクタの所有者など）には、機器及びフロン類の適切な管理義務があります。
エアコン機器は、１回以上／３ヶ月の簡易点検が必要です。簡易点検実施記録表（取説最終ページ参照）に記録を取って、エアコン機器を廃却するまで保管してください。

補 足

- **簡易点検の実施は、法律に基づく義務です。違反した場合には、都道府県による指導・助言の対象となる場合があります。**

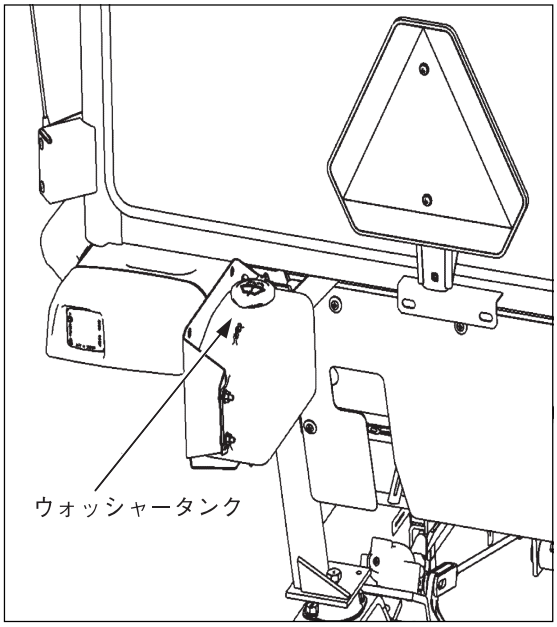
10.5.6　ウインドウォッシャー液の点検・補充

ウォッシャー液が少なくなったら、自動車用ウォッシャー液を補充してください。

(1)　ウォッシャータンクの右側の爪を押したまま回動し、後方に出してください。
(2)　キャップを外し、規定量（約2.2L）までウォッシャー液を補充してください。

補 足

- **清水のままだと、冬期に凍結することがあります。凍結した場合ウインドウォッシャー液は噴出されません。**
- **ウォッシャー液が出ないときは、ウォッシャースイッチを操作しないでください。故障の原因になります。**
- **ウォッシャーノズルのつまりを防ぐために、ゴミがウォッシャータンク内に入らないようにしてください。**



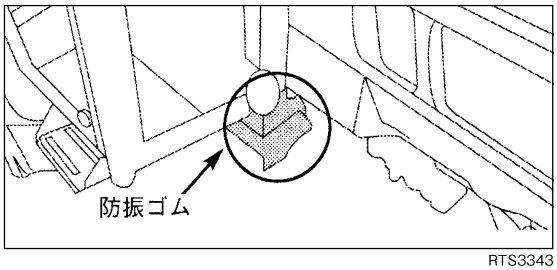
RTS0139

10.5.7　防振ゴムの点検

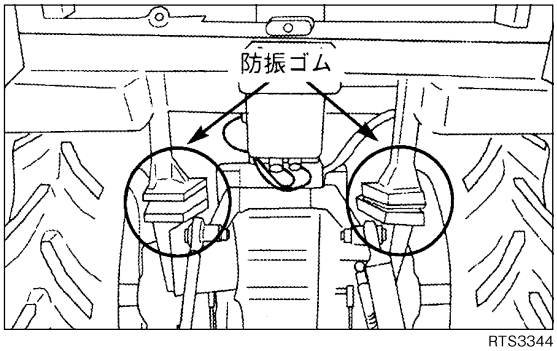
防振ゴムはフロアフレーム・キャビンの前後左右に４箇所あります。
１年に１回、取付ボルトのゆるみやゴムの亀裂がないか点検してください。

補 足

- **防振ゴムがへたってくると、安全キャブが大きく揺れたり、振動が大きくなります。**
  ゴムの亀裂等があれば「お買いあげ先」で交換してください。



RTS3343



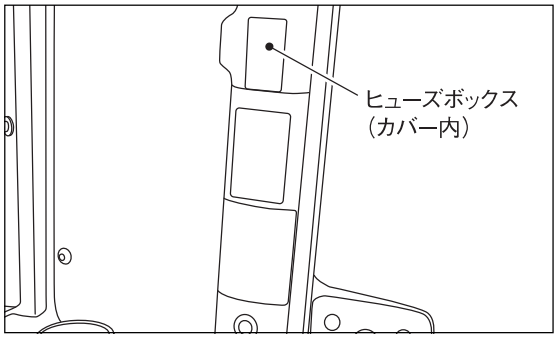
RTS3344

10.5.8　安全キャブ専用ヒューズの交換

⚠ 警 告

ヒューズが溶断したときは、溶断した原因を調査し、修理してください。
「お買いあげ先」にお問い合せください。
※　大容量のヒューズや、針金等で代用すると焼損の原因や思わぬ傷害事故を引き起こす原因となります。

(1)　ヒューズは安全キャブ室内の左側のカバー内にあります。
(2)　ヒューズが切れた場合は、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。
大容量のヒューズをつけると焼損の原因となりますので行わないでください。
(3)　カバーにシールを貼り付けていますので、これと照らし合わせてチェックしてください。

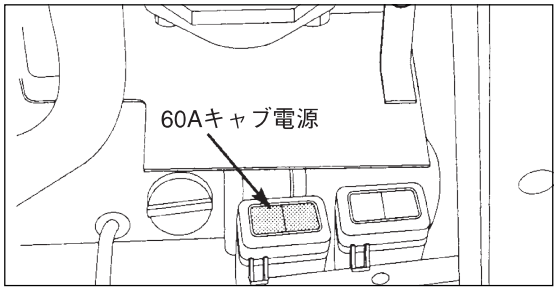


RTS3345

15A	作業灯（後）	5A	ルームランプ
15A	作業灯（前）	15A	ブロア
15A	CDラジオ（メモリ）	15A	ソケット
10A	ワイパモータ（前）	7.5A	エアコン
10A	ワイパモータ（後）	15A	ワイパスイッチウォッシャ

10.5.9　安全キャブ専用スローブローヒューズの扱い

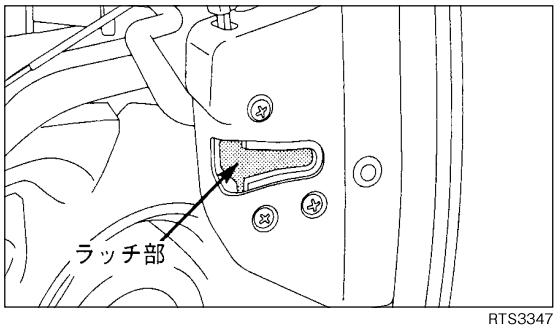
(1)　スローブローヒューズはヒューズの一種で、過大電流が流れたりショートしたときに、ヒューズが溶断して配線の損傷を防ぎます。
(2)　60Ａ安全キャブ回路（ヒューズの色：黄）
ワイパや作業灯が同時に作動しないような場合は、エンジンルーム内スタータの上のスローブローヒューズを点検してください。



RTS3346

10.5.10　安全キャブドアのラッチ部

左右のドアのラッチ部にグリースを少量塗布してください。
使用オイル：リチューム系の一般グリス。



RTS3347

10.6　クローラの点検・整備・調整

セミクローラ仕様機はホイール（タイヤ）仕様機に比べ、点検整備を必要とする箇所が多くあります。
機械の寿命アップや故障を未然に防ぐ為、日頃の点検・整備を必ず行ってください。
また、メンテナンスシートは、必ず機械に搭載してください。重要な点検・整備箇所をイラスト付で記載していますので、点検・整備がすばやく出来ます。

10.6.1　乗車と作業前点検

■点検項目一覧表

点　検　箇　所	点　検　内　容
ゴムクローラ	●クローラに大きな損傷はありませんか。 ●クローラの張りは適正ですか。
スプロケット 遊輪 転輪	●泥詰まりや石のかみこみはありませんか。 ●雪詰まりはありませんか。 ●草の巻きつきはありませんか。 ●極端な摩耗や偏摩耗はしてませんか。
遊輪 転輪 （GSK256・236）	●オイル漏れはありませんか。 オイル漏れがある場合は、購入先で点検を受けてください。オイル切れをおこし破損するおそれがあります。
スクレーパ （GSK256・236）	●隙間は適正ですか。 ●極端な摩耗や偏摩耗や変形はしていませんか。 隙間が適正でない場合、遊輪部やクローラフレームが破損するおそれがあります。
各部のボルト・ナット	●緩みはありませんか。
グリースニップル	●グリースアップを定期的に行ってください。 50h毎のグリースアップが目安です。グリースアップ量の目安は、シャフト部からグリースが湧き出すまでが目安です。

10.6.2　ゴムクローラの張り調整(GSK256・236)

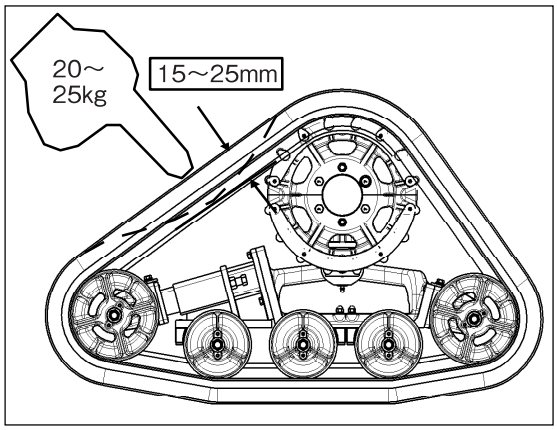
⚠ 警 告

前進走行後停止し、パーキングブレーキをかけてゴムクローラの張りを確認してください。張りが適正でない場合は調整してください。

※　ゴムクローラの張りがゆるいまま走行すると、走行中に脱輪し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。また、張り過ぎは遊輪にクローラの異常な張力が掛かり遊輪を破損するおそれがあります。

■点検

クローラのたわみが20～25kgfで押したとき15～25mmの範囲にあるか確認してください。



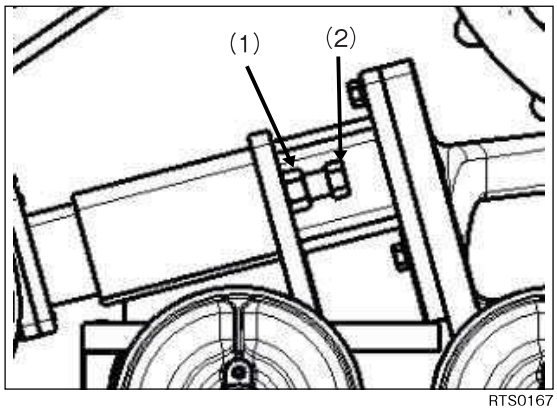
RTS0166

■調整

1 ロックナット（1）をゆるめます(対辺27)。

2 工具を使用し調整ボルト（2）を回し（対辺24)、クローラのたわみが20～25kgfで押した時、15～25mmになるように調整します。

3 調整後はロックナットを元どおりに締め付けます。



RTS0167

補 足

- **クローラの初期伸びについて**
  新車時、および新品のクローラは初期運転すると通常少し伸びます。初期運転後は必ず張り調整を行ってください。

10.6.3 ゴムクローラの張り調整(GSK226・206)

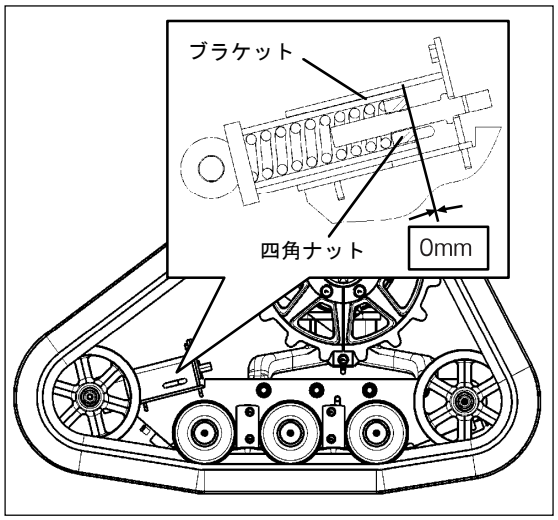
⚠ 警 告

前進走行後停止し、パーキングブレーキをかけてゴムクローラの張りを確認してください。張りが適正でない場合は調整してください。

※ ゴムクローラの張りがゆるいまま走行すると、走行中に脱輪し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。また、張り過ぎは遊輪にクローラの異常な張力が掛かり遊輪を破損するおそれがあります。

■点検

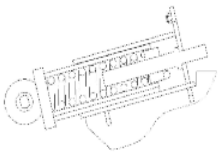
ゲージ穴からのぞいて四角ナットとブラケットの端面が0 mmになっているか点検します。



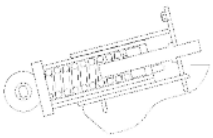
RTS0168

補足

●四角ナットがブラケットの端面から出ている場合はゴムクローラの張りがゆるい状態です。張りを強くする調整をしてください。



●四角ナットがブラケットの端面から奥に入っている場合はゴムクローラが張り過ぎの状態です。張りをゆるめる調整をしてください。

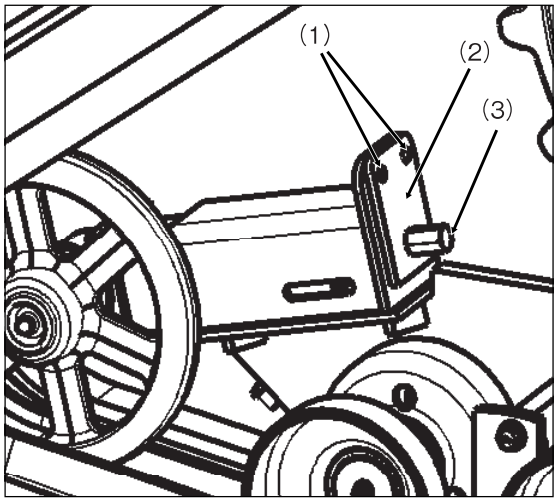


■調整

1 ボルト（対辺14)(1）を２本外して、ストッパプレート（2）を外します。

2 アジャスター(対辺17)(3）を回し、ゲージ穴からのぞいてナットとブラケットの隙間が、0mmになるように調整します。

3 調整後はストッパプレートを元どおりに取り付けます。



RTS0169

補 足

● **クローラの初期伸びについて**
新車時、および新品のクローラは初期運転すると通常少し伸びます。初期運転後は必ず張り調整を行ってください。

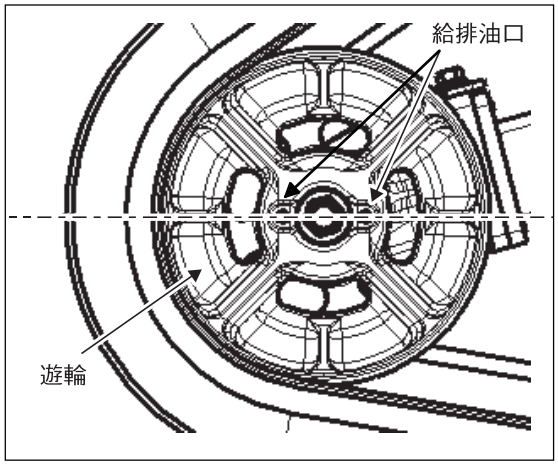
10.6.4　遊輪・転輪の点検(GSK256・236)

⚠ 注 意

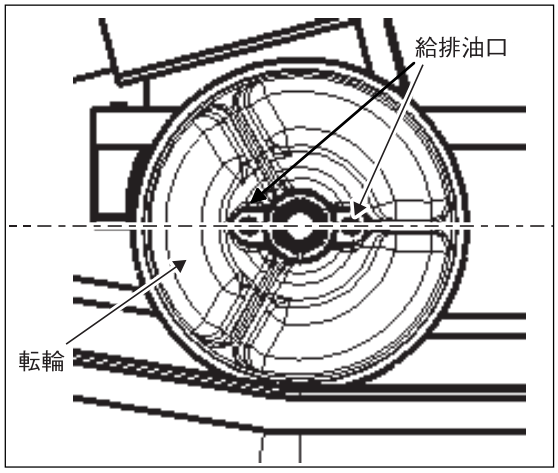
遊輪や転輪にオイル漏れがある場合は、お買いあげ先で点検を受けてください。放置するとオイル切れをおこし遊輪や転輪部が破損するおそれがあります。

■点検

給排油口を車輪中心高さに合わせ、給排油口をはずしオイルが出てくるか確認してください。出てこない場合は「お買いあげ先」にて給油してください。



RTS0170



RTS0171

補 足

- **オイル量の点検や交換はお買いあげ先での点検・交換を強く推奨します。**

10.6.5 グリース注入

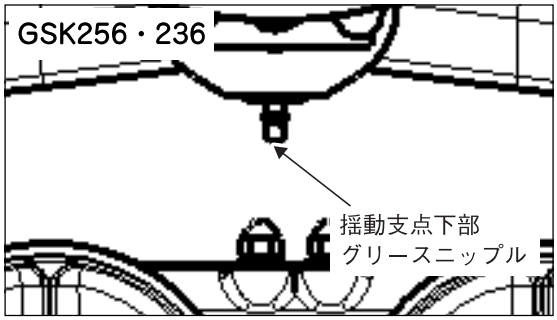
⚠ 注 意

グリースアップの必要な場所は50時間ごとにグリースアップしてください。
(代掻き時は毎回実施してください。)

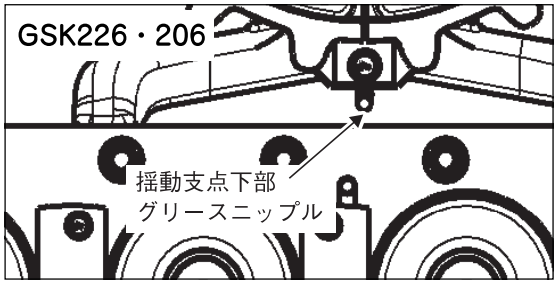
※ 守らないと、各部のシール性が低下し、泥水等が侵入して、各部で破損が発生し、最悪走行できなくなるおそれがあります。

(1) 揺動支点部

左右の揺動支点の下側にあるグリースニップルからグリースを注入してください。
グリースの注入はシャフト部分からグリースが湧き出すまで行ってください。



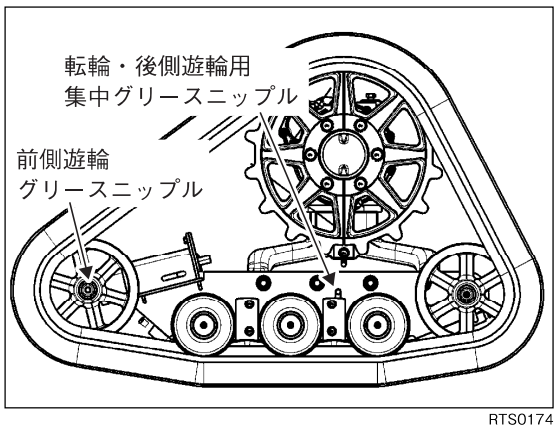
RTS0172



RTS0173

(2) 遊輪・転輪(GSK226・206)

左右の前側遊輪側面にあるグリースニップルからグリースを注入してください。
シャフトからグリースが湧き出すまで行ってください。
クローラ転輪部(3箇所)及び後ろ側遊輪の片側計4箇所は集中グリースニップルにて、左右1箇所づつの給脂が可能です。
転輪及び後ろ側遊輪からグリースが湧き出すまで行って下さい。
(転輪内側に確認用の穴が有ります。)



RTS0174

10.6.6　遊輪・転輪スクレーパの点検と調整(GSK256・236)

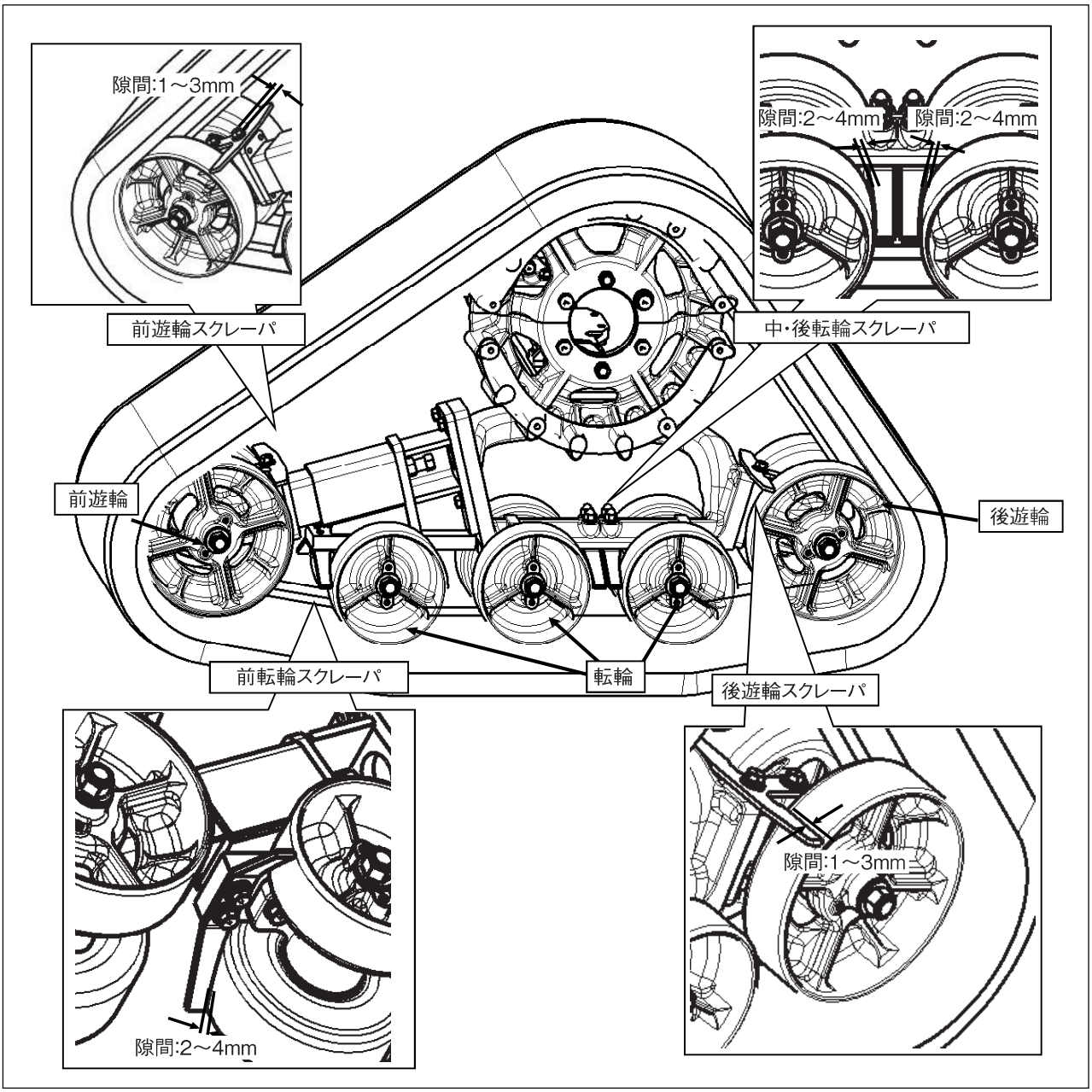
注 意

雪や赤土などが遊輪・転輪に巻き付くような作業では、必ずスクレーパを装着し、遊輪・転輪とスクレーパの隙間の確認・調整をしてください。

※　守らないと、遊輪･転輪部に雪や赤土などが巻き付き、クローラに異常な張力がかかり、遊輪・転輪部が破損し走行できなくなるおそれがあります。

■スクレーパの調整

遊輪・転輪とスクレーパの隙間が下図寸法となるように、スクレーパ長穴部を動かし調整してください。



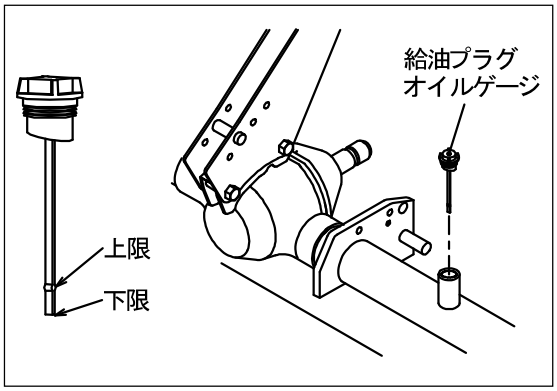
RTS0175

10.7 ロータリの手入れと点検・整備

10.7.1 オイル量の点検と交換

■ギヤケースの油量点検のしかた

ロータリを接地させ、給油プラグを抜き、オイルゲージの先端をきれいにふいて、差込んでから再び抜き「下限」以上オイルがあるか調べます。
下限以下の場合は補給しますが、上限以上には入れないでください。
点検後は、給油プラグを元通りにしてください。



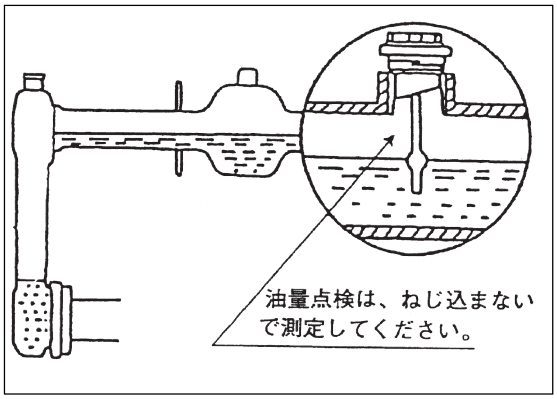
MBRAH004

補 足

- **点検するときは、ロータリをトラクタに装着したまま水平な地面において行ってください。傾いていると、正確な量を示さないことがあります。**
- **オイルゲージはネジ込まないで測定してください。**

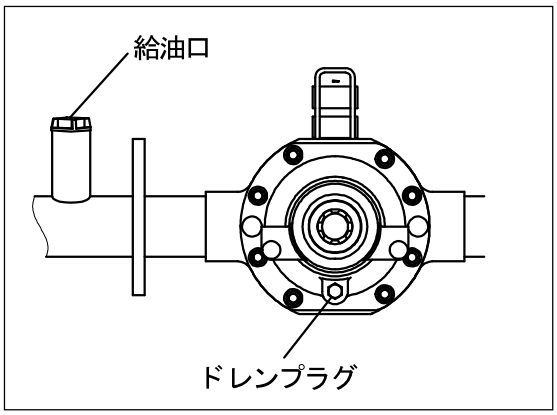
■ギヤケースのオイル交換のしかた

(1) ギヤケースのドレンプラグを外してオイルを抜きます。
(2) オイルが抜けたらドレンプラグをしっかりと締め付けてください。
(3) 給油口よりオイルを規定量入れてください。



MBRTS3336

給油箇所	ロータリ	規定量
ギヤケース	RAH167-Q	1.4 ℓ
	RAH167-QX	3.0 ℓ
	RAH177-Q	



MBRAH005

補 足

- **オイル交換時の規定量は完全にオイルを抜き出した場合のオイル量です。オイルゲージにて点検しゲージ上限以上に入れないでください。**
- **抜き出したオイルは、道路・河川に捨てず、スタンド・販売店等で処理してください。**

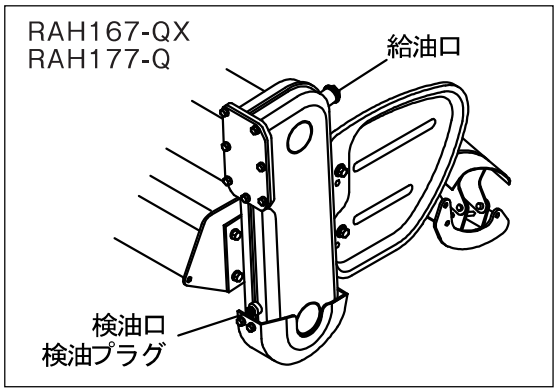
(4) 給油後は、給油口を締めてください。

■チェンケースの油量点検のしかた

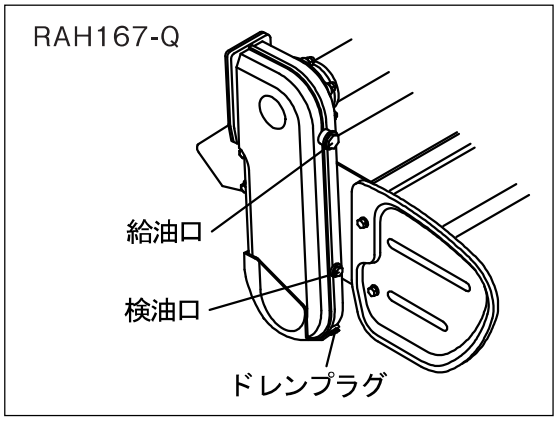
ロータリを接地させ、検油プラグを外し、検油口までオイルがあるか調べます。
検油口以下の場合は、補給しますが、検油口以上には入れないでください。

補 足

- **点検するときは、ロータリをトラクタに装着したまま水平な地面において行ってください。傾いていると、正確な量を示さないことがあります。**



MBRAH006



MBRAH007

■チェンケースのオイル交換のしかた

(1) チェンケースのドレンプラグを外してオイルを抜きます。
（RAH167－QX・177－Q型式は、検油プラグを外してください。）
(2) オイルが抜けたらドレンプラグをしっかりと締め付けてください。
(3) 給油口よりオイルを規定量入れてください。

給油箇所	ロータリ	規定量
チェンケース	RAH167-Q	1.2 ℓ
	RAH167-QX	
	RAH177-Q	

補 足

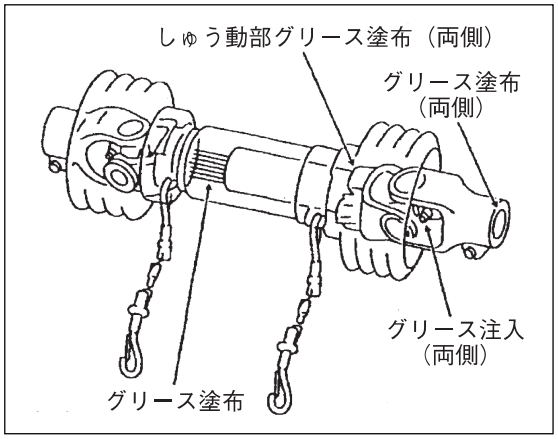
- **オイル交換時の規定量は完全にオイルを抜き出した場合のオイル量です。オイルゲージにて点検しゲージ上限以上に入れないでください。**
- **抜き出したオイルは、道路・河川に捨てず、スタンド・販売店等で処理してください。**

(4) 給油後は、給油口を締めてください。

10.7.2　グリースの補給

通常のグリースアップは、定期点検箇所一覧表（☞143ページ参照）に従って行ってください。ただし、代かき作業などの作業終了後は必ずグリースアップをしてください。

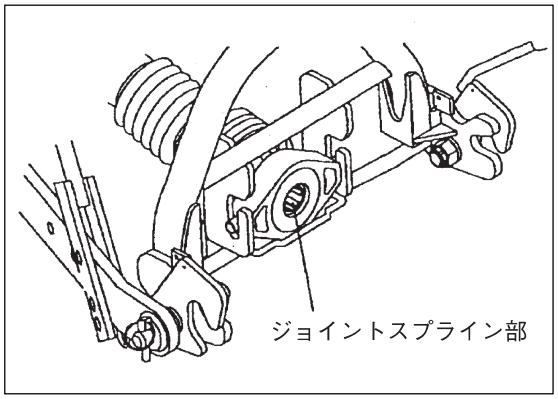
(1)　ユニバーサルジョイント
ジョイントを外してスプライン穴部にグリースを薄く塗布してください。



補 足

- **トラクタ側ＰＴＯ軸・ロータリ側入力軸にも塗布してください。**

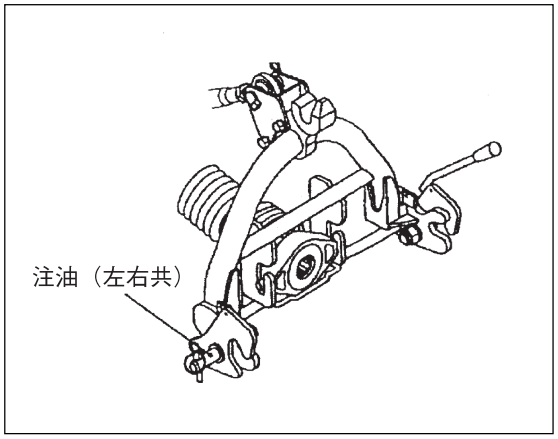
(1)　ジョイントスプライン部
・定期的にロータリを取り外し、ジョイントスプライン内部及び、ロータリ側入力軸にグリースを塗って、錆の発生を防止してください。
・湿田耕うんや代かき作業後は、必ずロータリを取り外し、ジョイントスプライン内部の泥をきれいに水で洗い流し、ジョイントスプライン部とロータリ側入力軸にグリースを塗布してください。



10.7.3　注油箇所

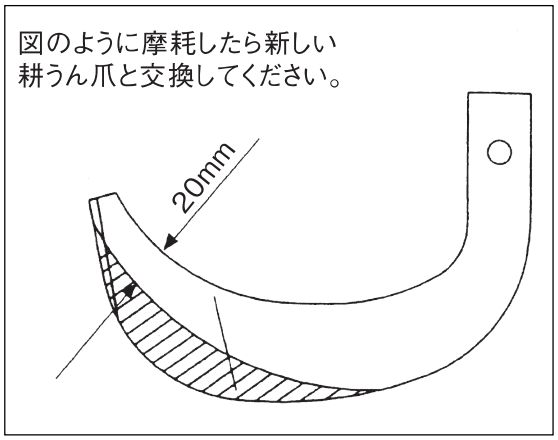
通常の注油は、定期点検箇所一覧表に従って行ってください。ただし、代かき作業などの作業終了後は必ず注油してください。

(1)　スーパーヒッチ回転部
スーパーヒッチの回転部にオイルを注油してください。



10.7.4　耕うん爪の交換時期

耕うん爪が摩耗しますと反転性・細土性が悪くなり、充分な性能が発揮されません。（曲ったり、折れたりしてからでは遅すぎます。）効率の良い耕うん作業をしていただくために、耕うん爪は早目にお取り替えください。



11. 格納時の手入れ

11.1 日常の格納

⚠ 警 告

格納するときには、メインスイッチのキーを必ず抜いてください。
※ 守らないと、漏電の原因となり感電事故や火災が起きることがあります。

注 意

洗車するときは、メータパネル、電装品、およびボンネット等の警告ラベル貼付箇所には圧力水をかけないでください。
※ 圧力水をかけると、故障の原因となったり、警告ラベルのはがれ、部品の変形を起こしたりします。

日常の格納および短期間の格納する前に下記の作業を行ってください。

(1) トラクタはきれいに清掃してください。
特に代かき、湿田作業後は、きれいに洗車してください。
(2) 作業機は必ず降ろしてください。
(3) 格納はできる限り屋内にしてください。
(4) 厳寒時はバッテリを外し、暖かい室内等に保管すると始動時に効果があります。
(5) 外気温が0℃以下になるときは、エンジン凍結割れ防止のため、不凍液を入れるか、冷却水を完全に抜いてください。

11.2 長期の格納

⚠ 危 険

作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。
※ 熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因となります。

⚠ 警 告

格納するときには、メインスイッチのキーを必ず抜いてください。
※ 守らないと、漏電の原因となり感電事故や火災が起きることがあります。

注 意

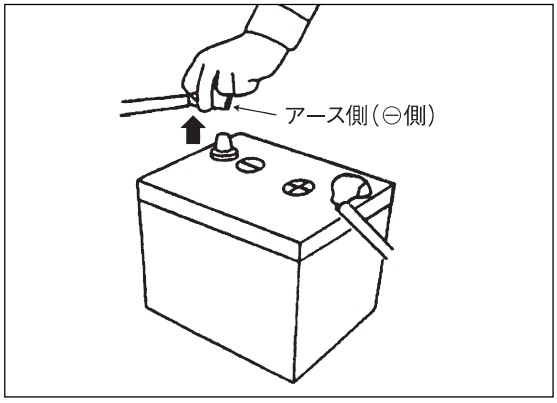
洗車するときは、メータパネル、電装品、およびボンネット等の警告ラベル貼付箇所には圧力水をかけないでください。
※ 圧力水をかけると、故障の原因となったり、警告ラベルのはがれ、部品の変形を起こしたりします。

11.2.1 格納前作業

トラクタを長い間使用しない場合は、格納する前に下記の作業を行ってください。

(1) トラクタはきれいに清掃してください。
特に代かき、湿田作業後は、きれいに洗車してください。
(2) 不具合箇所は整備してください。
(3) エンジンオイルを新しいオイルと交換、5分ほどエンジンをアイドリング回転で運転し、各部にオイルを潤滑させてください。
(4) 各部の給油を必ず行ってください。
(5) 各部のボルト、ナットのゆるみを点検し、ゆるんでいれば締めてください。
(6) タイヤの空気圧は標準よりも少し多めに入れてください。
(7) バランスウエイト等は取り外してください。
(8) 作業機は取り外すか、または地面に降ろしてください。
(9) 格納場所は、周囲にワラ等燃えやすいものがなく、雨のかからない乾燥した場所を選定し、シートをかけるようにしてください。
(10) 後輪の前後に車止めをしてください。

(12) バッテリは、トラクタから取り外し補充電を行い、液面を正しく調整して日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。
どうしても取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）を外してください。



RTS0250

⚠ 警 告

バッテリあるいは⊖端子を外さないと、ねずみが配線をかじり、ショートして火災が発生することがあります。

(13) クラッチペダルを踏み、クラッチカットオフアームを引っかけてください。クラッチが切れた状態になります。



RTS0251

補 足

- **クラッチを接続したまま長期間格納すると、クラッチディスクが固着してクラッチが切れなくなることがあります。**

11.2.2 格納期間中

(1) エンジン防錆のため、1ケ月に1回、中速回転（1500～2000 rpm）で5～10分間運転してください。

(2) エアコンのコンプレッサーのオイル切れを防ぐため、1ヶ月に1回、エンジンを始動してください。
（CY型式）
エンジンをアイドリングにしてエアコンを5分間程度作動させます。
怠ると、エアコン部品を損傷することがあります。

11.2.3 長期格納後の使用

長期格納後の再使用は特に次の内容に注意してください。

(1) 「4. 作業前点検」（☞ 39ページ）を確実に行ってください。

(2) エンジンの寿命、性能を保つためエンジン始動後は、アイドリング回転で30分ほど運転してください。

12. 不調時の処置

12.1 エンジン関係

12.1.1 始動時

現　象	原　因	処　置	参照ページ
メインスイッチを「始動」にしても、スタータが回らない場合	●クラッチペダルを踏み込んでいますか。	クラッチペダルを踏み込んでください。	50
	●セフティースイッチの故障。	「お買いあげ先」で修理･交換してください。	–
	●バッテリが放電していませんか。	バッテリを充電してください。	157
	●各部端子がゆるんでいませんか。	外れ、ゆるみ、腐蝕を点検、清掃し、確実に締め付けてください。 グリースを塗布し防錆をしてください。	166
	●スイッチの故障。	「お買いあげ先」で修理･交換してください。	–
	●スタータの故障。		
スタータは回るが、回転が遅い場合	●バッテリの充電量が不足していませんか。	バッテリを充電してください。	157
	●アースが不良。	接続部を清掃し、アースを確実に取ってください。	166
	●エンジンオイルの粘度が高くなっていませんか。	適正粘度のオイルへ交換してください。	201 202
スタータは回るが、エンジンがかからない場合	●燃料系統にエアが混入していませんか。	エア抜きを行ってください。	155
	●燃料フィルタが詰まっていませんか。	フィルタを清掃･交換してください。	155
	●燃料が供給されていますか。	燃料フィルタのコックを開いて燃料を送ってください。	155
	●エンジン本体の不具合。	「お買いあげ先」で修理してください。	–

12.1.2 運転中

現　象	原　因	処　置	参照ページ
エンジン回転が不規則になる場合	●燃料系統にエアが混入していませんか。	エア抜きを行ってください。	155
	●燃料フィルタが詰まっていませんか。	燃料フィルタを清掃･交換してください。	155
	●噴射ノズルの詰まり。	「お買いあげ先」で修理してください。	–
	●パイプ系の燃料が漏れている。		
	●燃料噴射の不揃い。		
	●燃料ポンプが作動不良を起こしていませんか。	ヒューズを点検･交換してください。	167
エンジンを低速にすると停止する場合	●インクジェクション･ポンプの不良。	「お買いあげ先」で修理してください。	–
	●エンジンのバルブクリアランスの不良。		
	●ノズルの不良。		
エンジンが過回転する場合	●ガバナのゴミ詰まり。	「お買いあげ先」で修理してください。	–
	●オイル上がり。		
エンジンが突然停止した場合	●燃料が不足していませんか。	燃料補給とエア抜きをしてください。	154 155
	●エンジンオイルが不足していませんか。	エンジンオイルを補給してください。	149
	●ノズルの不良。	「お買いあげ先」で修理してください。	–
	●オイル不足､潤滑不良によるエンジンの焼き付き。		
オーバーヒートする場合	●冷却水が不足していませんか。	冷却水を補給してください。	152
	●ファンベルトがゆるんだり､破損していませんか。	ベルトの調整･交換をしてください。 または「お買いあげ先」で修理してください。	142
	●ラジエータが目詰まりを起こしていませんか。	清掃してください。	153
	●エンジンオイルが不足していませんか。	点検･補給してください。	149

現　象	原　因	処　置	参照ページ
排気ガスが白い場合	●エアクリーナが詰まりを起こしていませんか。	エレメントを清掃してください。	150
	●エンジンオイル量が多すぎませんか。	点検し、適正量にしてください。	149
	●燃料供給量の不足。	「お買いあげ先」で修理してください。	–
排気ガスが黒い場合	●燃料が正規のものでない。	正規の燃料に入れ換えてください。	154 155
	●燃料が供給過剰。	「お買いあげ先」で修理してください。	–
	●ノズル圧力の不足。		
エンジンの出力不足の場合	●ノズルの焼き付き、詰まりおよびカーボンがたまっていませんか。	「お買いあげ先」で修理してください。	–
	●圧縮圧力の不足、バルブ・シート部よりガスが漏れていませんか。		
	●バルブクリアランス調整不良。		
	●噴射時期不良。		
	●燃料供給量の不足。		
	●エアクリーナが目詰まりを起こしていませんか。	エレメントを清掃してください。	150

12.1.3 メータパネル

現　象	原　因	処　置	参照ページ
運転中エンジンオイル圧力警告灯が点灯する場合	●エンジンオイルが不足していませんか。	点検･補給してください。	149
	●エンジンオイルの粘度が低くなっていませんか。	適正粘度のオイルに交換してください。	201 202
	●プレッシャスイッチの故障。	「お買いあげ先」で修理してください。	–
	●オイルポンプの故障。		
	●オイルフィルタエレメントが目詰まりを起こしていませんか。	オイルフィルタを交換してください。	150
運転中にバッテリチャージ警告灯が点灯する場合	●配線の故障。	「お買いあげ先」で修理してください。	–
	●オルタネータの故障。		
	●バッテリの不良。	バッテリを交換してください。	157
	●ファンベルトがゆるんだり、破損していませんか。	ベルトの調整･交換をしてください。 または「お買いあげ先」で修理してください。	156
	●スローブローヒューズが断線していませんか。	配線を点検し、スローブローヒューズを交換してください。	167
運転中冷却水温度警告灯が点灯する場合	●ラジエータの水量が少なくなっていませんか。	点検･補給してください。	152
	●ラジエータが目詰まりを起こしていませんか。	清掃してください。	153
	●ファンベルトがゆるんだり、破損していませんか。	ベルトの調整･交換をしてください。	156
	●エンジンオイルが不足していませんか。	点検･補給してください。	149

12.2　トランスミッション・操作系・油圧関係

12.2.1　クラッチ

現　　象	原　　因	処　置	参照ページ
クラッチがすべる場合	●ペダルの調整は適正ですか。	ペダルの遊び、踏みしろを調整してください。	162
	●クラッチライニングの摩耗・焼き付き。	「お買いあげ先」で修理してください。	―
クラッチが切れない場合	●ペダルの調整は適正ですか。	ペダルの遊び、踏みしろを調整してください。	162
	●クラッチライニングの錆び付き。	「お買いあげ先」で修理してください。	―

12.2.2　走行・ブレーキ

現　　象	原　　因	処　置	参照ページ
ブレーキのききが悪い、片ききである場合	●ブレーキペダルの調整は適正ですか。	ペダルの遊びを調整してください。	162
	●ライニングの摩耗。	「お買いあげ先」で修理してください。	―
	●左右の踏み込み量に差はありませんか。	ペダルの踏みしろを調整してください。	162
ブレーキペダルの戻りが悪い場合	●ブレーキ戻しスプリングの破損。	「お買いあげ先」で修理してください。	―
	●各摺動部のグリース切れ。	錆を落とし、グリースを注入してください。	169

12.2.3 ステアリングホイール

現　象	原　因	処　置	参照ページ
ステアリングホイールが重い、ステアリングホイールが取られる場合	●トーインが正しくない。	「お買いあげ先」で修理してください。	–
	●タイヤの空気圧は適正ですか。	規定空気圧にしてください。	165
	●ボールジョイントにガタがある。	増し締めをしてください。または、「お買いあげ先」で修理してください。	–
ステアリングホイールの遊びが多い場合	●ステアリングシャフトの摩耗。	「お買いあげ先」で修理してください。	–
	●ボールジョイントにガタがある。		–

12.2.4 スーパーフルターン

現　象	原　因	処　置	参照ページ
スーパーフルターン表示灯が点灯しない場合	●走行･作業切換ダイヤルが、「こだわり」･「耕うん」位置以外になっていませんか。	「こだわり」･「耕うん」の位置にしてください。	76
	●電子油圧操作ボックス内の走行切換の「フルターン」ランプが消灯していませんか。	「フルターン」ランプを点灯させてください。	76
	●副変速レバーが「高速」になっていませんか。	副変速レバーを「高速」以外にしてください。	50
	●配線不良。	「お買いあげ先」で修理してください。	–
スーパーフルターンが作動しない場合	●**センサ類**の故障。	「お買いあげ先」で修理してください。	–
	●バルブの故障。		
	●ライニングの摩耗･焼き付き。		
スーパーフルターンの作動位置が左右で違う場合	●**センサ類**の調整不良。	「お買いあげ先」で修理してください。	–

12.2.5 オートリフト

現　象	原　因	処　置	参照ページ
オートリフトが作動しない場合	●電子油圧操作ボックス内の「オートリフト」 ランプが消灯していませんか。	「オートリフト」ランプを点灯させてください。	80
	●走行･作業切換ダイヤルが「走行」位置になっていませんか。	「走行」以外の位置にしてください。	80
	●作業機「下げ」操作後、5秒以上経過していますか。	5秒以上経過後、操作してください。	80
	●作業機「下げ」操作後、ステアリングホイール(ハンドル)が直進状態になっていますか。	ステアリングホイール(ハンドル)を直進にした後、操作してください。	80
	●電子油圧が「準備状態」のままになっていませんか。	「準備状態」を解除した後、操作してください。	91
	●コントローラの故障	「お買いあげ先」で修理してください。	–
	●油圧系統の不良		
	●電装･センサ類の不良		
曲がったほ場でオートリフトが作動してしまう場合	●ステアリングホイール(ハンドル)の切れ角がオートリフトが作動する位置以上になっていませんか。	電子油圧操作ボックス内の「オートリフト」ランプを消灯してください。	80

12.2.6 オートブレーキ

現　象	原　因	処　置	参照ページ
オートブレーキが作動しない場合	●電子油圧操作ボックス内の「オートブレーキ」ランプが消灯していませんか。	「オートブレーキ」ランプを点灯させてください。	81
	●走行･作業切換ダイヤルが「走行」位置になっていませんか。	「走行」以外の位置にしてください。	81
	●作業機「下げ」操作後、5秒以上経過していますか。	5秒以上経過後、操作してください。	81
	●作業機「下げ」操作後、ステアリングホイール(ハンドル)が直進状態になっていますか。	ステアリングホイール(ハンドル)を直進にした後、操作してください。	81
	●電子油圧が「準備状態」のままになっていませんか。	「準備状態」を解除した後、操作してください。	91
	●コントローラの故障	「お買いあげ先」で修理してください。	–
	●油圧系統の不良		
	●電装･センサ類の不良		

現　象	原　因	処　置	参照ページ
オートブレーキ表示灯が点滅する場合	●副変速レバーが「高速」になっていませんか。	副変速レバーを「高速」以外に切り換えてください。	50
	●作業機「下げ」操作後、5秒以上経過していますか。	5秒以上経過後、操作してください。	81
	●作業機「上げ」操作後、20秒以上経過後ではないですか。	作業機を一度「下げ」にし、5秒以上経過後に操作してください。	81
曲がったほ場でオートブレーキが作動してしまう場合	●ステアリングホイール(ハンドル)の切れ角がオートブレーキが作動する位置以上になっていませんか。	電子油圧操作ボックス内の「オートブレーキ」ランプを消灯してください。	81

12.2.7　油圧

現　象	原　因	処　置	参照ページ
作業機が上がらない場合	●エンジンの回転数が不足していませんか	アクセルレバーを操作し、エンジン回転を高くしてください。	35
	●ミッションオイル量が不足していませんか	規定量まで補給してください。	159
	●吸入パイプ系統からエアを吸い込んでいませんか	ゆるんでいる箇所がないか点検してください。	－
	●オイルフィルタの詰まり	「お買いあげ先」で修理してください。	－
	●油圧ポンプの故障		
	●コントロールバルブの故障		
	●シリンダの破損		
	●電装部品関係の故障		
	●作業機が適応外ではありませんか	適応内作業機を取り付けてください。	－

12.2.8 電子油圧関係

現　象	原　因	処　置	参照ページ
上昇ランプが点滅したままコントロールレバーを操作しても変わらない場合	●チェックヒューズが外れていませんか。	チェックヒューズを差し込んでください。	102
	●コントロールレバーセンサのカプラが外れていませんか。	カプラを接続してください。	–
	●コントロールレバーセンサの不良はありませんか。	「お買いあげ先」で修理･交換してください。	–
	●リフトアームセンサのカプラが外れていませんか。	カプラを接続してください。	–
	●リフトアームセンサの不良はありませんか。	「お買いあげ先」で修理･交換してください。	–
	●配線不良。		
	●コントローラの不良。		
コントロールレバーを最上げ操作すると、上昇ランプが点灯するが、油圧が上がらない場合	●上げ高さ調整ダイヤルは適正位置になっていますか。	上げ高さ調整ダイヤルを調整してください。	95
	●上げ高さ調整ダイヤルの不良はありませんか。	「お買いあげ先」で修理･交換してください。	–
	●バルブ配線は外れていませんか。	カプラを接続してください。	–
	●配線不良。	「お買いあげ先」で修理･交換してください。	–
	●油圧関係の不良はありませんか。		
コントロールレバーを最下げ操作すると、上昇ランプが消灯するが、油圧が下がらない場合	●油圧降下速度調節つまみがロック位置になっていませんか。	つまみを左に回してください。	94
	●バルブ配線が外れていませんか。	カプラを接続してください。	–
	●配線不良。	「お買いあげ先」で修理･交換してください。	–
	●油圧関係の不良はありませんか。		
フィンガップレバー・フィンガップスイッチを操作しても油圧が上下しない場合	●上昇ランプが点滅していませんか。	コントロールレバーを操作して、準備状態を解除してください。	91
	●フィンガップレバー･フィンガップスイッチの不良はありませんか。	「お買いあげ先」で修理･交換してください。	–
	●フィンガップレバー･フィンガップスイッチ配線が外れていませんか。	カプラを接続してください。	–

現　象	原　因	処　置	参照ページ
バックアップしない場合	●バックアップスイッチが「切」の位置になっていませんか。	バックアップスイッチを「入」の位置にしてください。	95
	●リニアシフトレバー後進側センサの調整不良はありませんか。	「お買いあげ先」で調整してください。	–
	●バックアップスイッチの不良はありませんか。	「お買いあげ先」で修理･交換してください。	–
	●リニアシフトレバー後進側センサの不良はありませんか。		
	●配線不良。		
自動耕深制御が働かない場合	●デプスセンサは接続されていますか。	「お買いあげ先」で修理･交換してください。	–
	●デプスセンサハーネスが断線していませんか。		
	●デプスセンサの不良はありませんか。		
	●耕深調整ダイヤルの不良はありませんか。		

12.2.9　水平制御

現　象	原　因	処　置	参照ページ
水平手動スイッチを操作しても動かない場合	●ヒューズの断線。	配線を点検し、ヒューズを交換してください。	167
	●バルブ配線の外れ。	カプラを接続してください。	–
	●配線不良。	「お買いあげ先」で修理･交換してください。	–
	●バルブのゴミ詰まり。		
水平切換スイッチを「平行」にしても平行にならない場合	●ストロークセンサが外れていませんか。	「お買いあげ先」で修理･交換してください。	–
	●ストロークセンサの調整不良はありませんか。		
水平切換スイッチを「自動」にしてもロータリが水平にならない場合	●傾き調整ダイヤルの調整不良。	トラクタを平たんなところに置いて、ロータリが地面と水平になるように調整してください。	101
	●スロープセンサの不良。	「お買いあげ先」で修理･交換してください。	–
	●スロープセンサの調整不良。	「お買いあげ先」で調整してください。	
	●配線不良。	「お買いあげ先」で修理･交換してください。	

12.3 電装関係

12.3.1 バッテリ

現　象	原　因	処　置	参照ページ
バッテリが充電されない場合	●スローブローヒューズの断線。	配線を点検し、スローブローヒューズの交換をしてください。	167
	●配線の故障。 ●オルタネータの故障。	「お買いあげ先」で修理してください。	–
	●ファンベルトがゆるんだり、破損していませんか。	張り調節、ベルトを交換してください。 または、「お買いあげ先」で修理してください。	156
	●バッテリの機能が低下していませんか。	端子のゆるみ腐食を点検してください。	166

12.3.2 ランプ類

現　象	原　因	処　置	参照ページ
ランプ類が暗い場合	●バッテリが充電不足ではありませんか。	充電してください。	157
	●結線、接触不良はありませんか。	アースおよびターミナルの点検･清掃をしてください。 取付部の増し締めをしてください。	166
ランプ類が点灯しない場合	●電球が切れていませんか。	電球を交換してください。	204
	●ヒューズが断線していませんか。	配線を点検し、ヒューズを交換してください。	167
	●接触不良はありませんか。	アースおよびターミナルの点検･清掃をしてください。	166
ウインカが点灯しない場合	●電球が切れていませんか。	電球を交換してください。	204
	●フラッシャユニットの故障。	「お買いあげ先」で修理してください。	–
	●接触不良はありませんか。	アースおよびターミナルの点検･清掃をしてください。	166
	●ヒューズが断線していませんか。	配線を点検し、ヒューズを交換してください。	167

12.3.3 ホーン

現　象	原　因	処　置	参照ページ
ホーンが鳴らない場合	●ホーンボタンの故障。 ●配線不良。 ●ホーンの損傷。	「お買いあげ先」で修理してください。	–
	●ヒューズが断線していませんか。	配線を点検し、ヒューズを交換してください。	167

12.4 安全キャブ関係（安全キャブ仕様）

12.4.1 エアコン

現　象	原　因	処　置	参照ページ
エアコンから風が出ない場合	●スローブローヒューズの断線	「お買いあげ先」で修理してください。	_
	●ブロアモータの損傷		
エアコンの風量が少ない場合	●エアコンのフィルタが目詰まりしていませんか	エアコンフィルタの点検･清掃をしてください。	171
	●ブロアモータの回転が遅い	「お買いあげ先」で修理してください。	_
エアコンが冷えない場合	●コンプレッサが回転しない	「お買いあげ先」で修理してください。	_
	●コンプレッサの回転が遅くなっていませんか	エアコン用ベルトを点検･調整してください。	170
	●冷媒用ガスが過不足していませんか	「お買いあげ先」で正規量を充填し直してください。	_

12.4.2 安全キャブ

現　象	原　因	処　置	参照ページ
作業灯が点灯しない場合	●電球が切れていませんか	電球を交換してください。	204
	●ヒューズが断線していませんか	配線を点検し、ヒューズを交換してください。	173
	●接触不良はありませんか	アースおよびターミナルの点検･清掃をしてください。	166
ワイパーが動かない場合	●バッテリが充電不足ではないですか	充電してください。	157
	●ヒューズが断線していませんか	配線を点検し、ヒューズを交換してください。	173
	●モータの損傷	「お買いあげ先」で修理してください。	－
ウインドウォッシャー液が出ない場合	●ウォッシャー液が少なくなっていませんか	規定量まで補給してください。	172
	●接触不良はありませんか	アースおよびターミナルの点検･清掃をしてください。	166
	●モータの損傷	「お買いあげ先」で修理してください。	－
ラジオの音が出ない場合	●ヒューズが断線していませんか	配線を点検し、ヒューズを交換してください。	173
	●本体の損傷	「お買いあげ先」で修理してください。	－
ドアの閉まりが悪い、ドアが走行中に開く場合	●ドアダンパの不良	「お買いあげ先」で修理してください。	－
	●ドアロックとストライカの調整不良		
	●ドアロックの損傷		
リヤウインドの閉まりが悪い場合	●ドアロックとストライカの調整不良	「お買いあげ先」で修理してください。	－
	●ダンパウインドの不良		

12.5 ロータリ関係

12.5.1 ロータリ

現　象	原　因	処　置	参照ページ
ｼﾞｮｲﾝﾄ鳴きの発生	●ﾄｯﾌﾟﾘﾝｸの長さはあっていますか	ﾄｯﾌﾟﾘﾝｸの長さを確認してください	106
	●ｼﾞｮｲﾝﾄ各部の動きはｽﾑｰｽﾞですか	ｸﾞﾘｽｱｯﾌﾟ、注油をしてください	182
	●ｼﾞｮｲﾝﾄ各部に、摩耗によるｶﾞﾀはありませんか	購入先へご相談の上、交換してください	――
給油キャップ部よりの油漏れ	●オイル量の調整不良	「お買いあげ先」で点検･調整してください。	180 181
ギヤ音の発生	●噛み合い不良	「お買いあげ先」で修理してください。	―
残耕の発生	●耕うん爪の摩耗 ●耕うん爪の変形	新しい爪に交換してください。 「お買いあげ先」で修理または交換してください。	183
耕うん時の異音・振動	●爪取付ボルトのゆるみ ●爪配列不良 ●特殊耕うん爪の使用	爪取付ボルトの増締め･調整 爪配列の点検･調整してください。。 新しい爪に交換。(純正品の使用)。	123 124
土寄りがする 整地・均平性が悪い	●爪配列不良	爪配列の点検･調整してください。	124
	●リヤカバーの押え力不良	加圧スプリングの調整してください。	117
	●リヤカバーの変形	「お買いあげ先」で修理または交換してください。	―

13. 付表

13.1 推奨潤滑油一覧表

<table>
<tr><th colspan="2">区　　分</th><th>メーカ名</th><th>商　品　名</th><th>出荷時充填油</th></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">ディーゼル
エンジンオイル</td><td>三菱マヒンドラ農機</td><td>スーパーマルチエンジンオイル
（１０W-３０・ＳＨ/ＣＦ）</td><td>○</td></tr>
<tr><td>有名メーカ</td><td>ＣＦ級以上</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ギヤオイル</td><td>フロント
アクスル</td><td>三菱マヒンドラ農機</td><td>ギヤオイル（API GL4級以上、#80）</td><td>○</td></tr>
<tr><td>ミッション
ケース</td><td>三菱マヒンドラ農機</td><td>U・T・Hオイル(80W)</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">純正ロータリのチェーンケースギヤケース</td><td>三菱マヒンドラ農機</td><td>ハイポイドギヤオイル(#90)</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般グリース</td><td>協同油脂
他有名メーカのリチューム系一般グリース</td><td>ユニルーフNo.2</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">燃　　料</td><td>有名メーカ品</td><td>ディーゼル軽油
燃料は、「ディーゼル軽油」を使用してください。
ディーゼル軽油には下表の種類があり、地域・季節により流通している種類が異なります。使用時期に合わせ、地域・季節に見合ったものを使用してください。
<table>
<tr><th>種類</th><th>ディーゼル軽油の流動点(℃)</th></tr>
<tr><td>特１号</td><td>＋5以下</td></tr>
<tr><td>１号</td><td>－2.5以下</td></tr>
<tr><td>２号</td><td>－7.5以下</td></tr>
<tr><td>３号</td><td>－20以下</td></tr>
<tr><td>特３号</td><td>－30以下</td></tr>
</table>
（JIS規格より抜粋）
流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪いとか凍結等によりエンジンの始動性が悪いとか始動できない事があります。</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">不　　凍　　液</td><td>モービル
昭和シェル石油
他有名メーカ品を使用</td><td>モービルロングライフクーラント(L.L.C.)
アンチフリーズ</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">ウォッシャー液</td><td>昭和シェル石油
有名メーカ品</td><td>シェルウインドクリーナ</td><td>○
（X型式）</td></tr>
<tr><td colspan="2">エアコンガス</td><td>デンソー
他有名メーカ品</td><td>カーエアコン・クーラ用ガスHFC-134a
カーエアコン・クーラ用ガスR-134a</td><td>○
（X型式）</td></tr>
</table>

13.2 純正オイル一覧

■エンジンオイル

商　品　名	番　手	グレード	容 量	部品コード
スーパーマルチエンジンオイル	10W-30	ＳＨ／ＣＦ	200ℓ	7019-**009**-200-00
			20ℓ	7019-**009**-300-00

■ミッションオイル

商　品　名	番　手	グレード	容 量	部品コード
U・T・Hオイル	80W	－	20ℓ	7019-019-300-00
			4ℓ×6個	7019-019-400-00

■フロントアクスルオイル

商　品　名	番　手	グレード	容 量	部品コード
マルチデラックスギヤオイル	#80	GL-4	20ℓ	7019-004-300-00
			4ℓ×6個	7019-004-400-00

■純正ロータリのチェーンケースギヤケース

商　品　名	番　手	グレード	容 量	部品コード
ハイポイドギヤオイル	#90	GL-4	20ℓ	7019-002-300-00
			4ℓ×6個	7019-002-400-00

13.3 純正エアコンガス

※冷媒用ガスの回収・充填には、第一種フロン類充填回収業者に依頼されるか、お買いあげ先に相談してください。

冷媒用ガスは必ずHFC-134aを使用し、充填量は600～650g充填してください。
ガスの充填は、全量抜き取り後、規定量を入れてください。
ガス不足や過充填の防止のため、ガスの補充は行わないでください。

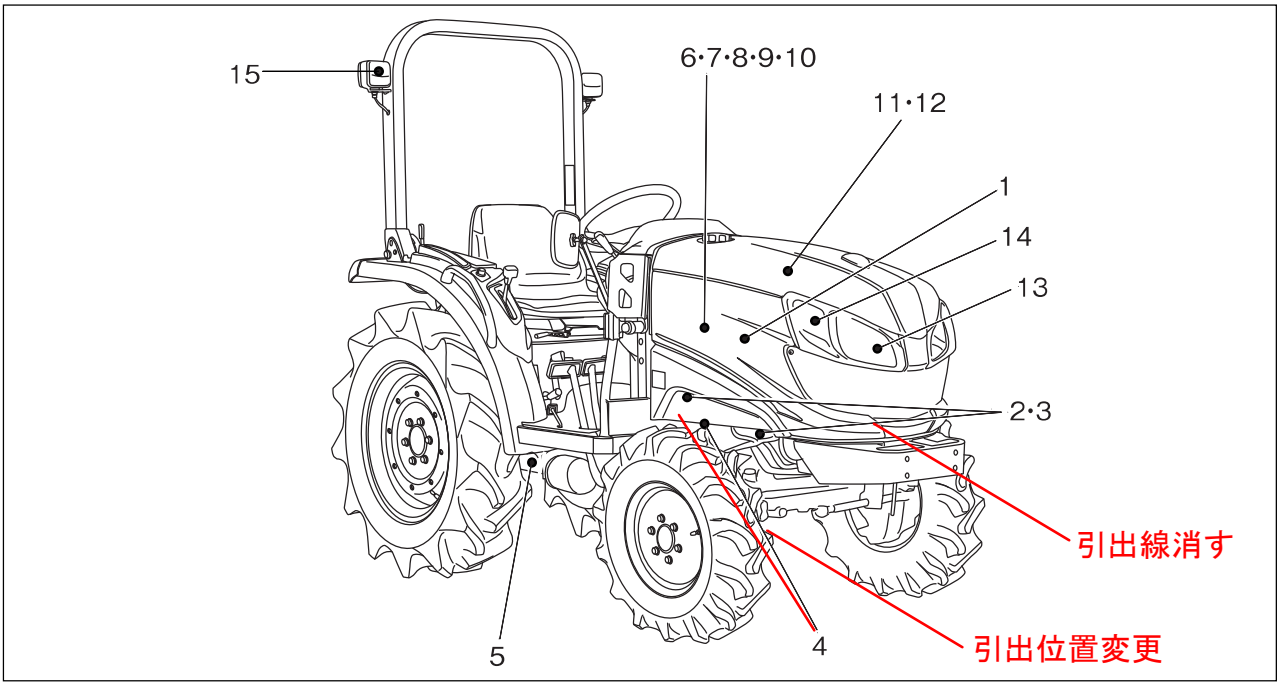
■冷媒サービス缶（メーカ：(株)デンソー）

種 類	品 番	容 量
HFC-134a	445080-0010	200g

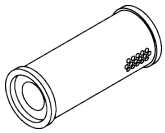
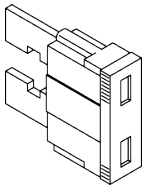
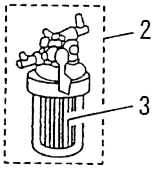
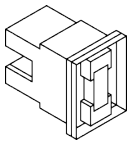
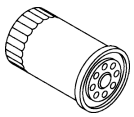
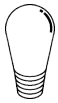
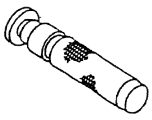
■コンプレッサオイル（メーカ：(株)デンソー）

種 類	品 番	容 量
HFC-134(a)	446963-0030	40cc
	446963-0040	250cc
	446963-0050	4,000cc

13.4 主な消耗部品一覧表



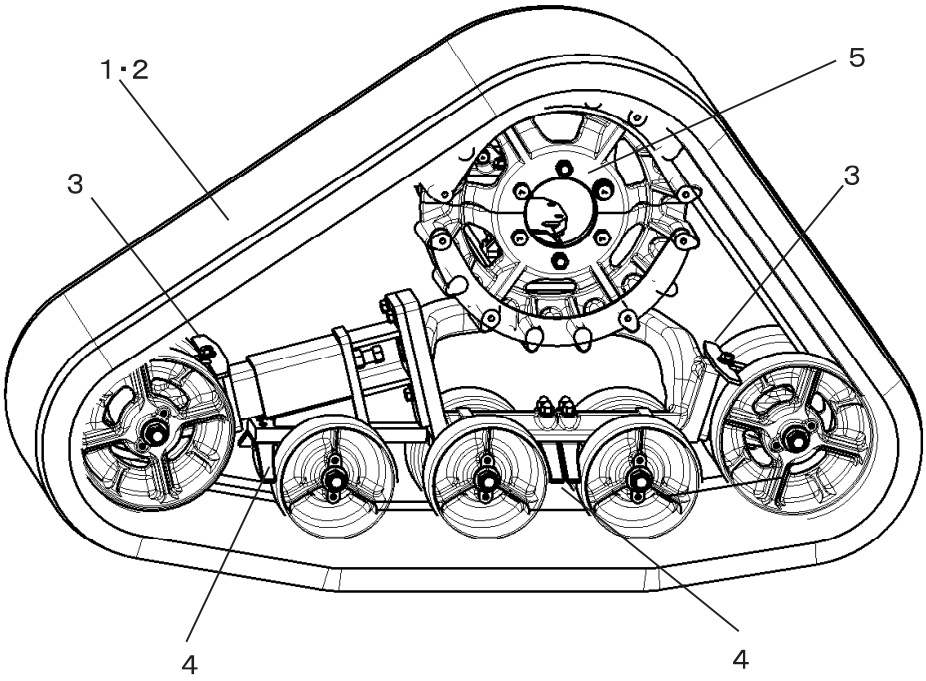
RTS0252B

番号	消耗部品	形　状	番号	消耗部品	形　状
1	エアクリーナエレメント		6 7 8 9 10	ヒューズ (5A) (7.5A)(安全キャブ仕様) ※左ピラーカバー内側 (10A) (15A) (20A)	
2 3	燃料フィルタ エレメント		11 12	スローブローヒューズ (40A) (60A)（安全キャブ仕様）	
4	エンジンオイルフィルタ カートリッジ		13	電球（ヘッドランプ）	
			14	電球（サイドビューライト）	
			15	電球（方向指示ランプ）	
			16	電球（作業灯）P34参照	
5	油圧ストレーナ ※ミッション左側		17	ルームランプP35参照	

番号	消耗部品	品　番
1	エレメント ASSY	9517−0000−030
2	フィルタ（フューエル）ASSY	9517−0000−020
3	エレメント	9911−0000−640
4	カートリッジ（オイルフィルタ）	9911−0000−660
5	フィルタ(サクション/400)	9911−0033−940
6	ヒューズ（BR32V05A）	9911−0000−810
7	ヒューズ（BR32V7.5A）	9911−0000−820
8	ヒューズ（BR32V10A）	9911−0000−830
9	ヒューズ（BR32V15A）	9911−0000−840
10	ヒューズ（ブレード/32）	9911−0019−040
11	ヒューズ（スローブロー）	9909−0000−360
12	ヒューズ（スローブロー）	2694−6010−320
13	バルブ（ランプ，12V23）	9911−0000−670
14	ライト	9911−0033−570
15	バルブ（21W/アンバ）	9981−0000−210
16	バルブ（ハロゲン/12V）	9517−0000−090
17	バルブ（ランプ/12VB）	9517−0000−080

■セミクローラ部の主な消耗部品一覧表

GSK256・236

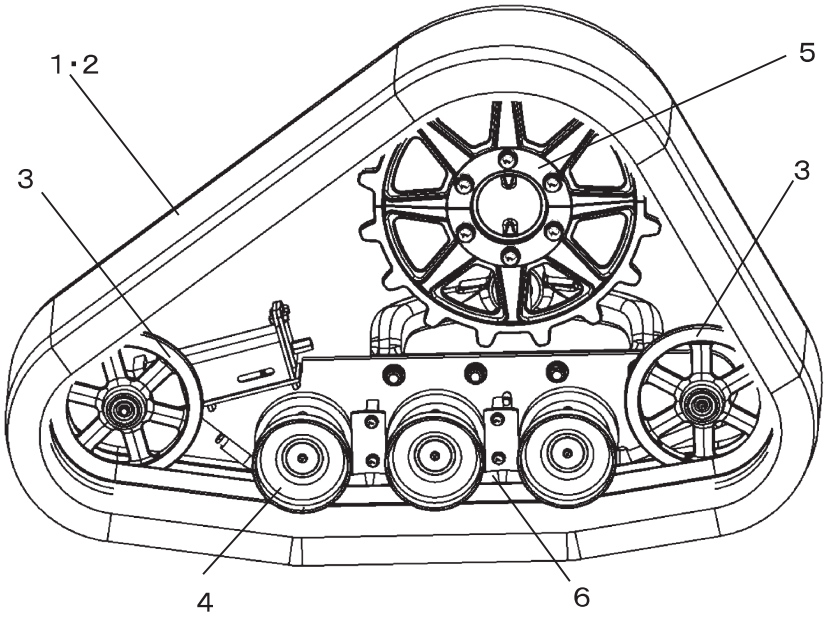


番号	消耗部品	品　名	品　番
1	クローラ	クローラ(370X90X36)	9517-0000-130
2	クローラ（02型式）	クローラ(280X90X36)	9517-0000-140
3	遊輪スクレーパ	スクレーパ（ローラ/FR)	704E-6400-110
4	転輪スクレーパ	スクレーパ（ローラ）	9517-0000-150
5	スプロケット	スプロケット（ホイール/16）	9517-0000-120

※クローラ部品の点検や交換はお買いあげ先での点検・交換を強く推奨します。

■セミクローラ部の主な消耗部品一覧表

GSK226・206



番号	消耗部品	品　名	品　番
1	クローラ	クローラ(330X34X84W)	9911-0015-311
2	クローラ（02型式）	クローラ(200X34X84IR)	9517-0000-100
3	遊輪	ローラ(アイドル/230)	9517-0000-070
4	転輪	ローラ(145) ASSY	9517-0000-110
5	スプロケット	スプロケット（ホイール428）	9517-0000-050
6	クローラガイド	バー COMP	9517-0000-060

※クローラ部品の点検や交換はお買いあげ先での点検・交換を強く推奨します。

13.5 純正ロータリ適応表

純正ロータリの適応表を下記に示します。
クラス・作業にあった型式のロータリを装着してください。
純正ロータリ以外の作業機については、「お買いあげ先」にお問い合せください。

⚠ 警 告

純正ロータリ以外の作業機を取り付けたときは、必要に応じてバンパウエイトを装着してください。

※ 前部が軽くなると、浮き上がったり傾いたりして、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

ロータリクラス名	クラス名			
	GSK206	GSK226	GSK236	GSK256
RAH167−Q	○	○		
RAH167−QX			○	○
RAH177−Q			○	○

13.6 主要諸元表

クラス名			GSK256			
区分			BM〔X〕	M〔X〕	BMN	MN
駆動方式			四輪駆動			
機体寸法	全長 (mm)		2900			
	全幅 (mm)		1400		1270	
	全高 (mm)		1995〔1990〕		1995	
	軸距 (mm)		1500			
	輪距	前輪 (mm)	1030			
		後輪 (mm) (調整範囲) (mm)	1030		950	
	最低地上高 (mm)		370			
機体重量 (kg)			1385〔1545〕		1365	
エンジン	型式名		E3CD-UB83〔UB84〕	E3CD-UB75〔UB76〕	E3CD-UB83	E3CD-UB75
	種類		水冷４サイクル３気筒ディーゼル			
	総排気量 (L)		1.498			
	出力	(kW/min^{-1}) (PS/min^{-1})	18.4/2500 {25/2500}			
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量 (L)		28			
	バッテリ (V.Ah)		12, 55(80D26R)			
走行部	タイヤ	前輪	7-16			
		後輪	370幅クローラ		280幅クローラ	
	クラッチ型式		乾式単板			
	ブレーキ型式		湿式ディスク式			
	舵取り方式		パワーステアリング			
	変速方式		常時・選択噛み合い式併用			
	変速段数		前・後進　12段			
	走行速度 (km/h)	前進 (km/h)	別表			
		後進 (km/h)	別表			
最小回転半径 (m)			2.0			
PTO	回転数 (min^{-1})		523, 819, 1266			
	逆転 (min^{-1})		505, 792, 1224			
	軸寸法		６スプライン軸径35mm			
けん引装置			固定ヒッチ（注文部品）			
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール			
	装着方式		３点リンクＪＩＳ０型			

〔 〕内はキャブ仕様　　この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

クラス名			GSK236	
区分			BM	M
駆動方式			四輪駆動	
機体寸法	全長（mm）		2900	
	全幅（mm）		1400	
	全高（mm）		1995	
	軸距（mm）		1500	
	輪距	前輪（mm）	1030	
		後輪（mm） （調整範囲）（mm）	1030	
	最低地上高（mm）		370	
機体重量（kg）			1385	
エンジン	型式名		E3CD-UB77	
	種類		水冷４サイクル３気筒ディーゼル	
	総排気量（L）		1.498	
	出力	（kW/min^{-1}） （PS/min^{-1}）	17.3/2500 {23.5/2500}	
	使用燃料		ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量（L）		28	
	バッテリ（V.Ah）		12, 55(80D26R)	
走行部	タイヤ	前輪	7-16	
		後輪	370幅クローラ	
	クラッチ型式		乾式単板	
	ブレーキ型式		湿式ディスク式	
	舵取り方式		パワーステアリング	
	変速方式		常時・選択噛み合い式併用	
	変速段数		前・後進　12段	
	走行速度（km/h）	前進（km/h）	別表	
		後進（km/h）	別表	
最小回転半径（m）			2.0	
PTO	回転数（min^{-1}）		523，819，1266	
	逆転（min^{-1}）		505，792，1224	
	軸寸法		６スプライン軸径35mm	
けん引装置			固定ヒッチ（注文部品）	
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール	
	装着方式		３点リンクＪＩＳ０型	

〔 〕内はキャブ仕様

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

13. 付表

クラス名			GSK226	
区分			BM	M
駆動方式			四輪駆動	
機体寸法	全長（mm）		2600	
	全幅（mm）		1260	
	全高（mm）		1970	
	軸距（mm）		1355	
	輪距	前輪（mm）	890	
		後輪（mm） （調整範囲）（mm）	900	
	最低地上高（mm）		340	
機体重量（kg）			1040	
エンジン	型式名		E3112-UB53	
	種類		水冷４サイクル３気筒ディーゼル	
	総排気量		1.123	
	出力	（kW/min^{-1}） （PS/min^{-1}）	16.1/2600 {21.9/2600}	
	使用燃料		ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量（L）		28	
	バッテリ（V.Ah）		12, 36(55B24R)	
走行部	タイヤ	前輪	6-14	
		後輪	330幅クローラ	
	クラッチ型式		乾式単板	
	ブレーキ型式		湿式ディスク式	
	舵取り方式		パワーステアリング	
	変速方式		常時・選択噛み合い式併用	
	変速段数		前・後進　12段	
	走行速度（km/h）	前進	別表	
		後進	別表	
最小回転半径（m）			2.0	
PTO	回転数（min^{-1}）		544, 815, 1231	
	逆転（min^{-1}）		526, 788, 1190	
	軸寸法		６スプライン軸径35mm	
けん引装置			固定ヒッチ（注文部品）	
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール	
	装着方式		３点リンクＪＩＳ０型	

〔 〕内はキャブ仕様

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

クラス名			GSK206	
区分			BM	BMN
駆動方式			四輪駆動	
機体寸法	全長（mm）		2600	
	全幅（mm）		1260	1110
	全高（mm）		1970	1950
	軸距（mm）		1355	
	輪距	前輪（mm）	890	
		後輪（mm） （調整範囲）（mm）	900	
	最低地上高（mm）		340	320
機体重量（kg）			1035	1025
エンジン	型式名		E3112-UB49	
	種類		水冷４サイクル３気筒ディーゼル	
	総排気量		1.123	
	出力	（kW/min^{-1}） （PS/min^{-1}）	14.7/2500 {20.0/2500}	
	使用燃料		ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量（L）		28	
	バッテリ（V.Ah）		12, 36(55B24R)	
走行部	タイヤ	前輪	6-14	
		後輪	330幅クローラ	200幅クローラ
	クラッチ型式		乾式単板	
	ブレーキ型式		湿式ディスク式	
	舵取り方式		パワーステアリング	
	変速方式		常時・選択噛み合い式併用	
	変速段数		前・後進　12段	
	走行速度（km/h）	前進	別表	
		後進	別表	
最小回転半径（m）			1.9	
PTO	回転数（min^{-1}）		523, 783, 1184	
	逆転（min^{-1}）		505, 757, 1145	
	軸寸法		６スプライン軸径35mm	
けん引装置			固定ヒッチ（注文部品）	
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール	
	装着方式		３点リンクＪＩＳ０型	

〔 〕内はキャブ仕様　　この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

13.7 主要諸元（ロータリ）

機種名		RAH167-Q	RAH167-QX	RAH177-Q
駆動方式		サイドドライブ	←	←
機体寸法	全長（mm）	805	805	805
	全幅（mm）	1745	1785	1895
	全高（mm）	950	990	990
重量（kg）		192	234	242
作業幅（mm）		1600	1600	1700
爪本数（本）		36	←	←
爪取付方式		ホルダ方式	←	←
爪回転径（mm）		450	490	490
最大耕深（mm）		160	←	←
適応トラクタ		GSK206 GSK226	GSK236 GSK256	GSK236 GSK256

注）重量についてはロータリ単体を示す。　※この仕様は改良のため、予告なく変更する場合があります。

13.8 走行速度表（km/h）

この車速は改良のため、予告なく変更することがあります。

前後進	副変速	主変速	GSK256	GSK236	GSK226	GSK206
前進	超低速	1	0.31	0.31	0.29	0.28
		2	0.39	0.39	0.37	0.36
		3	0.54	0.54	0.51	0.49
		4	0.82	0.82	0.77	0.74
	低速	1	1.12	1.12	1.05	1.01
		2	1.41	1.41	1.32	1.27
		3	1.92	1.92	1.81	1.74
		4	2.93	2.93	2.76	2.65
	高速	1	4.82	4.82	4.53	4.35
		2	6.07	6.07	5.71	5.49
		3	8.30	8.30	7.80	7.50
		4	12.65	12.65	11.89	11.43
		エンジン無負荷最高回転	（ 13.92 ）	（ 13.92 ）	（ 12.85 ）	（ 12.57 ）
後進	超低速	1	0.30	0.30	0.28	0.27
		2	0.38	0.38	0.36	0.34
		3	0.52	0.52	0.49	0.47
		4	0.79	0.79	0.75	0.72
	低速	1	1.08	1.08	1.01	0.98
		2	1.36	1.36	1.28	1.23
		3	1.86	1.86	1.75	1.68
		4	2.83	2.83	2.66	2.56
	高速	1	4.66	4.66	4.38	4.21
		2	5.87	5.87	5.52	5.31
		3	8.02	8.02	7.54	7.25
		4	12.23	12.23	11.50	11.05

注１）この速度表は、エンジン定格回転時の計算値です。また上記数値は、トラクタ単体状態における基準値であり、作業機の装着状態・ほ場および使用条件等により異なります。

注２）（　）内の最高車速は、エンジン無負荷再公開展示の理論計算値であり実際とは異なります。

13.9 注文部品一覧表

トラクタ本体装備の注文部品の一覧を示します。
この表の他にも、当社ではいろいろな種類の作業に適応できる作業機・アタッチメントを取りそろえています。
詳しくは、「お買いあげ先」にお問い合せください。

	商品コード	品名	用途・仕様
ウエイト	9911 0033 580	ウエイト(15) SET	バンパウエイト、15kgX1(最大4個まで装着可能)
リンク	9911 0000 700	リンク（トップ）ASSY	普通3P作業機用トップリンク
その他	9911 0001 710	ヒツチ（トレーラ）SET	けん引作業用ヒッチ
	9911 0000 720	ランプ（ワーキング）SET	右フェンダ後方に装着、1個 （X型除く）
	9911 0013 470	ミラー（ルーム）SET	室内後写鏡（X型）
	9517 0000 180	バイザ（サン）SET	サンバイザー（X型）

13.10 簡易点検実施記録表

第一種特定製品（フロン類）「簡易点検記録票」（農業機械用エアコン）

機種		型式		製造番号		管理責任者	

（点検頻度は3カ月に１回以上）

点検年月日	点検実施者	異常の有無	吹出口からの冷風の有無	異常振動・異常運転音の有無	配管等の油漏れの有無	その他（修理履歴など）
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	
年　月　日		有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	

●簡易点検の際、異常や不具合を発見した場合は、速やかにお買いあげ先へお問い合わせください。
●簡易点検は本商品を廃棄するまで実施し、記録票は本商品を廃棄するまで保管してください。

純正部品を使いましょう。

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式 _____

機械番号（製造番号） _____

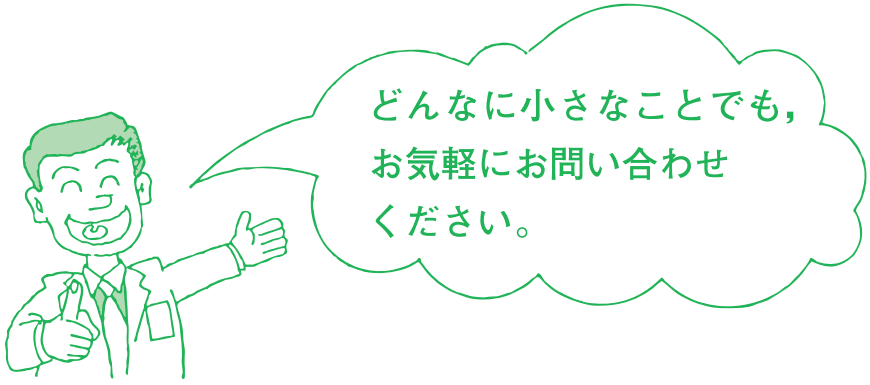
●ご使用状況は…？

（どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

TEL　　（　　）